

授業に関すること

I	単位制度と履修	2
II	授 業	3
III	履修登録	4
IV	特別な履修登録手続きを必要とする授業科目	5
V	履修登録の日程と流れ	10
VI	試験・レポート	11
VII	成 績	14
VIII	GPA制度	15
IX	卒業論文	16
X	他学部聴講制度	17
XI	成城大学大学院文学研究科英文学専攻への 進学を希望する成城大学文芸学部英文学科在学生の ための科目等履修生制度	18
XII	成城大学大学院文学研究科ヨーロッパ文化専攻への 進学を希望する成城大学文芸学部ヨーロッパ文化学科 在学生のための科目等履修生制度	19
XIII	オフィスアワー	21
XIV	卒業延期制度	22
XV	秋卒業制度	23
XVI	転学部・転学科	23

I 単位制度と履修

A 単位制度

1 単位制度

本学における学修は単位制度によって行われる。単位制度とは、所定の授業科目を履修することによって、4年以上の在学期間中に卒業に必要な総単位数を修得する制度である。

2 単位数

- ① 学年の学修期間は定期試験等の日を含めて35週であるが、これを2期に分ける（大学学則第11条・第13条参照）。授業科目は1か年35週または半期をもって完結する。
- ② 授業の単位は、45時間の学修（教室における授業時間と予習・復習等の教室外における学修時間とを含む）を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とする。
- ③ 単位数はそれぞれの科目によって異なり、授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算される。

授業科目	授業期間	週回数	単位数	説明
講義科目・演習科目 (ゼミナール)	半期	1回	2	週1回、半期の科目を2単位とする。
		2回	4	週2回、半期の科目を4単位とする。
	通年	1回	4	週1回、通年の科目を4単位とする。
外国語科目	半期	1回	1	週1回、半期の科目を1単位とする。
		2回	2	週2回、半期の科目を2単位とする。
		3回	3	週3回、半期の科目を3単位とする。
		4回	4	週4回、半期の科目を4単位とする。
		6回	6	週6回、半期の科目を6単位とする。
		8回	8	週8回、半期の科目を8単位とする。
	通年	1回	2	週1回、通年の科目を2単位とする。
		2回	4	週2回、通年の科目を4単位とする。
		3回	6	週3回、通年の科目を6単位とする。
スポーツ・ウエルネス 実技科目・実習科目	半期	1回	1	週1回、半期の科目を1単位とする。
	集中	—	1	週1回、半期に相応する授業時間数によって編成される科目を1単位とする。
卒業論文	—	—	8	「卒業論文」を8単位とする。

3 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数(卒業要件単位数)は、【履修規定】の第1表 卒業要件科目および単位数を参照のこと。

4 余剰単位

卒業要件単位数を超えて修得した単位は余剰単位とも称される。なお、その単位も付与され、成績も認定されてCampus Square for Webの個人成績参照および成績証明書に記載される。

B 履修

1 学年配当

授業科目には配当学年が指定されている。在学年次よりも上の年次に配当されている授業科目は原則として履修することができない。

2 再履修

単位が認定されなかった授業科目を再び履修することを再履修と呼ぶ。必修科目が不合格となった場合は、必ず再履修しなければならない。

3 反復履修の禁止

すでに単位を修得した授業科目を再び履修することを反復履修と呼ぶ。反復履修は、特に認められた場合を除いて禁止されている。

4 重複履修の禁止

同一年度に同一名称の授業科目を複数履修することを重複履修と呼ぶ。重複履修は、特に認められた場合を除いて禁止されている。なお、科目の名称には副題(〈 〉で囲まれている部分)は含まれない。

※授業科目名称の例

- ・「プロジェクト演習〈企業提案〉」と「プロジェクト演習〈企業との協働〉」は同一名称の科目として扱う。
- ・「英語リスニング&スピーキング(初級)」と「英語リスニング&スピーキング(中級)」は別の名称の科目として扱う。

5 成績評価の前提条件

当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目修了の認定を受けることができない（大学学則第23条第1項）。

II 授 業

A 学期と授業期間

本学の授業は1年を前期・後期の2学期に分けて行われ、授業期間は下記の3つに分かれる。

通 年	1年間
半 期	半年間（前期または後期）
集 中	夏季、冬季、春季休業中等の一定期間

B 時限と授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限※
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

※ 6時限は補講時間帯（通常授業は行われない。）

なお、土曜日は通常授業は行われない。（一部、資格科目等を除く。）

C 休 講

大学行事が行われたり、各授業科目担当者にやむを得ない事情が発生した場合に、授業を休講することがある。

D 補 講

休日、休講、日程等の都合により、授業の進捗が予定より遅れた際に、臨時的授業を行うことがある。これを補講という。

補講は、原則として月～金曜日の6時限に行う。

E 教室変更

都合により、授業の教室を変更する場合がある。

履修中の授業科目情報（休講・補講・教室変更等）は、Campus Square for Web（キャンパススクエアフォーウェブ）で確認ができ、メールアドレスを登録しておく、その情報が自動配信される。また、1号館1階の掲示板でも授業科目の情報を確認することができる。なお、電話での問い合わせは受け付けていない。

※ Campus Square for Webでは、教員から届出があり次第、随時情報を更新している。

急病等事前に告知ができないときは、授業当日の掲載になる場合がある。

【Campus Square for Web】

Campus Square for Webは学生生活に必要な情報等をインターネットから閲覧・登録できるシステムで、大学ホームページよりアクセスできる。「ユーザ名・パスワード」を忘れてしまった場合などは、メディアネットワークセンター・教務部のいずれかの窓口まで申し出ること。

大学ホームページ

PC : <http://www.seijo.ac.jp>

mobile : <http://www.seijo.ac.jp/i/>

Campus Square for Web

PC・スマートフォン : <https://cs.seijo.ac.jp/campusweb/>

mobile : <https://cs.seijo.ac.jp/campusmobile/>

III

履修登録

1 履修登録とは

履修登録は、その年度に自分が履修しようとする授業科目を、必修科目を含めて全て登録する手続きである。この手続きがされていなければ、授業科目の履修はできず、また単位も認定されない。

なお、後期科目についても、前期・通年科目と同様4月に登録する必要がある（p.8㉔の科目を除く）。

2 Web履修登録（本登録）

履修登録はWeb上で行う。Campus Square for Webを利用した履修登録方法の詳細については、Web履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、Campus Square for Webよりダウンロード可）を参照すること。

3 登録期間

【Web履修登録期間】

4月9日（月）8：30～4月18日（水）18：00【3・4年次】

19日（木）18：00【1・2年次】

ただし、4月13日（金）18：00～4月14日（土）8：30の期間は、p.7㉓の科目の受講者数調整のため、全ての科目の履修登録ができない。

4 登録時の注意点

- ① 履修の手引、シラバス等をよく読み、履修する授業科目を決定した後に履修登録（Web履修登録）をすること。
- ② 教務部で事前登録を行う授業科目があり、これらの授業科目は原則として取り消すことができない。
- ③ 登録の締切日時を厳守すること。登録締切後は、授業科目の追加や、登録した授業科目の訂正・取り消しを行うことはできない。なお、履修方法上の誤り等により教務部から訂正を指示する場合があるが、この場合はその指示に従うこと。
- ④ 病気等、やむを得ない理由により締切日時までに登録を完了できない場合は、事前に教務部に相談し、手続きに関する指示を受けること。

【前期開講1週目の授業について】

- 必修科目、クラス指定の授業科目、予備申請で受講が決定した授業科目については、1週目の授業から出席すること。
- 選択科目は、原則として1週目の授業では、授業概要の説明が行われる。いろいろな授業に出席し、本年度履修する授業科目を計画的に選択すること。この期間中は、授業途中に教室の出入りをして構わない。

5 履修登録の注意点

- ① 履修登録のできない授業科目
 - 在学年次よりも上の年次に配当された授業科目
 - クラス指定の科目で自分のクラス以外の授業科目
 - **すでに単位を修得した科目**（例外もあるので、詳細は【履修規定】を参照のこと）
- ② 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目
Web履修登録の前に特別な履修登録手続きを必要とする授業科目がある。詳細については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ 履修科目登録上限単位数
履修登録することのできる単位数には上限が定められているので、上限の単位数を超えないよう十分留意して登録すること。詳細については、各学科の【履修規定】Ⅲ-2 学科科目履修方法 1 履修科目登録上限単位数】を参照すること。
- ④ 本年度履修登録する授業科目がない場合
4年次生で本年度履修登録する授業科目がない場合でも、必ずCampus Square for Webの履修状況メニューにある「登録・自己判定」ボタンを押下すること。

6 履修相談

履修相談は、1号館1階教務部で随時行っている。

（月～金－8：30～18：00、土－8：30～13：00、予約不要）。

その他、ガイダンス等を行うが、その場合はCampus Square for Web等で周知する。

IV

特別な履修登録手続きを必要とする授業科目

A

Web予備申請を必要とする授業科目

1 Web予備申請

授業の性質や使用する機材の台数の関係上、受講者数に定員を設ける授業科目がある。これらについては、Web履修登録の前にWeb上での予備申請が必要である。

Web予備申請の要領は以下のとおりだが、申請方法の詳細については、Web履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、Campus Square for Webよりダウンロード可）を参照すること。

予備申請期間中は、申請した授業科目を何度でも変更・削除することができる。

2 予備申請期間

【予備申請期間】4月2日（月）9：00～4月7日（土）13：00

3 申請結果の発表

予備申請を行った授業科目で、抽選により履修が許可されたものは、自動的にWeb履修登録が行われ、不許可となったものは自動的に削除される。申請結果については、Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。

【申請結果発表（自動登録）日時】4月7日（土）18：00（予定）

4 予備申請を必要とする科目

Web予備申請を必要とする授業科目は、以下のとおりである。

分野・区分	授 業 科 目		
共通科目	WRDⅡ【2016年度以降入学者】(注1) (再履修者、マスコミ学科除く)		
共通科目 外国語科目	学部共通外国語【2015年度以降入学者】(注1) (英語・独語・仏語・中国語・イタリア語)	独会話選択a・b	
	主・副外国語科目【2014年度以前入学者】(注1) (英語・独語・仏語・中国語・イタリア語)	独語選択(初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b)	
	ディプロム・コース(英語・独語・仏語)	仏会話選択a・b	
	英語エクステンシヴ・リーディングA・B	仏語選択(初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b)	
	英語リスニング&スピーキング(初級a・b、中級a・b、上級a・b)	スペイン語選択(初級a・b、中級・ディプロムa・b)	
	英語リーディング&ライティング(初級a・b、中級a・b、上級a・b)	中国語選択(初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b)	
	英会話選択a・b	韓国語選択(初級a・b、中級・ディプロムa・b)	
	英文多読a・b		
[2017年度以降入学者]	共通科目 教養科目	社会構造論演習a・b	身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ
		思想・人間論演習a・b	データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ
		表現文化論演習a・b	データサイエンス概論
		歴史文化論演習a・b	データサイエンス応用
		地域空間論演習a・b	データサイエンス・スキルアップ・プログラム
		生命科学の世界a・b	データサイエンス・アドバンスド・プログラム(注1)
		数理・自然科学演習a・b	コンピュータ・リテラシーA1、A2、B～E
		心身論演習a・b	図書館活用法
		スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ	スポーツ・ウエルネス実技科目群(サイクル・スポーツ、スキーを除く)
	ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ		
共通科目 キャリア科目	キャリア形成Ⅰ～Ⅳ	時事英語Ⅰ・Ⅱ	
	プロジェクト演習		
[2016年度以前入学者]	共通科目 全学共通教養・ データサイエンス科目	社会構造論演習a・b	心身論演習a・b
		思想・人間論演習a・b	データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ
		表現文化論演習a・b	データサイエンス概論
		歴史文化論演習a・b	データサイエンス応用
		地域空間論演習a・b	データサイエンス・スキルアップ・プログラム
		生命科学の世界a・b	データサイエンス・アドバンスド・プログラム(注1)
		数理・自然科学演習a・b	
	共通科目 自由科目	コンピュータ・リテラシーA1・A2、B～E	スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ
		図書館活用法	ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ
		キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ【2016年度以前入学者】	身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ
	スタート・プログラムⅠ～Ⅲ(注1)	スポーツ・ウエルネス実技(サイクル・スポーツ、スキーを除く)	
	時事英語Ⅰ・Ⅱ		
国文学科 学 科 科 目	国語国文学実習Ⅰ～Ⅷ 【2015年度以降入学者】		
英文学科 学 科 科 目	アカデミック・ベイシックス科目【2015年度以降入学者】	演習科目【2014年度以前入学者】	
	クリエイティブ・プラクティス科目【2015年度以降入学者】	講義科目【2014年度以前入学者】(注2)	
	アカデミック・プラクティス科目【2015年度以降入学者】		
マスコミ学科 学 科 科 目	マスコミ実習Ⅰ～Ⅳ		
ヨーロッパ文化学科 学 科 科 目	独語コミュニケーションⅠ～Ⅳ【2015年度以降入学者】	仏語コミュニケーションⅠ～Ⅳ【2015年度以降入学者】	
学芸員課程	博物館資料論	博物館実習(美術史)	
	博物館資料保存論	博物館実習(民俗学) 博物館実習(考古学)	

【注意事項】

注1) WRDⅡ、学部共通外国語のうち後期開講科目、主・副外国語科目のうち後期開講科目、「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の申請は後期に行う。p.8の[C]を参照すること。

注2) 講義科目のうち、『英語学概論・英語文学史・英語文学特殊講義Ⅰ・英語文学特殊講義Ⅱ・英語文化特殊講義・英語学特殊講義』は、Web予備申請の対象外である。

注3) 本年度の休講科目については【履修規定Ⅲ-1・2】を参照すること。

5 申請上の注意

- ①「コンピュータ・リテラシー A 1・A 2」は複数コマ開講されており、全てセットで履修することになっている。シラバスで確認すること。
- ②「博物館資料論」と「博物館資料保存論」はセットで履修することになっている。

6 定員に余裕がある授業科目の履修登録

抽選の結果、定員に余裕がある授業科目については、下記の期間において先着順で本登録を受け付ける。

【定員に余裕がある授業科目の履修登録期間（Web上の履修登録）】

4月9日（月）8：30～4月18日（水）18：00【3・4年次】

19日（木）18：00【1・2年次】

ただし、4月13日（金）18：00～4月14日（土）8：30の期間は、下記④の抽選処理のため、全ての授業科目について履修登録ができない。

B

履修登録期間中に受講者数の調整を行う授業科目

1 対象科目

- ① 全学共通教育科目のうち、【**授業に関すること**】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目【A】Web予備申請を必要とする授業科目および【**④**】その他の手続きを必要とする授業科目 1 選考または抽選を行う授業科目】以外の授業科目

⇒具体的には、

2017年度以降入学者はp.47～49 第2表・第3表、p.62 第16表に示した授業科目

2015・2016年度入学者はp.87～89 第2表・第3表、p.104 第16表に示した授業科目

2014年度以前入学者はp.129～131 第2表・第3表、p.144 第16表に示した授業科目

のうち、Web予備申請や選考、抽選を行わない授業科目。

- ② 他学部開設科目【2016年度以降入学者のみ対象】

⇒具体的には、

・ 2017年度以降入学者は、p.52 第8表に示した授業科目

・ 2016年度入学者は、p.102 第15表に示した授業科目のうち、備考欄に「他学部開設科目」とある授業科目

2 抽選対象科目の決定と抽選結果の発表

4月13日（金）18：00の時点で、登録者が多数にのぼり、教室の収容定員を超えるなどの理由により授業環境が整わないと大学で判断した授業科目は、受講者数の調整のため抽選を行い、受講者を決定する。対象科目については、4月13日（金）18：00までに履修登録を行うこと。

登録した授業科目が抽選の対象となり、**その授業科目の履修が不許可となった場合は、自動的に登録が削除される。**抽選結果については、Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。

抽選対象とならなかった授業科目は、①についてのみ各学年の履修登録締切日時まで先着順で登録を受け付ける。②については、**抽選対象とならなかった授業科目も含め、4月13日（金）18：00以降は履修登録できない。**

なお、下記の期間は抽選処理のため、全ての授業科目について履修登録ができない。

【抽選処理期間】4月13日（金）18：00～4月14日（土）8：30

3 申請上の注意

履修登録期間中は、登録した授業科目を何度でも変更・削除することができるが、**受講者数調整の対象となり、抽選により履修が許可された授業科目は取り消しができないので、登録に当たっては、履修の手引、シラバス等をよく読んでおくこと。**

C 後期に履修登録を行う授業科目

1 対象科目

- ・【2016年度以降入学者】WRDⅡ（再履修者、マスコミュニケーション学科除く）
- ・【2015年度以降入学者】学部共通外国語科目のうち、後期開講科目
- ・【2014年度以前入学者】主・副外国語科目のうち、後期開講科目
- ・【2016年度以前入学者】スタート・プログラムⅠ～Ⅲ
- ・データサイエンス・アドバンスド・プログラム

2 履修登録日程

【後期登録科目 履修登録日程】

	期 間	方 法
Web予備申請	9月17日(月) 9:00 9月20日(木) 13:00	Campus Square for Webにて予備申請を行う。 ※予備申請期間中は申請内容を何度でも修正可能。
抽選結果発表	9月20日(木) 18:00 (予定)	履修が許可された授業科目は自動的に登録される。 Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。
定員に余裕がある授業科目については、下記の期間において先着順で本登録を受け付ける。 9月21日(金) 8:30～9月27日(木) 18:00		

D その他の手続きを必要とする授業科目

1 選考または抽選を行う授業科目

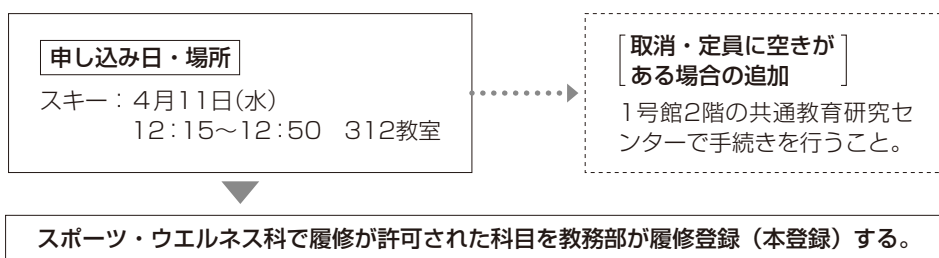
下記の授業科目は、受講者数に定員を設けているため、開講前または開講1週目の授業で選考または抽選を行う。詳細については掲示を確認すること。

- ・「映像コミュニケーション」【2015年度以降入学者】
- ・「ビジネス英語a・b」
- ・「マスコミ実習Ⅴ」【2015年度以降入学者】
- ・「マスコミ実習Ⅵ」【2015年度以降入学者】
- ・「Academic Communication a・b」
- ・国際交流科目のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」

なお、履修が許可された者は、教務部が履修登録を行う。登録された授業科目は取り消すことができない。

2 スポーツ・ウエルネス実技科目 [集中コース]

スポーツ・ウエルネス実技科目のうち、集中コースの科目は、履修登録をする前に必ずスポーツ・ウエルネス科で履修申し込みの手続きを行わなければならない。授業内容を参照の上、以下に示す通り履修手続きを行うこと。



3 海外短期語学研修・海外短期研修

「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の履修登録や参加申し込み等の詳細については、掲示等で周知する。
また、履修登録方法については、下記のとおりである。研修内容等については、シラバスを参照のこと。

海外短期語学研修 (英語・夏季)	2単位	【実施大学】 アルバータ州立大学 (カナダ) 【期 間】 2018年8月 (25日間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (英語・夏季)	2単位	【実施大学】 リムリック大学 (アイルランド) 【期 間】 2018年8月 (約3週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (英語・春季)	2単位	【実施大学】 ニューカッスル大学 (オーストラリア) 【期 間】 2019年2月～3月 (約4週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (英語・春季)	2単位	【実施大学】 コロラド大学ボルダー校 (アメリカ合衆国) 【期 間】 2019年2月～3月 (約3週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (独語・春季)	2単位	【実施大学】 ドレスデン工科大学 (ドイツ) 【期 間】 2019年2月～3月 (約4週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (仏語・春季)	2単位	【実施大学】 西部カトリック大学 (フランス) 【期 間】 2019年2月 (約3週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (中国語・夏季)	2単位	【実施大学】 北京大学 (中国・北京) 【期 間】 2018年8月～9月 (約4週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。	
セット履修	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1単位	【実施大学】 マレーシア工科大学 (予定) (マレーシア) 【期 間】 2018年8月 (就業体験研修と合わせて約3週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。
	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	2単位	【実施企業】 現地企業 【期 間】 2018年8月 (就業体験準備と合わせて約3週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2018年度通年科目として単位を認定する。

※1 「海外短期語学研修 (英語・就業体験準備) 【1単位】」と「海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修) 【2単位】」は、セットで履修すること。

※2 特別な履修登録手続きを行うこと、また、やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。

履修上の注意については、下記を併せて参照すること。

- 2017年度以降入学者は、【履修規定Ⅲ-1 共通科目履修方法③ 教養科目 2 国際交流科目群 第3表の注意事項④～⑧】
- 2015・2016年度入学者は、【履修規定Ⅲ-1 共通科目履修方法⑤ 自由科目 2 海外短期語学研修・海外短期研修 第14表の注意事項】
- 2014年度入学者は、【履修規定Ⅲ-1 共通科目履修方法④ 自由科目 2 海外短期語学研修・海外短期研修 第14表の注意事項】

4 短期学外演習 (自然)

- ① この授業科目は、Webでの履修登録の前に、事前申し込みが必要である。
- ② 履修希望者は、以下の説明会に出席するなどして内容をよく理解し、事前申し込みを当日会場 (あるいは後日、社会イノベーション学部研究事務室) ですること。詳細はシラバスと配付資料を参照すること。

【説明会】 4月10日 (火) 12:20～12:50、18:00～18:30 32A教室
4月12日 (木) 12:20～12:50、18:00～18:30 32A教室

V

履修登録の日程と流れ

授業に関するしよ

1 履修登録日程

Web予備申請期間	4月 2日 (月) 9:00~4月 7日 (土) 13:00
抽選結果発表	4月 7日 (土) 18:00 (予定)
Web履修登録期間	4月 9日 (月) 8:30~4月18日 (水) 18:00 【3・4年次】 19日 (木) 18:00 【1・2年次】 ただし、4月13日 (金) 18:00~4月14日 (土) 8:30の期間は、p.7[B]の科目の受講者数調整のため、全ての授業科目の履修登録ができない。

2 履修登録の流れ

日 時	4月2日 9:00	4月7日 13:00	4月9日 8:30	4月13日 18:00	4月14日 8:30	Web履修登録 期限
事前登録科目	必修科目など、その年度に履修しなければならない授業科目が該当し、原則として取り消すことができない。					
(p.5) [A] Web予備申請を必要とする授業科目	Web予備申請を行う。Web予備申請期間中は何度でも申請内容の変更が可能である。	※1 抽選結果確認	定員に余裕がある授業科目は先着順でWeb履修登録を行う。		定員に余裕がある授業科目は先着順でWeb履修登録を行う。	
(p.7) [B] 履修登録期間中に受講者数の調整を行う授業科目 対象科目① 全学共通教育科目			Web履修登録を行う。	※2 抽選結果確認	定員に余裕がある授業科目は先着順でWeb履修登録を行う。	
対象科目② 他学部開設科目			Web履修登録を行う。	※2 抽選結果確認	履修登録できない。	
(p.8) [D] その他の手続きを必要とする授業科目 1 選考または抽選を行う授業科目	開講前または開講1週目の授業で選考または抽選を行う。詳細は掲示を確認すること。履修が許可された者は教務部がWeb履修登録を行う。					
特別な履修登録手続きを必要としない授業科目	Web履修登録を行う。					
日 時	4月2日 9:00	4月7日 13:00	4月9日 8:30	4月13日 18:00	4月14日 8:30	Web履修登録 期限

※1 抽選の結果、履修が許可された授業科目は自動的にWeb履修登録される。

※2 登録者が多数のため抽選対象となり、履修が不許可となった授業科目は自動的にWeb履修削除される。

VI 試験・レポート

A 試験

1 試験と単位授与

履修登録をしている授業科目の成績は、学期末、学年末に実施される定期試験および授業への参加等も総合した成績により評価され、授業科目担当者により合格と判定された者は、単位が授与される。

2 試験の種類

- ① 定期試験
 - ・ 学期末定期試験…前期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験
 - ・ 学年末定期試験…後期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験
 - ② 期前試験…定期試験期間前の授業時間中に実施される試験
 - ③ 定期試験に代わるレポート…定期試験の代わりに、レポートで実施される試験
提出日・提出先（教務部、授業時間内、各学部研究事務室など）等は授業科目担当者により異なる。
 - ④ 追試験…病気その他やむを得ない事由により、定期試験または期前試験を受験できなかった場合に授業科目担当者の判断により実施される試験（要手続）
- ※「定期試験に代わるレポート」は、追試験の対象にはならない。

3 試験についての連絡

定期試験（筆記試験またはレポート）、期前試験の連絡は、Campus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板にて発表する。
その他、中間テスト、小テスト、小レポート等について授業科目担当者から指示があった場合には、Campus Square for Webにて発表する。

【学籍番号およびクラス番号について】

- ・ 学籍番号は各学生固有の番号で、入学と同時に与えられる。その番号は、在学中はもとより卒業後も変わらない。
- ・ クラス番号はクラス内の個人番号である。4月開講時にCampus Square for Webで今年度のクラス番号を各自確認すること（このクラス番号は年度により変わるので注意すること）。
- ・ 定期試験、レポート提出、事務手続き等の際には、「学籍番号＋クラス番号」が必要になるので、正確に記憶し、省略せずに記入すること。

学籍番号とクラス番号のしくみ

学籍番号	1	A	001
	↑	↑	↑
	学	ク	出
	年	ラ	席
		ス	番
			号

B 定期試験

- | | |
|------------------|--|
| 1 注意事項 | ① 履修登録がなされていない授業科目の受験は認めない。
② 不正行為は学則に基づき処分される。 |
| 2 試験期間 | 【学期末定期試験】 7月23日（月）～7月31日（火）
【学年末定期試験】 1月21日（月）～1月31日（木） |
| 3 試験時間 | 原則60分とする。 |
| 4 試験時間割の発表 | 試験時間割は、原則として定期試験期間の約1週間前にCampus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板にて発表する。 |
| 5 持ち込みを許可する参照物等 | 試験の際に持ち込みを許可する参照物等がある場合には、Campus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板にて発表する。 |
| 6 受験心得 | ① 学生証を必ず持参すること。
※ 学生証を忘れた場合は、事前に学生課で受験許可証の交付を受けること。
② 試験場には、 定刻までに入室 すること。ただし、試験開始後20分までは遅刻者の入室を認める。
③ 試験開始後30分以内は退室できない。
④ 答案の氏名欄（学籍番号、クラス番号、氏名）と出席カードは、 ペン（鉛筆以外） で記入すること。
⑤ 答案用紙を試験場から持ち出すことは一切認めない 。また、 無記名答案は無効 となる場合があるので注意すること。 |
| 7 試験開始時間の変更および中止 | 天候不良、災害、交通障害等により、小田急線（新宿～相模大野）が運行を停止した場合、試験開始時刻の変更（繰り下げ実施等）または中止することがある。 |

C 定期試験に代わるレポート

レポートは原則として本人が提出し、**提出期限を厳守**すること。
 また、提出先によって提出要領が異なるので、以下の指示に従って提出すること。

- | | |
|----------------|--|
| 1 教務部に提出する場合 | 表紙 ① 教務部で配付する「 指定の表紙 」を使用する。
② 表紙には必ず「 整理番号 」（Campus Square for Webまたは1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板のレポート科目一覧表を参照すること）を記入する。 |
| | 提出要領 ① 提出レポートは、必ずペン（鉛筆以外）書きとする。
② 用紙の種類について
<パソコンを使用する場合> A4判（横書き）
<手書きの場合>
・ 原稿用紙指定の場合
横書きの場合…A4判400字詰め／縦書きの場合…B4判400字詰め
・ レポート用紙の場合…A4判（横書き）
※ 授業科目担当者から指示がある場合はそれに従うこと。 |
| 2 教務部以外に提出する場合 | 表紙 教務部で配付する「指定の表紙」は使用せず、1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板に掲示している記入例を参考に、授業科目名・担当者名・題目・学部・学籍番号・学年・クラス・出席番号・氏名等を記入した表紙をつけること。
なお、ホームページ上からも表紙フォームを印刷できるので必要に応じて使用すること。
※ ホームページ→在学生の方へ→授業・履修・試験・成績・資格取得→授業関係書類ダウンロード |
| | 提出要領 用紙等提出要領は、授業科目担当者の指示に従うこと。 |

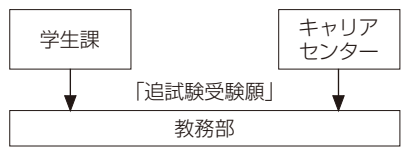
D 追試験

病気その他のやむを得ない理由により定期試験または期前試験を受験できなかった場合、「追試験受験願」を提出することができる（「定期試験に代わるレポート」は除く）。ただし、以下の理由によるもの以外は「追試験受験願」の提出は認められない。また、提出に係る締切日時等の注意事項はCampus Square for Webおよび1号館1階教務関係掲示板で発表する。

1 「追試験受験願」の提出資格

- ① 病気およびケガ
（医療機関が発行した診断書、または、これに準ずるものを添付 *当日受験できないことが確認できること。また、医療機関への受診日、病名および加療（療養）期間等が明記されていること。）
- ② 忌引（会葬礼状または死亡診断書添付）
- ③ 交通機関の遅れ
（遅延証明書添付 *試験日当日に提出すること。遠距離通学など当日の来校が難しい場合は、当日中に学生課に電話にて仮申請し、翌日、手続きをすること。なお、受付時間は平日17:00、土曜日12:45まで。）
- ④ 就職試験当日
（就職にかかわる資格試験、教育実習期間および館園実習期間との重複を含む。出席証明書添付。）
- ⑤ その他、教務委員会および厚生補導委員会の審議で正当と認められた事項

2 提出要領



- ① 学生課またはキャリアセンターから「追試験受験願」の用紙を受け取る。
- ② 必要事項を記入後、学生課またはキャリアセンターに提出し、承認印を受ける。
- ③ 教務部に「追試験受験願」を提出する。

※ 教務部から授業科目担当者に追試験実施有無を問い合わせ、実施の回答のあった授業科目についてのみ試験を実施する。なお、追試験がレポートに代わる場合もある。また、追試験受験願提出の理由が正当なものであっても、平常の授業において欠席が多い場合などは、追試験を実施しないことがある。

E 再試験

- ① 1年次生、2年次生、3年次生：全ての授業科目について、再試験は行わない。
- ② 4年次生（卒業予定者）：学年末試験の結果、卒業に要する単位数を満たすことができなかった者には、教授会の審議を経て、再試験を行うことがある。

（1999年1月30日 文芸学部教授会承認）

VII 成績

1 成績評価

成績評価は、前期・後期に実施される定期試験等の他、授業への参加度等も総合して行われる。成績評価基準は授業科目によって異なるので詳細はシラバスを参照すること。なお、成績評価は以下のように表示される。

【2014年度以降入学者】

素点	合格				不合格	
	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	/
成績証明書						

【2013年度以前入学者】

素点	合格						不合格	
	100~90	89~80	79~75	74~70	69~65	64~60	59~0	評価不能
成績評価	AA	A	BB	B	B-	C	D	/
成績証明書	優		良			可	表記せず	

※/（スラッシュ）は、評価不能な場合、即ち出席不良・定期試験等未受験・レポート未提出等で評価できない場合に表示される。

2 成績評価の開示

成績評価は、Campus Square for Webで開示する。前期成績開示日は9月上旬頃、前期成績表交付期間は9月中旬頃、学年（後期）成績開示日は3月下旬頃、学年（後期）成績表交付期間は4月上旬を予定しているが、詳細については、後日Campus Square for Web等で周知する。

また、学生の学修状況把握のため、4月初旬には、学生の同意が得られた2～4年次生の保証人に対し、前年度学年（後期）までの成績表を送付する。

なお、上記以外でも、保証人から成績の開示を求められた場合、事情を確認した上で、開示する場合がある。

3 成績評価問い合わせ制度

本制度は、本人の成績評価に疑問がある場合、授業科目担当者に問い合わせの申請をすることができ、その回答および結果を申請者本人に開示する制度である。

なお、申請条件・手続き等は以下のとおりである。

■ 申請および回答窓口

1号館1階 教務部

■ 申請の条件

- ① 当該科目の授業に3分の1以上欠席していないこと（大学学則第23条第1項）。
- ② 当該科目の定期試験、定期試験に代わるレポートを全て受験・提出していること。
- ③ 成績評価の基準（授業科目担当者がシラバスの「成績評価の方法」に記載している条件）を満たしていること。

■ 申請の手続き

申請者本人が「成績評価問い合わせ書」を受け取り、申請理由を詳細に記入し、下記の受付期間内に提出すること。この期間を過ぎたものは一切受け付けないので注意すること。

■ 「成績評価問い合わせ書」の受付期間

- ・ 2018年度前期成績：6月に掲示等で発表する。
- ・ 2018年度学年（後期）成績：12月に掲示等で発表する。

■ 回答方法

申請者には受付時に指定した期間内に、成績評価問い合わせに関する回答および成績結果を開示する。

VIII GPA制度

1 制度の概要と目的

2014年度学年成績から、成績評価の方法として、GPA (grade point average) 制度を実施している。

GPAは、単なる成績評価の平均ではなく、授業科目ごとの単位数の違い (= 学修に要した時間の差異) が反映された、単位修得に向けた努力や学修計画の的確さ等を映し出す総合的な成績評価の指標である。この制度を通じて、学生自身が、自分にとって必要とする授業科目が何であるかを考え、履修を自己管理し、学修成果がどのレベルに位置するかを把握し、さらなる勉学意欲を高めるための指標とすることが重要である。なお、今後、GPAは、学修状況に関する総合的な判断等にも活用される見込みである。

2 GPと成績評価との対応およびGPA値の算定方法

GPA値は、以下のとおり、履修した個々の授業科目の成績評価に対応したGP (grade point) に基づいて算定する。

【2014年度以降入学者】

素点	合 格				不合格	
	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	/
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	

$$\text{GPA値} = \frac{4.0 \times \text{「秀」の総修得単位数} + 3.0 \times \text{「優」の総修得単位数} + 2.0 \times \text{「良」の総修得単位数} + 1.0 \times \text{「可」の総修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「不可」および「/」の単位数を含む)}}$$

【2013年度以前入学者】

素点	合 格						不合格	
	100~90	89~80	79~75	74~70	69~65	64~60	59~0	評価不能
成績評価	AA	A	BB	B	B-	C	D	/
GP	4.0	3.0	2.0		1.0		0.0	

$$\text{GPA値} = \frac{4.0 \times \text{「AA」の総修得単位数} + 3.0 \times \text{「A」の総修得単位数} + 2.0 \times \text{「BB」および「B」の総修得単位数} + 1.0 \times \text{「B-」および「C」の総修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「D」および「/」の単位数を含む)}}$$

※GPA値は、小数第3位を四捨五入し、小数第2位まで表示する。

※GP (grade point) は「成績評定点」を、GPA (grade point average) は「成績評定点平均」をそれぞれ意味する。

3 GPA値算定から除外する授業科目

- ① 卒業要件単位として認められていない授業科目
- ② 成績評価を合否によって行う授業科目。ただし、この授業科目が不合格の場合、その単位数は総履修登録単位数に含まれる。
- ③ 認定によって単位修得が認められた授業科目

4 GPA値の表示

各年度および通算のGPA値をCampus Square for Webの成績閲覧画面に表示し、成績表 (保証人宛含む) および成績証明書 (2013年度以前入学者を除く) に記載する。

5 留 意 事 項

不合格科目の履修登録単位数はGPA値の算定に含まれる。従って、いったん履修登録した授業科目を途中で放棄するなど不合格科目が増えるとGPA値は低くなる。よって、履修登録に当たっては、むやみに行うことなく、よく考えた上で履修する授業科目を決めることが肝要である。

Ⅸ 卒業論文

卒業論文提出要領

- 1 提出期間 12月10日(月)～12月20日(木) 16:30
(秋卒業対象者) 6月21日(木)～6月30日(土) 13:00
※ 卒業論文は必ず本人が提出し、提出期限を厳守すること(郵送不可)。
- 2 提出先 1号館1階 教務部
- 3 口頭試問 2月上旬に口頭試問を行う。期日、時間等、詳細については、1月中旬に別途掲示する。
(秋卒業対象者) 7月下旬に口頭試問を行う。期日、時間等、詳細については、7月5日までに別途掲示する。

- 4 原稿用紙
- ① **パソコンを使用する場合**
- 用紙はA4判のものを使用(感熱紙は不可)すること。
 - 配字は原則として、各ページ1行40字×30行とする。
 - 目次末尾に字詰を注記する(例、横40字×縦30行)。
- ② **原稿用紙を使用する場合**
- 縦書きの場合はB4判400字詰、横書きの場合はA4判400字詰の原稿用紙を使用すること。
 - 使用する筆記具は、黒または青のペンまたは万年筆とする。
- ※ 学科毎に規定の書式があるので、大学ホームページ(在学生の方へ→授業・履修・試験・成績・資格取得→文芸学部 卒業論文関連書類ダウンロード→文芸学部 卒業論文関連/文学研究科 各種書類ダウンロード)を確認すること。指導教員の指示がある場合はその指示に従うこと。

- 5 表紙
- 厚紙総クロスの黒表紙をつけ、その黒表紙上に「必要事項」を記入した用紙(15cm×10cm程度)を貼付すること。
※ 原稿用紙、黒表紙、とじひもは大学食堂棟売店で販売している。
※ 学科毎に表紙・製本の指示がある場合は、その指示に従うこと。

【表紙の書き方】

(横書の場合)

(縦書の場合)

【必要事項】

- 卒業年度
(本年度は、2018年度)
- 所属ゼミ名
(ゼミナール担当教員名)
- 題目
- 学部・学年・
クラス・出席番号
- 学籍番号
- 氏名

2018年度卒業 ○○ゼミ 題目 文芸学部4年○組○○番 学籍番号 氏名

2018年度卒業 ○○ゼミ 題目 文芸学部4年○組○○番 学籍番号 氏名

2018年度卒業 ○○ゼミ 題目 文芸学部4年○組○○番 学籍番号 氏名

- 6 とびら(中表紙) とびら(中表紙)にも表紙と同じ事項を記入する。

X

他学部聴講制度

1 制度の概要

所定の手続きを行うことにより、他学部の授業科目を聴講することができる。ただし、試験等は受けることができない。また、単位は授与しない。聴講科目は、履修科目登録上限単位数には含まれない。

2 聴講可能科目

Campus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールの掲示板にて発表する。

3 聴講可能科目数

年間2科目まで

4 手続き方法

教務部で「他学部聴講願」を受け取り、必要事項を記入の上、教務部に提出すること。

① 通年および前期開講科目

提出期間 4月20日(金)～4月26日(木) 18:00

② 後期開講科目

提出期間 9月21日(金)～9月27日(木) 18:00

5 注意事項

- ① 聴講可能な科目であっても、受講者数が教室の収容人数を超えている場合は申込みを受け付けないので、教務部で確認すること。
- ② 他学部聴講は教授会での審議によっては、認められない場合がある。

A 制度の趣旨

成城大学文芸学部英文学科に在籍する学生で、本学大学院文学研究科英文学専攻への進学を志望する優秀な学生に、「科目等履修生制度」を援用して大学院の授業科目を履修することを認める制度である。この制度で修得した単位は、大学院進学後に審査の上、大学院博士課程前期の単位として認定される。これは優秀な、問題発見能力を持つ学部学生の学習・研究意欲を高め、高度な専門的知識を獲得し、大学院進学後、レベルの高い研究を推進させることを目的としている。なお、この制度へ出願するに当たっては、卒業論文の作成など学部の授業の履修に影響を及ぼさないよう、十分に留意すること。

B 2018年度実施要項

1 出願資格

以下の①～③の全ての要件を満たす者（ただし、①はaまたはb）。

- ① a. 2018年4月1日現在において、本学英文学科4年次に在籍し、2019年3月に卒業見込みであり、本学大学院文学研究科博士課程前期英文学専攻に進学を希望する者。また、3年次までに、卒業要件単位（128単位）の4分の3以上（96単位以上）を修得している者。
- b. 2018年4月1日現在において、本学英文学科3年次に在籍し、本学科の早期卒業制度に応募しており、本学大学院文学研究科博士課程前期英文学専攻に進学を希望する者。
- ※ 3年次に交換留学、あるいは認定留学した者の2018年3月31日までに修得した単位は算入可能な場合もあるので、英文学専攻主任に相談すること。
- ② 本学入学後、出願の前年度までに修得した全科目（教職に関する科目および学芸員課程の必修科目を除く）で、「秀」と「優」（80点以上）の科目数が全体の80%以上である者。なお、2014年度以前入学者については、出願の前年度までに修得した全科目（教職に関する科目および学芸員課程の必修科目を除く）で、「優」（80点以上）の科目数が全体の80%以上である者。
- ③ TOEIC試験の成績が、550点以上である者（学内試験、学外試験ともに対象とする）。

2 募集人数

若干名

3 履修単位数等

- ① 履修単位数は、**8単位以内**とする。
- ② 履修可能授業科目は、文学研究科博士課程前期英文学専攻の授業科目のうち、大学院進学後に研究指導を希望する教員、もしくは専攻する分野に最も近い教員の担当科目および研究指導とする。
- ③ 本学英文学科早期卒業制度の応募者（上記の1①b.）で、早期卒業できなかった場合には、4年次在籍中に、再度、本科目等履修生制度に応募することができる。ただし、3年次の履修単位数と4年次の履修単位数の合計は8単位を上限とする。

4 出願手続

出願を希望する者は、教務部で下記の必要な書類を受け取り、所定の期間内に出願手続を済ませること。

① **出願期間** 4月9日（月）～4月18日（水）16：30

② **出願書類**

- 1) 願書（本学所定用紙）
- 2) 志願理由書（本学所定用紙）
- 3) 前年度までの成績表

※ なお、出願に当たっては、学科ゼミの指導教員および大学院進学後に研究指導を希望する教員に相談するとともに、受講を希望する授業科目の第1回目の授業に出席し、担当教員の面接を受け、承認印をもらうこと。

③ **出願場所**

1号館1階 教務部

受付時間：月曜日～金曜日 8：30～18：00（締切日は16：30まで）

土曜日 8：30～13：00

5 審査・決定	① 履修可否の審査は、原則として書類審査および面接試験によって行う。 ② 履修の可否は、研究科教授会で決定する。なお、やむを得ない事情により本履修生の希望する授業科目が開講されない場合がある。
6 面接試験日・審査結果の発表	① 面接試験日 4月19日(木) 12:15~13:00 (会場は追って掲示する) ② 審査結果の発表 4月27日(金) 10:00 (1号館1階文芸学部掲示板)
7 審査料・受講料	審査は無料。受講料は1単位につき、10,000円。 ※ いったん納入した受講料は、理由の如何に関わらず、返却しない。
8 受講手続	① 4月27日(金)~5月7日(月)までに教務部にて受講料を納入し、5月12日(土)までに科目等履修生証を受け取ること。 ※ 所定の期日までに、納入されない場合は、受講を放棄したものとみなし、受講許可を取り消す。 ② 5月12日(土)以降にCampus Square for Webで受講科目を確認すること。
9 修得単位の取扱い	① 本学大学院文学研究科英文学専攻に入学した場合、申請により、研究科教授会で審査の上、8単位を限度に、大学院博士課程前期の修了に必要な単位として認定する。その際、優秀な成績(修了要件に含まれる科目のうち、「秀」と「優」(80点以上)の科目数が80%以上であること)の場合には、大学院在籍1年で修士号を取得することも可能である。 ② 学部の修得単位とはならない。
10 その他	① 許可された授業科目以外の授業の受講は認めない。 ② 本履修生には、本学の諸規則を準用する。 ③ 授業科目を履修し、その試験に合格したときは、所定の単位を認定し、申請により、成績証明書を発行する。

XII

成城大学大学院文学研究科ヨーロッパ文化専攻への進学を希望する 成城大学文芸学部ヨーロッパ文化学科在学生のための科目等履修生制度

A 制度の趣旨

成城大学文芸学部ヨーロッパ文化学科に在籍する学生で、本学大学院文学研究科ヨーロッパ文化専攻への進学を志望する優秀な学生に、「科目等履修生制度」を援用して大学院の授業科目を履修することを認める制度である。この制度で修得した単位は、大学院進学後に審査の上、大学院博士課程前期の単位として認定される。これは、優秀な問題発見能力を持つ学部学生の学習・研究意欲を高め、高度な専門的知識を獲得し、大学院進学後、レベルの高い研究を推進させることを目的としている。なお、この制度に出願するに当たっては、卒業論文の作成など学部の授業の履修に影響を及ぼさないよう、十分に留意すること。

B 2018年度実施要項

1 出願資格

次の①~③の全ての要件を満たす者。

- ① 2018年4月1日現在において、本学ヨーロッパ文化学科4年次に在籍し、2019年3月に卒業見込みであり、本学大学院文学研究科博士課程前期ヨーロッパ文化専攻に進学を希望する者。また、3年次までに、卒業要件単位(124単位)の4分の3以上(93単位以上)を修得している者。
 ※ 3年次に交換留学、あるいは認定留学した者の2018年3月31日までに修得した単位は算入可能な場合もあるので、ヨーロッパ文化専攻主任に相談すること。
- ② 所属する学科ゼミの指導教員による推薦があること。
- ③ 本学入学後、出願の前年度までの累計GPAが2.5以上の者。

2 募集人数

若干名

<p>3 履修単位数等</p>	<p>① 履修単位数は、8単位以内とする。 ② 履修可能授業科目は、文学研究科博士課程前期ヨーロッパ文化専攻の授業科目のうち、大学院進学後に研究指導を希望する教員、もしくは専攻する分野に最も近い教員の担当科目および研究指導とする。</p>
<p>4 出願手続</p>	<p>出願を希望する者は、教務部で下記の必要な書類を受け取り、所定の期間内に出願手続きを済ませること。</p> <p>① 出願期間 4月9日(月)～4月18日(水) 16:30</p> <p>② 出願書類</p> <p>1) 願書(本学所定用紙) 2) 志願理由書(本学所定用紙) 3) 前年度までの成績表 4) 所属する学科ゼミの指導教員による推薦書</p> <p>※ なお、出願に当たっては、学科ゼミの指導教員および大学院進学後に研究指導を希望する教員に相談するとともに、大学院進学後に受講を希望する授業科目の第1回目の授業に出席し、担当教員の面接を受け、承認印をもらうこと。</p> <p>③ 出願場所</p> <p>1号館1階 教務部 受付時間：月曜日～金曜日 8:30～18:00(締切日は16:30まで) 土曜日 8:30～13:00</p>
<p>5 審査・決定</p>	<p>① 履修可否の審査は、原則として書類審査および面接試験によって行う。 ※ 「筆記試験」が実施される場合があり、審査の対象となる。実施の有無は、掲示により周知する。 ② 履修の可否は、研究科教授会で決定する。なお、やむを得ない事情により本履修生の希望する授業科目が開講されない場合がある。</p>
<p>6 試験日・審査結果の発表</p>	<p>① 面接試験日 4月19日(木) 12:15～13:00(会場は追って掲示する。) ※ 筆記試験を行う場合にはこの時間の中で実施する。 ② 審査結果の発表 4月27日(金) 10:00(1号館1階文芸学部掲示板)</p>
<p>7 審査料・受講料</p>	<p>審査は無料。受講料は1単位につき、10,000円。 ※ いったん納入した受講料は、理由の如何に関わらず、返却しない。</p>
<p>8 受講手続</p>	<p>① 4月27日(金)～5月7日(月)までに教務部にて受講料を納入し、5月12日(土)までに科目等履修生証を受け取ること。 ※ 所定の期日までに、納入されない場合は、受講を放棄したものとみなし、受講許可を取り消すこととする。 ② 5月12日(土)以降にCampus Square for Webで受講科目を確認すること。</p>
<p>9 修得単位の取扱い</p>	<p>① 本学大学院文学研究科ヨーロッパ文化専攻に入学した場合、申請により、研究科教授会で審査の上、8単位を限度に、大学院博士課程前期の修了に必要な単位として認定する。なお、研究指導の修得単位が認定された場合においても、研究指導は在学期間を通じて履修しなければならない。 ② 学部の修得単位とはならない。</p>
<p>10 その他</p>	<p>① 許可された授業科目以外の授業の受講は認めない。 ② 本履修生には、本学の諸規則を準用する。 ③ 授業科目を履修し、その試験に合格したときは、所定の単位を認定し、申請により、成績証明書を発行する。</p>

XIII

オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が週のある曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその時間帯に自由に教員を訪ね、質問・相談できる制度である。なお、オフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談ができるが、その際は予め予約を取っておくとよい。

教員名	曜日・時間	場 所	教員名	曜日・時間	場 所
相澤 正彦	火曜日 13:00～14:30	3号館 7階 相澤正彦研究室	妹尾江里子	月曜日 10:30～11:30	特別教室棟 妹尾江里子研究室
赤塚健太郎	水曜日 16:30～17:30	3号館 6階 赤塚健太郎研究室	高名 康文	月曜日 14:40～16:10	3号館 3階 高名康文研究室
有田 英也	火曜日 12:15～13:15	3号館 7階 有田英也研究室	高原 照弘	木曜日 12:10～13:00	3号館 6階 高原照弘研究室
池田 一彦	火曜日 12:10～13:00	3号館 6階 池田一彦研究室	竹内 史郎	火曜日 13:00～14:00	3号館 3階 竹内史郎研究室
石鍋 真澄	金曜日 13:00～14:30	3号館 6階 石鍋真澄研究室	津上 英輔	金曜日 13:00～14:00	3号館 7階 津上英輔研究室
井上 徹	火曜日 14:40～16:10	3号館 6階 井上徹研究室	鶴見 良次	水曜日 10:40～11:40	3号館 6階 鶴見良次研究室
岩佐 光晴	水曜日 15:00～16:00	3号館 7階 岩佐光晴研究室	外池 昇	水曜日 13:00～14:00	3号館 6階 外池昇研究室
岩田 一正	月曜日 16:30～18:00	3号館 6階 岩田一正研究室	時田 郁子	木曜日 13:00～14:00	3号館 6階 時田郁子研究室
上杉 富之	月曜日 13:00～14:30	3号館 3階 上杉富之研究室	戸部 順一	金曜日 13:00～14:30	3号館 7階 戸部順一研究室
上野 英二	月曜日 13:40～14:40	3号館 6階 上野英二研究室	富山 典彦	水曜日 14:40～16:10	3号館 7階 富山典彦研究室
及川 祥平	水曜日 14:40～16:10	4号館 2階 及川祥平研究室	中野 照男	木曜日 14:40～16:10	3号館 6階 中野照男研究室
大谷 節子	研修中		中野 智世	研修中	
奥田 秀宇	金曜日 14:30～16:00	3号館 6階 奥田秀宇研究室	新倉 貴仁	月曜日 10:40～12:30	3号館 7階 新倉貴仁研究室
小澤 正人	水曜日 12:20～13:00	3号館 3階 小澤正人研究室	林田 伸一	火曜日 12:20～14:30	3号館 7階 林田伸一研究室
川田 牧人	水曜日 15:00～16:00	3号館 7階 川田牧人研究室	俵木 悟	火曜日 13:00～14:30	3号館 6階 俵木悟研究室
喜多崎 親	木曜日 13:00～14:00	3号館 7階 喜多崎親研究室	牧野 圭子	水曜日 15:00～16:00	3号館 6階 牧野圭子研究室
北山 研二	水曜日 14:40～16:10	3号館 3階 北山研二研究室	松川 祐子	月曜日 15:00～16:00	3号館 6階 松川祐子研究室
木下 誠	金曜日 13:00～14:30	3号館 6階 木下誠研究室	松田美作子	研修中	
木村 建哉	研修中		水澤祐美子	月曜日 14:40～16:10	3号館 7階 水澤祐美子研究室
窪田三喜夫	火曜日 12:10～13:00	3号館 3階 窪田三喜夫研究室	南 保輔	火曜日 16:20～17:20	3号館 7階 南保輔研究室
F. コーザ	月曜日 13:00～14:30	3号館 3階 F・コーザ研究室	宮崎 修多	水曜日 14:40～16:10	3号館 7階 宮崎修多研究室
小島 孝夫	火曜日 10:40～13:00	3号館 7階 小島孝夫研究室	村瀬 鋼	水曜日 12:10～13:00	3号館 6階 村瀬鋼研究室
後藤 将之	木曜日 12:10～13:00	4号館 4階 441室	森 暢平	研修中	
小林真由美	金曜日 12:10～13:00	3号館 3階 小林真由美研究室	谷内田浩正	金曜日 12:15～13:00	3号館 7階 谷内田浩正研究室
佐藤 光重	金曜日 12:00～13:00	3号館 6階 佐藤光重研究室	山下 純照	水曜日 12:30～13:30	3号館 7階 山下純照研究室
標葉 隆馬	火曜日 13:00～14:30	3号館 3階 標葉隆馬研究室	山田 尚子	月曜日 12:10～13:00	3号館 6階 山田尚子研究室
篠川 賢	火曜日 10:40～12:10	3号館 6階 篠川賢研究室	吉田 直希	火曜日 12:00～12:50	3号館 6階 吉田直希研究室
末永 朱胤	金曜日 14:40～16:10	3号館 6階 末永朱胤研究室	劉 穎	水曜日 14:40～16:10	3号館 7階 劉穎研究室
陶久明日香	木曜日 13:30～14:30	3号館 6階 陶久明日香研究室			

※非常勤講師については、授業前後に教室や非常勤講師控室で質問・相談を受け付ける。メールアドレスを公開している場合はメールでも可能。なお、シラバスや授業中に教員から別途指示があった場合はそれに従うこと。

1 制度の概要
(目的)

卒業の要件を満たす学生で、国家試験や資格試験の受験、または、就職活動等の理由により、自らの学修計画に沿って勉学を継続する目的で本学に引き続き在学することを希望する場合、卒業を延期し在学を認める制度である。

卒業を延期することができる期間は、1年(※)ないし半年とする。ただし、卒業延期制度の適用を受けた学生(以下、「卒業延期適用者」)が引き続き当該制度の適用を希望する場合は、1回を限度に、再度卒業の延期を申請することができる。

※ 1年の卒業延期を許可された卒業延期適用者は、所定の手続きを経た上で、当該年度の前期末をもって繰り上げて卒業(以下「繰上卒業」)することができる。

2 対象者
(資格要件)

卒業延期制度を希望する学生は、次の各号に全て該当しなければならない。

- ① 大学学則第27条に規定する卒業の要件を満たすこと。
- ② 引き続き在学することにより、在学期間が大学学則第5条第2項に規定する年数(8年)を超えないこと。
- ③ 当該年度において授業料等の納付金を滞納していないこと。

3 申請手続き

- ① 制度の適用を希望する学生は、本来卒業すべき年度(卒業延期適用者にあつては、延期後の在学期間が終了する年度。以下同じ)の以下の期日までに卒業延期願を提出し、2月下旬ないし9月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。
 - ・ 学年末をもって卒業要件を満たす者 2019年2月15日(金)
 - ・ 前期末をもって卒業要件を満たす者 2018年7月31日(火)
- ② 前項により卒業の延期を許可された学生(以下「卒業延期者」)に対しては、卒業延期許可通知を本人および保証人に交付する。
- ③ 卒業延期者が、事情変更により、本来卒業すべき年度での卒業を希望する場合は、3月9日(土)までに卒業延期許可取消願を提出した場合に限り、教授会で審議の上、認められる。ただし、前期末をもって卒業要件を満たす卒業延期者は、取消しはできない。
- ④ 卒業延期者が、延期期間に係る授業料等の納付金を、以下の期日までに納入しなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、当該年度末、または前期末での卒業とする。
 - ・ 学年末をもって卒業要件を満たす者 2019年3月20日(水)
 - ・ 前期末をもって卒業要件を満たす者 2018年9月19日(水)
- ⑤ 繰上卒業を希望する学生は、7月31日(火)までに繰上卒業願を提出し、9月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。許可が得られた場合、後述する納付金の後期分を返還する。

4 申請窓口および
提出先

1号館1階 教務部

5 申請期間

学年末をもって卒業要件を満たす者

2018年12月1日(土)～2019年2月15日(金) 12:00

前期末をもって卒業要件を満たす者

2018年7月2日(月)～2018年7月31日(火) 12:00

6 その他

- ・ 卒業延期者は、履修科目登録上限単位数の範囲内で授業科目を履修することができる。
- ・ 卒業延期期間中は、病気の理由を除き、休学は認められない。なお、休学期間中の学費の減額は認められない。
- ・ 卒業延期者の延期期間に係る授業料等の納付金については、以下のとおりとする。
 - 学年末をもって卒業要件を満たす者
授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の7割
 - 前期末をもって卒業要件を満たす者
授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の3割5分
- ※ その他の納付金である父母の会費、学生会費については、減額の対象とはならない。教育充実費は2015年度以降入学者のみが対象となる。

XV

秋卒業制度

1 制度の概要・対象者

前年度以前に卒業年次に在学し、卒業要件である大学学則第18条に規定する単位を修得することができず、3月に行われた卒業判定の結果、再び同年次に原級留置（留年）となった者が前期末に卒業要件を満たした場合は、秋（9月）に卒業となる。*

* 1年間の卒業延期制度の適用を受けた者が、前期末をもって卒業することを希望する場合については、繰上卒業願の提出が必要となる。詳しくは、【XVI 卒業延期制度】を参照すること。

2 制度の注意点

① 秋（9月）で自動的に卒業となる。

本制度の対象者（留年者）が前期末に卒業要件を満たした場合、秋（9月20日付）で自動的に卒業となるので十分注意すること。

※履修科目登録上限単位数、卒業論文に係る提出期限、卒業確定者発表日等は別途案内する。

② 年度末（3月）まで在学を希望する場合、卒業延期制度適用申請を行う必要がある。

本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、秋（9月）に卒業せず、今年度の3月まで在学を希望する場合は、7月末日までに卒業延期制度適用申請を行う必要がある。申請を行わない場合は自動的に秋卒業となるので注意すること。

※「卒業延期制度」の説明会は別途実施する。

③ 「卒業見込証明書」には「9月卒業見込」と記載される。

本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、「卒業見込証明書」を発行した場合、証明書には「9月卒業見込」と記載される。また、「教職課程」「学芸員課程」履修者の「免許（資格）取得見込証明書」についても通常と記載内容が異なる。

④ 秋卒業者を対象とした「学位記授与式」は実施しない。

「学位記」等の交付方法については別途案内する。なお、年度末（3月）に実施される「学位記授与式」に参加することは可能である。

⑤ 「教育職員免許状」は卒業と同時に交付されない。

秋（9月）卒業する場合は、卒業後、自身で免許交付申請手続きを行うことになる。ただし、上記②により卒業延期制度の適用を受け、年度末（3月）まで在学する場合は、大学で免許交付申請手続きを行う。詳細は教務部教職課程担当まで問い合わせること。

⑥ 校納金納付方法は前期・後期2回「分納」となり、1年間分「全納」はできない。

また、秋（9月）卒業した者は後期の校納金が不要となる。

※本制度における校納金の詳細については学生課まで問い合わせること。

⑦ 秋卒業は就職（活動）に重大な影響を及ぼす可能性がある。

就職内定者および就職活動中の者が本制度の対象者となった場合は、必ずキャリアセンターに相談すること。

その他、不明点については1号館1階教務部まで問い合わせること。

XVI

転学部・転学科

他学部・他学科への転入は、各学部学科にて実施される「転学部・転学科審査」（筆記試験、外国語試験、面接試験等）を受け、転入が許可された場合に限り認められる。ただし、転学部・転学科が認められ、他学部・他学科に編入された場合は、在学期間4年で卒業できない場合がある。

なお、「転学部・転学科審査」は毎年実施されるとは限らない。各学部学科において「転学部・転学科審査」が実施される場合は、Campus Square for Webや1号館1階教務関係掲示板にて案内するので、各自確認すること。

また、転学部・転学科を希望する者は、大学ホームページに掲載されている転入希望先の「履修の手引」等を読み、教育課程を理解しておくことが望ましい。

人材育成の目的と3つの方針 および履修系統図

文芸学部の人材育成の目的と3つの方針	26
文芸学部 国文学科の 人材育成の目的と3つの方針・履修系統図	30
文芸学部 英文学科の 人材育成の目的と3つの方針・履修系統図	32
文芸学部 芸術学科の 人材育成の目的と3つの方針・履修系統図	34
文芸学部 文化史学科の 人材育成の目的と3つの方針・履修系統図	36
文芸学部 マスコミュニケーション学科の 人材育成の目的と3つの方針・履修系統図	38
文芸学部 ヨーロッパ文化学科の 人材育成の目的と3つの方針・履修系統図	40

文芸学部の人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

文芸学部は、人間の文化的営為に関する多角的な研究・考察を通じて、豊かな教養、柔軟な思考力、広い視野を修得させ、かつ、それらを基盤にした知的創造性に富み、それをもって社会に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

文芸学部では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（日本語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. 専門分野の学問について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

文芸学部は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 文芸学部の学問に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. 文芸学部の学問に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 専門分野に関する知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は、初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. 文芸学部の学問について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、必要に応じて体験的実践的な授業（実習・研修旅行など）を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. 文芸学部において各自の専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

IV 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

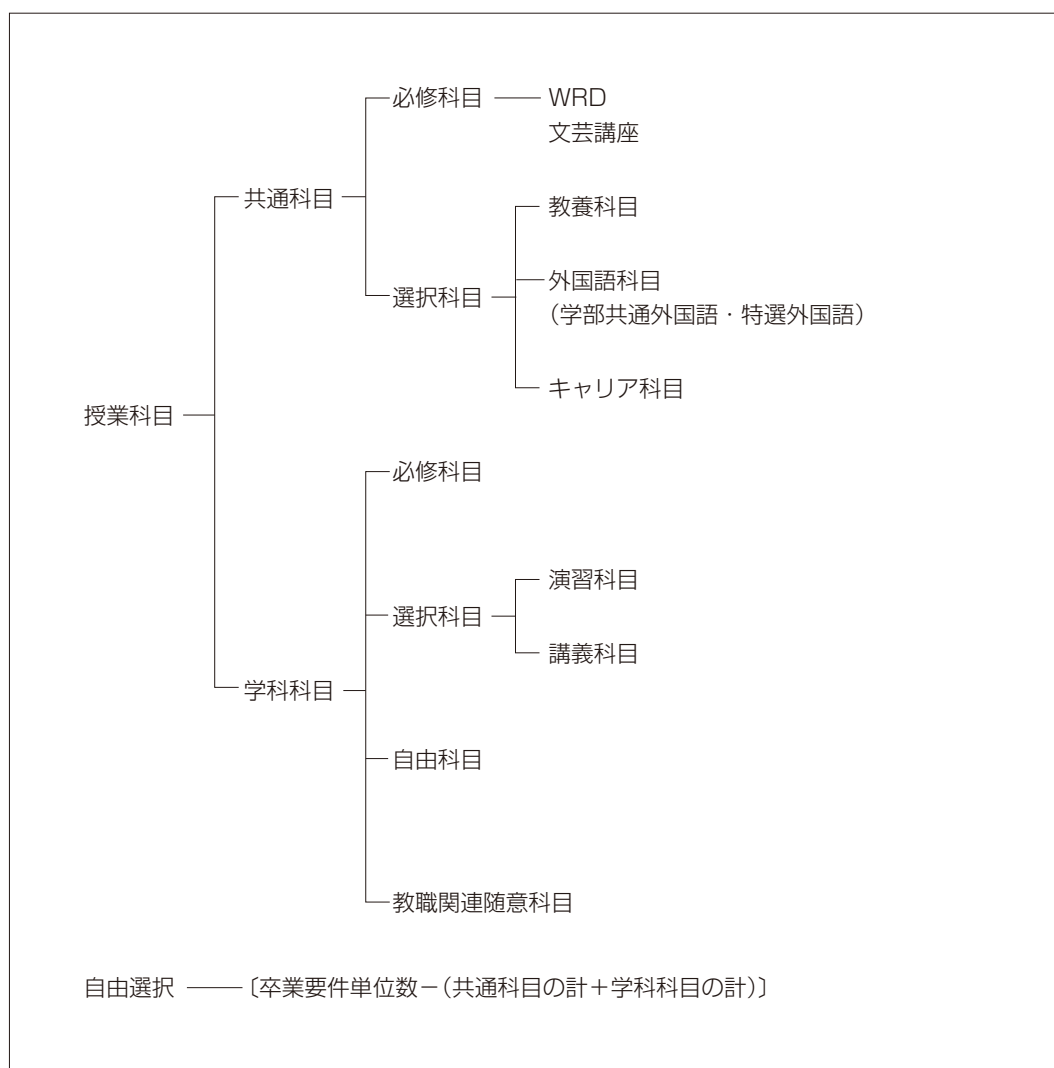
文芸学部は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

1. 文芸学部の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. 文芸学部の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

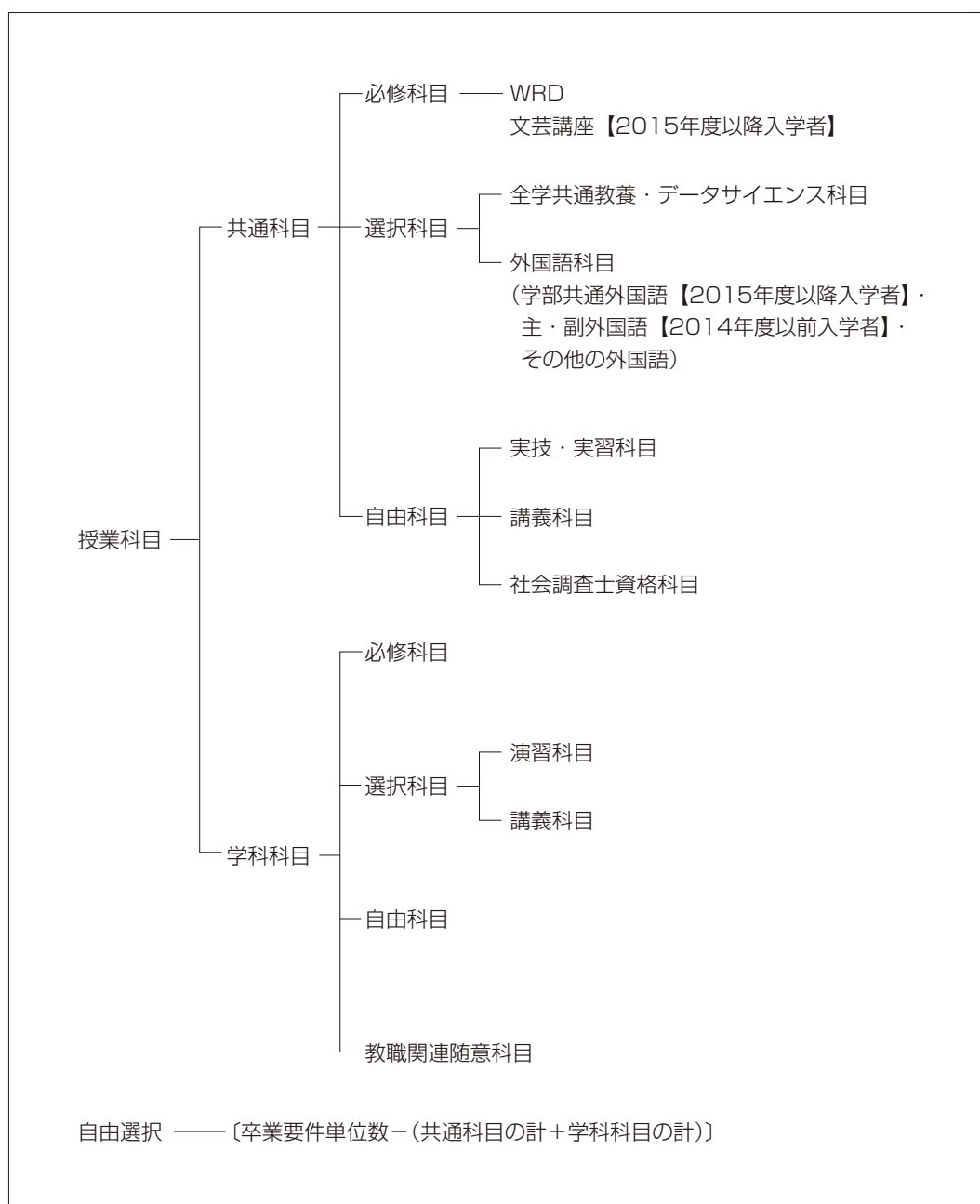
教育目的と授業科目【2017年度以降入学者】

文芸学部の教育目的は、1. 創造的な思考力の養成、2. 広範な知識と視野の獲得、3. 思考力と知識の深化である。それらを達成するために用意された授業科目は、共通科目と学科科目に大別される。共通科目は必修科目（WRD、文芸講座）、選択科目（教養科目、外国語科目、キャリア科目）に分かれ、学科科目は各学科の必修科目、選択科目、自由科目および教職関連随意科目に分かれる。なお、共通科目と学科科目の規定単位数の総計と卒業に必要な総単位数（卒業要件単位数）との間にある差は、WRD（共通科目）とゼミナール（学科科目）を除く文芸学部の全ての授業科目から、学生が任意に選択履修することによって埋めることになっているので、自由選択と呼ばれる。



教育目的と授業科目【2016年度以前入学者】

文芸学部の教育目的は、1. 創造的な思考力の養成、2. 広範な知識と視野の獲得、3. 思考力と知識の深化である。それらを達成するために用意された授業科目は、共通科目と学科科目に大別される。共通科目は必修科目（WRD、文芸講座【2015年度以降入学者】）、選択科目（全学共通教養・データサイエンス科目、外国語科目）、および自由科目（実技・実習科目、講義科目、社会調査士資格科目）に分かれ、学科科目は各学科の必修科目、選択科目、自由科目および教職関連随意科目に分かれる。なお、共通科目と学科科目の規定単位数の総計と卒業に必要な総単位数（卒業要件単位数）との間にある差は、WRD（共通科目）とゼミナール（学科科目）を除く文芸学部の全ての授業科目から、学生が任意に選択履修することによって埋めることになっているので、自由選択と呼ばれる。



文芸学部 国文学科の人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

国文学科では、国の文（あや）の学という名のもとに、文学作品のみならず、あらゆる日本語の表現を対象として広く、かつ深く学ぶ。古代から現代までの国語・国文学および漢文学という国文学の基本を、言葉に対する知的・感覚的習練とともに修めることで、わが国の言語・文学、さらには文化全体を的確に理解し、その識見を生かして社会に貢献しうる人材の育成を目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

国文学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（国語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. 国文学についての基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

国文学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 国文学に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. 国文学の研究に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 古典を基軸とする国文学の知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は国文学・漢文学・国語学の三分野にわたり、初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. 国文学について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、必要に応じて体験的実践的な授業を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. 国文学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

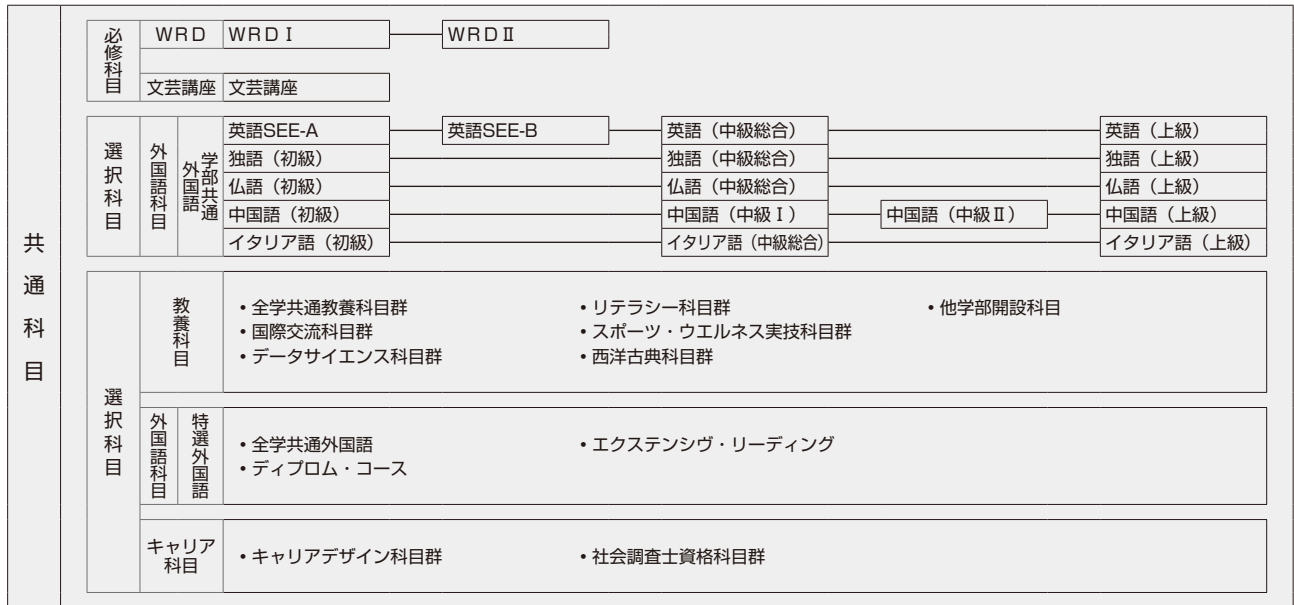
IV 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

国文学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

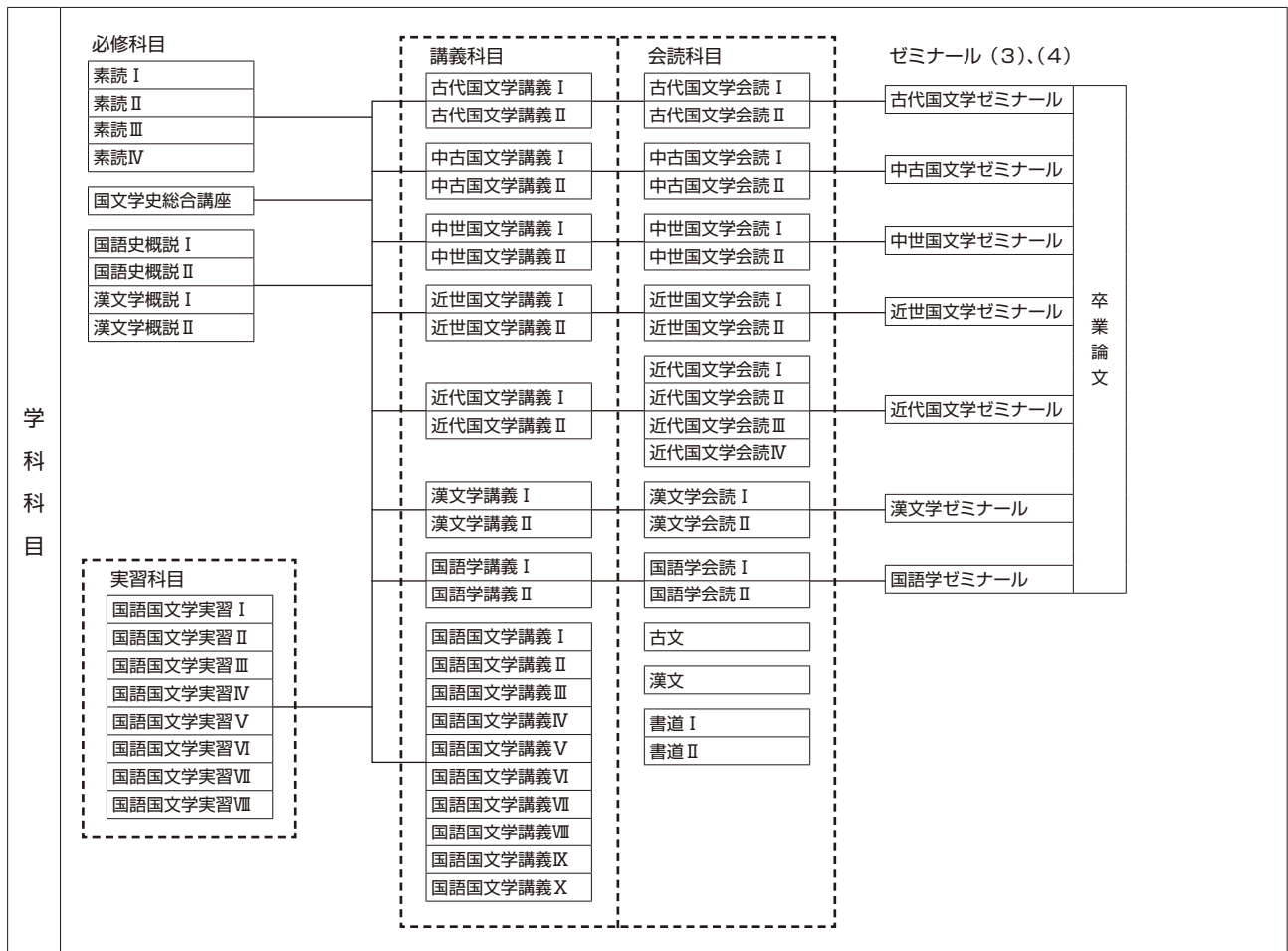
1. 国文学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. 国文学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

国文学科 履修系統図【2017年度以降入学者用】



人材育成の目的と3つの方針
および履修系統図



自由選択	【自由選択に含まれる単位】	
	a. 共通科目および自学科科目のうちそれぞれの規定単位数を超えて修得した単位 ・「教養科目」は規定単位数（16単位）を超えて修得した単位のうち18単位まで ・「学部共通外国語」は規定単位数（12単位）を超えて修得した単位のうち12単位まで ・自学科科目の選択科目はそれぞれ規定単位数を超えて修得した単位の合計のうち16単位まで	b. 共通科目・外国語科目のうち「特選外国語」の修得単位 ・18単位まで c. 共通科目のうち「キャリア科目」の修得単位 ・4単位まで d. 他学科科目の修得単位 ・各学科の履修規定による

※2016年度以前入学者用の履修系統図は過年度の履修の手引を参照すること。

文芸学部 英文学科の人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

英文学科は、英語文学、英語学、英語文化に関する理論的・実証的研究を通して、専門的知識、分析力、高いコミュニケーション能力を身につけることにより、英語を用いて多様化する現代社会の発展に貢献しうる、国際的教養および視野をもった人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

英文学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 英語学・英語文学・英語文化について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（日本語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. 英語学・英語文学・英語文化について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

英文学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 英語学・英語文学・英語文化に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. 英語学・英語文学・英語文化の研究に必要な英語に習熟するとともに、異文化を理解するために副外国語科目を設け、英語と合せて二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 英語学・英語文学・英語文化に関する知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は、初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. 英語学・英語文学・英語文化について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、必要に応じて体験的実践的な授業を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. 英文学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

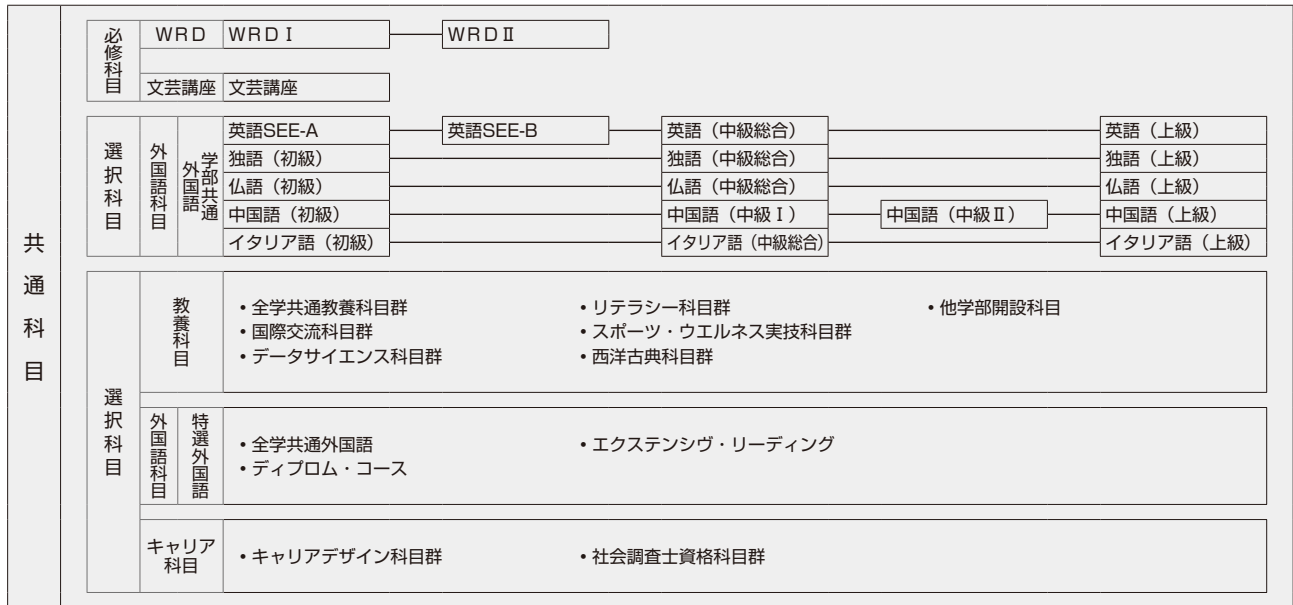
IV 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

英文学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

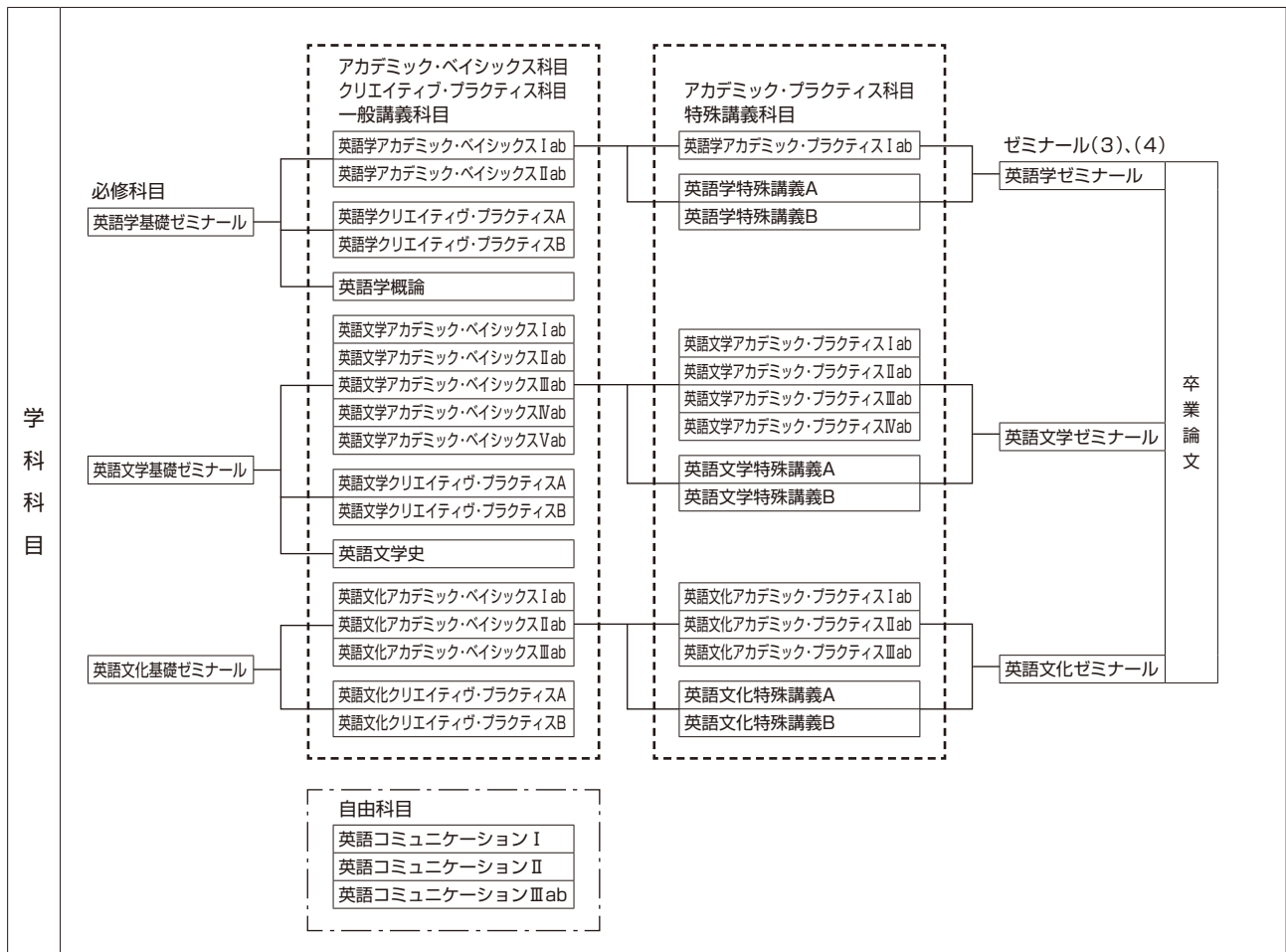
1. 英文学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. 英文学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

英文学科 履修系統図【2017年度以降入学者用】



人材育成の目的と3つの方針
および履修系統図



自由選択	【自由選択に含まれる単位】	
	a. 共通科目および自学科科目のうちそれぞれの規定単位数を超えて修得した単位 ・「教養科目」は規定単位数(16単位)を超えて修得した単位のうち18単位まで ・「学部共通外国語」は規定単位数(14単位)を超えて修得した単位のうち12単位まで ・自学科科目の選択科目はそれぞれ規定単位数を超えて修得した単位の合計のうち16単位まで ・自学科科目の自由科目は学科が定める上限単位まで	b. 共通科目・外国語科目のうち「特選外国語」の修得単位 ・18単位まで c. 共通科目のうち「キャリア科目」の修得単位 ・4単位まで d. 他学科科目の修得単位 ・各学科の履修規定による

※2016年度以前入学者用の履修系統図は過年度の履修の手引を参照すること。

文芸学部 芸術学科の人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

芸術学科は、芸術各分野と美に関する理論的・歴史的研究を通して、豊かな感性と優れた知性を育み、芸術的創造や研究・啓発活動、文化財の保存・公開事業等に参画しうる人材、あるいは芸術と美への深い共感と理解によって、社会や文化の発展に貢献しうる人材の育成を目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

芸術学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と文化はもちろん、自然や社会の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（日本語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. 芸術学の基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

芸術学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 芸術学に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. 芸術学に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 芸術学に関する知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は、初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. 芸術学について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、体験的実践的な授業（研修旅行など）を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. 芸術学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

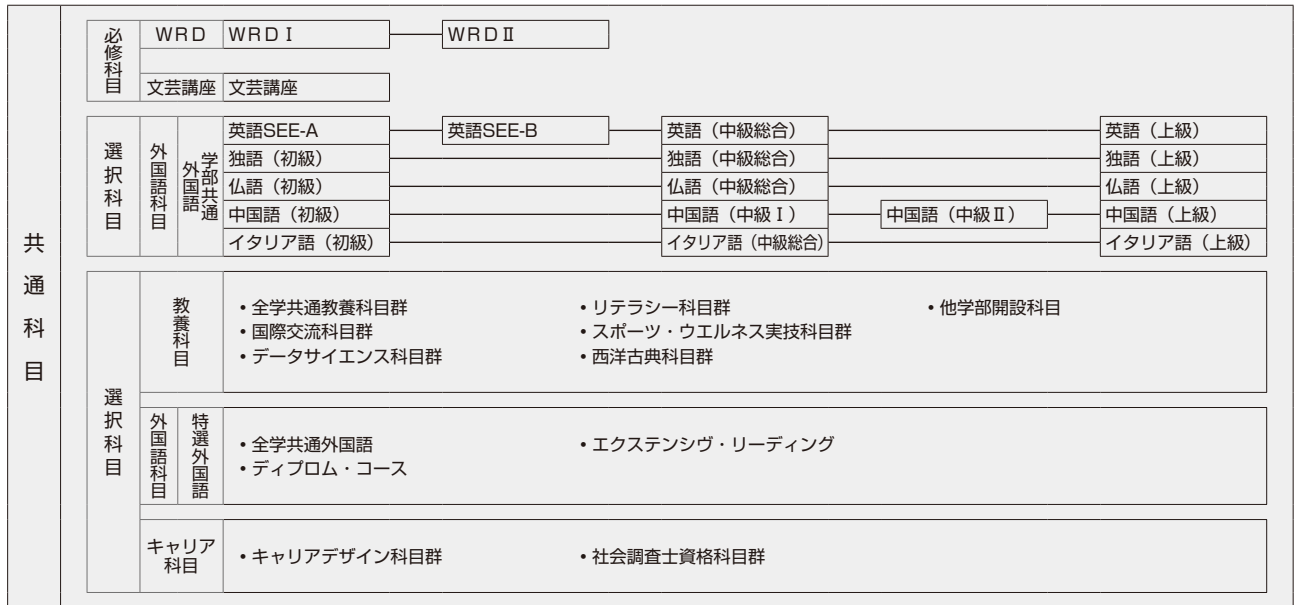
IV 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

芸術学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

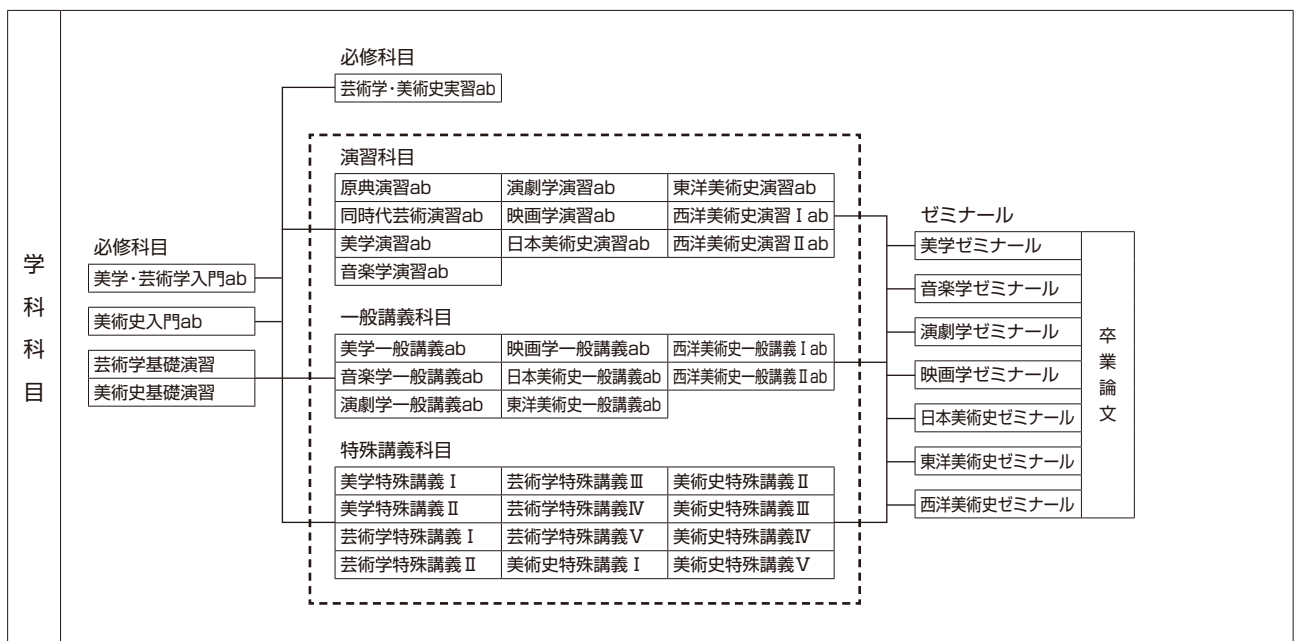
1. 芸術学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. 芸術学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

芸術学科 履修系統図【2017年度以降入学者用】



人材育成の目的と3つの方針
および履修系統図



自由選択	【自由選択に含まれる単位】	
	a. 共通科目および自学科科目のうちそれぞれの規定単位数を超えて修得した単位 ・「教養科目」は規定単位数（16単位）を超えて修得した単位のうち18単位まで ・「学部共通外国語」は規定単位数（12単位）を超えて修得した単位のうち12単位まで ・自学科科目の選択科目はそれぞれ規定単位数を超えて修得した単位の合計のうち16単位まで	b. 共通科目・外国語科目のうち「特選外国語」の修得単位 ・18単位まで c. 共通科目のうち「キャリア科目」の修得単位 ・4単位まで d. 他学科科目の修得単位 ・各学科の履修規定による

※2016年度以前入学者用の履修系統図は過年度の履修の手引を参照すること。

文芸学部 文化史学科の人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

文化史学科は、日本内外の社会・文化事象の成り立ちを、歴史学・日本民俗学・文化人類学を中心として理論的かつ実証的に研究するとともに、実践的な活動を通して、創造的な社会や文化を構想・提起する能力を持つ有為の人材の育成を目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

文化史学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と文化・社会・歴史の関係はもちろん、自然との関係についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 文化事象について、必要な調査・分析・考察によって論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（日本語・外国語）の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. 歴史学・民俗学・文化人類学について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

文化史学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 歴史学・民俗学・文化人類学に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. 歴史学・民俗学・文化人類学に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 歴史学・民俗学・文化人類学に関する知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は、初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. 歴史学・民俗学・文化人類学について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、体験的実践的な授業（実習・研修旅行など）を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. 文化史学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

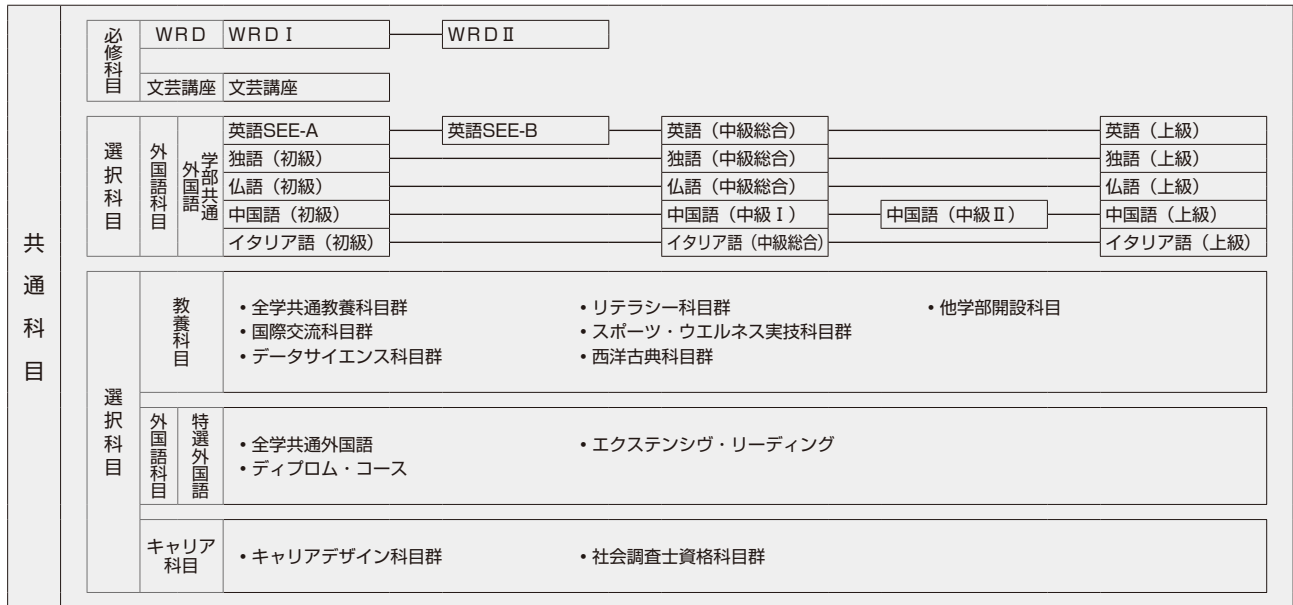
IV 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

文化史学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

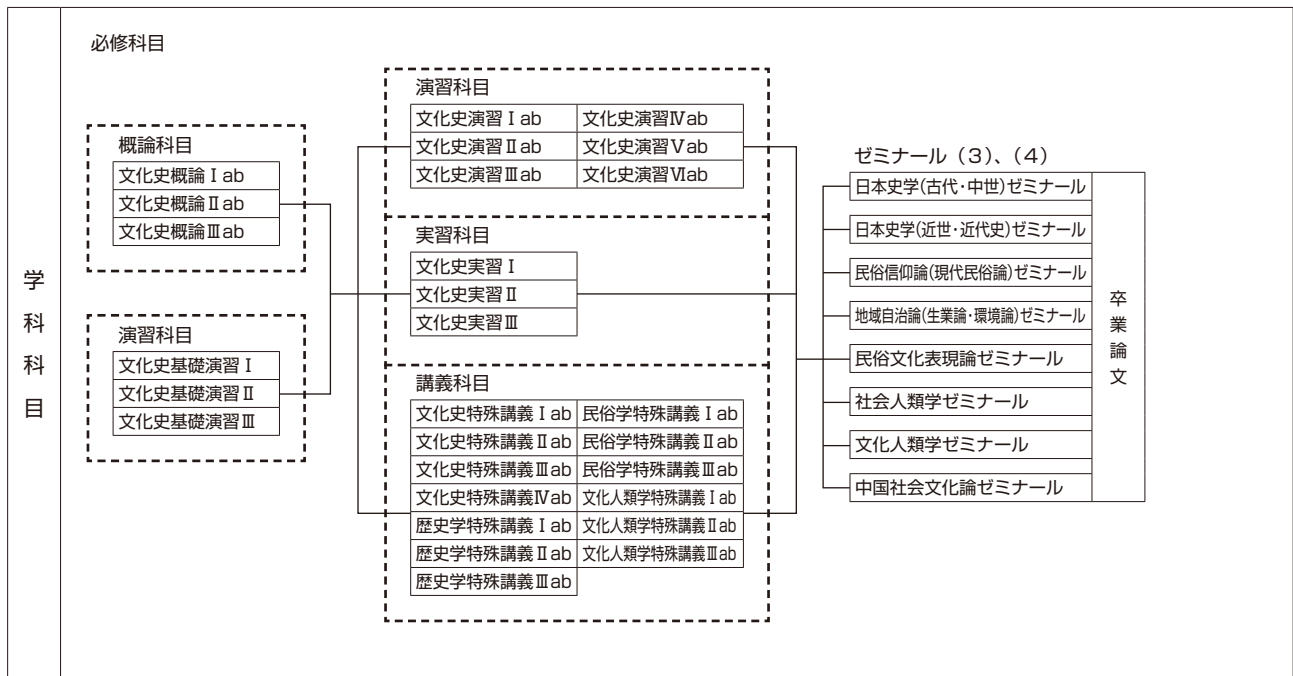
1. 文化史学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. 文化史学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

文化史学科 履修系統図【2017年度以降入学者用】



人材育成の目的と3つの方針
および履修系統図



【自由選択に含まれる単位】

自由選択	a. 共通科目および自学科科目のうちそれぞれの規定単位数を超えて修得した単位 ・「教養科目」は規定単位数(16単位)を超えて修得した単位のうち18単位まで ・「学部共通外国語」は規定単位数(12単位)を超えて修得した単位のうち12単位まで ・自学科科目の選択科目はそれぞれ規定単位数を超えて修得した単位の合計のうち16単位まで ・自学科科目の自由科目は学科が定める上限単位まで	b. 共通科目・外国語科目のうち「特選外国語」の修得単位 ・18単位まで c. 共通科目のうち「キャリア科目」の修得単位 ・4単位まで d. 他学科科目の修得単位 ・各学科の履修規定による
------	--	---

※2016年度以前入学者用の履修系統図は過年度の履修の手引を参照すること。

文芸学部 マスコミュニケーション学科の 人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

マスコミュニケーション学科は、現代のメディアとコミュニケーションに関する理論的・経験的研究を通して、科学的で批判的な知性を育み、現代社会への洞察力に満ちた理解によって市民社会の発展に貢献しうる人材の育成を目的とする。とくに、報道・広告・広報活動、情報機器を介したコミュニケーション活動、社会調査、さらに、ヒューマンサービスのコミュニケーション的側面からの支援活動などにおいて活躍しうる人材を育てる。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

マスコミュニケーション学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. 人間と社会はもちろん、自然や文化の領域についても広範に学修し、教養を養うとともに、それに対する感受性を開発し、自らの個性を見極め、それを啓発していること。
2. 社会・文化事象について、必要な調査・分析・考察によって科学的・論理的に問題を解決し得ること。
3. 言語（日本語・外国語）と統計解析の運用に習熟し、的確な理解力・表現力を備えていること。
4. マスコミュニケーション学科の学問について、基礎的な知識を修得し、その方法論に実践的に習熟し、各自の研究に応用し得ること。
5. 歴史的・国際的視野のもと、社会人としての責任を自覚し、社会の発展に創造的に貢献する志を養っていること。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

マスコミュニケーション学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. マスコミュニケーション学科の学問に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. マスコミュニケーション学科の学問に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、二つの外国語の履修を必修とし、その効果的な運用のためにグレード制を敷きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. マスコミュニケーション学科の学問に関する知識および方法論を修得し得るよう、学科科目は初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。とくに、社会調査と社会心理学実験の技法の習得ができるように実習科目を配置します。
7. マスコミュニケーション学科の学問について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、体験的実践的な授業（実習・研修旅行など）を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. マスコミュニケーション学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

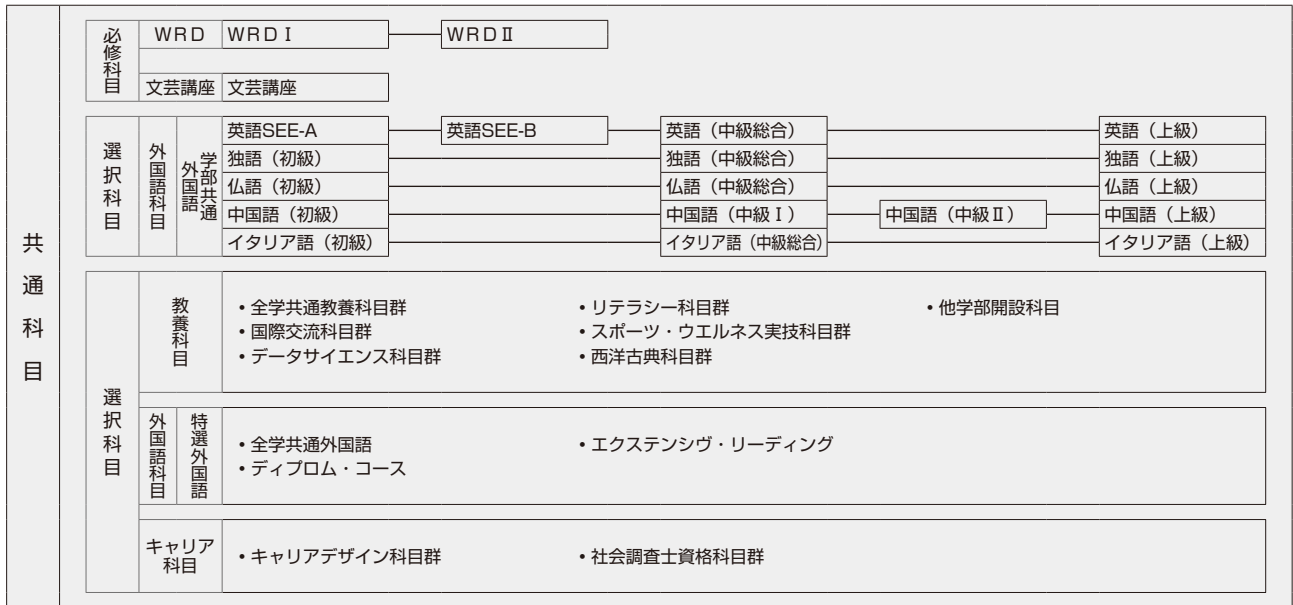
IV 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

マスコミュニケーション学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

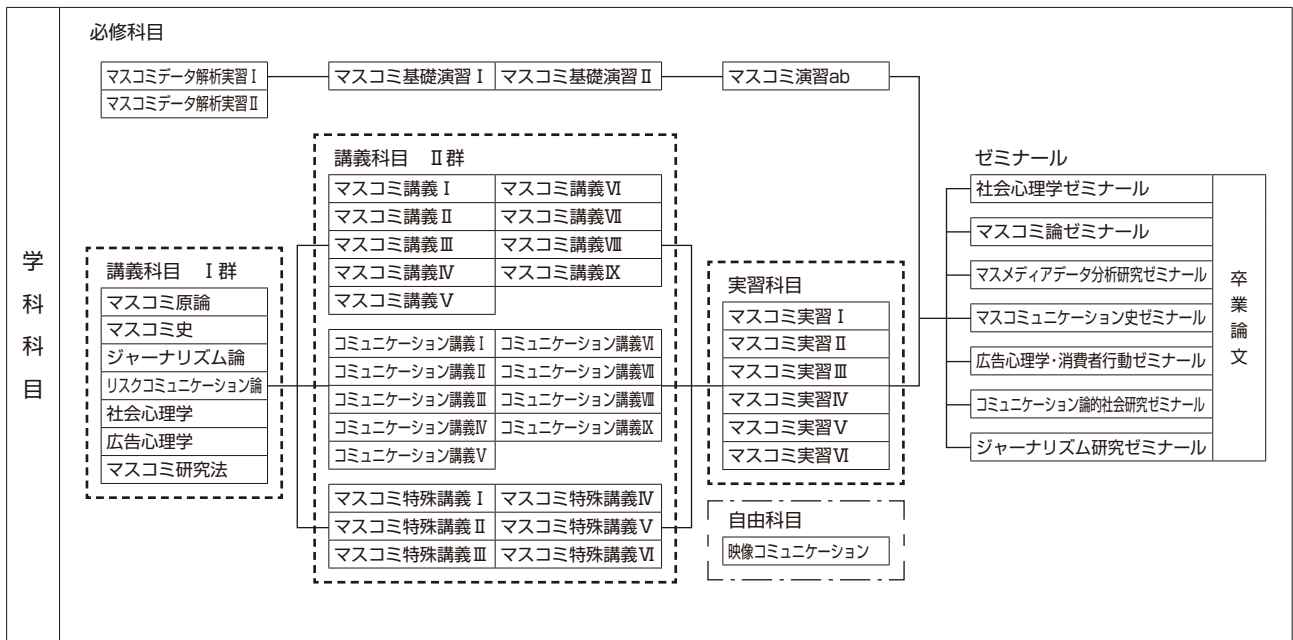
1. マスコミュニケーション学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. マスコミュニケーション学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

マスコミュニケーション学科 履修系統図【2017年度以降入学者用】



人材育成の目的と3つの方針
および履修系統図



自由選択	【自由選択に含まれる単位】
	<p>a. 共通科目および自学科科目のうちそれぞれの規定単位数を超えて修得した単位</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教養科目」は規定単位数（16単位）を超えて修得した単位のうち18単位まで 「学部共通外国語」は規定単位数（12単位）を超えて修得した単位のうち12単位まで 自学科科目の選択科目はそれぞれ規定単位数を超えて修得した単位の合計のうち16単位まで 自学科科目の自由科目は学科が定める上限単位まで <p>b. 共通科目・外国語科目のうち「特選外国語」の修得単位</p> <ul style="list-style-type: none"> 18単位まで <p>c. 共通科目のうち「キャリア科目」の修得単位</p> <ul style="list-style-type: none"> 4単位まで <p>d. 他学科科目の修得単位</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科の履修規定による

※2016年度以前入学者用の履修系統図は過年度の履修の手引を参照すること。

文芸学部 ヨーロッパ文化学科の人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

ヨーロッパ文化学科では、ヨーロッパの言語、とりわけドイツ語・フランス語を基礎に、哲学・歴史・文学・芸術など多分野にわたるヨーロッパの文化に関する理論的・実証的研究を通して、広い視野をもち、国際化の時代を生きるために不可欠な教養と高邁な理念とを備えた、有為な人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

ヨーロッパ文化学科では所定の単位を修得し、提出した卒業論文が合格することをもって、次の条件を満たしたものとみなし、卒業を認定します。

1. ヨーロッパの学問の伝統をふまえて、人間のあり方・生き方について適切に判断ができること。
2. 人間がこれまで蓄積してきた諸種の文化的遺産について、真摯な態度で取り組み、主体的な解釈を加えられること。
3. 言語（日本語・外国語）、とりわけドイツ語またはフランス語を十分に修得し、自身の思考を伝達し他者の思考を受容できること。
4. ヨーロッパの文化を、ドイツ語またはフランス語の知識を通じて深く理解し、自国の文化について反省的に思考できること。
5. 一人の人間として、異文化や他地域に所属する多種多様な人々に対して興味を持ち、共感を養い、それらの人々と共に未来を築く強い意志を持つこと。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

ヨーロッパ文化学科は、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. ヨーロッパ文化学科の学問に関する思考力・理解力・表現力を養い、感受性を開発するために、質量ともに十分な授業を配置し、受講者はでき得る限り少人数に抑え、個性を尊重した指導を実施します。
2. 大学における勉学の基礎となる読解力・文章表現力および発表・議論する力を養うためにWRD科目と文芸講座を初年次の必修とします。
3. 大学生として必要な教養を養うために、教養科目を設けます。
4. ヨーロッパ文化学科の学問に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するために外国語科目を設け、ドイツ語またはフランス語を必修として最低二つの外国語の履修を課し、その効果的な遂行のためにグレード制を敷き、学科科目にもドイツ語およびフランス語外国語科目を置きます。
5. 各自の個性に基づき、それをいかに社会に生かすかを考えるために、初年次からキャリア科目を設けます。
6. 歴史・哲学・言語学・西洋古典学・芸術・比較文化に関する知識および方法論を修得し得るよう、またヨーロッパの現在について探究心が刺激されるよう、学科科目は初年次段階から学年進行に合わせて体系的に配置します。
7. ヨーロッパ文化学科の学問について、知的理解にとどまらず、それに対する感受性を養うために、必要に応じて体験的実践的な授業を設けます。
8. 大学における学修の集大成として、卒業論文の執筆を課します。
9. ヨーロッパ文化学科において専門分野以外の領域の学問を幅広く学修するために、他学科の科目を自由選択科目として履修することを認めるとともに、主専攻・副専攻制度を設けます。

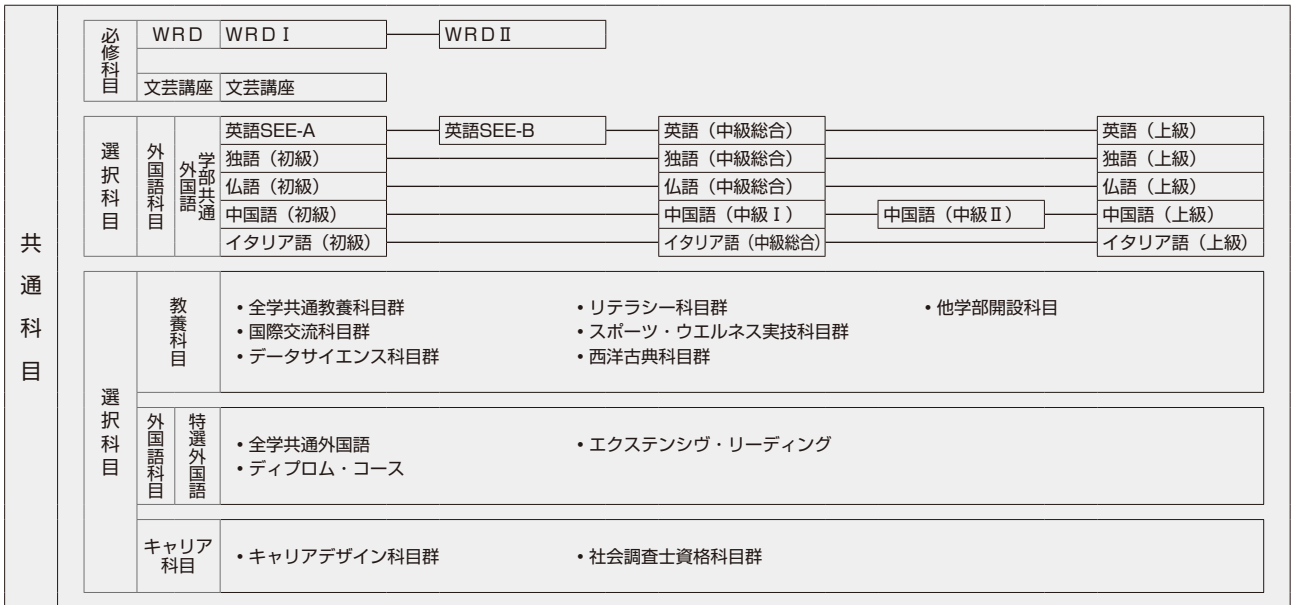
IV 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

ヨーロッパ文化学科は、次の条件を満たす人材を入学者として求めます。

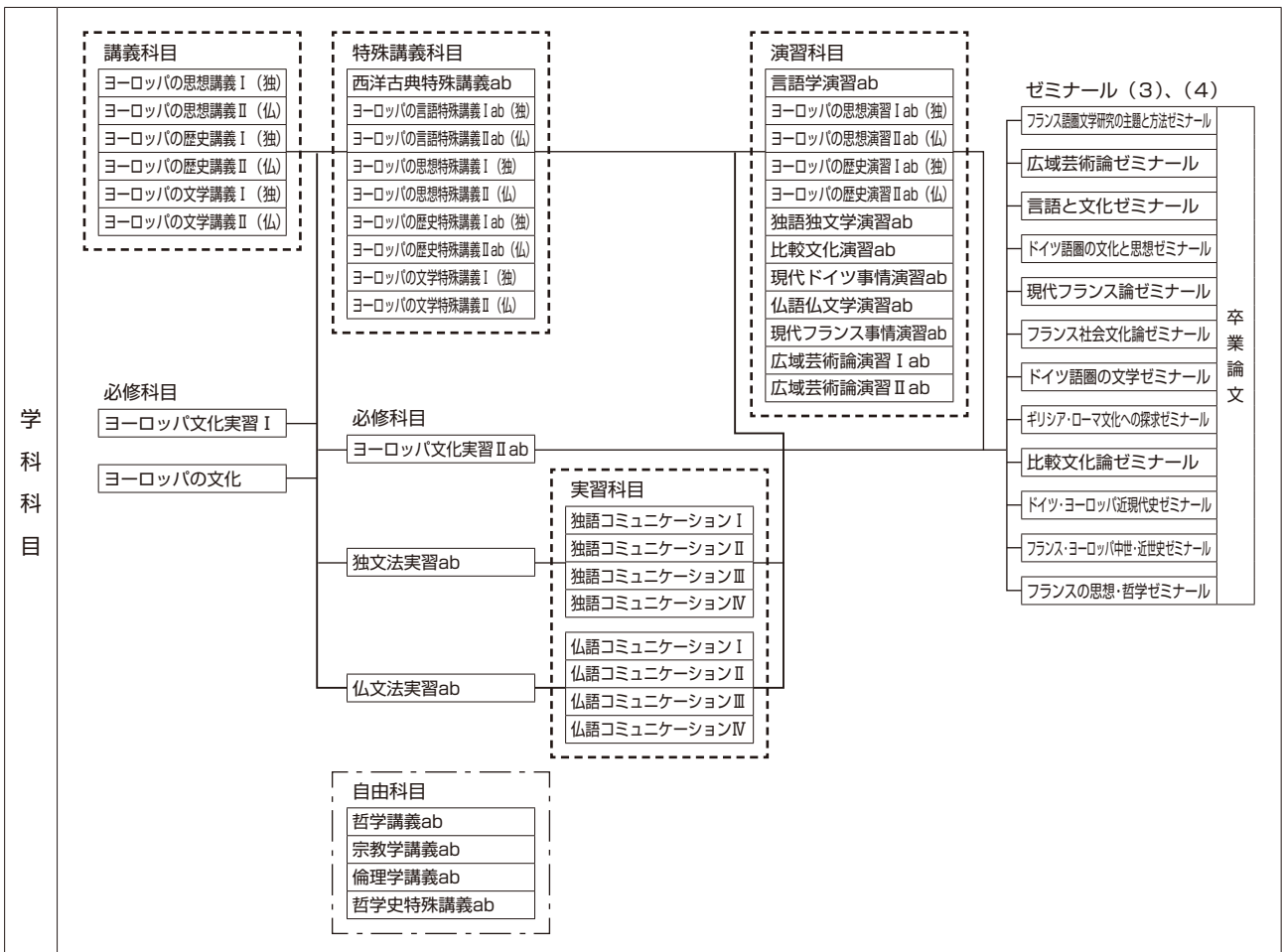
1. ヨーロッパ文化学科の学問を学修する上で必要な基礎学力を有する人。
2. ヨーロッパ文化学科の学問について、旺盛な関心を持つとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する人。
3. 自らの個性を自覚し、その研鑽に意欲的であるとともに、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有する人。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

ヨーロッパ文化学科 履修系統図【2017年度以降入学者用】



人材育成の目的と3つの方針
および履修系統図



【自由選択に含まれる単位】

a. 共通科目および自学科科目のうちそれぞれの規定単位数を超えて修得した単位

- ・「教養科目」は規定単位数(16単位)を超えて修得した単位のうち18単位まで
- ・「学部共通外国語」は規定単位数(16単位)を超えて修得した単位のうち12単位まで
- ・自学科科目の選択科目はそれぞれ規定単位数を超えて修得した単位の合計のうち16単位まで
- ・自学科科目の自由科目は学科が定める上限単位まで

b. 共通科目・外国語科目のうち「特選外国語」の修得単位

- ・18単位まで

c. 共通科目のうち「キャリア科目」の修得単位

- ・4単位まで

d. 他学科科目の修得単位

- ・各学科の履修規定による

※2016年度以前入学者用の履修系統図は過年度の履修の手引を参照すること。

履修規定

[2017年度以降入学者用]

I	卒業要件単位数	44		
II	主専攻・副専攻について	45		
III	—1 共通科目履修方法	46		
	① WRD	46		
	1) 目的			
	2) 履修上の注意事項			
	3) 再履修について			
	② 文芸講座	46		
	1) 目的			
	2) 履修上の注意事項			
	3) 再履修について			
	③ 教養科目	47		
	1) 全学共通教養科目群			
	2) 国際交流科目群			
	3) データサイエンス科目群			
	4) リテラシー科目群			
	5) スポーツ・ウェルネス実技科目群			
	6) 西洋古典科目群			
	7) 他学部開設科目			
	④ 外国語科目	53		
	a. 学部共通外国語			
	1) 卒業に必要な学部共通外国語の 規定単位数			
	2) 履修上の注意事項 (必修外国語)			
	3) グレード制・セメスター制			
	4) グレードの種類			
	5) グレードの認定			
	6) クラス名称と開講曜限			
	7) 英語 SEE-A・B の 受講クラスについて			
	8) 英語の飛び級について			
	9) グレードごとの履修パターン			
	b. 特選外国語			
	1) 全学共通外国語			
	2) ディプロム・コース			
	3) エクステンシヴ・リーディング			
	⑤ キャリア科目	62		
	1) キャリアデザイン科目群			
	2) 社会調査士資格科目群			
III	—2 学科科目履修方法	64		
	A. 国文学科	64		
	B. 英文学科	66		
	C. 芸術学科	70		
	D. 文化史学科	72		
	E. マスコミュニケーション学科	74		
	F. ヨーロッパ文化学科	76		
III	—3 文芸学部共通ゼミナール	79		
III	—4 自由選択	80		

I

卒業要件単位数

1 卒業要件単位数

各学科における卒業に必要な単位数、および各分野において修得しなければならない規定単位数は、第1表のとおりである。

2 自由選択 (p.80参照)

以下の修得単位は自由選択の単位として取り扱われる。

① 必修科目を除く各区分で、卒業に必要な規定単位数を超えて修得した単位。規定単位数の表に示された〔 〕内の数字は、それぞれの区分において自由選択の卒業要件単位数として算入することのできる単位数の上限である。これを超えて修得した単位は余剰単位として取り扱う。

② 他学科の科目(ゼミナールを除く)の修得単位。履修に当たっては、各学科の【履修規定】が適用されるので、確認のうえ、履修すること。

3 教職関連随意科目

第1表に記載されている授業科目の他、文化史学科開設科目として「教職関連随意科目」を開設する。この科目は主に教職課程登録者が「教科に関する科目」として履修するために開設する科目であるが、教職課程登録の如何を問わず、また文化史学科の学生のみならず他学科の学生が履修することも可能である。ただし、教職課程登録の有無や学科を問わず、**修得した単位は卒業要件単位に算入できない。**

第1表 卒業要件科目および単位数

分野・区分			規定単位数												
			国文学科		英文学科		芸術学科		文化史学科		マスコミュニケーション学科		ヨーロッパ文化学科		
			卒業要件単位数	自由選択算入上限	卒業要件単位数	自由選択算入上限	卒業要件単位数	自由選択算入上限	卒業要件単位数	自由選択算入上限	卒業要件単位数	自由選択算入上限	卒業要件単位数	自由選択算入上限	
共通科目	必修科目	WRD	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	
		文芸講座	2	-	2	-	2	-	2	-	2	-	2	-	
	選択科目	教養科目	16	(18)	16	(18)	16	(18)	16	(18)	16	(18)	16	(18)	
		外国語科目	学部共通外国語(2言語以上)注1)	12	(12)	14	(12)	12	(12)	12	(12)	12	(12)	16	(12)
			特選外国語	0	(18)	0	(18)	0	(18)	0	(18)	0	(18)	0	(18)
	キャリア科目	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)		
共通科目の計 (A)			34		36		34		34		34		38		
学科科目	必修科目		34	-	28	-	26	-	16	-	24	-	25	-	
	選択科目	演習科目	12	※会読12	20	注2) AB12、AP8	12		16	※基礎演習8、演習8	-		16		
		実習科目	2		-	(16)	-	(16)	2	(16)	2	(16)	4	(16)	
		講義科目	12		8	注2) CP4、一般講義4	16		28	※概論4、講義24	36	※I群10、II群26	4		
		特殊講義科目	-		4		4		-		-		8		
自由科目		-	-	0	(6)	-	-	0	(8)	0	(2)	0	(8)		
学科科目の計 (B)			60		60		58		62		62		57		
自由選択	他学科科目修得単位および他の区分からの算入単位 (C)		30		30		32		32		32		29		
総計 (A) + (B) + (C)			124		126		124		128		128		124		

注1) 卒業要件単位数の内訳については、第10表を参照すること。

注2) 英文学科(選択科目):「AB」は、アカデミック・ベイシックス科目の略。「AP」は、アカデミック・プラクティス科目の略。「CP」は、クリエイティブ・プラクティス科目の略。

II

主専攻・副専攻について

1 主 専 攻

自分が所属する学科のことを主専攻と呼ぶ。なお、文芸学部を卒業するためには、**第1表**に記載された、自分が所属する学科の規定単位数を修得しなければならない。

2 副 専 攻

副専攻とは、所属学科以外の学科が規定する副専攻修了要件単位数を修得した場合に、修了が認定されるものである。例えば、文化史学科の学生が、自分の所属する学科の規定単位数を満たし、さらに、芸術学科の副専攻修了のための規定単位数を満たした場合、卒業時に2学科にまたがった専門領域の学業を修め、修了したことを認定することになる。

3 副専攻修了要件 単位数

各学科で定める副専攻修了要件単位数は次のとおりである。

① 国文学科 **36単位**

「素読Ⅰ～Ⅳ」の8単位、「漢文学会読Ⅰ・Ⅱ」と「国語学会読Ⅰ・Ⅱ」の8単位の計16単位を含む。

② 英文学科 **32単位**

「英語学基礎ゼミナール」、「英語文学基礎ゼミナール」、「英語文化基礎ゼミナール」のうちの1科目4単位を含む。自由科目は修了要件単位に含むことができない。なお、副専攻修了要件単位数の32単位とは別に、卒業時までに英語の「SEE-A・B」4単位、「中級総合」4単位の計8単位を修得していること。また、3年次終了時までにTOEIC試験を4回以上受験しなければならない*。

*やむを得ない理由により、学内試験を受験できない者は、学外試験を受験しなければならない。4回以上受験していない者は必ず共用研究室で指示を受けること。

*4年次4月の本申請時に、4回分の「成績表」(Score Report)のコピーを教務部に提出すること。

③ 芸術学科 **28単位**

「美学・芸術学入門a・b」、「美術史入門a・b」のどちらか(a・bセット)4単位、演習科目4単位および一般講義科目8単位の計16単位を含む。

④ 文化史学科 **28単位**

概論科目4単位、演習科目4単位(文化史基礎演習Ⅰ～Ⅲを除く。)および講義科目20単位。なお、自由科目は修了要件単位に含むことができない。

⑤ マスコミュニケーション学科 **28単位**

講義科目Ⅰ群10単位以上を含む講義科目28単位。

⑥ ヨーロッパ文化学科 **24単位**

「ヨーロッパの文化」(4単位)、「ヨーロッパ文化実習Ⅰ」(1単位)のどちらか1科目を含む。自由科目は修了要件単位に含むことができない。なお、副専攻修了要件単位数の24単位とは別に、卒業時までに「独語」または「仏語」のいずれか10単位を修得していること。

4 副 専 攻 申 請 手 続 き

副専攻の申請を希望する学生は、以下の手続き(②～④)をとること。

- ① 1年次4月のフレッシュマン・キャンプで行われる教務部ガイダンスで概要の説明を受ける。
- ② 2年次の4月に行われる主専攻・副専攻制度の説明会に出席し、「第一次仮申請」を行う。
- ③ 3年次の4月に行われる主専攻・副専攻制度の説明会に出席し、「第二次仮申請」を行う。
- ④ 3年次終了時、卒業までに各学科が定める副専攻修了要件単位数の修得が可能だと見込まれる場合、4年次の4月に行われる説明会に出席し、「本申請」を行う(この段階で単位修得が不可能である等の理由により、副専攻の申請を取り下げることができる)。

5 副専攻修了の 認定

副専攻の申請手続きを行った学生が副専攻修了に必要な単位を修得していると文芸学部教授会が認めたとき、その学生の副専攻の修了を認定し、そのことを認定書および成績証明書に記すことになる。

6 履修上の注意

- ① 副専攻に必要な単位は、自由選択の単位として認められる。
- ② 時間割の都合等の理由により、副専攻の修了に必要な科目と必修科目が同曜限になる場合も考えられるので、1年次の時点から履修計画を立てること。

7 副専攻の助言 教員

副専攻についての履修相談は、副専攻の学科の主任(または副専攻助言教員)が担当する。

Ⅲ-1 共通科目履修方法

1 WRD

1 目的

高等学校までの勉学は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉学は自分でその所在を明らかにした問題について、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」(ワードと読む)とは、「Write 書く、Read 読む、Debate 議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

上記を踏まえて、前期に「WRDⅠ」、後期に「WRDⅡ」を設置している。

前期の「WRDⅠ」では、「自ら問いをたてる」(問題意識を持つ)という学問的思考の修得と「論文(研究レポート)を一人で書くことができるようになる」ことを到達目標とする。

これを達成するために、講義と実践的トレーニングを行う。

後期の「WRDⅡ」では、「WRDⅠ」で学修した内容を深化させるために、以下の4コースを設置する。

Wコース:「書く」ことに特化する。レベルに応じたクラスを設置する。(書くことが得意な人向けのクラスから、書くことが苦手な人向けのクラスまでであるので、シラバスを参照のこと。)

Rコース:「読む」ことに特化する。(読むことを中心とするが、クラスごとに方法や内容が異なるので、シラバスを参照のこと。)

REコース:「観察する(みる・きく)」ことに特化する。(観察する(インタビュー)ことを通して、リサーチのおもしろさを実感する。シラバスを参照のこと。)

Dコース:「議論する」に特化する。プレゼンテーションコンテスト(12月開催予定)で成果を発表する。

なお、上記のコースのうち、REコースとDコースはプロジェクト型アクティブ・ラーニングで、このうちDコースはグループ学習が中心となる。

2 履修上の注意事項

【WRDⅠ】

- ① 上記の成果を高めるために1クラス当たりの受講者数を25名前後に限定する。
- ② 受講クラスは教務部が指定し、事前登録を行う。指定クラスはCampus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。
- ③ 科目名末尾の数字はクラス名を表し、科目名には含まれない。

【WRDⅡ】

- ① 第5希望まで申請可能で、抽選の結果、いずれか1つのクラスに登録される。なお、希望した全てのクラスに抽選漏れした場合や期間中に申請しなかった場合は、任意のクラスに割り当てられる。登録方法については、【[授業に関すること](#)】[Ⅳ](#)特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② マスコミュニケーション学科の学生はREコースが必修のため、受講クラスは教務部が指定し、事前登録を行う。

3 再履修について

単位未修得者は、教務部が事前登録を行う。

2 文芸講座

1 目的

「文芸講座」は文芸学部での学びの基礎となる科目である。文芸学部では多種多様な分野を学ぶことができるが、「文芸講座」はそのような広がりを持つ文芸学部の学びの全体像を学生の皆さんに理解してもらうことを目的に開設された科目である。そのためこの科目は文芸学部生全員が必ず受講することになっている。授業は、あらかじめ設定したテーマについて、複数の教員が自らの研究分野から論じることで進められる。

2 履修上の注意事項

- ① 「文芸講座」は2コマ開設するが、授業の内容、成績評価は共通である。なお、教務部がクラス分けの上、事前登録を行う。指定クラスはCampus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。
- ② 「文芸講座」の成績評価は、他の科目と異なり、合格であれば、「合」(英文成績証明書は「P」)と表示される。

3 再履修について

単位未修得者は、教務部が事前登録を行う。

専門領域を超えて柔軟に思考することは勉学に不可欠である。専門領域におさまらない問題を、テーマ別に整理・統合したのが教養科目である。

- ① 教養科目は、1. 全学共通教養科目群、2. 国際交流科目群、3. データサイエンス科目群、4. リテラシー科目群、5. スポーツ・ウエルネス実技科目群、6. 西洋古典科目群、7. 他学部開設科目からなる。
- ② 卒業に必要な単位数は16単位である。
- ③ 卒業に必要な単位数を超えて修得した単位のうち、18単位までを「自由選択」に算入できる。

1 全学共通教養科目群 第2表のとおり、全学共通教養科目を開講する。

第2表 教養科目（全学共通教養科目群）配当表 学年配当：1～4年次

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
※総合講座Ⅰ	2	※社会構造論Ⅲa	2
総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース／感動と価値の創造〉	2	※社会構造論Ⅲb	2
総合講座Ⅲ〈環境〉	2	社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉	2
※総合講座Ⅳ	2	社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉	2
総合講座Ⅴ〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2	※社会構造論Ⅴa	2
総合講座Ⅵ〈中国文学入門（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2	※社会構造論Ⅴb	2
※特別講座Ⅰ	2	社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉	2
※特別講座Ⅱ	2	※社会構造論Ⅵb	2
成城学園を知る	2	社会構造論演習 a	2
成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	2	社会構造論演習 b	2
※成城学Ⅱ	2	哲学入門 a	2
※成城学Ⅲ	2	哲学入門 b	2
※成城学Ⅳ	2	宗教学入門 a	2
成城学Ⅴ〈成城と自然〉	2	宗教学入門 b	2
社会学入門 a	2	倫理学入門 a	2
社会学入門 b	2	倫理学入門 b	2
メディア論入門 a	2	西洋思想入門 a	2
メディア論入門 b	2	西洋思想入門 b	2
現代社会論Ⅰ a〈現代の宗教と国家〉	2	東洋思想入門 a	2
現代社会論Ⅰ b〈現代の宗教と社会〉	2	東洋思想入門 b	2
現代社会論Ⅱ a〈サブカルチャー史〉	2	日本思想入門 a	2
現代社会論Ⅱ b〈サブカルチャー論〉	2	日本思想入門 b	2
※現代社会論Ⅲ a	2	※思想・人間論Ⅰ a	2
※現代社会論Ⅲ b	2	※思想・人間論Ⅰ b	2
現代社会論Ⅳ a〈戦後日本文化論〉	2	思想・人間論Ⅱ a〈イメージを“よむ”〉	2
現代社会論Ⅳ b〈戦後日本文化論〉	2	思想・人間論Ⅱ b〈イメージを“よむ”〉	2
※現代社会論Ⅴ a	2	※思想・人間論Ⅲ a	2
※現代社会論Ⅴ b	2	※思想・人間論Ⅲ b	2
現代社会論Ⅵ a〈平和論〉	2	思想・人間論演習 a	2
現代社会論Ⅵ b〈平和論〉	2	思想・人間論演習 b	2
現代社会論Ⅶ a〈カルチュラル・スタディーズ〉	2	文学入門 a	2
現代社会論Ⅶ b〈カルチュラル・スタディーズ〉	2	文学入門 b	2
※現代社会論Ⅷ a	2	言語学入門 a	2
※現代社会論Ⅷ b	2	言語学入門 b	2
※現代社会論演習 a	2	音楽入門 a	2
※現代社会論演習 b	2	音楽入門 b	2
国際関係論入門 a	2	※表象文化論入門 a	2
国際関係論入門 b	2	※表象文化論入門 b	2
経済学入門 a	2	※表現文化論Ⅰ a	2
経済学入門 b	2	※表現文化論Ⅰ b	2
政治学入門 a	2	※表現文化論Ⅱ a	2
政治学入門 b	2	※表現文化論Ⅱ b	2
情報社会論入門 a	2	表現文化論Ⅲ a〈映画の“いま”〉	2
情報社会論入門 b	2	表現文化論Ⅲ b〈映画の“いま”〉	2
法学（含む日本国憲法） a	2	表現文化論Ⅳ a〈民俗と作法の表現文化論〉	2
法学（含む日本国憲法） b	2	表現文化論Ⅳ b〈伝統芸術文化論〉	2
社会構造論Ⅰ a〈自由と平等〉	2	※表現文化論Ⅴ a	2
社会構造論Ⅰ b〈自由と平等〉	2	※表現文化論Ⅴ b	2
社会構造論Ⅱ a〈社会と組織〉	2	表現文化論Ⅵ a〈文学と地域文化〉	2
社会構造論Ⅱ b〈ネットワークと組織〉	2	表現文化論Ⅵ b〈文学と地域文化〉	2

第2表 教養科目（全学共通教養科目群）配当表 学年配当：1～4年次（つづき）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
表現文化論演習a	2	※数理科学Ⅱa	2
表現文化論演習b	2	※数理科学Ⅱb	2
歴史学入門a	2	物理の世界a	2
歴史学入門b	2	物理の世界b	2
日本近現代史a	2	化学の世界a	2
日本近現代史b	2	化学の世界b	2
ヨーロッパ近現代史a	2	生命科学の世界a	2
ヨーロッパ近現代史b	2	生命科学の世界b	2
アジア近現代史a	2	科学史a	2
アジア近現代史b	2	科学史b	2
アメリカ近現代史a	2	※自然科学Ⅰa	2
アメリカ近現代史b	2	自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉	2
※歴史文化論Ⅰa	2	自然科学Ⅱa〈地球と環境〉	2
※歴史文化論Ⅰb	2	自然科学Ⅱb〈地域と環境〉	2
歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉	2	自然科学Ⅲa〈地球科学〉	2
歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉	2	自然科学Ⅲb〈地球科学〉	2
歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	2	※自然科学Ⅳa	2
歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	2	※自然科学Ⅳb	2
※歴史文化論Ⅳa	2	自然科学Ⅴa〈比較行動学〉	2
※歴史文化論Ⅳb	2	自然科学Ⅴb〈比較行動学〉	2
※歴史文化論Ⅴa	2	数理・自然科学演習a	2
※歴史文化論Ⅴb	2	数理・自然科学演習b	2
※歴史文化論演習a	2	こころと身体a	2
※歴史文化論演習b	2	こころと身体b	2
文化人類学入門a	2	※身体と運動・スポーツa	2
文化人類学入門b	2	※身体と運動・スポーツb	2
空間システム論入門a	2	心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉	2
空間システム論入門b	2	心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉	2
地域空間論Ⅰa〈EU論〉	2	心身論Ⅱa〈こころと発達〉	2
地域空間論Ⅰb〈EU論〉	2	心身論Ⅱb〈こころと社会〉	2
地域空間論Ⅱa〈朝鮮半島の社会と文化〉	2	心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉	2
地域空間論Ⅱb〈朝鮮半島の社会と文化〉	2	心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	2
地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉	2	心身論Ⅳa〈食と健康〉	2
地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉	2	心身論Ⅳb〈食と環境〉	2
※地域空間論Ⅳa	2	※心身論Ⅴa	2
※地域空間論Ⅳb	2	※心身論Ⅴb	2
※地域空間論Ⅴa	2	心身論演習a	2
※地域空間論Ⅴb	2	心身論演習b	2
地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉	2	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉	2
地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉	2	※スポーツ・スタディーズⅡ	2
地域空間論Ⅶa〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉	2
地域空間論Ⅶb〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	※スポーツ・スタディーズⅣ	2
地域空間論Ⅷa〈中東の社会と文化〉	2	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉	2
地域空間論Ⅷb〈中東の社会と文化〉	2	ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉	2
※地域空間論演習a	2	ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉	2
※地域空間論演習b	2	ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	2
※数理の世界a	2	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉	2
※数理の世界b	2	身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉	2
数理科学Ⅰa〈情報と論理〉	2	身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉	2
数理科学Ⅰb〈情報と論理〉	2	身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第2表の注意事項】

- ① 教養科目には、特別な履修手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ② 「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。
- ③ 「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」は、セットで履修することになっている。
なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。
- ④ 「スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ」「ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ」「身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ」の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または、指定された教室でガイダンスを行う。

2 国際交流科目群 第3表のとおり、国際交流科目群を開講する。

第3表 教養科目（国際交流科目群）配当表

区分	授 業 科 目	学年配当	単位
留学対策科目	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2～4	1
	※Academic Skills VI A	2～4	1
Academic Skills VI B 〈English Research〉	2～4	1	
地域研究科目	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1～4	2
	※European Studies B	1～4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1～4	2
	※North American Studies B	1～4	2
	※Oceanian Studies A	1～4	2
	※Oceanian Studies B	1～4	2
	※Asian Studies A	1～4	2
Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1～4	2	
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	※Japan Studies II A	1～4	2
	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	※Japan Studies VII A	1～4	2
	※Japan Studies VII B	1～4	2
Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	※Special Topics III A	1～4	2
	※Special Topics III B	1～4	2
	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2	
海外短期語学研修	海外短期語学研修（英語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（独語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（仏語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2
受け入れ留学生科目	日本語A〈上級・会話〉	1～4	2
	日本語A〈上級・読解〉	1～4	2
	日本語A〈上級・表現文型と語彙〉	1～4	2
	日本語A〈上級・特別講座〉	1～4	2
	日本語A〈中級・総合日本語〉	1～4	6
	日本語A〈中級・特別講座〉	1～4	2
	日本語A〈初級〉	1～4	8
	日本語B〈上級・日本語聴読解〉	1～4	1
	日本語B〈上級・日本語文章表現〉	1～4	1
	日本語B〈上級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語B〈上級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語B〈上級・総合日本語〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語聴読解作文〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
日本語B〈中級・総合日本語〉	1～4	2	
日本語B〈初級〉	1～4	8	
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

注3) 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

【第3表の注意事項】

- ① 国際交流科目群のうち、「留学対策科目」および「留学準備演習」の科目は卒業要件単位に算入することができない。
- ② 国際交流科目群の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・国際交流科目群のうち、「留学対策科目」および「留学準備演習」の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年度4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅳ-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ③ 国際交流科目群には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ④ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、一度単位の認定を受けた科目を反復履修することや、重複履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのは2単位までである。
- ⑤ 「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【1単位】」と「海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2単位】」は、セットで履修することになっている。
- ⑥ 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
- ⑦ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
- ⑧ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば、「合」（英文成績証明書では「P」）と表示される。
- ⑨ 受け入れ留学生科目は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。
- ⑩ 2017年度をもって「日本語コミュニケーションA」、「日本語コミュニケーションB」は廃講となった。
- ⑪ 2018年度に「Academic Skills VA」、「Academic Skills VB」、「Academic Skills VIA」、「Academic Skills VIB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。

3 データサイエンス科目群

第4表のとおり、データサイエンス科目群を開講する。

第4表 教養科目（データサイエンス科目群）配当表

授 業 科 目	単 位	学 年 配 当
☆データサイエンス入門Ⅰ	2	1～4
☆データサイエンス概論	2	1～4
☆データサイエンス入門Ⅱ	2	2～4
データサイエンス応用	2	2～4
データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2	2～4
データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2	2～4

注）※印の科目は本年度休講である。

【第4表の注意事項】

- ① データサイエンス科目群の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、6単位を限度として教養科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修（「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修）していることが履修の条件となる。

- ③「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ④ データサイエンス科目群には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ⑤ データサイエンス科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
- データサイエンス科目群の授業科目のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」、「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」について、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合、2年次は6単位、3年次は6単位まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定Ⅳ]-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑥ 2018年度に「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」と「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の学年配当は「3・4」から「2～4」に変更された。

4 リテラシー科目群 第5表のとおり、リテラシー科目群を開講する。

第5表 教養科目（リテラシー科目群）配当表（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
コンピュータ・リテラシー A1	2	コンピュータ・リテラシー D	2
コンピュータ・リテラシー A2	2	コンピュータ・リテラシー E	2
コンピュータ・リテラシー B	2	※図書館活用法	2
※コンピュータ・リテラシー C	2		

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第5表の注意事項】

- ① リテラシー科目群は、4単位を限度として教養科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ② リテラシー科目群は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ マスコミュニケーション学科を除き、1年次に「コンピュータ・リテラシー A1・A2」を履修することが望ましい。なお、「コンピュータ・リテラシー」のA1とA2はセットで履修することになっている。

5 スポーツ・ウェルネス実技科目群 第6表のとおり、スポーツ・ウェルネス実技科目群を開講する。

第6表 教養科目（スポーツ・ウェルネス実技科目群）種目表

コース	種 目		系 列
定時コース (半期1単位)	※オルタナティブスポーツ 卓球 ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール	バレーボール テニス フットサル バスケットボール バドミントン	スポーツ文化
集中コース (1単位)	※サイクル・スポーツ	スキー	
定時コース (半期1単位)	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳	※トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	ウェルネス文化
	剣道（古武道）	ダンスパフォーマンス	身体表現文化

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第6表の注意事項】

- ① スポーツ・ウェルネス実技科目群は、4単位を限度として教養科目の卒業要件単位に算入することができる。

- ② スポーツ・ウエルネス実技科目群は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。
- ⑤ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑥ 一度単位を修得した種目も再履修することができ、同一種目が複数開講されている場合は複数の履修も可能である。
- ⑦ 教員免許の取得を希望する者は、スポーツ・ウエルネス実技科目2単位を修得しなければならない。

6 西洋古典科目群 第7表のとおり、西洋古典科目群を開講する。

第7表 教養科目（西洋古典科目群）配当表（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
ギリシャ古典入門	4	ローマ古典入門	4
ギリシャ古典講読	4	ローマ古典講読	4

注）※印の科目は本年度休講である。

7 他学部開設科目 第8表のとおり、他学部開設科目を開講する。

第8表 教養科目（他学部開設科目）配当表（学年配当：2～4年次）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
外国文化Ⅰa	2	数学Ⅰb	2
外国文化Ⅰb	2	数学Ⅱa	2
外国文化Ⅱa	2	数学Ⅱb	2
外国文化Ⅱb	2	※政治経済論入門Ⅰ	2
外国文化Ⅲa	2	※政治経済論入門Ⅱ	2
外国文化Ⅲb	2	ヨーロッパ文化史	4
外国文化Ⅳa	2	アメリカ文化史	4
外国文化Ⅳb	2	日本文学	4
※現代社会とスポーツ	2	外国文学	4
※スポーツ産業論	2	※エコロジー論	4
心理学a	2	文明と社会	4
心理学b	2	家族と社会の変動	4
数学Ⅰa	2	短期学外演習〈自然〉	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第8表の注意事項】

- ① 1年間で履修できる単位数は8単位までとする。
- ② 卒業要件単位として算入できる単位数は累計で8単位までとする。
- ③ 他学部開設科目は履修登録期限が通常の日程とは異なる。詳細については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

4 外国語科目

文芸学部で履修できる外国語は、英語、独語、仏語、中国語、イタリア語、スペイン語、韓国語であり、授業科目は第9表のとおりである。

第9表 文芸学部で履修できる外国語科目の種類

区 分		授 業 科 目		単位の取り扱い
学部共通外国語	初級	英語	SEE-A・B (注)	卒業に必要な規定単位数を超えて修得した単位は、12単位を上限に自由選択の単位として算入できる。
		独語	初級	
		仏語	初級	
		中国語	初級	
		イタリア語	初級	
	中級	英語	中級総合	
		独語	中級総合	
		仏語	中級総合	
		中国語	中級Ⅰ・Ⅱ	
		イタリア語	中級総合	
	上級	英語	上級	
		独語	上級	
		仏語	上級	
		中国語	上級	
		イタリア語	上級	
特選外国語	全学共通外国語	英語リスニング&スピーキング	初級a・b、中級a・b、上級a・b	18単位を上限に、自由選択の単位として取り扱われる。
		英語リーディング&ライティング	初級a・b、中級a・b、上級a・b	
		英会話選択	a・b	
		ビジネス英語	a・b	
		英文多読	a・b	
		Academic Communication	a・b	
		独会話選択	a・b	
		独語選択	初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b	
		仏会話選択	a・b	
		仏語選択	初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b	
		スペイン語選択	初級a・b、(中級・ディプロム) a・b	
		中国語選択	初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b	
	韓国語選択	初級a・b、(中級・ディプロム) a・b		
	ディプロム・コース	英語	中級a、上級b	
		独語	中級a・b、上級a・b	
仏語		中級a・b、上級a・b		
エクステンシヴ・リーディング	英語エクステンシヴ・リーディング	A・B		

注) SEEとは、Seijo Essential Englishの略名である。

a 学部共通外国語

1 卒業に必要な学部共通外国語の規定単位数

学部共通外国語で開設している授業科目のうち、2種類以上の外国語において、第10表に示す規定の単位を修得しなければならない。なお、2種類目の外国語については、4単位以上修得すること。

第10表 卒業に必要な学部共通外国語科目の規定単位数 [卒業要件単位数]

学 科	学部共通外国語科目 規定単位数 [卒業要件単位数]	左記単位数の内訳	
		必修の規定単位数 (英語)	必修以外の規定単位数 (独語・仏語・中国語・イタリア語)
国文、芸術、文化史、 マスコミュニケーション	12	4~8	4~8
英文	14	8~10	4~6

学 科	学部共通外国語科目 規定単位数 [卒業要件単位数]	左記単位数の内訳	
		必修の規定単位数 (独語または仏語)	必修以外の規定単位数 (独語・仏語・英語・中国語・イタリア語)
ヨーロッパ文化	16	12	4

2 履修上の注意事項 (必修外国語)

【国文学科・芸術学科・文化史学科・マスコミュニケーション学科】

- ・「英語SEE-A・B」を計4単位修得しなければならない。

【英文学科】

- ・英語が必修であり、以下のとおり、単位を修得しなければならない。

SEE-A (Input)	1単位
SEE-A (Output)	1単位
SEE-B (Input)	1単位
SEE-B (Output)	1単位
中級 I (中級総合)	2単位
中級 II (中級総合)	2単位

計 8単位

※飛び級 (p.56の8参照) した場合は、中級 I・IIの代わりに上級を4単位修得しなければならない。

【ヨーロッパ文化学科】

- ① 独語または仏語が必修であり、以下のとおり、単位を修得しなければならない。

初級	6単位
中級 I (中級総合)	2単位
中級 II (中級総合)	2単位
上級	2単位

計 12単位

- ② 1年次に中級 I 以上のグレードから開始する者は、自らの開始グレード以上の独語または仏語を12単位修得しなければならない。

- ③ 外国語科目および学科科目の履修を計画的に進行させるため、独語または仏語は1年次から履修しなければならない。

3 グレード制・セメスター制

学部共通外国語は、一部を除きグレード制・セメスター制をとる。

【グレード制】習熟度に合わせた多様なクラスで学んで、次のステップに進むことができる制度。

【セメスター制】前期または後期の半期で授業が完結する制度。

4 グレードの種類

各教科におけるグレードの種類、単位数、実施学期、週回数等は第11表に示す。

5 グレードの認定

- ① 英語以外の外国語の開始段階におけるグレード (学習段階) の認定は、既修外国語については入学試験、あるいは高校の学業成績による。場合によっては、認定テストを実施することがある。

- ② 1年次後期以降におけるグレードの認定は各セメスター (学期) ごとの試験の結果をもとに行う。第11表に示される各グレードの履修条件を満たした者にはそのグレードの履修が認められる (「英語SEE-A、B」は、グレード制ではない)。

- ③ 1年次に一般的な開始段階より上のグレードから開始する者も、規定の卒業要件単位数を満たさなければならない。

第11表 グレードの種類・単位数・実施学期・履修の条件等

英語	グレードの種類	単位	授業科目	週回数	学期	履修の条件 (いずれか一つの条件を満たすこと)	履修の制限等
英語	初級	1	SEE-A	Input	1回	・一般的な既修者	・A・B同時履修可 ・前期に不合格になった場合、後期に同じ科目の再履修可
		1		Output	1回		
		1	SEE-B	Input	1回		
		1		Output	1回		
	中級Ⅰ	2	中級総合(注1)	1回×2	前期後期	・「SEE-A」および「SEE-B」の合格者	・各学期2単位まで履修可 ・反復・重複履修可
	中級Ⅱ	2		1回×2	前期後期	・「中級総合」2単位を修得した者	
上級	1	上級	1回	前期後期	・「中級総合」4単位を修得した者 ・「初級」からの飛び級者		
独語・仏語	初級	6	初級	3回	通年	・未修者の開始段階	
	中級Ⅰ	2	中級総合(注1)	1回×2	前期後期	・「初級」の合格者 ・一定レベル以上の既修者と認められた場合の開始段階	・各学期2単位まで履修可(注2) ・反復・重複履修可
	中級Ⅱ	2		1回×2	前期後期	・「中級総合」4単位を修得した者	・反復、重複履修可
	上級	1	上級	1回	前期後期	・「中級総合」4単位を修得した者	・反復、重複履修可
中国語	初級	6	初級	3回	通年	・未修者の開始段階	
	中級Ⅰ	2	中級Ⅰ	2回	前期後期	・「初級」の合格者 ・一定レベル以上の既修者と認められた場合の開始段階	・各学期2単位まで履修可 ・前期に不合格になった場合、後期に同じ科目の再履修可
	中級Ⅱ	2	中級Ⅱ	1回×2	後期	・「中級Ⅰ」の合格者	・2単位まで履修可
	上級	1	上級	1回	前期後期	・「中級Ⅱ」の合格者	・反復、重複履修可
イタリア語	初級	6	初級	3回	通年	・未修者の開始段階	
	中級Ⅰ	2	中級総合(注1)	1回×2	前期後期	・「初級」の合格者	・各学期2単位まで履修可(注2) ・反復・重複履修可
	中級Ⅱ	2		1回×2	前期後期	・「中級総合」4単位を修得した者	・反復、重複履修可
	上級	1	上級	1回	前期後期	・「中級総合」4単位を修得した者	・反復、重複履修可

注1) 「中級総合」として開講されている授業科目から任意に2科目まで選択履修し、2単位修得した場合を「中級Ⅰ」、さらに2単位修得した場合を「中級Ⅱ」とする。

注2) 既修者は特例として「中級総合」を1年次のみ半期3単位まで履修できる。

6 クラス名称と開講曜限

英語・独語・仏語・中国語・イタリア語の初級クラスは、週3回もしくは2回の授業が行われ、開講曜限によりX・Y・Zの3つのグループに分けられ、さらに英語の再履修用クラスとしてNグループを開講している。

また、クラス名は以下のように表される。

例1 英(X-1), (X-11) … 英語で、Xグループの第1組

(月3・金2の週2回授業がある)

例2 仏(Y-2) … 仏語で、Yグループの第2組(月5・木3・金1の週3回授業がある)

第12表 外国語の開講曜限

	月	火	水	木	金
1			Z		Y
2			X		X
3	X グループ			Y	
4	Z グループ			Z	
5	Y グループ				

7 英語SEE-A・Bの受講クラスについて

1年次の「英語SEE-A・B」の受講クラスは教務部が指定するので、登録手続きの必要はない。ただし、「英語SEE-A」および「英語SEE-B」の単位が修得できなかった場合は、再履修者用に開講されているクラスを自身で登録すること。登録方法については【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。

8 英語の飛び級について

1年次年度末に受験する到達度テスト「CASEC」の成績に応じて、成績上位の者は中級グレードを飛ばして、上級グレードに飛び級する。一度、上級グレードに飛び級すると、単位修得・未修得に関わらず上級グレードのままになるため、翌年度以降も中級グレードを履修することはできない。飛び級をした場合も、卒業、進級に必要な単位数が変わることはないので注意すること。

9 グレードごとの履修パターン

◎外国語ごとの履修パターン例

以下に示したのは一般的な履修パターンである。卒業に必要な単位数を修得した場合など、グレード途中で中断することや科目数を減らして登録することも可能である。卒業に必要な単位数は学科によって異なるため、わからないことがある場合は必ず教務部に相談すること。

A 英語

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	前期	初級	SEE-A (Input)	1	教務部がクラスを指定し事前登録を行う。
			SEE-A (Output)	1	
	後期	初級	SEE-B (Input)	1	
			SEE-B (Output)	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2	前期	中級Ⅰ	中級総合	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級Ⅰ	中級総合	1	
	後期	中級Ⅱ	中級総合	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級Ⅱ	中級総合	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
3・4	前期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	

【飛び級（上記8）により上級に進んだ場合】

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	前期	初級	SEE-A (Input)	1	教務部がクラスを指定し事前登録を行う。
			SEE-A (Output)	1	
	後期	初級	SEE-B (Input)	1	
			SEE-B (Output)	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2～4	前期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	

B 独語・仏語・イタリア語

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	通年	初級	初級	6	教務部がクラスを指定し事前登録を行う。



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2	前期	中級 I	中級総合	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級 I	中級総合	1	
	後期	中級 II	中級総合	1	
		中級 II	中級総合	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
3・4	前期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	
		上級	上級	1	

【1年次に中級 I のグレードからスタートする場合 ※イタリア語除く】

(入学試験を独語・仏語で受験した者、または、ある一定の学力—例えば独検・仏検3級程度を有する者は、1年次に‘中級 I’のグレードからの履修が認められる場合があり、その際は、特例として1年次のみ半期3単位の履修を認める。)

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	前期	中級 I	中級総合	1	教務部にて特別履修の手続きを行う。
		中級 I	中級総合	1	
		中級 I	中級総合	1	
	後期	中級 II	中級総合	1	
		中級 II	中級総合	1	
		中級 II	中級総合	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2~4	前期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	
		上級	上級	1	

C 中国語

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	通年	初級	初級	6	教務部がクラスを指定し事前登録を行う。



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2	前期	中級 I	中級 I	2	各自がWeb予備申請を行う。
	後期	中級 II	中級 II	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級 II	中級 II	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
3・4	前期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	
		上級	上級	1	

◎学部共通外国語 卒業要件単位を充足するための履修パターン

以下の履修パターンは卒業要件単位を充足するためのものであり、これ以外に外国語を履修しても問題はない。単位の換算などについてわからないことがある場合は、必ず教務部に相談すること。

① 国文・芸術・文化史・マスコミュニケーション学科

●Aパターン：2年次前期に1言語のみを選択し、2年次前期で卒業要件単位を充足するパターン

1年		2年	
前期・後期		前期	
英語SEE-A・B (週2コマ：4単位)		英語・独語・仏語・中国語・イタリア語のうち1年次に選択した言語の中級Iグレードから2単位分選択 (週2コマ：2単位)	
独語・仏語・中国語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (週3コマ：6単位)			
合計	10単位	合計	2単位

●B1パターン：2年次前期に1言語のみを選択し、2年次後期にも同じ言語を選択して卒業要件単位を充足するパターン

1年		2年	
前期・後期		前期	後期
英語SEE-A・B (週2コマ：4単位)		英語・独語・仏語・イタリア語のうち、1年次に選択した言語の中級Iグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)	2年次前期に選択した言語の中級Iグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)
独語・仏語・中国語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (週3コマ：6単位)			
合計	10単位	合計	1単位

●B2パターン：2年次前期に1言語のみを選択し、2年次後期に別の言語を選択して卒業要件単位を充足するパターン

1年		2年	
前期・後期		前期	後期
英語SEE-A・B (週2コマ：4単位)		英語・独語・仏語・イタリア語のうち、1年次に選択した言語の中級Iグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)	1年次に初級を修得した言語で、2年次前期に選択した言語以外の中級Iグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)
独語・仏語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (週3コマ：6単位)			
合計	10単位	合計	1単位

●Cパターン：2年次前期に2言語を選択し、2年次前期で卒業要件単位を充足するパターン

1年		2年	
前期・後期		前期	
英語SEE-A・B (週2コマ：4単位)		英語 (中級総合) (週1コマ：1単位)	
独語・仏語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (週3コマ：6単位)		独語・仏語・イタリア語のうち、1年次に選択した言語の中級Iグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)	
合計	10単位	合計	2単位

② 英文学科

1年		2年	
前期・後期		前期	後期
英語SEE-A・B (週2コマ：4単位)		英語 (中級総合) (週2コマ：2単位)	英語 (中級総合) (週2コマ：2単位)
独語・仏語・中国語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (週3コマ：6単位)			
合計	10単位	合計	2単位

③ ヨーロッパ文化学科

1年	2年		3年
前期・後期	前期	後期	前期
独語 (初級) または仏語 (初級) (週3コマ：6単位)	独語 (中級総合) または仏語 (中級総合) (1年次に選択した言語) (週2コマ：2単位)	独語 (中級総合) または仏語 (中級総合) (1年次に選択した言語) (週2コマ：2単位)	独語 (上級) または仏語 (上級) (1年次に選択した言語) (週2コマ：2単位)
英語・独語・仏語・中国語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (英語 週2コマ：4単位) (その他の言語 週3コマ：6単位)			
合計	10または12単位	合計	2単位

注) 1年次に合計12単位修得した場合、そのうちの2単位は自由選択の単位となる。

b 特選外国語

特選外国語として、全学共通外国語、ディプロム・コース、エクステンシヴ・リーディングが開講される。これらの科目は一部の科目を除きグレード制をとらないので、自由に履修することができる。

なお、これらの科目はその修得単位のうち、計18単位までを自由選択の単位として卒業要件単位に算入することができる。

1 全学共通外国語

第13表 全学共通外国語配当表（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英語リスニング&スピーキング（初級）a	1	独語選択（初級）Ⅱb	1
英語リスニング&スピーキング（初級）b	1	独語選択（中級）a	1
英語リスニング&スピーキング（中級）a	1	独語選択（中級）b	1
英語リスニング&スピーキング（中級）b	1	仏会話選択a	1
英語リスニング&スピーキング（上級）a	1	仏会話選択b	1
英語リスニング&スピーキング（上級）b	1	仏語選択（初級）Ⅰa	1
英語リーディング&ライティング（初級）a	1	仏語選択（初級）Ⅰb	1
英語リーディング&ライティング（初級）b	1	仏語選択（初級）Ⅱa	1
英語リーディング&ライティング（中級）a	1	仏語選択（初級）Ⅱb	1
英語リーディング&ライティング（中級）b	1	仏語選択（中級）a	1
英語リーディング&ライティング（上級）a	1	仏語選択（中級）b	1
英語リーディング&ライティング（上級）b	1	スペイン語選択（初級）a	1
英会話選択a	1	スペイン語選択（初級）b	1
英会話選択b	1	スペイン語選択（中級・ディプロム）a	1
ビジネス英語a	1	スペイン語選択（中級・ディプロム）b	1
ビジネス英語b	1	中国語選択（初級）Ⅰa	1
英文多読a	1	中国語選択（初級）Ⅰb	1
英文多読b	1	中国語選択（初級）Ⅱa	1
Academic Communication a	1	中国語選択（初級）Ⅱb	1
Academic Communication b	1	中国語選択（中級）a	1
独会話選択a	1	中国語選択（中級）b	1
独会話選択b	1	韓国語選択（初級）a	1
独語選択（初級）Ⅰa	1	韓国語選択（初級）b	1
独語選択（初級）Ⅰb	1	韓国語選択（中級・ディプロム）a	1
独語選択（初級）Ⅱa	1	韓国語選択（中級・ディプロム）b	1

〔第13表の注意事項〕

- ① 「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② 同一科目の重複・反復履修はできない。
- ③ 登録方法については、【[授業に関すること](#)】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ④ 2018年度から、通年（2単位）で開講していた科目は、前期a（1単位）、後期b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目は履修できない。
（例：2017年度までに「英語リスニング&スピーキング（初級）」の単位を修得している場合、「英語リスニング&スピーキング（初級）a」および「英語リスニング&スピーキング（初級）b」を履修できない。）

- ⑤ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目（グレード）	履修の条件 （同一言語において1つ以上の条件を満たすこと）	備考
独語選択（初級）I a・I b・II a・II b 仏語選択（初級）I a・I b・II a・II b 中国語選択（初級）I a・I b・II a・II b	・全学生履修可	教育上の効果を高めるために、I a・I b・II a・II bの同学年での履修を強く勧める。
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	・上記「選択（初級）I a」、「選択（初級）I b」、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」の計4単位を修得した者 ・文芸学部共通外国語の初級グレード（6単位）を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修も可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択（初級）A」を修得していた場合は、「選択（初級）I a」と「選択（初級）I b」を、「選択（初級）B」を修得していた場合は、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」を修得しているものとみなす。

- ⑥ 2018年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することができない。

旧科目	新科目
独語選択（初級）A	独語選択（初級）I a
	独語選択（初級）I b
独語選択（初級）B	独語選択（初級）II a
	独語選択（初級）II b
仏語選択（初級）A	仏語選択（初級）I a
	仏語選択（初級）I b
仏語選択（初級）B	仏語選択（初級）II a
	仏語選択（初級）II b
中国語選択（初級）A	中国語選択（初級）I a
	中国語選択（初級）I b
中国語選択（初級）B	中国語選択（初級）II a
	中国語選択（初級）II b

- ⑦ 2017年度をもって以下の科目は廃講となった。なお、修得した単位は特選外国語の単位として認められる。

授業科目		
独語選択（上級）a	仏語選択（上級）a	中国語選択（上級）a
独語選択（上級）b	仏語選択（上級）b	中国語選択（上級）b

2 ディプロム・コース

第14表 ディプロム・コース配当表 (学年配当：1～4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
ディプロム・コース中級 (英語) a	1	ディプロム・コース上級 (英語) b	1
ディプロム・コース中級 (独語) a	1	ディプロム・コース中級 (独語) b	1
ディプロム・コース上級 (独語) a	1	ディプロム・コース上級 (独語) b	1
ディプロム・コース中級 (仏語) a	1	ディプロム・コース中級 (仏語) b	1
ディプロム・コース上級 (仏語) a	1	ディプロム・コース上級 (仏語) b	1

【到達目標】

- ア) 中級 (英語)：英検準1級の合格、TOEICで6割以上得点できること。
 イ) 上級 (英語)：英検1級の合格、TOEICで8割以上得点できること。
 ウ) 中級 (独語・仏語)：独検・仏検の4～3級の合格。
 エ) 上級 (独語・仏語)：独検・仏検の(準)2級～準1級の合格。

【第14表の注意事項】

- ① 「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② 同一科目の重複・反復履修を可とする。
- ③ 本コースはグレードを問わず履修することができるので、履修に際しては、上記の到達目標を参考にすること。
- ④ 登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ⑤ 2018年度に以下のように科目の名称が変更された。

旧 科 目	新 科 目
ディプロム・コース中級 (英語) A	ディプロム・コース中級 (英語) a
ディプロム・コース上級 (英語) B	ディプロム・コース上級 (英語) b
ディプロム・コース中級 (独語) A	ディプロム・コース中級 (独語) a
ディプロム・コース中級 (独語) B	ディプロム・コース中級 (独語) b
ディプロム・コース上級 (独語) A	ディプロム・コース上級 (独語) a
ディプロム・コース上級 (独語) B	ディプロム・コース上級 (独語) b
ディプロム・コース中級 (仏語) A	ディプロム・コース中級 (仏語) a
ディプロム・コース中級 (仏語) B	ディプロム・コース中級 (仏語) b
ディプロム・コース上級 (仏語) A	ディプロム・コース上級 (仏語) a
ディプロム・コース上級 (仏語) B	ディプロム・コース上級 (仏語) b

3 エクステンシヴ・リーディング

第15表 エクステンシヴ・リーディング配当表 (学年配当：1～4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英語エクステンシヴ・リーディングA	1	英語エクステンシヴ・リーディングB	1

【第15表の注意事項】

- ① 「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② 同一科目の重複・反復履修を可とする。
- ③ 登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

5 キャリア科目

- ① キャリア科目は、1. キャリアデザイン科目、2. 社会調査士資格科目からなる。
- ② これらの科目は、その修得単位のうち、**計4単位まで**を「自由選択」の単位として卒業要件単位に算入することができる。

1 キャリアデザイン科目群

第16表のとおり、キャリアデザイン科目群を開設する。

第16表 キャリアデザイン科目配当表

授 業 科 目	単 位	学 年 配 当	授 業 科 目	単 位	学 年 配 当
☆キャリア形成Ⅰ〈コミュニケーション〉	2	1～4	業界企業分析	2	2～4
☆キャリア形成Ⅱ〈リーダーシップ〉	2	1～4	職業選択	2	2～4
☆キャリア形成Ⅲ〈ワークライフバランス〉	2	1～4	※キャリア・プランニング・プログラムⅠ	2	3・4
☆キャリア形成Ⅳ〈チームワーク・協働〉	2	1～4	※キャリア・プランニング・プログラムⅡ	2	3・4
★プロジェクト演習〈ホスピタリティとサービス〉	2	1・2	時事英語Ⅰ	2	1～4
★プロジェクト演習〈企業提案〉	2	1・2	時事英語Ⅱ	2	1～4
★プロジェクト演習〈企業との協働〉	2	1・2	時事問題研究	2	2～4

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

〔第16表の注意事項〕

- ① キャリアデザイン科目の修得単位のうち、☆の付いた科目から2単位、★の付いた科目から2単位、計4単位を限度として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「プロジェクト演習」のうち、修得できる単位数は、1科目2単位までとする。
- ③ 「プロジェクト演習」は、3年次以降は履修することができない。
- ④ 「キャリア・プランニング・プログラムⅡ」の受講を希望する学生は、履修登録前にキャリアセンターへ申し出ること。
- ⑤ キャリアデザイン科目は、特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ⑥ キャリアデザイン科目のうち、「時事英語Ⅰ」、「時事英語Ⅱ」および学年配当が2年次以上の科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【全学共通教育科目Ⅴ】キャリアデザイン科目群】の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、1年次は2単位、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
 - ただし、他の特例措置（【履修規定Ⅲ】-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数】を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。

2 社会調査士資格科目群

第17表のとおり社会調査士資格科目を開設する。

第17表 社会調査士資格科目群

授 業 科 目	単 位	学 年 配 当	備 考
統計学	4	2～4	後期開講

〔第17表の注意事項〕

- ① 社会調査士資格を取得するためには、上記科目以外にも単位の修得が必要な科目があるが、詳細については、【社会調査士資格】の項（p.211）に記載されている。
- ② 「社会調査の設計と実施方法」、「社会調査における資料・データ分析の基本」、「経営統計学Ⅰ」、「経営統計学Ⅱ」は2017年度をもって廃講となった。なお、2017年度までに修得した単位はキャリア科目の単位として認められる。

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅳ】-1共通科目履修方法）を参照すること。
- ・教職関連随意科目
 - ・教職課程における教職に関する科目
 - ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」および「留学準備演習」）
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

- ① 「素読Ⅰ～Ⅳ」は、国文学科1年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。
- ② 「ゼミナール(3)・(4)」
 3・4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

- ① 選択に当たっては、一つの分野にかたよらず、幅広く学修することが望ましい。
- ② 「近代国文学会読」のⅠとⅢ、ⅡとⅣは同時に履修することはできない。
- ③ 会読科目は年度をかえて同一名称科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は、卒業要件単位に算入することはできない。
- ④ 会読科目の選択に当たっては、可能な限り志望するゼミナールを視野に入れて選択すること。
- ⑤ 会読科目は、2年次で8単位以上、3年次で4単位以上履修すること。
- ⑥ 会読科目は、留学などの特別な理由がない限り、ⅠとⅡ、ⅢとⅣを通年で履修することを原則とする。
- ⑦ 実習科目については、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ⑧ 講義科目のうち国語国文学講義Ⅰ～Ⅹは、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は、卒業要件単位に算入することはできない。
- ⑨ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（会読科目12単位、実習科目2単位、講義科目12単位、計26単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

4 進級基準

- ① 2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は、3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRDⅠ	2単位	}	計12単位
	WRDⅡ	2単位		
2. 学科科目	素読Ⅰ	2単位		
	素読Ⅱ	2単位		
	素読Ⅲ	2単位		
	素読Ⅳ	2単位		

- ※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

- ② 3年次から4年次へ進級するためには、3年次終了までに、次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は3年次原級とし、原級者は4年次に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 必修	ゼミナール(3)	4単位	}	計36単位
2. 選択	会読科目のうち4科目	8単位		
3. 卒業に必要な単位		24単位		
				(前項①の単位 [12単位] は含まない)

5 ゼミナール

ゼミナールは、おおむね時代別、主題別に編成され、古代、中古、中世、近世、近代、国語学、漢文学の7つの分野からなる。ゼミナールの主な目的は、卒業論文制作に備え、研究法の修得、文学史的基礎知識の学習、解釈・考証・調査等の手続きを学ぶことにあるので、学生は卒業論文のテーマにふさわしい指導を受けられるゼミナールを選ぶこと。テーマによっては、必ずしも各々の時代や分野にとらわれない選択も可能である。ただし、2年次に志望するゼミナールの分野の会読もしくは講義を1科目以上履修しておくことが望ましい。

B 英文学科

第19表 英文学科授業科目配当表

授業科目		学年 (単位)	I	II	III	IV	計
必修	英語学基礎ゼミナール	(4)	4				4
	英語文学基礎ゼミナール	(4)	4				4
	英語文化基礎ゼミナール	(4)	4				4
	ゼミナール(3)	(4)			4		4
	ゼミナール(4)	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
必修合計			12		4	12	28
選択	アカデミック・ベイシックス科目	英語学アカデミック・ベイシックス Ia (2)		12			20
		英語学アカデミック・ベイシックス Ib (2)					
		英語学アカデミック・ベイシックス IIa (2)					
		英語学アカデミック・ベイシックス IIb (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックス Ia (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックス Ib (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックス IIa (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックス IIb (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックス IIIa (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックス IIIb (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックス IVa (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックス IVb (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックス Va (2)					
		英語文学アカデミック・ベイシックス Vb (2)					
		英語文化アカデミック・ベイシックス Ia (2)					
		英語文化アカデミック・ベイシックス Ib (2)					
	英語文化アカデミック・ベイシックス IIa (2)						
	英語文化アカデミック・ベイシックス IIb (2)						
	英語文化アカデミック・ベイシックス IIIa (2)						
	英語文化アカデミック・ベイシックス IIIb (2)						
選択	アカデミック・プラクティス科目	英語学アカデミック・プラクティス Ia (2)			8		
		英語学アカデミック・プラクティス Ib (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティス Ia (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティス Ib (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティス IIa (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティス IIb (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティス IIIa (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティス IIIb (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティス IVa (2)					
		英語文学アカデミック・プラクティス IVb (2)					
		英語文化アカデミック・プラクティス Ia (2)					
		英語文化アカデミック・プラクティス Ib (2)					
		英語文化アカデミック・プラクティス IIa (2)					
		英語文化アカデミック・プラクティス IIb (2)					
英語文化アカデミック・プラクティス IIIa (2)							
英語文化アカデミック・プラクティス IIIb (2)							
選択	クリエイティブ・プラクティス科目	英語学クリエイティブ・プラクティスA (2)			4	4	
		英語学クリエイティブ・プラクティスB (2)					
		英語文学クリエイティブ・プラクティスA (2)					
		英語文学クリエイティブ・プラクティスB (2)					
		英語文化クリエイティブ・プラクティスA (2)					
		英語文化クリエイティブ・プラクティスB (2)					
一般講義科目	英語学概論 (4)			4		4	
	英語文学史 (4)						
特殊講義科目	英語学特殊講義A (2)				4	4	
	英語学特殊講義B (2)						
	英語文学特殊講義A (2)						
	英語文学特殊講義B (2)						
	英語文化特殊講義A (2)						
	英語文化特殊講義B (2)						
自由	英語コミュニケーション I (2)				[6]		
	英語コミュニケーション II (2)						
	英語コミュニケーション IIIa (1)						
	英語コミュニケーション IIIb (1)						
	選択・自由合計						
総計						60	

注) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

2017年度以降入学者用

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
 ※ ただし、2年次前期に「英語（中級総合）〈飛び級の場合は英語（上級）〉」を履修する者は、後期に「英語（中級総合）〈飛び級の場合は英語（上級）〉」（2単位）を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅳ】-1共通科目履修方法）を参照すること。
- ・教職関連随意科目
 - ・教職課程における教職に関する科目
 - ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」および「留学準備演習」）
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

- ① 1年次では次の3科目が必修である。
- ・英語学基礎ゼミナール
 - ・英語文学基礎ゼミナール
 - ・英語文化基礎ゼミナール
- 上記3科目は、英文学科1年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。
- ② 「ゼミナール（3）・（4）」
 3・4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

- ① アカデミック・ベイシックス科目の履修について
2年次では12単位を上限として履修すること。
- ② 選択科目は年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
- ③ アカデミック・ベイシックス科目、アカデミック・プラクティス科目、クリエイティブ・プラクティス科目については、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法は、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ④ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（アカデミック・ベイシックス科目12単位、アカデミック・プラクティス科目8単位、クリエイティブ・プラクティス科目4単位、一般講義科目4単位、特殊講義科目4単位、計32単位）を超えて単位を修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

4 自由科目

- ① 自由科目の修得単位は自由選択として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 教員免許の取得を希望する者は、この6単位を必修とする。この6単位は卒業要件単位にも算入することができる。教員免許の取得に係る教職課程の履修については【教職課程】をよく読むこと。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRDⅠ	2単位
	WRDⅡ	2単位
	英語	6単位
2. 学科科目	必修 英語学基礎ゼミナール	4単位
	英語文学基礎ゼミナール	4単位
	英語文化基礎ゼミナール	4単位
	計	22単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**28単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

6 ゼミナール

ゼミナールは、おおまかに分けると英語学、英語文学、英語文化の三本柱で構成されている。それぞれの分野は、時代・主題別にさらに細かく多岐に分かれている。ゼミナールにおいては、卒業論文の完成にむけての指導が行われるが、その指導法はゼミナール担当者によって異なる。各ゼミナールの定員は年度により多少の増減はあるが、原則として12名。希望者数が定員を超えた場合、TOEICのスコア等を用いて選考が行われる。

7 TOEIC試験

〈対象学生〉

本学科では下記の学生にTOEIC受験を義務づけている。

- ① 1年次・2年次・3年次全員（3年次終了時までに6回以上受験すること）
- ② 英文学科を副専攻とする者（3年次終了時までに4回以上受験すること）

〈実施日〉

第1回 7月7日（土）9：30～12：00

第2回 12月1日（土）9：30～12：00

※ TOEICのスコアは共用研究室で全て管理し、ゼミ選考等で重要な資料となるので毎回必ず受験すること。

※ TOEICは必修科目の授業内で目標点が表示される。

※ 目標点に達しない場合は、個別に指導がなされるので注意すること。

※ やむを得ない理由により、学内試験を受験できない者は、学外試験を受験しなければならない。その場合は必ず共用研究室で指示を受けること。

8 外国語科目 (英語)の履修に ついて

- ① 必修である英語「中級総合」（飛び級の場合、「上級」）4単位のうち、「中級」〈Academic Writing〉（飛び級の場合、「上級」〈Academic Writing〉）を少なくとも1単位分履修し、単位を修得することが望ましい。
- ② 教職に関する科目「英語科教育法」受講者は、3年次終了時までに、「上級」〈Academic Writing〉を履修し、単位を修得することが望ましい。

9 早期卒業制度

英文学科3年次生で、下記の応募資格および卒業資格の認定基準を満たした者には、3年次終了時に大学の卒業資格が与えられる。

〈応募資格〉

- ① 2018年4月1日時点で大学に2年間以上在籍し、現在3年次に在学し、修得した卒業要件となる全科目の中で「優」以上の成績が2年次終了時に全体の80%以上であること。
また、卒業要件単位126単位中84単位以上修得していること。
なお、休学期間は在籍年数に含めない。
- ② 3年次終了時までに卒業に必要な単位を修得見込であること。
なお、「ゼミナール（4）」および「卒業論文」は以下のように取扱う。
 - 「ゼミナール（4）」（4単位）
「ゼミナール（4）」は、早期卒業制度申請者用のものを履修すること。
 - 「卒業論文」（8単位）
3年次の12月に「卒業論文」を提出すること（「卒業論文」の提出要領は、4年次の提出要領に従う）。

〈出願手続〉

希望者は、3年次の開講日から4月18日（水）16：30までに「早期卒業制度申請書」を教務部に提出すること。

なお、「早期卒業制度申請書」は、教授会で審議の上、正式に受理される。

〈卒業資格の認定基準〉

- ① 3年次終了時までに卒業に必要な単位を修得し、その修得した全科目の中で「優」以上の成績が全体の80%以上であること。
- ② 3年次の12月20日（木）16：30までに「卒業論文」を提出していること。

〈合格発表〉

「早期卒業制度」合格者は、教授会の審議の上決定し、3月中旬に、1号館文芸学部掲示板にて発表する。

※ 本制度を申請した者が、本制度に基づく履修の継続を希望しない場合は、後期開講日までに取り消しを願い出ることができる。その場合は、取り消しの理由を明確にし、「早期卒業制度辞退願」（A4判、書式自由）を教務部に速やかに提出すること。

第20表 芸術学科授業科目配当表

授業科目		学年 (単位)	I	II	III	IV	計
必修	美学・芸術学入門a	(2)	2				2
	美学・芸術学入門b	(2)	2				2
	美術史入門a	(2)	2				2
	美術史入門b	(2)	2				2
	芸術学基礎演習	(2)	2				2
	美術史基礎演習	(2)	2				2
	芸術学・美術史実習a	(1)		1			1
	芸術学・美術史実習b	(1)		1			1
	ゼミナール	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
必修合計			12	2		12	26
選択	演習科目	原典演習a	(2)				
		原典演習b	(2)				
		同時代芸術演習a	(2)				
		同時代芸術演習b	(2)				
		美学演習a	(2)				
		美学演習b	(2)				
		音楽学演習a	(2)				
		音楽学演習b	(2)				
		演劇学演習a	(2)				
		演劇学演習b	(2)				
	映画学演習a	(2)					
	映画学演習b	(2)					
	日本美術史演習a	(2)					
	日本美術史演習b	(2)					
	東洋美術史演習a	(2)					
	東洋美術史演習b	(2)					
	西洋美術史演習Ia	(2)					
	西洋美術史演習Ib	(2)					
	西洋美術史演習IIa	(2)					
	西洋美術史演習IIb	(2)					
講義科目	美学一般講義a	(2)					
	美学一般講義b	(2)					
	音楽学一般講義a	(2)					
	音楽学一般講義b	(2)					
	演劇学一般講義a	(2)					
	演劇学一般講義b	(2)					
	映画学一般講義a	(2)					
	映画学一般講義b	(2)					
	日本美術史一般講義a	(2)					
	日本美術史一般講義b	(2)					
東洋美術史一般講義a	(2)						
東洋美術史一般講義b	(2)						
西洋美術史一般講義Ia	(2)						
西洋美術史一般講義Ib	(2)						
西洋美術史一般講義IIa	(2)						
西洋美術史一般講義IIb	(2)						
特殊講義科目	美学特殊講義I	(2)					
	美学特殊講義II	(2)					
	芸術学特殊講義I	(2)					
	芸術学特殊講義II	(2)					
	芸術学特殊講義III	(2)					
	芸術学特殊講義IV	(2)					
	芸術学特殊講義V	(2)					
	美術史特殊講義I	(2)					
	美術史特殊講義II	(2)					
	美術史特殊講義III	(2)					
美術史特殊講義IV	(2)						
美術史特殊講義V	(2)						
選択合計				12	16	4	32
総計			12	2		12	58

注) ※印の科目は本年度休講である。

芸術学科は、美学・芸術学および美術史を総合的に学び、さらに各専門分野に分かれて研究するカリキュラムを立てているので、受講科目の選択に当たっては一つの分野にかたよらず、幅広く学修することが望ましい。

1 履修科目登録 上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅲ】-1共通科目履修方法）を参照すること。
- ・ 学芸員課程における必修科目
 - ・ キャリアデザイン科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・ 国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」および「留学準備演習」）
 - ・ データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

「芸術学基礎演習」および「美術史基礎演習」は、芸術学科1年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。

3 選択科目

- ① 演習科目および特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
- ② 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（演習科目12単位、講義科目16単位、特殊講義科目4単位、計32単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

4 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	
WRDⅠ	2単位
WRDⅡ	2単位
2. 学科科目	
必修	
美学・芸術学入門a	2単位
美学・芸術学入門b	2単位
美術史入門a	2単位
美術史入門b	2単位
芸術学基礎演習	2単位
美術史基礎演習	2単位
計	16単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

5 ゼミナール

ゼミナールは、美学、音楽学、演劇学、映画学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史Ⅰ、西洋美術史Ⅱの8つに分かれ、主として卒業論文の個別的な指導が行われる。

第21表 文化史学科授業科目配当表

授業科目		学年 (単位)	I	II	III	IV	計	
必修	ゼミナール(3)	(4)			4		4	
	ゼミナール(4)	(4)				4	4	
	必修合計	(8)			4	12	16	
選択	概論科目	文化史概論 Ia	(2)	4			4	
		文化史概論 Ib	(2)					
		文化史概論 IIa	(2)					
		文化史概論 IIb	(2)					
		文化史概論 IIIa	(2)					
		文化史概論 IIIb	(2)					
	演習科目	文化史基礎演習 I	(4)	8			8	
		文化史基礎演習 II	(4)					
		文化史基礎演習 III	(4)					
		文化史演習 Ia	(2)		4	4		8
文化史演習 Ib	(2)							
文化史演習 IIa	(2)							
文化史演習 IIb	(2)							
択	実習科目	文化史実習 I	(2)	2			2	
		文化史実習 II	(2)					
		文化史実習 III	(2)					
		文化史特殊講義 Ia	(2)		12	12		24
		文化史特殊講義 Ib	(2)					
		文化史特殊講義 IIa	(2)					
		文化史特殊講義 IIb	(2)					
		文化史特殊講義 IIIa	(2)					
		文化史特殊講義 IIIb	(2)					
		文化史特殊講義 IVa	(2)					
文化史特殊講義 IVb	(2)							
文化史特殊講義 Va	(2)							
文化史特殊講義 Vb	(2)							
自由	講義科目	文化史特殊講義 Ia	(2)	12	12	24		
		文化史特殊講義 Ib	(2)					
		文化史特殊講義 IIa	(2)					
		文化史特殊講義 IIb	(2)					
		文化史特殊講義 IIIa	(2)					
		文化史特殊講義 IIIb	(2)					
		文化史特殊講義 IVa	(2)					
		文化史特殊講義 IVb	(2)					
		文化史特殊講義 Va	(2)					
		文化史特殊講義 Vb	(2)					
自由	自	文化史 a	(2)	[8]				
		文化史 b	(2)					
		文化史 a	(2)					
		文化史 b	(2)					
		文化史 a	(2)					
		文化史 b	(2)					
		文化史 a	(2)					
		文化史 b	(2)					
		文化史 a	(2)					
		文化史 b	(2)					
自由	由	文化史 a	(2)	[8]				
		文化史 b	(2)					
		文化史 a	(2)					
		文化史 b	(2)					
		文化史 a	(2)					
		文化史 b	(2)					
		文化史 a	(2)					
		文化史 b	(2)					
		文化史 a	(2)					
		文化史 b	(2)					
教職関連随意科目	教職関連随意科目	政治学	(4)	卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取扱いとなる。		-		
		経済学	(4)					
		外国史	(4)					
		国際史	(4)					
		公共学	(4)					
		国際経済学	(4)					
		国際貿易学	(4)					
		国際法	(4)					
		国際政治学	(4)					
		国際文化学	(4)					
総計						46		
総計						62		

注) ※印の科目は本年度休講である。

1 履修科目登録
上限単位数

① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。

※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。

② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅳ】-1共通科目履修方法）を参照すること。

- 教職関連随意科目
- 教職課程における教職に関する科目
- 学芸員課程における必修科目
- キャリアデザイン科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- 国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」および「留学準備演習」）
- データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

「ゼミナール（3）・（4）」

3・4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

① 2年次および3年次で、演習科目はそれぞれ4単位、講義科目はそれぞれ12単位以上履修すること。また、これらの科目は、a（前期）・b（後期）を続けて履修することが望ましい。

② **基礎演習科目を除く演習科目および講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。**

③ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。また、選択科目の規定単位数を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

4 自由科目

① **自由科目の修得単位のうち、8単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。また、これらの科目は、a（前期）・b（後期）を続けて履修することが望ましい。**

② 下記教科の教員免許の取得を希望する者は、次に示す授業科目が必修となる。この場合も8単位まで卒業要件単位に算入することができる。

社 会 科…日本史概説a・b、地理学講義a・b、地誌学a・b

地理歴史科…日本史概説a・b、地理学講義a・b、地誌学a・b、人文地理学a・b

5 教職関連
随意科目

教職関連随意科目は、教職課程を登録した者が「教科に関する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者、また他学科の学生もそれぞれ随意科目としてこれらの科目を履修することができる。

ただし、教職課程登録の如何を問わず、また学科を問わず、修得した単位は卒業要件単位としては認められない（余剰単位の取扱いとなる）。

なお、教員免許の取得に係る教職課程の履修については【教職課程】を参照すること。

また、教職関連随意科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【教職課程Ⅰ】教職課程 4 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

6 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRDⅠ	2単位
	WRDⅡ	2単位
2. 学科科目	文化史概論Ⅰa・b～Ⅲa・bのうち	4単位
	文化史基礎演習Ⅰ～Ⅲのうち	8単位
	計	16単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**30単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

7 ゼミナール

どのゼミナールを選択するかは、ひとえに学生諸君の学問的関心にある。本学科のゼミナールの構成は歴史学、民俗学、文化人類学とバラエティに富んでいる。2年次に、ゼミナールを選択するためのガイダンスが開催されるので、ゼミナールの選択に際しては、それぞれの担当者の専門領域等を確認して決めること。

また日本史では、古文書や漢文が読めることが望ましい。民俗学では、実地調査を行うことが多い。文化人類学では、英語の論文を読めることが望ましい。

E マスコミュニケーション学科

第22表 マスコミュニケーション学科授業科目配当表

授業科目		学年 (単位)	I	II	III	IV	計	
必修	マスコミデータ解析実習 I	(2)	2				2	
	マスコミデータ解析実習 II	(2)	2				2	
	マスコミ基礎演習 I	(2)		2			2	
	マスコミ基礎演習 II	(2)		2			2	
	マスコミ演習 a	(2)			2		2	
	マスコミ演習 b	(2)			2		2	
	ゼミナール	(4)				4	4	
	卒業論文	(8)				8	8	
必修合計			4	4	4	12	24	
選択	実習科目	マスコミ実習 I	(1)					
		マスコミ実習 II	(1)					
		マスコミ実習 III	(1)			2		
		マスコミ実習 IV	(1)					
		マスコミ実習 V	(2)					
		マスコミ実習 VI	(2)					
	講義科目	I 群	マスコミ原論	(2)				
			マスコミ史	(2)				
			ジャーナリズム論	(2)				
			リスクコミュニケーション論	(2)	10			
			社会心理学	(2)				
			広告心理学	(2)				
		マスコミ研究法	(2)					
		II 群	※マスコミ講義 I	(2)				
			※マスコミ講義 II	(2)				
			※マスコミ講義 III	(2)				
			マスコミ講義 IV	(2)				
			マスコミ講義 V	(2)				
			※マスコミ講義 VI	(2)				
			マスコミ講義 VII	(2)				
マスコミ講義 VIII	(2)							
マスコミ講義 IX	(2)							
※コミュニケーション講義 I	(2)							
コミュニケーション講義 II	(2)							
※コミュニケーション講義 III	(2)							
コミュニケーション講義 IV	(2)			26				
※コミュニケーション講義 V	(2)							
コミュニケーション講義 VI	(2)							
※コミュニケーション講義 VII	(2)							
コミュニケーション講義 VIII	(2)							
コミュニケーション講義 IX	(2)							
マスコミ特殊講義 I	(2)							
マスコミ特殊講義 II	(2)							
マスコミ特殊講義 III	(2)							
マスコミ特殊講義 IV	(2)							
マスコミ特殊講義 V	(2)							
マスコミ特殊講義 VI	(2)							
自由	映像コミュニケーション	(2)				(2)		
選択・自由合計							38	
総計							62	

注) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

2017年度以降入学者用

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生および「マスコミデータ解析実習Ⅱ」の単位未修得者は、後期に「マスコミデータ解析実習Ⅱ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅳ-1共通科目履修方法】）を参照すること。
- 学芸員課程における必修科目
 - キャリアデザイン科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - 国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」および「留学準備演習」）
 - データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

- ① 「マスコミデータ解析実習Ⅰ・Ⅱ」は、いずれも講義と実習からなる週2回の授業である。Ⅰ・Ⅱとも実習は、3クラスずつ分けて開講する。
 なお、マスコミュニケーション学科の学生（再履修者含む）のみ事前登録を行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること（マスコミデータ解析実習Ⅱのクラス分けは、後期開講前に行われる）。他学科の学生が履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。
- ② 「マスコミ基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「マスコミ演習a・b」および「ゼミナール」はそれぞれ履修前年度の後期に小論文を提出し、それをもとに学科で所属を決定する。小論文の枚数・締切期日等は別途掲示する。

3 選択科目

- ① 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（実習科目2単位、講義科目36単位、計38単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「マスコミ実習」については、「Ⅰ～Ⅵ」のうち最低2単位を修得しなければならない。なお、使用機材等の関係上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ 「マスコミ実習Ⅴ」および「マスコミ実習Ⅵ」をマスコミュニケーション学科以外の学生が履修する場合は、「マスコミデータ解析実習Ⅰ・Ⅱ」を修得していることが条件となる。詳しくは当該科目のシラバスを参照のこと。
- ④ 講義科目のうち、講義科目Ⅰ群の規定単位数（10単位）を超えて修得した場合、講義科目Ⅱ群の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。
- ⑤ 講義科目のうち特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。

4 自由科目

- ① 「映像コミュニケーション」の修得単位は、自由選択として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「映像コミュニケーション」は、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRDⅠ	2単位
	WRDⅡ	2単位
2. 学科科目	マスコミデータ解析実習Ⅰ	2単位
	マスコミデータ解析実習Ⅱ	2単位
3. 上記8単位の他、卒業要件単位に算入される単位		32単位
	計	40単位

第23表 ヨーロッパ文化学科授業科目配当表

授業科目		学年 (単位)	I	II	III	IV	計
必修	ヨーロッパの文化	(4)	4				4
	ヨーロッパ文化実習Ⅰ	(1)	1				1
	ヨーロッパ文化実習Ⅱa	(1)		1			1
	ヨーロッパ文化実習Ⅱb	(1)		1			1
	独(仏)文法実習a	(1)		1			1
	独(仏)文法実習b	(1)		1			1
	独ミナール(3)	(4)			4		4
	独ミナール(4)	(4)				4	4
卒業論文	(8)					8	
必修合計			5	4	4	12	25
選択	演習科目	言語学演習a	(2)				
		言語学演習b	(2)				
		ヨーロッパの思想演習Ⅰa(独)	(2)				
		ヨーロッパの思想演習Ⅰb(独)	(2)				
		ヨーロッパの思想演習Ⅱa(仏)	(2)				
		ヨーロッパの思想演習Ⅱb(仏)	(2)				
		ヨーロッパの歴史演習Ⅰa(独)	(2)				
		ヨーロッパの歴史演習Ⅰb(独)	(2)				
		ヨーロッパの歴史演習Ⅱa(仏)	(2)				
		ヨーロッパの歴史演習Ⅱb(仏)	(2)				
		独語独文学演習a	(2)				
		独語独文学演習b	(2)				
	比較文化演習a	(2)			16		
	比較文化演習b	(2)			16		
	現代ドイツ事情演習a	(2)					
	現代ドイツ事情演習b	(2)					
	仏語仏文学演習a	(2)					
	仏語仏文学演習b	(2)					
	現代フランス事情演習a	(2)					
	現代フランス事情演習b	(2)					
広域芸術論演習Ⅰa	(2)						
※広域芸術論演習Ⅰb	(2)						
※広域芸術論演習Ⅱa	(2)						
※広域芸術論演習Ⅱb	(2)						
択	実習科目	独語コミュニケーションⅠ	(2)				
		独語コミュニケーションⅡ	(2)				
		独語コミュニケーションⅢ	(2)				
		独語コミュニケーションⅣ	(2)				
		仏語コミュニケーションⅠ	(2)			4	
		仏語コミュニケーションⅡ	(2)			4	
		仏語コミュニケーションⅢ	(2)				
		仏語コミュニケーションⅣ	(2)				
講義科目	ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)	(2)					
	ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)	(2)					
	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)	(2)	4				
	ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)	(2)	4				
	ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)	(2)					
ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)	(2)						
特殊講義科目	西洋古典特殊講義a	(2)					
	西洋古典特殊講義b	(2)					
	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa(独)	(2)					
	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb(独)	(2)					
	※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa(仏)	(2)					
	※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb(仏)	(2)					
	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)	(2)					
	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)	(2)			8		
	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa(独)	(2)					
	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb(独)	(2)					
	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa(仏)	(2)					
	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb(仏)	(2)					
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)	(2)						
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)	(2)						
自由	哲学講義a	(2)					
	哲学講義b	(2)					
	宗教学講義a	(2)					
	宗教学講義b	(2)					
	倫理学講義a	(2)					
	倫理学講義b	(2)					
	哲学史特殊講義a	(2)					
	哲学史特殊講義b	(2)					
選択・自由合計					[8]		
総計						32	
						57	

注) ※印の科目は本年度休講である。

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
 また、2年次前期に「独語（中級総合）」または「仏語（中級総合）」を履修する者は、後期に「独語（中級総合）」（2単位）または「仏語（中級総合）」（2単位）を履修できるよう、前期履修登録時に履修可能な単位数を47単位に設定してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【[履修規定](#)Ⅳ-1共通科目履修方法】）を参照すること。
- 教職関連随意科目
 - 教職課程における教職に関する科目
 - 学芸員課程における必修科目
 - キャリアデザイン科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - 国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」および「留学準備演習」）
 - データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

- ① 「ヨーロッパ文化実習Ⅰ」はヨーロッパ文化学科1年次生のみ、「ヨーロッパ文化実習Ⅱa・b」はヨーロッパ文化学科2年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。
- ② 「独（仏）文法実習a・b」は学科科目としての単位であり、外国語科目の単位ではないが、学部共通外国語で履修している外国語と同一の外国語の文法実習を履修することになっており、ヨーロッパ文化学科生はクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。
- ③ 1年次に独（仏）語を中級Ⅰ以上のグレードからスタートした者（既修者）は、1年次で2年次配当の「独（仏）文法実習a・b」と「独（仏）コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修することができる。
- ④ ゼミナールは3・4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

- ① **選択科目の反復履修について**
演習科目および特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
- ② 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（演習科目16単位、実習科目4単位、講義科目4単位、特殊講義科目8単位、計32単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。
- ③ 演習科目のうち「広域芸術論演習Ⅰa・Ⅰb」と「広域芸術論演習Ⅱa・Ⅱb」は、原則として隔年開講とする。
- ④ 実習科目については、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法については、【[授業に関すること](#)Ⅳ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

4 自由科目

- ① **自由科目の修得単位のうち、8単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。**
- ② 教員免許の取得に際して必要とする科目がある。教員免許の取得に係る教職課程の履修については【[教職課程](#)】を参照すること。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	
WRDⅠ	2単位
WRDⅡ	2単位
2. 学科科目	
必修	
ヨーロッパの文化	4単位
ヨーロッパ文化実習Ⅰ	1単位
計	9単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

6 演習科目履修基準

演習科目を履修するには、進級基準を満たすことの他に、さらに下記の単位を修得していなければならない。この基準を満たさない者は、3年次前期には原則としていかなる演習科目も履修することはできないが、3年次前期の成績確定により基準を満たした場合、後期には3科目6単位まで履修してもよい。この場合の履修登録方法については後日掲示する。なお、基準を満たしていない場合においても、4年次には演習科目8科目16単位を履修してもよい。(ただし、この基準は、ヨーロッパ文化学科の学生および副専攻としてヨーロッパ文化学科を選択する学生にのみ適用される)。

なお、他学科の学生で演習科目の履修を希望する者は、履修登録締切日までに、必ず教務部に申し出ること。

学部共通外国語（独語または仏語）（初級＝6単位）、中級総合（中級Ⅰ＝2単位）	8単位
1、2年次配当の「講義科目」	4単位
計	12単位

※ 独語または仏語を中級Ⅰ以上のグレードから開始した者は、自らの開始グレード以上の独語または仏語を8単位修得していなければならない。

7 2年次における演習科目の特別履修

学部共通外国語（独語または仏語）を中級Ⅰまたは上級のグレードから開始した者は、1年次に下記の科目の全てを修得した場合、2年次からヨーロッパ文化学科の演習科目を履修することができる（履修を希望する者は、履修登録締切日までに、必ず教務部に申し出ること）。

WRDⅠ	2単位
WRDⅡ	2単位
独語または仏語	6単位
ヨーロッパの文化	4単位
ヨーロッパ文化実習Ⅰ	1単位
1、2年次配当の「講義科目」	4単位
計	19単位

8 ゼミナール履修条件

ゼミナール（4）を履修するには、下記の単位を全て修得していなければならない。

（独語または仏語）初級	6単位
中級Ⅰ（中級総合）	2単位
中級Ⅱ（中級総合）	2単位
（独語または仏語）コミュニケーションⅠ～Ⅳのうち	2単位
独または仏文法実習a・b	2単位
ヨーロッパ文化実習Ⅱa・Ⅱb	2単位
ゼミナール（3）	4単位
計	20単位

※ 独語または仏語を中級Ⅰ以上のグレードから開始した者は、独語または仏語を10単位修得していなければならない。

9 ゼミナール

本学科ではドイツ・フランス語圏の文学、思想・哲学、歴史、芸術、言語学、文化事情、現代社会事情、またそれらの源泉となっているギリシャ・ローマの古典文化にいたるまで、広汎な研究領域に関わるゼミナールを開講している。ゼミナールへの配属は、2年次後期提出の登録申込書に記入してもらう各自の研究関心・研究主題に基づいて、学科で決定する。

これに関しては、毎年度後期にゼミナール登録のためのガイダンス（通例は「ヨーロッパ文化実習Ⅱ」の授業を利用して行う）を開講するので、翌年度に3年次ゼミナールを履修する学生は、掲示に注意し、必ず出席すること。

Ⅲ-3

文芸学部共通ゼミナール

文芸学部では、文芸学部共通ゼミナール（以下、共通ゼミナール）を開設する。

卒業論文を執筆する学生は、所属学科のゼミナールに属し、学科担当の教員の指導を受けることが原則であるが、卒業論文のテーマが学科のゼミナールより共通ゼミナールが相応しいと判断した場合、共通ゼミナールで指導を受けることができる。なお、共通ゼミナールに所属を変更する場合の手順は以下のとおりであるが、詳細については、Campus Square for Web等で周知するので、その指示に従うこと。

- ① 3年次10月に開催される共通ゼミナールのガイダンスを受ける。日程等の詳細は掲示で周知する。
- ② 共通ゼミナールで卒業論文指導を受けたい場合は、学生自身が所属する学科のゼミナール指導教員（芸術学科とマスコミュニケーション学科は、学科主任）に申し出る。
- ③ 登録許可者については学部教務主任から連絡がある。当該学生は、学科のゼミナール指導教員に報告し、仮登録を行う。仮登録手続きの詳細は掲示で周知する。
- ④ 仮登録をした学生は、翌年度の4月に当該共通ゼミナールに本登録され、卒業論文指導を受ける。
 - （注1）共通ゼミナールは、学科のゼミナールに替わるものとする。
 - （注2）当該学生が提出した卒業論文の面接試験に関しては、当該共通ゼミナール担当教員が主査を、所属学科の当該分野の教員が副査をつとめる。
 - （注3）当該学生は、入学時の学科の卒業とする。

III-4

自由選択

1 自由選択とは

卒業に必要な単位（卒業要件単位）として、下表のとおり共通科目、学科科目、自由選択の各分野・区分において、それぞれ決められた単位数（規定単位数）を修得しなければならない（詳細はp.44【履修規定】①卒業要件単位数】を参照）。

学 科	卒業要件 単位数	共通科目の 規定単位数	学科科目の 規定単位数	自由選択の 規定単位数
国 文 学 科	124	34	60	30
英 文 学 科	126	36	60	30
芸 術 学 科	124	34	58	32
文 化 史 学 科	128	34	62	32
マスコミュニケーション学科	128	34	62	32
ヨーロッパ文化学科	124	38	57	29

自由選択とは、卒業要件単位数のうち、必修科目（「WRD」、「文芸講座」、「ゼミナール」および「自学科必修科目」）を除く文芸学部全授業科目（他学科科目を含む）の中から、自由な選択によって単位を修得することをいう。自由選択として卒業要件単位数に算入できる単位は次のものが適用される。

- 共通科目および自学科科目の選択科目のうち規定単位数を超えて修得した単位（規定単位数が0である「特選外国語」および「キャリア科目」については、その修得した単位）
- 自学科科目のうち「自由科目」の修得単位
- 他学科科目の修得単位

なお、各分野・区分において自由選択として卒業要件単位数に算入できる単位数には、それぞれ上限が定められており（第1表の〔 〕内の数字）、上限を超えて修得した単位は余剰単位の扱いとなる。

2 履 修 上 の 注 意 事 項

学科の選択科目・自由科目の履修にも、あらかじめ修得しておかなければならない科目や単位数の条件が付されているものがある。この条件は、他学科の学生にも適用されるから注意すること。

【自由選択への算入例】（該当部分は右ページのA表を参照）

単位修得の例	適用	自由選択への算入単位数	解 説
例1 教養科目を24単位修得	a	8単位	教養科目の規定単位数は16単位であり、この場合、それを超えた8単位が自由選択に算入される。 (自由選択への算入上限は18単位なので、規定単位数+算入上限=34単位を超えて修得した単位がある場合は余剰単位の扱いとなる。)
例2 特選外国語を20単位修得	a	18単位	特選外国語で修得した単位は上限18単位まで自由選択の単位数に算入されるので、この場合20単位のうち18単位が算入され、2単位は余剰単位となる。
例3 キャリア科目 キャリア形成 2単位 統計学 4単位 を修得	a	4単位	キャリア科目で修得した単位は上限4単位まで自由選択の単位数に算入されるので、この場合、6単位のうち4単位が算入され、2単位は余剰単位となる。
例4 国文学科生が 国文学科の講義科目を20単位修得	a	8単位	国文学科の選択科目・講義科目の規定単位数は12単位なので、それを超えた8単位が自由選択に算入される。 (各学科の選択科目は演習科目、講義科目など、それぞれの規定単位数を超えた計16単位まで算入が可能となる。)
例5 文化史学科生が 文化史学科の自由科目を4単位修得	b	4単位	学科科目・自由科目で修得した単位は学科で定められた単位数まで自由選択の単位数に算入される。文化史学科の自由科目は算入上限が8単位なので、この場合、4単位がそのまま算入される。算入上限は他学科生にも適用される。
例6 英文学科生が 芸術学科の講義科目を8単位修得	c	8単位	他学科科目の修得単位は全て自由選択に算入されるので、この場合、8単位がそのまま算入される。
例7 芸術学科生がヨーロッパ文化学科の 自由科目を10単位修得	c	8単位	自由科目は各学科が定める上限単位数まで自由選択に算入される。ヨーロッパ文化学科の自由科目は算入上限が8単位なので、この場合、8単位が自由選択に算入され、2単位は余剰単位となる。

A表 自由選択として卒業要件単位に算入できる科目と単位数の例 (p.44 第1表から)

分野・区分			規 定 単 位 数												
			国文学科		英文学科		芸術学科		文化史学科		マスコミュニケーション学科		ヨーロッパ文化学科		
			卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	
共通 科目	必修科目	WRD	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	
		文芸講座	2	-	2	-	2	-	2	-	2	-	2	-	
	選択科目	外国語科目	教養科目	16	(18)	16	(18)	16	(18)	16	(18)	16	(18)	16	(18)
			学部共通 外国語 (2言語以上) 注1)	12	(12)	14	(12)	12	(12)	12	(12)	12	(12)	16	(12)
		特選 外国語	0	(18)	0	(18)	0	(18)	0	(18)	0	(18)	0	(18)	
	キャリア科目	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)		
共通科目の計 (A)			34		36		34		34		34		38		
学 科 科 目	必修科目		34	-	28	-	26	-	16	-	24	-	25	-	
	選択科目	演習科目	12		20		12		16		-		16		
		実習科目	2	(16)	-	(16)	-	(16)	2	(16)	2	(16)	4	(16)	
		講義科目	12		8		16		28		36		4		
	特殊講義科目	-		4		4		-		-		8			
自由科目			-	-	0	(6)	-	-	0	(8)	0	(2)	0	(8)	
学科科目の計 (B)			60		60		58		62		62		57		
自由 選択	他学科科目修得単位および 他の区分からの算入単位 (C)		30		30		32		32		32		29		
総計 (A) + (B) + (C)			124		126		124		128		128		124		

例4

例6

例5

例7

履修規定

2017年度以降入学者用

履修規定

[2015・2016年度入学者用]

I	卒業要件単位数	84	
II	主専攻・副専攻について	85	
III	—1 共通科目履修方法	86	
	① WRD	86	
	1) 目的		
	2) 履修上の注意事項		
	3) 再履修について		
	② 文芸講座	86	
	1) 目的		
	2) 履修上の注意事項		
	3) 再履修について		
	③ 全学共通教養・データサイエンス科目	87	
	1) 教養科目		
	2) 国際交流科目		
	3) データサイエンス科目		
	④ 外国語科目	91	
	a. 学部共通外国語		
	1) 卒業に必要な学部共通外国語の 規定単位数		
	2) 履修上の注意事項 (必修外国語)		
	3) グレード制・セメスター制		
	4) グレードの種類		
	5) グレードの認定		
	6) クラス名称と開講曜限		
	7) 英語 SEE-A・B の 受講クラスについて		
	8) 英語の飛び級について		
	9) グレードごとの履修パターン		
	b. その他の外国語		
	1) 古典語		
	2) 全学共通外国語		
	3) ディプロム・コース		
	4) エクステンシヴ・リーディング		
	⑤ 自由科目	100	
	a. 実技・実習科目		
	1) スポーツ・ウエルネス実技		
	2) 海外短期語学研修・海外短期研修		
	3) 日本語		
	b. 講義科目		
	1) 講義科目		
	2) キャリアデザイン科目		
	3) スポーツ・ウエルネス講義・演習科目		
	c. 社会調査士資格科目		
III	—2 学科科目履修方法	106	
	A. 国文学科	106	
	B. 英文学科	108	
	C. 芸術学科	112	
	D. 文化史学科	114	
	E. マスコミュニケーション学科	116	
	F. ヨーロッパ文化学科	118	
III	—3 文芸学部共通ゼミナール	121	
III	—4 自由選択	122	

I

卒業要件単位数

1 卒業要件単位数

各学科における卒業に必要な単位数、および各分野において修得しなければならない規定単位数は、第1表のとおりである。

2 自由選択 (p.122参照)

以下の修得単位は自由選択の単位として取り扱われる。

- ① 必修科目を除く各区分で、卒業に必要な規定単位数を超えて修得した単位。規定単位数の表に示された〔 〕内の数字は、それぞれの区分において自由選択の卒業要件単位として算入することのできる単位数の上限である。これを超えて修得した単位は余剰単位として取り扱う。
- ② 他学科の科目（ゼミナールを除く）の修得単位。履修に当たっては、各学科の【履修規定】が適用されるので、確認の上、履修すること。

3 教職関連随意科目

第1表に記載されている授業科目の他、文化史学科開設科目として「教職関連随意科目」を開設する。この科目は主に教職課程登録者が「教科に関する科目」として履修するために開設する科目であるが、教職課程登録の如何を問わず、また文化史学科の学生のみならず他学科の学生が履修することも可能である。ただし、教職課程登録の有無や学科を問わず、**修得した単位は卒業要件単位に算入できない。**

第1表 卒業要件科目および単位数

分野・区分			規定単位数												
			国文学科		英文学科		芸術学科		文化史学科		マスコミュニケーション学科		ヨーロッパ文化学科		
			卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	
共通科目	必修科目	WRD	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	
		文芸講座	2	-	2	-	2	-	2	-	2	-	2	-	
	選択科目	全学共通教養・データサイエンス科目	16	(16)	16	(16)	16	(16)	16	(16)	16	(16)	16	(16)	
		外国語科目	学部共通外国語(2言語以上)注1) ※英語 4単位を含む	12	(12)	14	(12)	12	(12)	12	(12)	12	(12)	16	(12)
			その他の外国語 ※うち全学共通外国語は4単位まで	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)
	自由科目	実技・実習、講義、社会調査士	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	
共通科目の計 (A)			34		36		34		34		34		38		
学科科目	必修科目		34	-	28	-	26	-	16	-	24	-	25	-	
	選択科目	演習科目	12	※会話12	20	注2) AB12、AP8	12		16	※基礎演習8、演習8	-		16		
		実習科目	2		-	(16)	-	(16)	2	(16)	2	(16)	4	(16)	
		講義科目	12		8	注2) CP4、一般講義4	16		28	※概論4、講義24	36	※I群10、II群26	4		
		特殊講義科目	-		4		4		-		-		8		
自由科目		-	-	0	(6)	-	-	0	(8)	0	(2)	0	(8)		
学科科目の計 (B)			60		60		58		62		62		57		
自由選択	他学科科目修得単位および他の区分からの算入単位 (C)		30		30		32		32		32		29		
総計 (A) + (B) + (C)			124		126		124		128		128		124		

注1) 卒業要件単位数の内訳については、第6表を参照すること。

注2) 英文学科(選択科目):「AB」は、アカデミック・ベーシックス科目の略。「AP」は、アカデミック・プラクティス科目の略。「CP」は、クリエイティブ・プラクティス科目の略。

II

主専攻・副専攻について

1 主 専 攻

自分が所属する学科のことを主専攻と呼ぶ。なお、文芸学部を卒業するためには、**第1表**に記載された、自分が所属する学科の規定単位数を修得しなければならない。

2 副 専 攻

副専攻とは、所属学科以外の学科が規定する副専攻修了要件単位数を修得した場合に、修了が認定されるものである。例えば、文化史学科の学生が、自分の所属する学科の規定単位数を満たし、さらに、芸術学科の副専攻修了のための規定単位数を満たした場合、卒業時に2学科にまたがった専門領域の学業を修め、修了したことを認定することになる。

3 副専攻修了要件 単位数

各学科で定める副専攻修了要件単位数は次のとおりである。

① 国文学科 **36単位**

「素読Ⅰ～Ⅳ」の8単位、「漢文学会読Ⅰ・Ⅱ」と「国語学会読Ⅰ・Ⅱ」の8単位の計16単位を含む。

② 英文学科 **32単位**

「英語学基礎ゼミナール」、「英語文学基礎ゼミナール」、「英語文化基礎ゼミナール」のうちの1科目4単位を含む。自由科目は修了要件単位に含むことができない。なお、副専攻修了要件単位数の32単位とは別に、卒業時までに英語の「SEE-A・B」4単位、「中級総合」4単位の計8単位を修得していること。また、3年次終了時までにTOEIC試験を4回以上受験していなければならない*。

*やむを得ない理由により学内試験を受験できない者は、学外試験を受験しなければならない。4回以上受験していない者は、必ず共用研究室で指示を受けること。

*4年次4月の本申請時に、4回分の「成績表」(Score Report)のコピーを教務部に提出すること。

③ 芸術学科 **28単位**

「美学・芸術学入門a・b」、「美術史入門a・b」のどちらか(a・bセット)4単位、演習科目4単位および一般講義科目8単位の計16単位を含む。

④ 文化史学科 **28単位**

概論科目4単位、演習科目4単位(文化史基礎演習Ⅰ～Ⅲを除く。)および講義科目20単位。なお、自由科目は修了要件単位に含むことができない。

⑤ マスコミュニケーション学科

[2015年度入学者] **32単位** 講義科目Ⅰ群10単位および講義科目Ⅱ群22単位。

[2016年度入学者] **28単位** 講義科目Ⅰ群10単位以上を含む講義科目28単位。

⑥ ヨーロッパ文化学科 **24単位**

「ヨーロッパの文化」(4単位)、「ヨーロッパ文化実習Ⅰ」(1単位)のどちらか1科目を含む。自由科目は修了要件単位に含むことができない。なお、副専攻修了要件単位数の24単位とは別に、卒業時までに「独語」または「仏語」のいずれか10単位を修得していること。

4 副 専 攻 申 請 手 続 き

副専攻の申請を希望する学生は、以下の手続きをとること。

① 2年次の4月に行われる主専攻・副専攻制度の説明会に出席し、「第一次仮申請」を行う。

② 3年次の4月に行われる主専攻・副専攻制度の説明会に出席し、「第二次仮申請」を行う。

③ 3年次終了時、卒業までに各学科が定める副専攻修了要件単位数の修得が可能だと見込まれる場合、4年次の4月に行われる説明会に出席し、「本申請」を行う(この段階で単位修得が不可能である等の理由により、副専攻の申請を取り下げることができる)。

5 副専攻修了の 認定

副専攻の申請手続きを行った学生が副専攻修了に必要な単位を修得していると文芸学部教授会が認めるとき、その学生の副専攻の修了を認定し、そのことを認定書および成績証明書に記すことになる。

6 履修上の注意

① 副専攻に必要な単位は、自由選択の単位として認められる。

② 時間割の都合等の理由により、副専攻の修了に必要な科目と必修科目が同曜限になる場合も考えられるので、1年次の時点から履修計画を立てること。

7 副専攻の助言 教員

副専攻についての履修相談は、副専攻の学科の主任(または副専攻助言教員)が担当する。

Ⅲ-1

共通科目履修方法

1 WRD

1 目的

高等学校までの勉学は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉学は自分でその所在を明らかにした問題について、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」(ワードと読む)とは、「Write 書く、Read 読む、Debate 議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

上記を踏まえて、前期に「WRDⅠ」、後期に「WRDⅡ」を設置している。

前期の「WRDⅠ」では、「自ら問いをたてる」(問題意識を持つ)という学問的思考の修得と「論文(研究レポート)を一人で書くことができるようになる」ことを到達目標とする。これを達成するために、講義と実践的トレーニングを行う。

後期の「WRDⅡ」では、「WRDⅠ」で学修した内容を深化させるために、以下の4コースを設置する。

Wコース:「書く」ことに特化する。レベルに応じたクラスを設置する。(書くことが得意な人向けのクラスから、書くことが苦手な人向けのクラスまでであるので、シラバスを参照のこと。)

Rコース:「読む」ことに特化する。(読むことを中心とするが、クラスごとに方法や内容が異なるので、シラバスを参照のこと。)

REコース:「観察する(みる・きく)」ことに特化する。(観察する(インタビュー)ことを通して、リサーチのおもしろさを実感する。シラバスを参照のこと。)

Dコース:「議論する」に特化する。プレゼンテーションコンテスト(12月開催予定)で成果を発表する。

なお、上記のコースのうち、REコースとDコースはプロジェクト型アクティブ・ラーニングで、このうちDコースはグループ学習が中心となる。

2 履修上の注意事項

【WRDⅠ】

- ① 上記の成果を高めるために1クラス当たりの受講者数を25名前後に限定する。
- ② 受講クラスは教務部が指定し、事前登録を行う。指定クラスはCampus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。
- ③ 科目名末尾の数字はクラス名を表し、科目名には含まれない。

【WRDⅡ】

- ① 第5希望まで申請可能で、抽選の結果、いずれか1つのクラスに登録される。なお、希望した全てのクラスに抽選漏れした場合や期間中に申請しなかった場合は、任意のクラスに割り当てられる。登録方法については、【[授業に関すること](#)】[Ⅳ](#)特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② マスコミュニケーション学科の学生はREコースが必修のため、受講クラスは教務部が指定し、事前登録を行う。

3 再履修について

単位未修得者は、教務部が事前登録を行う。

2 文芸講座

1 目的

「文芸講座」は文芸学部での学びの基礎となる科目である。文芸学部では多種多様な分野を学ぶことができるが、「文芸講座」はそのような広がりを持つ文芸学部の学びの全体像を学生の皆さんに理解してもらうことを目的に開設された科目である。そのためこの科目は文芸学部生全員が必ず受講することになっている。授業は、あらかじめ設定したテーマについて、複数の教員が自らの研究分野から論じることで進められる。

2 履修上の注意事項

- ① 「文芸講座」は2コマ開設するが、授業の内容、成績評価は共通である。なお、教務部がクラス分けの上、事前登録を行う。指定クラスはCampus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。
- ② 「文芸講座」の成績評価は、他の科目と異なり、合格であれば、「合」(英文成績証明書は「P」)と表示される。

3 再履修について

単位未修得者は、教務部が事前登録を行う。

3 全学共通教養・データサイエンス科目

専門領域を超えて柔軟に思考することは勉学に不可欠である。専門領域におさまらない問題を、テーマ別に整理・統合したのが全学共通教養・データサイエンス科目である。

- ① 全学共通教養・データサイエンス科目は、1. 教養科目、2. 国際交流科目、3. データサイエンス科目からなる。
- ② 卒業に必要な単位数は16単位である。
- ③ 卒業に必要な単位数を超えて修得した単位のうち、16単位までを「自由選択」に算入できる。
- ④ 全学共通教養・データサイエンス科目の詳しい説明は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。なお、全学共通教養・データサイエンス科目の中には特別な履修手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。

1 教養科目 第2表のとおり、教養科目を開講する。

第2表 全学共通教養・データサイエンス科目（教養科目群）配当表 学年配当：1～4年次

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
※総合講座Ⅰ	2	※社会構造論Ⅲb	2
総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース／感動と価値の創造〉	2	社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉	2
総合講座Ⅲ〈環境〉	2	社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉	2
※総合講座Ⅳ	2	※社会構造論Ⅴa	2
総合講座Ⅴ〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2	※社会構造論Ⅴb	2
総合講座Ⅵ〈中国文学入門（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2	社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉	2
※特別講座Ⅰ	2	※社会構造論Ⅵb	2
※特別講座Ⅱ	2	社会構造論演習a	2
成城学園を知る	2	社会構造論演習b	2
成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	2	哲学入門a	2
※成城学Ⅱ	2	哲学入門b	2
※成城学Ⅲ	2	宗教学入門a	2
※成城学Ⅳ	2	宗教学入門b	2
成城学Ⅴ〈成城と自然〉	2	倫理学入門a	2
社会学入門a	2	倫理学入門b	2
社会学入門b	2	西洋思想入門a	2
メディア論入門a	2	西洋思想入門b	2
メディア論入門b	2	東洋思想入門a	2
現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉	2	東洋思想入門b	2
現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉	2	日本思想入門a	2
現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉	2	日本思想入門b	2
現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉	2	※思想・人間論Ⅰa	2
※現代社会論Ⅲa	2	※思想・人間論Ⅰb	2
※現代社会論Ⅲb	2	思想・人間論Ⅱa〈イメージを“よむ”〉	2
現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉	2	思想・人間論Ⅱb〈イメージを“よむ”〉	2
現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉	2	※思想・人間論Ⅲa	2
※現代社会論Ⅴa	2	※思想・人間論Ⅲb	2
※現代社会論Ⅴb	2	思想・人間論演習a	2
現代社会論Ⅵa〈平和論〉	2	思想・人間論演習b	2
現代社会論Ⅵb〈平和論〉	2	文学入門a	2
現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉	2	文学入門b	2
現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉	2	言語学入門a	2
※現代社会論Ⅷa	2	言語学入門b	2
※現代社会論Ⅷb	2	音楽入門a	2
※現代社会論演習a	2	音楽入門b	2
※現代社会論演習b	2	※表象文化論入門a	2
国際関係論入門a	2	※表象文化論入門b	2
国際関係論入門b	2	※表現文化論Ⅰa	2
経済学入門a	2	※表現文化論Ⅰb	2
経済学入門b	2	※表現文化論Ⅱa	2
政治学入門a	2	※表現文化論Ⅱb	2
政治学入門b	2	表現文化論Ⅲa〈映画の“いま”〉	2
情報社会論入門a	2	表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉	2
情報社会論入門b	2	表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉	2
法学（含む日本国憲法）a	2	表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉	2
法学（含む日本国憲法）b	2	※表現文化論Ⅴa	2
社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉	2	※表現文化論Ⅴb	2
社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉	2	表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉	2
社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉	2	表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉	2
社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉	2	表現文化論演習a	2
※社会構造論Ⅲa	2	表現文化論演習b	2

第2表 全学共通教養・データサイエンス科目（教養科目群）配当表 学年配当：1～4年次（つづき）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
歴史学入門a	2	※地域空間論演習b	2
歴史学入門b	2	※数理の世界a	2
日本近現代史a	2	※数理の世界b	2
日本近現代史b	2	数理科学Ⅰa〈情報と論理〉	2
ヨーロッパ近現代史a	2	数理科学Ⅰb〈情報と論理〉	2
ヨーロッパ近現代史b	2	※数理科学Ⅱa	2
アジア近現代史a	2	※数理科学Ⅱb	2
アジア近現代史b	2	物理の世界a	2
アメリカ近現代史a	2	物理の世界b	2
アメリカ近現代史b	2	化学の世界a	2
※歴史文化論Ⅰa	2	化学の世界b	2
※歴史文化論Ⅰb	2	生命科学の世界a	2
歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉	2	生命科学の世界b	2
歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉	2	科学史a	2
歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	2	科学史b	2
歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	2	※自然科学Ⅰa	2
※歴史文化論Ⅳa	2	自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉	2
※歴史文化論Ⅳb	2	自然科学Ⅱa〈地球と環境〉	2
※歴史文化論Ⅴa	2	自然科学Ⅱb〈地域と環境〉	2
※歴史文化論Ⅴb	2	自然科学Ⅲa〈地球科学〉	2
※歴史文化論演習a	2	自然科学Ⅲb〈地球科学〉	2
※歴史文化論演習b	2	※自然科学Ⅳa	2
文化人類学入門a	2	※自然科学Ⅳb	2
文化人類学入門b	2	自然科学Ⅴa〈比較行動学〉	2
空間システム論入門a	2	自然科学Ⅴb〈比較行動学〉	2
空間システム論入門b	2	数理・自然科学演習a	2
地域空間論Ⅰa〈EU論〉	2	数理・自然科学演習b	2
地域空間論Ⅰb〈EU論〉	2	こころと身体a	2
地域空間論Ⅱa〈朝鮮半島の社会と文化〉	2	こころと身体b	2
地域空間論Ⅱb〈朝鮮半島の社会と文化〉	2	※身体と運動・スポーツa	2
地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉	2	※身体と運動・スポーツb	2
地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉	2	心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉	2
※地域空間論Ⅳa	2	心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉	2
※地域空間論Ⅳb	2	心身論Ⅱa〈こころと発達〉	2
※地域空間論Ⅴa	2	心身論Ⅱb〈こころと社会〉	2
※地域空間論Ⅴb	2	心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉	2
地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉	2	心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	2
地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉	2	心身論Ⅳa〈食と健康〉	2
地域空間論Ⅶa〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	心身論Ⅳb〈食と環境〉	2
地域空間論Ⅶb〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	※心身論Ⅴa	2
地域空間論Ⅷa〈中東の社会と文化〉	2	※心身論Ⅴb	2
地域空間論Ⅷb〈中東の社会と文化〉	2	心身論演習a	2
※地域空間論演習a	2	心身論演習b	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。
 注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第2表の注意事項】

- ① 「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。
- ② 「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」は、セットで履修することになっている。なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。
- ③ 2017年度から、通年（4単位）で開講していた科目は、前期a（2単位）、後期b（2単位）に分割して開講している。なお、2016年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目を履修できない。
 （例：2016年度までに「社会学入門」の単位を修得している場合、「社会学入門a」または「社会学入門b」を履修できない）

履修規定

2015・2016年度入学者用

2 国際交流科目 第3表のとおり、国際交流科目を開講する。

第3表 全学共通教養・データサイエンス科目（国際交流科目群）配当表

区分	授 業 科 目	学年配当	単位
留学対策科目	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2～4	1
	※Academic Skills VI A	2～4	1
Academic Skills VI B 〈English Research〉	2～4	1	
地域研究科目 英語等による	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1～4	2
	※European Studies B	1～4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1～4	2
	※North American Studies B	1～4	2
	※Oceanian Studies A	1～4	2
	※Oceanian Studies B	1～4	2
	※Asian Studies A	1～4	2
Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1～4	2	
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	※Japan Studies II A	1～4	2
	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	※Japan Studies VII A	1～4	2
	※Japan Studies VII B	1～4	2
	Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
テーマを扱った特定の 英語等による科目	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	※Special Topics III A	1～4	2
	※Special Topics III B	1～4	2
	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第3表の注意事項】

- ① 国際交流科目群のうち、以下の区分の科目は卒業要件単位に算入することができない。
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
- ② 国際交流科目群の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・国際交流科目群のうち、以下の区分の科目の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年次4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅳ-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
- ③ 国際交流科目群には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ④ 2018年度に「Academic Skills VA」、「Academic Skills VB」、「Academic Skills VIA」、「Academic Skills VIB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。

3 データサイエンス科目

第4表のとおり、データサイエンス科目を開講する。

第4表 全学共通教養・データサイエンス科目（データサイエンス科目群）配当表

授 業 科 目	単 位	学 年 配 当
☆データサイエンス入門Ⅰ	2	1～4
☆データサイエンス概論	2	1～4
☆データサイエンス入門Ⅱ	2	2～4
データサイエンス応用	2	2～4
データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2	2～4
データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2	2～4

注）※印の科目は本年度休講である。

【第4表の注意事項】

- ① データサイエンス科目群の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、6単位を限度として全学共通教養・データサイエンス科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修（「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修）していることが履修の条件となる。
- ③ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ④ データサイエンス科目群には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ⑤ データサイエンス科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」、「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」について、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合、2年次は6単位、3年次は6単位まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅳ-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑥ 2018年度に「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」と「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の学年配当は「3・4」から「2～4」に変更された。

4 外国語科目

文芸学部で履修できる外国語は、英語、独語、仏語、中国語、イタリア語、古典語（ギリシャ語・ラテン語）、スペイン語、韓国語であり、授業科目は第5表のとおりである。

第5表 文芸学部で履修できる外国語科目の種類

区分	授業科目		単位の取り扱い	
学部共通外国語	初級	英語	SEE-A・B (注1)	卒業に必要な規定単位数を超えて修得した単位は、12単位を上限に自由選択の単位として算入できる。
		独語	初級	
		仏語	初級	
		中国語	初級	
		イタリア語	初級	
	中級	英語	中級総合	
		独語	中級総合	
		仏語	中級総合	
		中国語	中級Ⅰ・Ⅱ	
		イタリア語	中級総合	
	上級	英語	上級	
		独語	上級	
		仏語	上級	
		中国語	上級	
その他の外国語	古典語	ギリシャ語	初級・中級	22単位を上限に、自由選択の単位として取り扱われる。(注2)
		ラテン語	初級・中級	
	全学共通外国語	英語リスニング&スピーキング	初級a・b、中級a・b、上級a・b	
		英語リーディング&ライティング	初級a・b、中級a・b、上級a・b	
		英会話選択	a・b	
		ビジネス英語	a・b	
		英文多読	a・b	
		Academic Communication	a・b	
		独会話選択	a・b	
		独語選択	初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b	
		仏会話選択	a・b	
		仏語選択	初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b	
		スペイン語選択	初級a・b、(中級・ディプロム) a・b	
		中国語選択	初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、中級a・b	
	韓国語選択	初級a・b、(中級・ディプロム) a・b		
	ディプロム・コース	英語	中級a、上級b	
		独語	中級a・b、上級a・b	
仏語		中級a・b、上級a・b		
エクステンシヴ・リーディング	英語エクステンシヴ・リーディング	A・B		

注1) SEEとは、Seijo Essential Englishの略名である。

注2) ただし、古典語以外は卒業要件単位に算入できる単位数に上限がある。詳細は【履修規定Ⅲ-1共通科目履修方法 4)外国語科目 b.その他の外国語】を参照すること。

a 学部共通外国語

1 卒業に必要な学部共通外国語の規定単位数

学部共通外国語で開設している授業科目のうち、2種類以上の外国語において、第6表に示す規定の単位を修得しなければならない。なお、2種類目の外国語については、4単位以上修得すること。

第6表 卒業に必要な学部共通外国語科目の規定単位数 [卒業要件単位数]

学 科	学部共通外国語科目 規定単位数 [卒業要件単位数]	左記単位数の内訳	
		必修の規定単位数 (英語)	必修以外の規定単位数 (独語・仏語・中国語・イタリア語)
国文、芸術、文化史、 マスコミュニケーション	12	4~8	4~8
英文	14	8~10	4~6

学 科	学部共通外国語科目 規定単位数 [卒業要件単位数]	左記単位数の内訳	
		必修の規定単位数 (独語または仏語)	必修以外の規定単位数 (独語・仏語・英語・中国語・イタリア語)
ヨーロッパ文化	16	12	4

2 履修上の注意事項 (必修外国語)

【国文学科・芸術学科・文化史学科・マスコミュニケーション学科】

- ・「英語SEE-A・B」を計4単位修得しなければならない。

【英文学科】

- ・英語が必修であり、以下のとおり、単位を修得しなければならない。

SEE-A (Input)	1単位
SEE-A (Output)	1単位
SEE-B (Input)	1単位
SEE-B (Output)	1単位
中級 I (中級総合)	2単位
中級 II (中級総合)	2単位
計	8単位

※飛び級 (p.94の8参照) した場合は、中級 I・II の代わりに上級を4単位修得しなければならない。

【ヨーロッパ文化学科】

- ① 独語または仏語が必修であり、以下のとおり、単位を修得しなければならない。

初級	6単位
中級 I (中級総合)	2単位
中級 II (中級総合)	2単位
上級	2単位
計	12単位

- ② 1年次に中級 I 以上のグレードから開始する者は、自らの開始グレード以上の独語または仏語を12単位修得しなければならない。

- ③ 外国語科目および学科科目の履修を計画的に進行させるため、独語または仏語は1年次から履修しなければならない。

3 グレード制・セメスター制

学部共通外国語は、一部を除きグレード制・セメスター制をとる。

【グレード制】習熟度に合わせた多様なクラスで学んで、次のステップに進むことができる制度。

【セメスター制】前期または後期の半期で授業が完結する制度。

4 グレードの種類

各教科におけるグレードの種類、単位数、実施学期、週回数等は第7表に示す。

5 グレードの認定

- ① 英語以外の外国語の開始段階におけるグレード (学習段階) の認定は、既修外国語については入学試験、あるいは高校の学業成績による。場合によっては、認定テストを実施することがある。

- ② 1年次後期以降におけるグレードの認定は各セメスター (学期) ごとの試験の結果をもとに行う。第7表に示される各グレードの履修条件を満たした者にはそのグレードの履修が認められる (「英語SEE-A、B」は、グレード制ではない)。

- ③ 1年次に一般的な開始段階より上のグレードから開始する者も、規定の卒業要件単位数を満たさなければならない。

第7表 グレードの種類・単位数・実施学期・履修の条件等

	グレードの種類	単位	授業科目名		回数	学期	履修の条件 (いずれか一つの条件を満たすこと)	履修の制限等
英語	初級	2	SEE-A	Input	1回	前期 後期	・一般的な既修者	・前期に不合格になった場合、後期に同じ科目の再履修可 ・A・B同時履修可
				Output	1回			
	中級Ⅰ	2	SEE-B	Input	1回	前期 後期	・「SEE-A」および「SEE-B」の合格者	・各学期2単位まで履修可 ・反復・重複履修可
				Output	1回			
	中級Ⅱ	2	中級総合(注1)	1回×2	前期 後期	・「中級総合」2単位を修得した者		
上級	1	1回		前期 後期	・「中級総合」4単位を修得した者 ・「初級」からの飛び級者			
独語・仏語	初級	6	初級	3回	通年	・未修者の開始段階		
中級Ⅰ	2	中級総合(注1)	1回×2	前期 後期	・「初級」の合格者 ・一定レベル以上の既修者と認められた場合の開始段階	・各学期2単位まで履修可(注2) ・反復・重複履修可		
中級Ⅱ	2		1回×2	前期 後期				
上級	1	上級	1回	前期 後期	・「中級総合」4単位を修得した者	・反復、重複履修可		
中国語	初級	6	初級	3回	通年	・未修者の開始段階		
中国語	中級Ⅰ	2	中級Ⅰ	2回	前期 後期	・「初級」の合格者 ・一定レベル以上の既修者と認められた場合の開始段階	・各学期2単位まで履修可 ・前期に不合格になった場合、後期に同じ科目の再履修可	
	中級Ⅱ	2	中級Ⅱ	1回×2	後期	・「中級Ⅰ」の合格者	・2単位まで履修可	
	上級	1	上級	1回	前期 後期	・「中級Ⅱ」の合格者	・反復、重複履修可	
イタリア語	初級	6	初級	3回	通年	・未修者の開始段階		
イタリア語	中級Ⅰ	2	中級総合(注1)	1回×2	前期 後期	・「初級」の合格者	・各学期2単位まで履修可 ・反復・重複履修可	
	中級Ⅱ	2		1回×2	前期 後期			
	上級	1	上級	1回	前期 後期	・「中級総合」4単位を修得した者	・反復、重複履修可	

注1) 「中級総合」として開講されている授業科目から任意に2科目まで選択履修し、2単位修得した場合を「中級Ⅰ」、さらに2単位修得した場合を「中級Ⅱ」とする。

注2) 既修者は特例として「中級総合」を1年次のみ前期3単位まで履修できる。

6 クラス名称と開講曜限

英語・独語・仏語・中国語・イタリア語の初級クラスは、週3回もしくは2回の授業が行われ、開講曜限によりX・Y・Zの3つのグループに分けられ、さらに英語の再履修者用クラスとしてNグループを開講している。

また、クラス名は以下のように表される。

例1 英(X-1), (X-11) … 英語で、Xグループの第1組

(月3・金2の週2回授業がある)

例2 仏(Y-2) … 仏語で、Yグループの第2組(月5・木3・金1の週3回授業がある)

第8表 外国語の開講曜限

	月	火	水	木	金
1			Z		Y
2			X		X
3	X グループ			Y	
4	Z グループ			Z	
5	Y グループ				

7 英語SEE-A・Bの受講クラスについて

1年次の「英語SEE-A・B」の受講クラスは教務部が指定するので、登録手続きの必要はない。ただし、「英語SEE-A」または「英語SEE-B」の単位が修得できなかった場合は、再履修者用に開講されているクラスを自身で登録すること。なお、再履修者用クラスは、1年次用クラスと異なり、InputクラスとOutputクラスが、別の授業コードで開講されているので、両方のクラスを履修すること。登録方法については【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

8 英語の飛び級について

1年次年度末に受験する到達度テスト「CASEC」の成績に応じて、成績上位の者は中級グレードを飛ばして、上級グレードに飛び級する。一度、上級グレードに飛び級すると、単位修得・未修得に関わらず上級グレードのままになるため、翌年度以降も中級グレードを履修することはできない。飛び級をした場合も、卒業、進級に必要な単位数が変わることはないので注意すること。

9 グレードごとの履修パターン

◎外国語ごとの履修パターン例

以下に示したのは一般的な履修パターンである。卒業に必要な単位数を修得した場合など、グレード途中で中断することや科目数を減らして登録することも可能である。卒業に必要な単位数は学科によって異なるため、わからないことがある場合は必ず教務部に相談すること。

A 英語

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	前期	初級	SEE-A (Input)	1	教務部がクラスを指定し事前登録を行う。
			SEE-A (Output)	1	
	後期	初級	SEE-B (Input)	1	
			SEE-B (Output)	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2	前期	中級Ⅰ	中級総合	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級Ⅰ	中級総合	1	
	後期	中級Ⅱ	中級総合	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級Ⅱ	中級総合	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
3・4	前期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	

【飛び級（上記8）により上級に進んだ場合】

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	前期	初級	SEE-A (Input)	1	教務部がクラスを指定し事前登録を行う。
			SEE-A (Output)	1	
	後期	初級	SEE-B (Input)	1	
			SEE-B (Output)	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2~4	前期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	

B 独語・仏語・イタリア語

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	通年	初級	初級	6	教務部がクラスを指定し事前登録を行う。



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2	前期	中級Ⅰ	中級総合	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級Ⅰ	中級総合	1	
	後期	中級Ⅱ	中級総合	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級Ⅱ	中級総合	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
3・4	前期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	

【1年次に中級Ⅰのグレードからスタートする場合 ※イタリア語除く】

(入学試験を独語・仏語で受験した者、または、ある一定の学力(例えば独検・仏検3級程度を有する者は、1年次に‘中級Ⅰ’のグレードからの履修が認められる場合があり、その際は、特例として1年次のみ半期3単位の履修を認める。)

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	前期	中級Ⅰ	中級総合	1	教務部にて特別履修の手続きを行う。
		中級Ⅰ	中級総合	1	
		中級Ⅰ	中級総合	1	
	後期	中級Ⅱ	中級総合	1	教務部にて特別履修の手続きを行う。
		中級Ⅱ	中級総合	1	
		中級Ⅱ	中級総合	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2~4	前期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	

C 中国語

年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
1	通年	初級	初級	6	教務部がクラスを指定し事前登録を行う。



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
2	前期	中級Ⅰ	中級Ⅰ	2	各自がWeb予備申請を行う。
		中級Ⅱ	中級Ⅱ	1	
	後期	中級Ⅱ	中級Ⅱ	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級Ⅱ	中級Ⅱ	1	



年次	学期	グレード	科目名	単位	履修手続き等
3・4	前期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	
	後期	上級	上級	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級	上級	1	

◎学部共通外国語 卒業要件単位を充足するための履修パターン

以下の履修パターンは卒業要件単位を充足するためのものであり、これ以外に外国語を履修しても問題はない。単位の換算などについてわからないことがある場合は、必ず教務部に相談すること。

① 国文・芸術・文化史・マスコミュニケーション学科

●Aパターン：2年次前期に1言語のみを選択し、2年次前期で卒業要件単位を充足するパターン

1年		2年	
前期・後期		前期	
英語SEE-A・B (週2コマ：4単位)		英語・独語・仏語・中国語・イタリア語のうち1年次に選択した言語の中級Ⅰグレードから2単水分選択 (週2コマ：2単位)	
独語・仏語・中国語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (週3コマ：6単位)			
合計	10単位	合計	2単位

●B1パターン：2年次前期に1言語のみを選択し、2年次後期にも同じ言語を選択して卒業要件単位を充足するパターン

1年		2年	
前期・後期		前期	後期
英語SEE-A・B (週2コマ：4単位)		英語・独語・仏語・イタリア語のうち、1年次に選択した言語の中級Ⅰグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)	2年次前期に選択した言語の中級Ⅰグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)
独語・仏語・中国語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (週3コマ：6単位)			
合計	10単位	合計	1単位

- B2パターン：2年次前期に1言語のみを選択し、2年次後期に別の言語を選択して卒業要件単位を充足するパターン

1年	2年	
前期・後期	前 期	後 期
英語SEE-A・B (週2コマ：4単位)	英語・独語・仏語・イタリア語のうち、1年次に選択した言語の中級Iグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)	1年次に初級を修得した言語で、2年次前期に選択した言語以外の中級Iグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)
独語・仏語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (週3コマ：6単位)		中級Iグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)
合計 10単位	合計 1単位	合計 1単位

- Cパターン：2年次前期に2言語を選択し、2年次前期で卒業要件単位を充足するパターン

1年	2年	
前期・後期	前 期	
英語SEE-A・B (週2コマ：4単位)	英語 (中級総合) (週1コマ：1単位)	
独語・仏語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (週3コマ：6単位)	独語・仏語・イタリア語のうち、1年次に選択した言語の中級Iグレードから1科目選択 (週1コマ：1単位)	
合計 10単位	合計 2単位	

② 英文学科

1年	2年	
前期・後期	前 期	後 期
英語SEE-A・B (週2コマ：4単位)	英語 (中級総合) (週2コマ：2単位)	英語 (中級総合) (週2コマ：2単位)
独語・仏語・中国語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (週3コマ：6単位)		
合計 10単位	合計 2単位	合計 2単位

③ ヨーロッパ文化学科

1年	2年		3年
前期・後期	前 期	後 期	前 期
独語 (初級) または仏語 (初級) (週3コマ：6単位)	独語 (中級総合) または仏語 (中級総合) (1年次に選択した言語) (週2コマ：2単位)	独語 (中級総合) または仏語 (中級総合) (1年次に選択した言語) (週2コマ：2単位)	独語 (上級) または仏語 (上級) (1年次に選択した言語) (週2コマ：2単位)
英語・独語・仏語・中国語・イタリア語の初級グレードから1科目選択 (英語 週2コマ：4単位) (その他の言語 週3コマ：6単位)			
合計 10または12単位	合計 2単位	合計 2単位	合計 2単位

注) 1年次に合計12単位修得した場合、そのうちの2単位は自由選択の単位となる。

b その他の外国語

その他の外国語として、古典語、全学共通外国語、ディプロム・コース、エクステンシヴ・リーディングが開講される。これらの科目は一部の科目を除きグレード制をとらないので、自由に履修することができる。

なお、これらの科目はその修得単位のうち、計22単位までを自由選択の単位として卒業要件単位に算入することができる。

1 古 典 語

- ①「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② 反復履修可とし、卒業要件単位に算入することができる。

第9表 古典語配当表 (学年配当：1～4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
ギリシャ語 (初級)	4	ラテン語 (初級)	4
ギリシャ語 (中級)	4	ラテン語 (中級)	4

注) ※印の科目は本年度休講である。

第10表 全学共通外国語配当表(学年配当:1~4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英語リスニング&スピーキング(初級)a	1	独語選択(初級)Ⅱb	1
英語リスニング&スピーキング(初級)b	1	独語選択(中級)a	1
英語リスニング&スピーキング(中級)a	1	独語選択(中級)b	1
英語リスニング&スピーキング(中級)b	1	仏会話選択a	1
英語リスニング&スピーキング(上級)a	1	仏会話選択b	1
英語リスニング&スピーキング(上級)b	1	仏語選択(初級)Ⅰa	1
英語リーディング&ライティング(初級)a	1	仏語選択(初級)Ⅰb	1
英語リーディング&ライティング(初級)b	1	仏語選択(初級)Ⅱa	1
英語リーディング&ライティング(中級)a	1	仏語選択(初級)Ⅱb	1
英語リーディング&ライティング(中級)b	1	仏語選択(中級)a	1
英語リーディング&ライティング(上級)a	1	仏語選択(中級)b	1
英語リーディング&ライティング(上級)b	1	スペイン語選択(初級)a	1
英会話選択a	1	スペイン語選択(初級)b	1
英会話選択b	1	スペイン語選択(中級・ディプロム)a	1
ビジネス英語a	1	スペイン語選択(中級・ディプロム)b	1
ビジネス英語b	1	中国語選択(初級)Ⅰa	1
英文多読a	1	中国語選択(初級)Ⅰb	1
英文多読b	1	中国語選択(初級)Ⅱa	1
Academic Communication a	1	中国語選択(初級)Ⅱb	1
Academic Communication b	1	中国語選択(中級)a	1
独会話選択a	1	中国語選択(中級)b	1
独会話選択b	1	韓国語選択(初級)a	1
独語選択(初級)Ⅰa	1	韓国語選択(初級)b	1
独語選択(初級)Ⅰb	1	韓国語選択(中級・ディプロム)a	1
独語選択(初級)Ⅱa	1	韓国語選択(中級・ディプロム)b	1

〔第10表の注意事項〕

- ① 「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② 同一科目の重複・反復履修はできない。なお、4単位までを卒業要件単位に算入することができる。
- ③ 登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ「特別な履修登録手続きを必要とする授業科目」を必ず参照すること。
- ④ 2018年度から、通年(2単位)で開講していた科目は、前期a(1単位)、後期b(1単位)に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目は履修できない。
(例:2017年度までに「英語リスニング&スピーキング(初級)」の単位を修得している場合、「英語リスニング&スピーキング(初級)a」および「英語リスニング&スピーキング(初級)b」を履修できない。)
- ⑤ 2018年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することができない。

旧 科 目	新 科 目
独語選択(初級)A	独語選択(初級)Ⅰa
	独語選択(初級)Ⅰb
独語選択(初級)B	独語選択(初級)Ⅱa
	独語選択(初級)Ⅱb
仏語選択(初級)A	仏語選択(初級)Ⅰa
	仏語選択(初級)Ⅰb
仏語選択(初級)B	仏語選択(初級)Ⅱa
	仏語選択(初級)Ⅱb
中国語選択(初級)A	中国語選択(初級)Ⅰa
	中国語選択(初級)Ⅰb
中国語選択(初級)B	中国語選択(初級)Ⅱa
	中国語選択(初級)Ⅱb

- ⑥ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目（グレード）	履修の条件 （同一言語において1つ以上の条件を満たすこと）	備考
独語選択（初級）I a・I b・II a・II b 仏語選択（初級）I a・I b・II a・II b 中国語選択（初級）I a・I b・II a・II b	<ul style="list-style-type: none"> 全学生履修可 	教育上の効果を高めるために、I a・I b・II a・II bの同学年での履修を強く勧める。
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	<ul style="list-style-type: none"> 上記「選択（初級）I a」、「選択（初級）I b」、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」の計4単位を修得した者 文芸学部共通外国語の初級グレード（6単位）を修得した者 その他、一定の語学能力があると認められた者 	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかだけの履修も可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択（初級）A」を修得していた場合は、「選択（初級）I a」と「選択（初級）I b」を、「選択（初級）B」を修得していた場合は、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」を修得しているものとみなす。

- ⑦ 2017年度をもって以下の科目は廃講となった。なお、修得した単位はその他の外国語の単位として認められる。

授 業 科 目		
独語選択（上級）a	仏語選択（上級）a	中国語選択（上級）a
独語選択（上級）b	仏語選択（上級）b	中国語選択（上級）b

3 ディプロム・コース

第11表 ディプロム・コース配当表 (学年配当：1～4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
ディプロム・コース中級 (英語) a	1	ディプロム・コース上級 (英語) b	1
ディプロム・コース中級 (独語) a	1	ディプロム・コース中級 (独語) b	1
ディプロム・コース上級 (独語) a	1	ディプロム・コース上級 (独語) b	1
ディプロム・コース中級 (仏語) a	1	ディプロム・コース中級 (仏語) b	1
ディプロム・コース上級 (仏語) a	1	ディプロム・コース上級 (仏語) b	1

注) ※印の科目は本年度休講である。

【到達目標】

- ア) 中級 (英語) : 英検準1級の合格、TOEICで6割以上得点できること。
 イ) 上級 (英語) : 英検1級の合格、TOEICで8割以上得点できること。
 ウ) 中級 (独語・仏語) : 独検・仏検の4～3級の合格。
 エ) 上級 (独語・仏語) : 独検・仏検の (準) 2級～準1級の合格。

【第11表の注意事項】

- ① 「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② 同一言語の同グレード内での重複・反復履修は各科目のA・B合わせて3単位を限度とし、そのうち2単位までを卒業要件単位に算入することができる。
 ※単位修得の例
 ・「ディプロム・コース中級 (独語) A」を2単位、「ディプロム・コース中級 (独語) B」を1単位修得した場合、3単位中2単位が卒業要件単位に算入され、1単位は余剰単位となる。
 ・「ディプロム・コース中級 (仏語) A」を2単位、「ディプロム・コース上級 (仏語) A」を2単位修得した場合、4単位とも卒業要件単位に算入される。
 ・「ディプロム・コース中級 (独語) A」を3単位、「ディプロム・コース中級 (仏語) A」を3単位修得した場合、6単位中4単位が卒業要件単位に算入され、2単位は余剰単位となる。
- ③ 本コースはグレードを問わず履修することができるので、履修に際しては、上記の到達目標を参考にすること。
- ④ 登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ⑤ 2018年度に以下のように科目の名称が変更された。上記の注意事項②については、旧科目の単位を修得している場合、新科目の単位を修得済みであるとみなされる。

旧 科 目	新 科 目
ディプロム・コース中級 (英語) A	ディプロム・コース中級 (英語) a
ディプロム・コース上級 (英語) B	ディプロム・コース上級 (英語) b
ディプロム・コース中級 (独語) A	ディプロム・コース中級 (独語) a
ディプロム・コース中級 (独語) B	ディプロム・コース中級 (独語) b
ディプロム・コース上級 (独語) A	ディプロム・コース上級 (独語) a
ディプロム・コース上級 (独語) B	ディプロム・コース上級 (独語) b
ディプロム・コース中級 (仏語) A	ディプロム・コース中級 (仏語) a
ディプロム・コース中級 (仏語) B	ディプロム・コース中級 (仏語) b
ディプロム・コース上級 (仏語) A	ディプロム・コース上級 (仏語) a
ディプロム・コース上級 (仏語) B	ディプロム・コース上級 (仏語) b

4 エクステンシヴ・リーディング

第12表 エクステンシヴ・リーディング配当表 (学年配当：1～4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英語エクステンシヴ・リーディングA	1	英語エクステンシヴ・リーディングB	1

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第12表の注意事項】

- ① 「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② A/B それぞれ3単位を限度に重複・反復履修でき、そのうちそれぞれ2単位までを卒業要件単位に算入することができる。
- ③ 登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

5 自由科目

- ① 自由科目は、実技・実習科目、講義科目および社会調査士資格科目に分かれる。
- ② これらの科目はその修得単位のうち、**計4単位までを自由選択の単位として卒業要件単位に算入することができる。**

a 実技・実習科目

1 スポーツ・ウエルネス実技

半期開講あるいは集中で行われる1種目1単位の科目であり、その種目およびコースは第13表のとおりである。

第13表 スポーツ・ウエルネス実技種目表（学年配当：1～4年次）

コース	種 目	系 列
定時コース (半期1単位)	※オルタナティブスポーツ 卓球 バレーボール ゴルフ テニス フットサル サッカー&フットサル バasketボール ソフトボール バドミントン	スポーツ文化
集中コース(1単位)	※サイクル・スポーツ スキー	
定時コース (半期1単位)	アクアエクササイズ ※トレーニング エアロビクス&コンディショニング フィットネス エアロビクス&ピラティス ヨガ&ピラティス コンディショニング レクリエーション・スポーツ 水泳	ウエルネス文化
	剣道(古武道) ダンスパフォーマンス	身体表現文化

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第13表の注意事項】

- ① 一度単位を修得した種目を反復履修することや重複履修することもできる。
- ② スポーツ・ウエルネス実技科目の登録方法については、【[授業に関すること](#)Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。
- ⑤ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑥ 教員免許の取得を希望する者は、スポーツ・ウエルネス実技科目2単位を修得しなければならない。

2 海外短期語学研修・海外短期研修

第14表のとおり「海外短期語学研修」、「海外短期研修」を開設する。一度単位の認定を受けた科目を反復履修することや、重複履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのは2単位までである。

第14表 海外短期語学研修・海外短期研修科目配当表

授 業 科 目	学年配当	単 位	備 考
海外短期語学研修（英語・春季）	*	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、 【 授業に関すること 】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（独語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（仏語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	1～4	1	
海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2	

注1) ※印の科目は本年度休講である。

注2) 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

【第14表の注意事項】

- ① 海外短期語学研修、海外短期研修の登録方法については【[授業に関すること](#)】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ② 「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【1単位】」と「海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2単位】」は、セットで履修することになっている。
- ③ 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。
研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
- ④ やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
- ⑤ 海外短期語学研修および海外短期研修の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば、「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

3 日 本 語

「日本語A」、「日本語B」は交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。

b 講義科目

1 講義科目 第15表のとおり、講義科目を開設する。

第15表 講義科目配当表【2016年度入学者】

	単位	学年配当	備 考
統計学	4	2~4	
コンピュータ・リテラシーA1	2	1~4	全学共通教育科目
コンピュータ・リテラシーA2	2	1~4	
コンピュータ・リテラシーB	2	1~4	
※コンピュータ・リテラシーC	2	1~4	
コンピュータ・リテラシーD	2	1~4	
コンピュータ・リテラシーE	2	1~4	
※図書館活用法	2	1~4	
【キャリアデザイン科目】(第16表参照)	2	—	
【スポーツ・ウエルネス講義・演習科目】(第17表参照)	2	1~4	
外国文化I	4	2~4	他学部開設科目 (経済学部開設科目)
外国文化II A	4	2~4	
外国文化III A	4	2~4	
外国文化IV A	4	2~4	
※現代社会とスポーツ	2	2~4	
※スポーツ産業論	2	2~4	
心理学	4	2~4	
数学I	4	2~4	
数学II	4	2~4	
※政治経済論入門I	2	2~4	
※政治経済論入門II	2	2~4	
ヨーロッパ文化史	4	2~4	他学部開設科目 (法学部開設科目)
アメリカ文化史	4	2~4	
日本文学	4	2~4	
外国文学	4	2~4	
※エコロジー論	4	2~4	他学部開設科目 (社会イノベーション学部 開設科目)
文明と社会	4	2~4	
家族と社会の変動	4	2~4	
短期学外演習〈自然〉	2	2~4	

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第15表の注意事項】

- ① 全学共通教育科目の詳しい説明は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。なお、全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ② **マスコミュニケーション学科を除き、1年次に「コンピュータ・リテラシーA1・A2」を履修することが望ましい。**なお、「コンピュータ・リテラシー」のA1とA2はセットで履修することになっている。
- ③ 他学部開設科目は1年間で8単位まで履修できる。
- ④ 他学部開設科目は履修登録締切日が通常の日程とは異なる。詳細については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ⑤ 2017年度をもって、「経営統計学」は廃講となった。なお、すでに単位を修得している場合は共通科目自由科目の単位として認められる。

第15表 講義科目配当表【2015年度入学者】

	単位	学年配当	備 考
統 計 学	4	2～4	
コンピュータ・リテラシー A1	2	1～4	全学共通教育科目
コンピュータ・リテラシー A2	2	1～4	
コンピュータ・リテラシー B	2	1～4	
※コンピュータ・リテラシー C	2	1～4	
コンピュータ・リテラシー D	2	1～4	
コンピュータ・リテラシー E	2	1～4	
※図書館活用法	2	1～4	
【キャリアデザイン科目】(第16表参照)	2	—	
【スポーツ・ウエルネス講義・演習科目】 (第17表参照)	2	1～4	
外国文化 I	4	1～4	オープン科目 (経済学部開設科目)
外国文化 II A	4	1～4	
外国文化 III A	4	1～4	
外国文化 IV A	4	1～4	
※現代社会とスポーツ	2	1～4	
※スポーツ産業論	2	1～4	

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第15表の注意事項】

- ① 全学共通教育科目の詳しい説明は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。なお、全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ② マスコミュニケーション学科を除き、1年次に「コンピュータ・リテラシー A1・A2」を履修することが望ましい。なお、「コンピュータ・リテラシー」のA1とA2はセットで履修することになっている。
- ③ オープン科目とは、本学の各学部が開設している授業科目のうち、所属する学部の枠にとられず履修することができる授業科目である。
- ④ 2017年度をもって、「経営統計学」は廃講となった。なお、すでに単位を修得している場合は共通科目自由科目の単位として認められる。

2 キャリア デザイン科目

第16表のとおり、キャリアデザイン科目を開設する。

第16表 キャリアデザイン科目配当表

授 業 科 目	単 位	学 年 配 当	授 業 科 目	単 位	学 年 配 当
☆キャリア形成概論Ⅰ	2	1・2	職 業 選 択 論	2	2～4
☆キャリア形成概論Ⅱ	2	1・2	※グローバルビジネス論	2	3・4
スタート・プログラムⅠ（ホスピタリティとサービス）	2	1・2	チャレンジ・プログラム	2	3・4
スタート・プログラムⅡ（企業観察）	2	1・2	時 事 英 語 Ⅰ	2	1～4
スタート・プログラムⅢ（企業との協働）	2	1・2	時 事 英 語 Ⅱ	2	1～4
ワークライフバランス論	2	2～4	時事問題研究	2	2～4
※キャリアモデル・ケーススタディ	2	2～4	※就業力実践Ⅰ	2	2～4
アドバンス・プログラム	2	2・3	※就業力実践Ⅱ	2	2～4
業界企業分析論	2	2～4	※就業力実践Ⅲ	2	2～4

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

〔第16表の注意事項〕

- ① キャリアデザイン科目の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、4単位を限度として自由科目の卒業要件単位に算入することができる。
 - ② 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」（2科目4単位）の単位の修得が履修の条件となる。
 - ③ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」のうち、修得できる単位数は、1科目2単位までとする。
 - ④ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は、3年次以降は履修することができない。
 - ⑤ 「チャレンジ・プログラム」の受講を希望する学生は、履修登録前にキャリアセンターへ申し出ること。
 - ⑥ キャリアデザイン科目は、特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
 - ⑦ キャリアデザイン科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【全学共通教育科目】Eキャリアデザイン科目群】の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅳ-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数】を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。

3 スポーツ・
ウエルネス
講義・演習科目

第17表のとおり、スポーツ・ウエルネス講義・演習科目を開設する。

第17表 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目配当表（学年配当：1～4年次）

系列	授業科目	単位
スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉	2
	※スポーツ・スタディーズⅡ	2
	スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉	2
	※スポーツ・スタディーズⅣ	2
ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	2
身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉	2
	身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉	2
	身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉	2
	身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

〔第17表の注意事項〕

- ① スポーツ・ウエルネス講義・演習科目は、特別な履修登録手続きが必要となるので、
【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ② スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または、指定された教室でガイダンスを行う。

c 社会調査士資格科目

〔社会調査士資格科目の注意事項〕

- ① 「社会調査の設計と実施方法」および「社会調査における資料・データ分析の基本」は2017年度をもって廃講となった。なお、2017年度までに修得した単位は自由科目の単位として認められる。
- ② 社会調査士資格を取得するために必要な科目の詳細については、【社会調査士資格】の項（p.211）に記載されている。

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅳ-1共通科目履修方法】）を参照すること。
- ・教職関連随意科目
 - ・教職課程における教職に関する科目
 - ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

- ① 「素読Ⅰ～Ⅳ」は、国文学科1年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。
- ② 「ゼミナール(3)・(4)」
 3・4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

- ① 選択に当たっては、一つの分野にかたよらず、幅広く学修することが望ましい。
- ② 「近代国文学会読」のⅠとⅢ、ⅡとⅣは同時に履修することはできない。
- ③ 会読科目は年度をかえて同一名称科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は、卒業要件単位に算入することはできない。
- ④ 会読科目の選択に当たっては、可能な限り志望するゼミナールを視野に入れて選択すること。
- ⑤ 会読科目は、2年次で8単位以上、3年次で4単位以上履修すること。
- ⑥ 会読科目は、留学などの特別な理由がない限り、ⅠとⅡ、ⅢとⅣを通年で履修することを原則とする。
- ⑦ 実習科目については、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする科目を参照すること。
- ⑧ 講義科目のうち国語国文学講義Ⅰ～Ⅹは、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は、卒業要件単位に算入することはできない。
- ⑨ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（会読科目12単位、実習科目2単位、講義科目12単位、計26単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

4 進級基準

- ① 2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は、3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRDⅠ	2単位	}	計12単位
	WRDⅡ	2単位		
2. 学科科目	素読Ⅰ	2単位		
	素読Ⅱ	2単位		
	素読Ⅲ	2単位		
	素読Ⅳ	2単位		

- ※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

- ② 3年次から4年次へ進級するためには、3年次終了までに、次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は3年次原級とし、原級者は4年次に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 必修	ゼミナール(3)	4単位	}	計36単位
2. 選択	会読科目のうち4科目	8単位		
3. 卒業に必要な単位		24単位		

(前項①の単位[12単位]は含まない)

5 ゼミナール

ゼミナールは、おおむね時代別、主題別に編成され、古代、中古、中世、近世、近代、国語学、漢文学の7つの分野からなる。ゼミナールの主な目的は、卒業論文制作に備え、研究法の修得、文学史的基礎知識の学習、解釈・考証・調査等の手続きを学ぶことにあるので、学生は卒業論文のテーマにふさわしい指導を受けられるゼミナールを選ぶこと。テーマによっては、必ずしも各々の時代や分野にとらわれない選択も可能である。ただし、2年次に志望するゼミナールの分野の会読もしくは講義を1科目以上履修しておくことが望ましい。

第19表 英文学科授業科目配当表

授業科目		学年 (単位)	I	II	III	IV	計
必修	英語学基礎ゼミナール	(4)	4				4
	英語文学基礎ゼミナール	(4)	4				4
	英語文化基礎ゼミナール	(4)	4				4
	ゼミナール(3)	(4)			4		4
	ゼミナール(4)	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
必修合計			12		4	12	28
選択	アカデミック・ベイシックス科目	英語学アカデミック・ベイシックスIa	(2)		12		20
		英語学アカデミック・ベイシックスIb	(2)				
		英語学アカデミック・ベイシックスIIa	(2)				
		英語学アカデミック・ベイシックスIIb	(2)				
		英語文学アカデミック・ベイシックスIa	(2)				
		英語文学アカデミック・ベイシックスIb	(2)				
		英語文学アカデミック・ベイシックスIIa	(2)				
		英語文学アカデミック・ベイシックスIIb	(2)				
		英語文学アカデミック・ベイシックスIIIa	(2)				
		英語文学アカデミック・ベイシックスIIIb	(2)				
	アカデミック・プラクティス科目	英語学アカデミック・プラクティスIa	(2)		8		
		英語学アカデミック・プラクティスIb	(2)				
		英語文学アカデミック・プラクティスIa	(2)				
		英語文学アカデミック・プラクティスIb	(2)				
		英語文学アカデミック・プラクティスIIa	(2)				
		英語文学アカデミック・プラクティスIIb	(2)				
		英語文学アカデミック・プラクティスIIIa	(2)				
		英語文学アカデミック・プラクティスIIIb	(2)				
		英語文学アカデミック・プラクティスIVa	(2)				
		英語文学アカデミック・プラクティスIVb	(2)				
クリエイティブ・プラクティス科目	英語学クリエイティブ・プラクティスA	(2)		4			
	英語学クリエイティブ・プラクティスB	(2)					
	英語文学クリエイティブ・プラクティスA	(2)					
	英語文学クリエイティブ・プラクティスB	(2)					
	英語文化クリエイティブ・プラクティスA	(2)					
	英語文化クリエイティブ・プラクティスB	(2)					
一般講義科目	英語学概論	(4)		4		4	
	英語文学史	(4)				4	
特殊講義科目	英語学特殊講義A	(2)		4			
	英語学特殊講義B	(2)					
	英語文学特殊講義A	(2)					
	英語文学特殊講義B	(2)					
	英語文化特殊講義A	(2)					
	英語文化特殊講義B	(2)					
自由	英語コミュニケーションI	(2)		[6]			
	英語コミュニケーションII	(2)					
	英語コミュニケーションIIIa	(1)					
	英語コミュニケーションIIIb	(1)					
選択・自由合計						32	
総計						60	

注) ※印の科目は本年度休講である。

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
 また、2年次前期に「英語（中級総合）〈飛び級の場合は英語（上級）〉」を履修する者は、後期に「英語（中級総合）〈飛び級の場合は英語（上級）〉」（2単位）を履修できるよう、前期履修登録時に履修可能な単位数を47単位に設定してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅲ-1共通科目履修方法】）を参照すること。
- ・教職関連随意科目
 - ・教職課程における教職に関する科目
 - ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

- ① 1年次では次の3科目が必修である。
- ・英語学基礎ゼミナール
 - ・英語文学基礎ゼミナール
 - ・英語文化基礎ゼミナール
- 上記3科目は、英文学科1年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。
- ② 「ゼミナール（3）・（4）」
 3・4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

- ① アカデミック・ベイシックス科目の履修について
2年次では12単位を上限として履修すること。
- ② 選択科目は年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
- ③ アカデミック・ベイシックス科目、アカデミック・プラクティス科目、クリエイティブ・プラクティス科目については、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法は、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ④ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（アカデミック・ベイシックス科目12単位、アカデミック・プラクティス科目8単位、クリエイティブ・プラクティス科目4単位、一般講義科目4単位、特殊講義科目4単位、計32単位）を超えて単位を修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

4 自由科目

- ① 自由科目の修得単位は自由選択として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 教員免許の取得を希望する者は、この6単位を必修とする。この6単位は卒業要件単位にも算入することができる。教員免許の取得に係る教職課程の履修については【教職課程】をよく読むこと。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRDⅠ	2単位
	WRDⅡ	2単位
	英語	6単位
2. 学科科目	必修 英語学基礎ゼミナール	4単位
	英語文学基礎ゼミナール	4単位
	英語文化基礎ゼミナール	4単位
	計	22単位

- ※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**28単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

6 ゼミナール

ゼミナールは、おおまかに分けると英語学、英語文学、英語文化の三本柱で構成されている。それぞれの分野は、時代・主題別にさらに細かく多岐に分かれている。ゼミナールにおいては、卒業論文の完成にむけての指導が行われるが、その指導法はゼミナール担当者によって異なる。各ゼミナールの定員は年度により多少の増減はあるが、原則として12名。希望者数が定員を超えた場合、TOEICのスコア等を用いて選考が行われる。

7 TOEIC試験

〈対象学生〉

本学科では下記の学生にTOEIC受験を義務づけている。

- ① 1年次・2年次・3年次全員（3年次終了時までに6回以上受験すること）
- ② 英文学科を副専攻とする者（3年次終了時までに4回以上受験すること）

〈実施日〉

第1回 7月7日（土）9：30～12：00

第2回 12月1日（土）9：30～12：00

※ TOEICのスコアは共用研究室で全て管理し、ゼミ選考等で重要な資料となるので毎回必ず受験すること。

※ TOEICは必修科目の授業内で目標点が表示される。

※ 目標点に達しない場合は、個別に指導がなされるので注意すること。

※ やむを得ない理由により、学内試験を受験できない者は、学外試験を受験しなければならない。その場合は必ず共用研究室で指示を受けること。

8 外国語科目 (英語)の履修に ついて

- ① 必修である英語「中級総合」（飛び級の場合、「上級」）4単位のうち、「中級」〈Academic Writing〉（飛び級の場合、「上級」〈Academic Writing〉）を少なくとも1単位分履修し、単位を修得することが望ましい。
- ② 教職に関する科目「英語科教育法」受講者は、3年次終了時までに、「上級」〈Academic Writing〉を履修し、単位を修得することが望ましい。

9 早期卒業制度

英文学科3年次生で、下記の応募資格および卒業資格の認定基準を満たした者には、3年次終了時に大学の卒業資格が与えられる。

〈応募資格〉

- ① 2018年4月1日時点で大学に2年間以上在籍し、現在3年次に在学し、修得した卒業要件となる全科目の中で「優」以上の成績が2年次終了時に全体の80%以上であること。
また、卒業要件単位126単位中84単位以上修得していること。
なお、休学期間は在籍年数に含めない。
- ② 3年次終了時までに卒業に必要な単位を修得見込であること。
なお、「ゼミナール（4）」および「卒業論文」は以下のように取扱う。
 - 「ゼミナール（4）」（4単位）
「ゼミナール（4）」は、早期卒業制度申請者用のものを履修すること。
 - 「卒業論文」（8単位）
3年次の12月に「卒業論文」を提出すること（「卒業論文」の提出要領は、4年次の提出要領に従う）。

〈出願手続〉

希望者は、3年次の開講日から4月18日（水）16：30までに「早期卒業制度申請書」を教務部に提出すること。

なお、「早期卒業制度申請書」は、教授会で審議の上、正式に受理される。

〈卒業資格の認定基準〉

- ① 3年次終了時までに卒業に必要な単位を修得し、その修得した全科目の中で「優」以上の成績が全体の80%以上であること。
- ② 3年次の12月20日（木）16：30までに「卒業論文」を提出していること。

〈合格発表〉

「早期卒業制度」合格者は、教授会の審議の上決定し、3月中旬に、1号館文芸学部掲示板にて発表する。

※ 本制度を申請した者が、本制度に基づく履修の継続を希望しない場合は、後期開講日までに取り消しを願い出ることができる。その場合は、取り消しの理由を明確にし、「早期卒業制度辞退願」（A4判、書式自由）を教務部に速やかに提出すること。

第20表 芸術学科授業科目配当表

授業科目		学年 (単位)	I	II	III	IV	計
必修	美学・芸術学入門a	(2)	2				2
	美学・芸術学入門b	(2)	2				2
	美術史入門a	(2)	2				2
	美術史入門b	(2)	2				2
	芸術学基礎演習	(2)	2				2
	美術史基礎演習	(2)	2				2
	芸術学・美術史実習a	(1)		1			1
	芸術学・美術史実習b	(1)		1			1
	ゼミ	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
必修合計			12	2		12	26
選択	演習科目	原典演習a	(2)				
		原典演習b	(2)				
		同時代芸術演習a	(2)				
		同時代芸術演習b	(2)				
		美学演習a	(2)				
		美学演習b	(2)				
		音楽学演習a	(2)				
		音楽学演習b	(2)				
		演劇学演習a	(2)				
		演劇学演習b	(2)				
		映画学演習a	(2)			12	
		映画学演習b	(2)			12	
	日本美術史演習a	(2)					
	日本美術史演習b	(2)					
	東洋美術史演習a	(2)					
	東洋美術史演習b	(2)					
	西洋美術史演習Ia	(2)					
	西洋美術史演習Ib	(2)					
	西洋美術史演習IIa	(2)					
	西洋美術史演習IIb	(2)					
講義科目	美学一般講義a	(2)					
	美学一般講義b	(2)					
	音楽学一般講義a	(2)					
	音楽学一般講義b	(2)					
	演劇学一般講義a	(2)					
	演劇学一般講義b	(2)					
	映画学一般講義a	(2)					
	映画学一般講義b	(2)					
	日本美術史一般講義a	(2)			16		
	日本美術史一般講義b	(2)			16		
	東洋美術史一般講義a	(2)					
	東洋美術史一般講義b	(2)					
西洋美術史一般講義Ia	(2)						
西洋美術史一般講義Ib	(2)						
西洋美術史一般講義IIa	(2)						
西洋美術史一般講義IIb	(2)						
特殊講義科目	美学特殊講義I	(2)					
	美学特殊講義II	(2)					
	芸術学特殊講義I	(2)					
	芸術学特殊講義II	(2)					
	芸術学特殊講義III	(2)					
	芸術学特殊講義IV	(2)					
	芸術学特殊講義V	(2)			4		
	美術史特殊講義I	(2)					
	美術史特殊講義II	(2)					
	美術史特殊講義III	(2)					
美術史特殊講義IV	(2)						
美術史特殊講義V	(2)						
選択合計						32	
総計						58	

注) ※印の科目は本年度休講である。

芸術学科は、美学・芸術学および美術史を総合的に学び、さらに各専門分野に分かれて研究するカリキュラムを立てているので、受講科目の選択に当たっては一つの分野にかたよらず、幅広く学修することが望ましい。

1 履修科目登録 上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅲ-1共通科目履修方法】）を参照すること。
- ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

「芸術学基礎演習」および「美術史基礎演習」は、芸術学科1年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。

3 選択科目

- ① 演習科目および特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
- ② 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（演習科目12単位、講義科目16単位、特殊講義科目4単位、計32単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

4 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	
WRDⅠ	2単位
WRDⅡ	2単位
2. 学科科目	
必修	
美学・芸術学入門a	2単位
美学・芸術学入門b	2単位
美術史入門a	2単位
美術史入門b	2単位
芸術学基礎演習	2単位
美術史基礎演習	2単位
計	16単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

5 ゼミナール

ゼミナールは、美学、音楽学、演劇学、映画学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史Ⅰ、西洋美術史Ⅱの8つに分かれ、主として卒業論文の個別的な指導が行われる。

第21表 文化史学科授業科目配当表

授業科目		学年 (単位)	I	II	III	IV	計						
必修	ゼミナール(3)	(4)			4		4						
	ゼミナール(4)	(4)				4	4						
	必修合計	(8)			4	12	16						
選択	概論科目	文化史概論 Ia	(2)	4									
		文化史概論 Ib	(2)										
		文化史概論 IIa	(2)										
		文化史概論 IIb	(2)										
		文化史概論 IIIa	(2)										
演習科目	演習科目	文化史基礎演習 I	(4)	8									
		文化史基礎演習 II	(4)										
		文化史基礎演習 III	(4)										
		文化史演習 Ia	(2)										
		文化史演習 Ib	(2)										
		文化史演習 IIa	(2)										
		文化史演習 IIb	(2)										
		文化史演習 IIIa	(2)										
		文化史演習 IIIb	(2)										
		文化史演習 IVa	(2)										
		文化史演習 IVb	(2)										
実習科目	実習科目	文化史実習 I	(2)	2									
		文化史実習 II	(2)										
		文化史実習 III	(2)										
択	講義科目	文化史特別講義 Ia	(2)	12	12		24						
		文化史特別講義 Ib	(2)										
		文化史特別講義 IIa	(2)										
		文化史特別講義 IIb	(2)										
		文化史特別講義 IIIa	(2)										
		文化史特別講義 IIIb	(2)										
		文化史特別講義 IVa	(2)										
		文化史特別講義 IVb	(2)										
		文化史特別講義 Ia	(2)										
		文化史特別講義 Ib	(2)										
		文化史特別講義 IIa	(2)										
		文化史特別講義 IIb	(2)										
		文化史特別講義 IIIa	(2)										
		文化史特別講義 IIIb	(2)										
		文化史特別講義 IVa	(2)										
		文化史特別講義 IVb	(2)										
		文化史特別講義 Ia	(2)										
		文化史特別講義 Ib	(2)										
		文化史特別講義 IIa	(2)										
		文化史特別講義 IIb	(2)										
		文化史特別講義 IIIa	(2)										
		文化史特別講義 IIIb	(2)										
		自由	自由					日本文化史 a	(2)	}	(8)		
								日本文化史 b	(2)				
日本文化史 a	(2)												
日本文化史 b	(2)												
日本文化史 a	(2)												
日本文化史 b	(2)												
日本文化史 a	(2)												
日本文化史 b	(2)												
日本文化史 a	(2)												
日本文化史 b	(2)												
日本文化史 a	(2)												
日本文化史 b	(2)												
日本文化史 a	(2)												
日本文化史 b	(2)												
教職関連随意科目	教職関連随意科目	政治学(2年)	(4)	卒業要件単位としては認められず、 余剰単位の取扱いとなる。			-						
		国際政治学(2年)	(4)										
		経済学(2年)	(4)										
		外国史概論(2年)	(4)										
		公共経済学(3・4年)	(4)										
		国際公共学(3・4年)	(2)										
		国際公共学(3・4年)	(2)										
		国際公共学(3・4年)	(2)										
		国際公共学(3・4年)	(2)										
		国際公共学(3・4年)	(2)										
選択・自由・随意合計					46								
総計					62								

注) ※印の科目は本年度休講である。

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅳ】-1共通科目履修方法）を参照すること。
- ・教職関連随意科目
 - ・教職課程における教職に関する科目
 - ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

「ゼミナール(3)・(4)」
 3・4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

- ① 2年次および3年次で、演習科目はそれぞれ4単位、講義科目はそれぞれ12単位以上履修すること。また、これらの科目は、a(前期)・b(後期)を続けて履修することが望ましい。
- ② **基礎演習科目を除く演習科目および講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。**
- ③ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。また、選択科目の規定単位数を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

4 自由科目

- ① **自由科目の修得単位のうち、8単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。また、これらの科目は、a(前期)・b(後期)を続けて履修することが望ましい。**
- ② 下記教科の教員免許の取得を希望する者は、次に示す授業科目が必修となる。この場合も8単位まで卒業要件単位に算入することができる。
- 社 会 科…日本史概説a・b、地理学講義a・b、地誌学a・b
 地理歴史科…日本史概説a・b、地理学講義a・b、地誌学a・b、人文地理学a・b

5 教職関連
随意科目

教職関連随意科目は、教職課程を登録した者が「教科に関する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者、また他学科の学生もそれぞれ随意科目としてこれらの科目を履修することができる。

ただし、教職課程登録の如何を問わず、また学科を問わず、修得した単位は卒業要件単位としては認められない(余剰単位の取扱いとなる)。

なお、教員免許の取得に係る教職課程の履修については【**教職課程**】を参照すること。

また、教職関連随意科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【**教職課程**Ⅰ】教職課程 4 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

6 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRDⅠ	2単位
	WRDⅡ	2単位
2. 学科科目	文化史概論Ⅰa・b～Ⅲa・bのうち	4単位
	文化史基礎演習Ⅰ～Ⅲのうち	8単位
	計	16単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**30単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

7 ゼミナール

どのゼミナールを選択するかは、ひとえに学生諸君の学問的関心にある。本学科のゼミナールの構成は歴史学、民俗学、文化人類学とバラエティに富んでいる。2年次に、ゼミナールを選択するためのガイダンスが開催されるので、ゼミナールの選択に際しては、それぞれの担当者の専門領域等を確認して決めること。

また日本史では、古文書や漢文が読めることが望ましい。民俗学では、実地調査を行うことが多い。文化人類学では、英語の論文を読めることが望ましい。

E マスコミュニケーション学科

第22表 マスコミュニケーション学科授業科目配当表

授業科目		学年 (単位)	I	II	III	IV	計	
必修	マスコミデータ解析実習 I	(2)	2				2	
	マスコミデータ解析実習 II	(2)	2				2	
	マスコミ基礎演習 I	(2)		2			2	
	マスコミ基礎演習 II	(2)		2			2	
	マスコミ演習 a	(2)			2		2	
	マスコミ演習 b	(2)			2		2	
	ゼミナール	(4)				4	4	
	卒業論文	(8)				8	8	
必修合計			4	4	4	12	24	
選択	実習科目	マスコミ実習 I	(1)					
		マスコミ実習 II	(1)					
		マスコミ実習 III	(1)			2		
		マスコミ実習 IV	(1)					
		マスコミ実習 V	(2)					
		マスコミ実習 VI	(2)					
	講義科目	I 群	マスコミ原論	(2)				
			マスコミ史	(2)				
			ジャーナリズム論	(2)				
			リスクコミュニケーション論	(2)	10			
			社会心理学	(2)				
			広告心理学	(2)				
		マスコミ研究法	(2)					
		II 群	※マスコミ講義 I	(2)				
			※マスコミ講義 II	(2)				
			※マスコミ講義 III	(2)				
			マスコミ講義 IV	(2)				
			マスコミ講義 V	(2)				
			※マスコミ講義 VI	(2)				
			マスコミ講義 VII	(2)				
マスコミ講義 VIII	(2)							
マスコミ講義 IX	(2)							
※コミュニケーション講義 I	(2)							
コミュニケーション講義 II	(2)							
※コミュニケーション講義 III	(2)							
コミュニケーション講義 IV	(2)			26				
※コミュニケーション講義 V	(2)							
コミュニケーション講義 VI	(2)							
※コミュニケーション講義 VII	(2)							
コミュニケーション講義 VIII	(2)							
コミュニケーション講義 IX	(2)							
マスコミ特殊講義 I	(2)							
マスコミ特殊講義 II	(2)							
マスコミ特殊講義 III	(2)							
マスコミ特殊講義 IV	(2)							
マスコミ特殊講義 V	(2)							
マスコミ特殊講義 VI	(2)							
自由	映像コミュニケーション	(2)			(2)			
選択・自由合計						38		
総計						62		

注) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

2015・2016年度入学者用

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生および「マスコミデータ解析実習Ⅱ」の単位未修得者は、後期に「マスコミデータ解析実習Ⅱ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅳ-1共通科目履修方法】）を参照すること。
- 学芸員課程における必修科目
 - キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - 国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

- ① 「マスコミデータ解析実習Ⅰ・Ⅱ」は、いずれも講義と実習からなる週2回の授業である。Ⅰ・Ⅱとも実習は、3クラスずつ分けて開講する。
 なお、マスコミュニケーション学科の学生（再履修者含む）のみ事前登録を行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること（マスコミデータ解析実習Ⅱのクラス分けは、後期開講前に行われる）。他学科の学生が履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。
- ② 「マスコミ基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「マスコミ演習a・b」および「ゼミナール」はそれぞれ履修前年度の後期に小論文を提出し、それをもとに学科で所属を決定する。小論文の枚数・締切期日等は別途掲示する。

3 選択科目

- ① 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（実習科目2単位、講義科目36単位、計38単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「マスコミ実習」については、「Ⅰ～Ⅵ」のうち最低2単位を修得しなければならない。なお、使用機材等の関係上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ 「マスコミ実習Ⅴ」および「マスコミ実習Ⅵ」をマスコミュニケーション学科以外の学生が履修する場合は、「マスコミデータ解析実習Ⅰ・Ⅱ」を修得していることが条件となる。詳しくは当該科目のシラバスを参照のこと。
- ④ 講義科目のうち、講義科目Ⅰ群の規定単位数（10単位）を超えて修得した場合、講義科目Ⅱ群の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。
- ⑤ 講義科目のうち特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。

4 自由科目

- ① 「映像コミュニケーション」の修得単位は、自由選択として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「映像コミュニケーション」は、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRDⅠ	2単位
	WRDⅡ	2単位
2. 学科科目	マスコミデータ解析実習Ⅰ	2単位
	マスコミデータ解析実習Ⅱ	2単位
3. 上記8単位のほか、卒業要件単位に算入される単位		32単位
	計	40単位

第23表 ヨーロッパ文化学科授業科目配当表

授業科目		学年 (単位)	I	II	III	IV	計
必修	ヨーロッパの文化	(4)	4				4
	ヨーロッパ文化実習 I	(1)	1				1
	ヨーロッパ文化実習 IIa	(1)		1			1
	ヨーロッパ文化実習 IIb	(1)		1			1
	独(仏)文法実習a	(1)		1			1
	独(仏)文法実習b	(1)		1			1
	独ミナール(3)	(4)			4		4
	独ミナール(4)	(4)				4	4
卒業論文	(8)					8	
必修合計			5	4	4	12	25
演習科目	言語学演習 a	(2)					
	言語学演習 b	(2)					
	ヨーロッパの思想演習 Ia (独)	(2)					
	ヨーロッパの思想演習 Ib (独)	(2)					
	ヨーロッパの思想演習 IIa (仏)	(2)					
	ヨーロッパの思想演習 IIb (仏)	(2)					
	ヨーロッパの歴史演習 Ia (独)	(2)					
	ヨーロッパの歴史演習 Ib (独)	(2)					
	ヨーロッパの歴史演習 IIa (仏)	(2)					
	ヨーロッパの歴史演習 IIb (仏)	(2)					
	独語独文学演習 a	(2)					
	独語独文学演習 b	(2)					
	比較文化演習 a	(2)			16		16
	比較文化演習 b	(2)					
	現代ドイツ事情演習 a	(2)					
	現代ドイツ事情演習 b	(2)					
	仏語仏文学演習 a	(2)					
	仏語仏文学演習 b	(2)					
	現代フランス事情演習 a	(2)					
	現代フランス事情演習 b	(2)					
広域芸術論演習 Ia	(2)						
※広域芸術論演習 Ib	(2)						
※広域芸術論演習 IIa	(2)						
※広域芸術論演習 IIb	(2)						
実習科目	独語コミュニケーション I	(2)					
	独語コミュニケーション II	(2)					
	独語コミュニケーション III	(2)					
	独語コミュニケーション IV	(2)					
	仏語コミュニケーション I	(2)			4		4
	仏語コミュニケーション II	(2)					
	仏語コミュニケーション III	(2)					
	仏語コミュニケーション IV	(2)					
講義科目	ヨーロッパの思想講義 I (独)	(2)					
	ヨーロッパの思想講義 II (仏)	(2)					
	ヨーロッパの歴史講義 I (独)	(2)					
	ヨーロッパの歴史講義 II (仏)	(2)					
	ヨーロッパの文学講義 I (独)	(2)	4				4
	ヨーロッパの文学講義 II (仏)	(2)					
特殊講義科目	西洋古典特殊講義 a	(2)					
	西洋古典特殊講義 b	(2)					
	ヨーロッパの言語特殊講義 Ia (独)	(2)					
	ヨーロッパの言語特殊講義 Ib (独)	(2)					
	※ヨーロッパの言語特殊講義 IIa (仏)	(2)					
	※ヨーロッパの言語特殊講義 IIb (仏)	(2)					
	ヨーロッパの思想特殊講義 I (独)	(2)					
	ヨーロッパの思想特殊講義 II (仏)	(2)			8		8
	ヨーロッパの歴史特殊講義 Ia (独)	(2)					
	ヨーロッパの歴史特殊講義 Ib (独)	(2)					
	ヨーロッパの歴史特殊講義 IIa (仏)	(2)					
	ヨーロッパの歴史特殊講義 IIb (仏)	(2)					
	ヨーロッパの文学特殊講義 I (独)	(2)					
	ヨーロッパの文学特殊講義 II (仏)	(2)					
自由	哲学講義 a	(2)					
	哲学講義 b	(2)					
	宗教学講義 a	(2)					
	宗教学講義 b	(2)					
	倫理学講義 a	(2)					
	倫理学講義 b	(2)					
	哲学史特殊講義 a	(2)					
	哲学史特殊講義 b	(2)					
選択・自由合計					[8]		32
総計							57

注) ※印の科目は本年度休講である。

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
 ※ ただし、1年次生は後期に「WRDⅡ」を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。
 また、2年次前期に「独語（中級総合）」または「仏語（中級総合）」を履修する者は、後期に「独語（中級総合）」（2単位）または「仏語（中級総合）」（2単位）を履修できるよう、前期履修登録時に履修可能な単位数を47単位に設定してある。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅳ-1 共通科目履修方法】）を参照すること。
- 教職関連随意科目
 - 教職課程における教職に関する科目
 - 学芸員課程における必修科目
 - キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - 国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

2 必修科目

- ① 「ヨーロッパ文化実習Ⅰ」はヨーロッパ文化学科1年次生のみ、「ヨーロッパ文化実習Ⅱa・b」はヨーロッパ文化学科2年次生のみクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。
- ② 「独（仏）文法実習a・b」は学科科目としての単位であり、外国語科目の単位ではないが、学部共通外国語で履修している外国語と同一の外国語の文法実習を履修することになっており、ヨーロッパ文化学科生はクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。
- ③ 1年次に独（仏）語を中級Ⅰ以上のグレードからスタートした者（既修者）は、1年次で2年次配当の「独（仏）文法実習a・b」と「独（仏）コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修することができる。
- ④ ゼミナールは3・4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

- ① **選択科目の反復履修について**
 演習科目および特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
- ② 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（演習科目16単位、実習科目4単位、講義科目4単位、特殊講義科目8単位、計32単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。
- ③ 演習科目のうち「広域芸術論演習Ⅰa・Ⅰb」と「広域芸術論演習Ⅱa・Ⅱb」は、原則として隔年開講とする。
- ④ 実習科目については、授業の特性上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。

4 自由科目

- ① **自由科目の修得単位のうち、8単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。**
- ② 教員免許の取得に際して必要とする科目がある。教員免許の取得に係る教職課程の履修については【教職課程】を参照すること。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	
WRDⅠ	2単位
WRDⅡ	2単位
2. 学科科目	
必修	
ヨーロッパの文化	4単位
ヨーロッパ文化実習Ⅰ	1単位
計	9単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

6 演習科目履修基準

演習科目を履修するには、進級基準を満たすことのほかに、さらに下記の単位を修得していなければならない。この基準を満たさない者は、3年次前期には原則としていかなる演習科目も履修することはできないが、3年次前期の成績確定により基準を満たした場合、後期には3科目6単位まで履修してもよい。この場合の履修登録方法については後日掲示する。なお、基準を満たしていない場合においても、4年次には演習科目8科目16単位を履修してもよい。(ただし、この基準は、ヨーロッパ文化学科の学生および副専攻としてヨーロッパ文化学科を選択する学生にのみ適用される)。

なお、他学科の学生で演習科目の履修を希望する者は、履修登録締切日までに、必ず教務部に申し出ること。

学部共通外国語（独語または仏語）（初級＝6単位）、中級総合（中級Ⅰ＝2単位）	8単位
1、2年次配当の「講義科目」	4単位
計	12単位

※ 独語または仏語を中級Ⅰ以上のグレードから開始した者は、自らの開始グレード以上の独語または仏語を8単位修得していなければならない。

7 2年次における演習科目の特別履修

学部共通外国語（独語または仏語）を中級Ⅰまたは上級のグレードから開始した者は、1年次に下記の科目の全てを修得した場合、2年次からヨーロッパ文化学科の演習科目を履修することができる（履修を希望する者は、履修登録締切日までに、必ず教務部に申し出ること）。

WRDⅠ	2単位
WRDⅡ	2単位
独語または仏語	6単位
ヨーロッパの文化	4単位
ヨーロッパ文化実習Ⅰ	1単位
1、2年次配当の「講義科目」	4単位
計	19単位

8 ゼミナール履修条件

ゼミナール（4）を履修するには、下記の単位を全て修得していなければならない。

（独語または仏語）初級	6単位
中級Ⅰ（中級総合）	2単位
中級Ⅱ（中級総合）	2単位
（独語または仏語）コミュニケーションⅠ～Ⅳのうち	2単位
独または仏文法実習a・b	2単位
ヨーロッパ文化実習Ⅱa・Ⅱb	2単位
ゼミナール（3）	4単位
計	20単位

※ 独語または仏語を中級Ⅰ以上のグレードから開始した者は、独語または仏語を10単位修得していなければならない。

9 ゼミナール

本学科ではドイツ・フランス語圏の文学、思想・哲学、歴史、芸術、言語学、文化事情、現代社会事情、またそれらの源泉となっているギリシャ・ローマの古典文化にいたるまで、広汎な研究領域に関わるゼミナールを開講している。ゼミナールへの配属は、2年次後期提出の登録申込書に記入してもらう各自の研究関心・研究主題に基づいて、学科で決定する。

これに関しては、毎年度後期にゼミナール登録のためのガイダンス（通例は「ヨーロッパ文化実習Ⅱ」の授業を利用して行う）を開講するので、翌年度に3年次ゼミナールを履修する学生は、掲示に注意し、必ず出席すること。

Ⅲ-3

文芸学部共通ゼミナール

文芸学部では、文芸学部共通ゼミナール（以下、共通ゼミナール）を開設する。

卒業論文を執筆する学生は、所属学科のゼミナールに属し、学科担当の教員の指導を受けることが原則であるが、卒業論文のテーマが学科のゼミナールより共通ゼミナールが相応しいと判断した場合、共通ゼミナールで指導を受けることができる。なお、共通ゼミナールに所属を変更する場合の手順は以下のとおりであるが、詳細については、Campus Square for Web等で周知するので、その指示に従うこと。

- ① 3年次10月に開催される共通ゼミナールのガイダンスを受ける。日程等の詳細は掲示で周知する。
- ② 共通ゼミナールで卒業論文指導を受けたい場合は、学生自身が所属する学科のゼミナール指導教員（芸術学科とマスコミュニケーション学科は、学科主任）に申し出る。
- ③ 登録許可者については学部教務主任から連絡がある。当該学生は、学科のゼミナール指導教員に報告し、仮登録を行う。仮登録手続きの詳細は掲示で周知する。
- ④ 仮登録をした学生は、翌年度の4月に当該共通ゼミナールに本登録され、卒業論文指導を受ける。
 - （注1）共通ゼミナールは、学科のゼミナールに替わるものとする。
 - （注2）当該学生が提出した卒業論文の面接試験に関しては、当該共通ゼミナール担当教員が主査を、所属学科の当該分野の教員が副査をつとめる。
 - （注3）当該学生は、入学時の学科の卒業とする。

Ⅲ-4 自由選択

1 自由選択とは

卒業に必要な単位（卒業要件単位）として、下表のとおり共通科目、学科科目、自由選択の各分野・区分において、それぞれ決められた単位数（規定単位数）を修得しなければならない（詳細はp.84【履修規定】①卒業要件単位数】を参照）。

学 科	卒業要件 単位数	共通科目の 規定単位数	学科科目の 規定単位数	自由選択の 規定単位数
国 文 学 科	124	34	60	30
英 文 学 科	126	36	60	30
芸 術 学 科	124	34	58	32
文 化 史 学 科	128	34	62	32
マスコミュニケーション学科	128	34	62	32
ヨーロッパ文化学科	124	38	57	29

自由選択とは、卒業要件単位数のうち、必修科目（「WRD」、「文芸講座」、「ゼミナール」および「自学科必修科目」）を除く文芸学部の全授業科目（他学科科目を含む）の中から、自由な選択によって単位を修得することをいう。自由選択として卒業要件単位数に算入できる単位は次のものが適用される。

- 共通科目および自学科科目の選択科目のうち規定単位数を超えて修得した単位（規定単位数が0である「その他の外国語」については、その修得した単位）
- 共通科目および自学科科目のうち「自由科目」の修得単位
- 他学科科目の修得単位

なお、各分野・区分において自由選択として卒業要件単位数に算入できる単位数には、それぞれ上限が定められており（第1表の〔 〕内の数字）、上限を超えて修得した単位は余剰単位の扱いとなる。

2 履 修 上 の 注 意 事 項

学科の選択科目・自由科目の履修にも、あらかじめ修得しておかなければならない科目や単位数の条件が付されているものがある。この条件は、他学科の学生にも適用されるから注意すること。

【自由選択への算入例】（該当部分は右ページのA表を参照）

単位修得の例	適用	自由選択への算入単位数	解 説
例1 全学共通教養・データサイエンス科目を24単位修得	a	8単位	全学共通教養・データサイエンス科目の規定単位数は16単位であり、この場合、それを越えた8単位が自由選択に算入される。 (自由選択への算入上限は16単位なので、規定単位数+算入上限=32単位を超えて修得した単位がある場合は余剰単位の扱いとなる。)
例2 その他の外国語 英語リスニング&スピーキング 4単位 英語リーディング&ライティング 4単位 ディプロム・コース独語 2単位 を修得	a	6単位	その他の外国語で修得した単位は上限22単位まで自由選択の単位数に算入される。ただし、その他の外国語のうち「全学共通外国語」は4単位までしか算入されないため、この場合、全学共通外国語8単位のうち4単位と、ディプロム・コース2単位の計6単位が算入され、4単位は余剰単位となる。
例3 共通科目・自由科目 コンピュータ・リテラシー 4単位 スポーツ・ウエルネス実技科目 2単位 キャリア形成概論 4単位 を修得	b	4単位	共通科目・自由科目で修得した単位は上限4単位まで自由選択の単位数に算入されるので、この場合、10単位のうち4単位が算入され、6単位は余剰単位となる。
例4 国文学科生が 国文学科の講義科目を20単位修得	a	8単位	国文学科の選択科目・講義科目の規定単位数は12単位なので、それを越えた8単位が自由選択に算入される。 (各学科の選択科目は演習科目、講義科目など、それぞれの規定単位数を超えた計16単位まで算入が可能となる。)
例5 文化史学科生が 文化史学科の自由科目を4単位修得	b	4単位	学科科目・自由科目で修得した単位は学科で定められた単位数まで自由選択の単位数に算入される。文化史学科の自由科目は算入上限が8単位なので、この場合、4単位がそのまま算入される。算入上限は他学科生にも適用される。
例6 英文学科生が 芸術学科の講義科目を8単位修得	c	8単位	他学科科目の修得単位は全て自由選択に算入される。
例7 芸術学科生がヨーロッパ文化学科の 自由科目を10単位修得	c	8単位	自由科目は各学科が定める上限単位数まで自由選択に算入される。ヨーロッパ文化学科の自由科目は算入上限が8単位なので、この場合、8単位が自由選択に算入され、2単位は余剰単位となる。

A表 自由選択として卒業要件単位に算入できる科目と単位数の例 (p.84 第1表から)

分野・区分			規 定 単 位 数													
			国文学科		英文学科		芸術学科		文化史学科		マスコミュニケーション学科		ヨーロッパ文化学科			
			卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限		
共通 科目	必修科目	WRD	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-		
		文芸講座	2	-	2	-	2	-	2	-	2	-	2	-		
	選択科目	外国語科目	全学共通教養・ データサイエンス科目	16	(16)	16	(16)	16	(16)	16	(16)	16	(16)	16	(16)	例1
			学部共通 外国語 (2言語以上)注1)	12	(12)	14	(12)	12	(12)	12	(12)	12	(12)	16	(12)	
			その他の 外国語 ※うち全学共 通外国語は 4単位まで	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)	例2
	自由科目	実技・実習、 講義、社会調査士	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	例3	
共通科目の計 (A)			34		36		34		34		34		38			
学 科 科 目	必修科目		34	-	28	-	26	-	16	-	24	-	25	-		
	選択科目	演習科目	12		20		12		16		-		16			
		実習科目	2	(16)	-	(16)	-	(16)	2	(16)	2	(16)	4	(16)		
		講義科目	12		8		16		28		36		4			
		特殊講義科目	-		4		4		-		-		8			
自由科目		-	-	0	(6)	-	-	0	(8)	0	(2)	0	(8)			
学科科目の計 (B)			60		60		58		62		62		57			
自由 選択	他学科科目修得単位および 他の区分からの算入単位 (C)		30		30		32		32		32		29			
総計 (A) + (B) + (C)			124		126		124		128		128		124			

例4

例6

例5

例7

履修規定

2015・2016年度入学者用

履修規定

[2014年度以前入学者用]

I 卒業要件単位数 ……………	126	4 自由科目 ……………	142
II 主専攻・副専攻について ………	127	a. 実技・実習科目	
III —1 共通科目履修方法 ………	128	1) スポーツ・ウエルネス実技	
1 WRD ……………	128	2) 海外短期語学研修・海外短期研修	
1) 目的		3) 日本語	
2) 履修上の注意事項		b. 講義科目	
2 全学共通教養・データサイエンス科目 …	128	1) 講義科目	
1) 教養科目		2) キャリアデザイン科目	
2) 国際交流科目		3) スポーツ・ウエルネス講義・演習科目	
3) データサイエンス科目		c. 社会調査士資格科目	
3 外国語科目 ……………	133	III —2 学科科目履修方法 ………	146
a. 主・副外国語		A. 国文学科 ……………	146
1) 卒業に必要な主・副外国語の		B. 英文学科 ……………	148
規定単位数		C. 芸術学科 ……………	152
2) 履修上の注意事項		D. 文化史学科 ……………	154
3) グレード制・セメスター制		E. マスコミュニケーション学科 ……	158
4) グレードの種類		F. ヨーロッパ文化学科 ……………	160
5) グレードの認定		III —3 文芸学部共通ゼミナール …	163
6) クラス名称と開講曜限		III —4 自由選択 ……………	164
7) グレードごとの履修パターン		1) 自由選択とは	
b. その他の外国語		2) 履修上の注意事項	
1) 古典語			
2) 全学共通外国語			
3) ディプロム・コース			
4) エクステンシヴ・リーディング			

I

卒業要件単位数

1 卒業要件単位数

各学科における卒業に必要な単位数、および各分野において修得しなければならない規定単位数は、第1表のとおりである。

2 自由選択 (p.164参照)

以下の修得単位は自由選択の単位として取り扱われる。

- ① 必修科目を除く各区分で、卒業に必要な規定単位数を超えて修得した単位。規定単位数の表に示された【 】内の数字は、それぞれの区分において自由選択の卒業要件単位として算入することのできる単位数の上限である。これを超えて修得した単位は余剰単位として取り扱う。
- ② 他学科の科目（ゼミナールを除く）の修得単位。履修に当たっては、各学科の【履修規定】が適用されるので、確認の上、履修すること。

3 教職関連随意科目

第1表に記載されている授業科目の他、文化史学科開設科目として「教職関連随意科目」を開設する。この科目は主に教職課程登録者が「教科に関する科目」として履修するために開設する科目であるが、教職課程登録の如何を問わず、また文化史学科の学生のみならず他学科の学生が履修することも可能である。ただし、教職課程登録の有無や学科を問わず、修得した単位は卒業要件単位に算入できない。

第1表 卒業要件科目および単位数

分野・区分			規 定 単 位 数														
			国文学科		英文学科		芸術学科		文化史学科				マスコミニケーション学科		ヨーロッパ文化学科		
			卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	2014年度入学者 卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	2013年度以前入学者 卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	
共通科目	必修科目	WRD	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	
	選択科目	外国語科目	全学共通教養・データサイエンス科目	16	〔16〕	16	〔16〕	16	〔16〕	16	〔16〕	16	〔16〕	16	〔16〕	16	〔16〕
			主外国語	8	〔12〕	8	〔12〕	8	〔12〕	8	〔12〕	8	〔12〕	8	〔12〕	16	〔12〕
		副外国語	6		6		6		6		6		6		6		
	その他の外国語 ※うち全学共通外国語は4単位まで	0	〔22〕	0	〔22〕	0	〔22〕	0	〔22〕	0	〔22〕	0	〔22〕	0	〔22〕	0	〔22〕
	自由科目	実技・実習、講義、社会調査士	0	〔4〕	0	〔4〕	0	〔4〕	0	〔4〕	0	〔4〕	0	〔4〕	0	〔4〕	0
共通科目の計 (A)			34		34		34		34		34		34		42		
学科科目	必修科目		24	-	28	-	26	-	16	-	24	-	20	-	26	-	
	選択科目	概論科目	12		-		-		4		4		-		-		
		演習科目	12		20		12		16 ※基礎演習8、演習8		8		-		16		
		実習科目	-	〔16〕	-	〔16〕	-	〔16〕	2	〔16〕	2	〔16〕	2	〔16〕	-	〔16〕	
		講義科目	12		12		16		24		24		36 ※I群10、II群26		4		
		特殊講義科目			4		4								8		
自由科目	-	-	0	〔6〕	-	-	0	〔8〕	0	〔8〕	-	-	0	〔8〕			
学科科目の計 (B)			60		64		58		62		62		58		54		
自由選択	他学科科目修得単位および他の区分からの算入単位 (C)		30		30		32		32		32		32		28		
総計 (A) + (B) + (C)			124		128		124		128		128		124		124		

履修規定

2014年度以前入学者用

Ⅱ

主専攻・副専攻について

1 主 専 攻	自分が所属する学科のことを主専攻と呼ぶ。なお、文芸学部を卒業するためには、【第1表 卒業要件科目および単位数】に記載された自分が所属する学科の規定単位数を修得しなければならない。
2 副 専 攻	副専攻とは、所属学科以外の学科が規定する副専攻修了要件単位数を修得した場合に、修了が認定されるものである。例えば、文化史学科の学生が、自分の所属する学科の規定単位数を満たし、さらに、芸術学科の副専攻修了のための規定単位数を満たした場合、卒業時に2学科にまたがった専門領域の学業を修め、修了したことを認定することになる。
3 副専攻修了要件 単位数	<p>各学科で定める副専攻修了要件単位数は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none">① 国文学科 36単位 「国文学基礎演習Ⅰ～Ⅳ」の8単位、「漢文学演習」と「国語学演習」の8単位の計16単位を含む。② 英文学科 32単位 「英語学基礎演習」、「英語文学基礎演習」、「英語文化基礎演習」のうちの1科目4単位を含む。自由科目は修了要件単位に含むことができない。なお、副専攻修了要件単位数の32単位とは別に、卒業時まで英語の中級Ⅰ、中級Ⅱ、上級Ⅰの計8単位を修得していること。また、3年次終了時までTOEIC試験を4回以上受験しなければならない※。 ※ やむを得ない理由により学内試験を受験できない者は、学外試験を受験しなければならない。4回以上受験していない者は、必ず共用研究室で指示を受けること。 ※ 4年次4月の本申請時に、4回分の「成績表」(Score Report)のコピーを教務部に提出すること。③ 芸術学科 28単位 「美学・芸術学入門」、「美術史入門」のどちらか1科目4単位、演習科目4単位および一般講義科目8単位の計16単位を含む。④ 文化史学科 28単位 概論科目4単位、演習科目4単位(文化史基礎演習Ⅰ～Ⅲを除く。)および講義科目20単位。なお自由科目は修了要件単位に含むことができない。⑤ マスコミュニケーション学科 32単位 講義科目Ⅰ群10単位および講義科目Ⅱ群22単位。⑥ ヨーロッパ文化学科 24単位 「ヨーロッパの文化」(4単位)、「ヨーロッパ文化実習Ⅰ」(2単位)のどちらか1科目を含む。自由科目は修了要件単位に含むことができない。なお、副専攻修了要件単位数の24単位とは別に、卒業時まで「独語」または「仏語」のいずれか10単位を修得していること。
4 副専攻申請 手続き	<p>副専攻の申請を希望する学生は、以下の手続きをとること。</p> <ol style="list-style-type: none">① 2年次の4月に行われる主専攻・副専攻制度の説明会に出席し、「第一次仮申請」を行う。② 3年次の4月に行われる主専攻・副専攻制度の説明会に出席し、「第二次仮申請」を行う。③ 3年次終了時、卒業までに各学科が定める副専攻修了要件単位数の修得が可能だと見込まれる場合、4年次の4月に行われる説明会に出席し、「本申請」を行う(この段階で単位修得が不可能である等の理由により、副専攻の申請を取り下げることができる)。
5 副専攻修了の 認定	副専攻の申請手続きを行った学生が副専攻修了に必要な単位を修得していると文芸学部教授会が認めたととき、その学生の副専攻の修了を認定し、そのことを認定書および成績証明書に記すことになる。
6 履修上の注意	<ol style="list-style-type: none">① 副専攻に必要な単位は、自由選択の単位として認められる。② 時間割の都合等の理由により、副専攻の修了に必要な科目と必修科目が同曜限になる場合も考えられるので、1年次の時点から履修計画を立てること。
7 副専攻の助言 教員	副専攻についての履修相談は、副専攻の学科の主任(または副専攻助言教員)が担当する。

Ⅲ-1

共通科目履修方法

1 WRD

1 目的

高等学校までの勉学は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉学は自分でその所在を明らかにした問題について、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」(ワードと読む)とは、「Write 書く、Read 読む、Debate 議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

2 履修上の 注意事項

単位未修得者は、教務部で事前登録を行う。

2 全学共通教養・データサイエンス科目

専門領域を超えて柔軟に思考することは勉学に不可欠である。専門領域におさまらない問題を、テーマ別に整理・統合したのが全学共通教養・データサイエンス科目である。

- ① 2015年度に全学共通教養科目は、全学共通教養・データサイエンス科目に名称変更された。なお、2014年度までに修得した全学共通教養科目の単位は、全学共通教養・データサイエンス科目の単位として認められる。
- ② 全学共通教養・データサイエンス科目は、1. 教養科目、2. 国際交流科目、3. データサイエンス科目からなる。
- ③ **卒業に必要な単位数は16単位である。**
- ④ 卒業に必要な単位数を超えて修得した単位のうち、16単位までを「自由選択」に算入できる。
- ⑤ 全学共通教養・データサイエンス科目の詳しい説明は、【[全学共通教育科目](#)】の項に記載されている。なお、全学共通教養・データサイエンス科目の中には特別な履修手続きが必要な授業科目があるので、【[授業に関すること](#)】[Ⅳ](#)特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。

1 教養科目 第2表のとおり、教養科目を開講する。

第2表 全学共通教養・データサイエンス科目（教養科目群）配当表 学年配当：1～4年次

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
※総合講座Ⅰ	2	※社会構造論Ⅵb	2
総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース／感動と価値の創造〉	2	社会構造論演習 a	2
総合講座Ⅲ〈環境〉	2	社会構造論演習 b	2
※総合講座Ⅳ	2	哲学入門 a	2
総合講座Ⅴ〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2	哲学入門 b	2
総合講座Ⅵ〈中国文学入門（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2	宗教学入門 a	2
※特別講座Ⅰ	2	宗教学入門 b	2
※特別講座Ⅱ	2	倫理学入門 a	2
成城学園を知る	2	倫理学入門 b	2
成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	2	西洋思想入門 a	2
※成城学Ⅱ	2	西洋思想入門 b	2
※成城学Ⅲ	2	東洋思想入門 a	2
※成城学Ⅳ	2	東洋思想入門 b	2
成城学Ⅴ〈成城と自然〉	2	日本思想入門 a	2
社会学入門 a	2	日本思想入門 b	2
社会学入門 b	2	※思想・人間論Ⅰ a	2
メディア論入門 a	2	※思想・人間論Ⅰ b	2
メディア論入門 b	2	思想・人間論Ⅱ a〈イメージを“よむ”〉	2
現代社会論Ⅰ a〈現代の宗教と国家〉	2	思想・人間論Ⅱ b〈イメージを“よむ”〉	2
現代社会論Ⅰ b〈現代の宗教と社会〉	2	※思想・人間論Ⅲ a	2
現代社会論Ⅱ a〈サブカルチャー史〉	2	※思想・人間論Ⅲ b	2
現代社会論Ⅱ b〈サブカルチャー論〉	2	思想・人間論演習 a	2
※現代社会論Ⅲ a	2	思想・人間論演習 b	2
※現代社会論Ⅲ b	2	文学入門 a	2
現代社会論Ⅳ a〈戦後日本文化論〉	2	文学入門 b	2
現代社会論Ⅳ b〈戦後日本文化論〉	2	言語学入門 a	2
※現代社会論Ⅴ a	2	言語学入門 b	2
※現代社会論Ⅴ b	2	音楽入門 a	2
現代社会論Ⅵ a〈平和論〉	2	音楽入門 b	2
現代社会論Ⅵ b〈平和論〉	2	※表象文化論入門 a	2
現代社会論Ⅶ a〈カルチュラル・スタディーズ〉	2	※表象文化論入門 b	2
現代社会論Ⅶ b〈カルチュラル・スタディーズ〉	2	※表現文化論Ⅰ a	2
※現代社会論Ⅷ a	2	※表現文化論Ⅰ b	2
※現代社会論Ⅷ b	2	※表現文化論Ⅱ a	2
※現代社会論演習 a	2	※表現文化論Ⅱ b	2
※現代社会論演習 b	2	表現文化論Ⅲ a〈映画の“いま”〉	2
国際関係論入門 a	2	表現文化論Ⅲ b〈映画の“いま”〉	2
国際関係論入門 b	2	表現文化論Ⅳ a〈民俗と作法の表現文化論〉	2
経済学入門 a	2	表現文化論Ⅳ b〈伝統芸術文化論〉	2
経済学入門 b	2	※表現文化論Ⅴ a	2
政治学入門 a	2	※表現文化論Ⅴ b	2
政治学入門 b	2	表現文化論Ⅵ a〈文学と地域文化〉	2
情報社会論入門 a	2	表現文化論Ⅵ b〈文学と地域文化〉	2
情報社会論入門 b	2	表現文化論演習 a	2
法学（含む日本国憲法） a	2	表現文化論演習 b	2
法学（含む日本国憲法） b	2	歴史学入門 a	2
社会構造論Ⅰ a〈自由と平等〉	2	歴史学入門 b	2
社会構造論Ⅰ b〈自由と平等〉	2	日本近現代史 a	2
社会構造論Ⅱ a〈社会と組織〉	2	日本近現代史 b	2
社会構造論Ⅱ b〈ネットワークと組織〉	2	ヨーロッパ近現代史 a	2
※社会構造論Ⅲ a	2	ヨーロッパ近現代史 b	2
※社会構造論Ⅲ b	2	アジア近現代史 a	2
社会構造論Ⅳ a〈日常生活と社会経済〉	2	アジア近現代史 b	2
社会構造論Ⅳ b〈日常生活と社会経済〉	2	アメリカ近現代史 a	2
※社会構造論Ⅴ a	2	アメリカ近現代史 b	2
※社会構造論Ⅴ b	2	※歴史文化論Ⅰ a	2
社会構造論Ⅵ a〈現代日本と政治〉	2	※歴史文化論Ⅰ b	2

第2表 全学共通教養・データサイエンス科目（教養科目群）配当表 学年配当：1～4年次（つづき）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉	2	※数理科学Ⅱb	2
歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉	2	物理の世界a	2
歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	2	物理の世界b	2
歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	2	化学の世界a	2
※歴史文化論Ⅳa	2	化学の世界b	2
※歴史文化論Ⅳb	2	生命科学の世界a	2
※歴史文化論Ⅴa	2	生命科学の世界b	2
※歴史文化論Ⅴb	2	科学史a	2
※歴史文化論演習a	2	科学史b	2
※歴史文化論演習b	2	※自然科学Ⅰa	2
文化人類学入門a	2	自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉	2
文化人類学入門b	2	自然科学Ⅱa〈地球と環境〉	2
空間システム論入門a	2	自然科学Ⅱb〈地域と環境〉	2
空間システム論入門b	2	自然科学Ⅲa〈地球科学〉	2
地域空間論Ⅰa〈EU論〉	2	自然科学Ⅲb〈地球科学〉	2
地域空間論Ⅰb〈EU論〉	2	※自然科学Ⅳa	2
地域空間論Ⅱa〈朝鮮半島の社会と文化〉	2	※自然科学Ⅳb	2
地域空間論Ⅱb〈朝鮮半島の社会と文化〉	2	自然科学Ⅴa〈比較行動学〉	2
地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉	2	自然科学Ⅴb〈比較行動学〉	2
地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉	2	数理・自然科学演習a	2
※地域空間論Ⅳa	2	数理・自然科学演習b	2
※地域空間論Ⅳb	2	こころと身体a	2
※地域空間論Ⅴa	2	こころと身体b	2
※地域空間論Ⅴb	2	※身体と運動・スポーツa	2
地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉	2	※身体と運動・スポーツb	2
地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉	2	心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉	2
地域空間論Ⅶa〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉	2
地域空間論Ⅶb〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	心身論Ⅱa〈こころと発達〉	2
地域空間論Ⅶc〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	心身論Ⅱb〈こころと社会〉	2
地域空間論Ⅶd〈中東の社会と文化〉	2	心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉	2
地域空間論Ⅶe〈中東の社会と文化〉	2	心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	2
※地域空間論演習a	2	心身論Ⅳa〈食と健康〉	2
※地域空間論演習b	2	心身論Ⅳb〈食と環境〉	2
※数理の世界a	2	※心身論Ⅴa	2
※数理の世界b	2	※心身論Ⅴb	2
数理科学Ⅰa〈情報と論理〉	2	数理科学Ⅰa〈情報と論理〉	2
数理科学Ⅰb〈情報と論理〉	2	数理科学Ⅰb〈情報と論理〉	2
※数理科学Ⅱa	2	数理科学Ⅱa	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。
 注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第2表の注意事項】

- ①「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。
- ②「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」は、セットで履修することになっている。なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。
- ③2017年度から、通年（4単位）で開講していた科目は、前期a（2単位）、後期b（2単位）に分割して開講している。なお、2016年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目を履修できない。
 （例：2016年度までに「社会学入門」の単位を修得している場合、「社会学入門a」または「社会学入門b」を履修できない）

2 国際交流科目 第3表のとおり、国際交流科目を開講する。

第3表 全学共通教養・データサイエンス科目（国際交流科目群）配当表

区分	授 業 科 目	学年配当	単位
留学対策科目	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2～4	1
	※Academic Skills VI A	2～4	1
	Academic Skills VI B 〈English Research〉	2～4	1
英語等による 地域研究科目	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1～4	2
	※European Studies B	1～4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1～4	2
	※North American Studies B	1～4	2
	※Oceanian Studies A	1～4	2
	※Oceanian Studies B	1～4	2
	※Asian Studies A	1～4	2
英語等による日本事情関係科目	Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1～4	2
	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	※Japan Studies II A	1～4	2
	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	※Japan Studies VII A	1～4	2
	※Japan Studies VII B	1～4	2
英語等による特定の テーマを扱った科目	Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
	Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	※Special Topics III A	1～4	2
	※Special Topics III B	1～4	2
留学準備演習	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

2014年度以前入学者用

【第3表の注意事項】

- ① 国際交流科目群のうち、以下の区分の科目は卒業要件単位に算入することができない。
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
- ② 国際交流科目群の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・国際交流科目群のうち、以下の区分の科目の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年次4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅳ-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数）を参照も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
- ③ 国際交流科目群には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ④ 2018年度に「Academic Skills VA」、「Academic Skills VB」、「Academic Skills VIA」、「Academic Skills VIB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。

3 データサイエンス科目

第4表のとおり、データサイエンス科目を開講する。

第4表 全学共通教養・データサイエンス科目（データサイエンス科目群）配当表

授 業 科 目	単 位	学 年 配 当
☆データサイエンス入門Ⅰ	2	1～4
☆データサイエンス概論	2	1～4
☆データサイエンス入門Ⅱ	2	2～4
データサイエンス応用	2	2～4
データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2	2～4
データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2	2～4

注）※印の科目は本年度休講である。

【第4表の注意事項】

- ① データサイエンス科目群の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、6単位を限度として教養科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修（「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修）していることが履修の条件となる。
- ③ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ④ データサイエンス科目群には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ⑤ データサイエンス科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」、「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」について、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合、2年次は6単位、3年次は6単位まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅳ-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数）を参照も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑥ 2018年度に「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」と「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の学年配当は「3・4」から「2～4」に変更された。

3 外国語科目

文芸学部で履修できる外国語は、英語、独語、仏語、中国語、イタリア語、古典語（ギリシャ語・ラテン語）、スペイン語、韓国語であり、授業科目は第5表のとおりである。

第5表 文芸学部で履修できる外国語科目の種類

区分		授業科目		単位の取り扱い	
主・副外国語	英語(注1)	初級I (LS・RW)、II (LS・RW) 中級I (O・L・RW)、II (O・L・RW) 上級I (LS・RW)、II		主外国語 副外国語	卒業に必要な主・副外国語の規定単位数を超えて修得した科目のうち12単位までを「自由選択」に算入できる。
	独語	初級 表現研究I a・b 表現研究II a・b	中級総合 上級a・b		
	仏語	初級 表現研究I a・b 表現研究II a・b	中級総合 上級a・b		
	中国語	初級	中級I・II 上級		
	イタリア語	初級	中級総合	副外国語	
その他の外国語	古典語	ギリシャ語	初級・中級	22単位を上限に、自由選択の単位として取り扱われる。(注2)	
		ラテン語	初級・中級		
	全学共通外国語	英語リスニング&スピーキング	初級a・b、中級a・b、 上級a・b		
		英語リーディング&ライティング	初級a・b、中級a・b、 上級a・b		
		英会話選択	a・b		
		ビジネス英語	a・b		
		英文多読	a・b		
		Academic Communication	a・b		
		独会話選択	a・b		
		独語選択	初級I a・I b・II a・II b、 中級a・b		
		仏会話選択	a・b		
		仏語選択	初級I a・I b・II a・II b、 中級a・b		
		スペイン語選択	初級a・b、 (中級・ディプロム) a・b		
		中国語選択	初級I a・I b・II a・II b、 中級a・b		
	韓国語選択	初級a・b、 (中級・ディプロム) a・b			
	ディプロム・コース	英語	中級a、上級b		
		独語	中級a・b、上級a・b		
		仏語	中級a・b、上級a・b		
	エクステンシブリーディング	英語エクステンシブリーディング	A・B		

注1) 英語の授業科目名に使用されているローマ字の正式名称は次のとおりである。

LS (listening, speaking)、RW (reading, writing)、O (oral communication)、L (listening)

注2) ただし、古典語以外は卒業要件単位に算入できる単位数に上限がある。詳細は【履修規定】Ⅲ-1 共通科目履修方法 ③ 外国語科目 b. その他の外国語】を参照すること。

履修規定

2014年度以前入学者用

a 主・副外国語

1 卒業に必要な主・副外国語の規定単位数

【主外国語】8単位以上を修得しなければならない。

ただし、ヨーロッパ文化学科の学生は16単位以上を修得しなければならない。

【副外国語】6単位以上を修得しなければならない。

第6表 卒業に必要な主・副外国語の規定単位数【卒業要件単位数】

学 科	主外国語 (1言語)		副外国語 (主外国語以外の1つ または複数の言語)	
	単位数	種 類	単位数	種 類
国文、芸術、文化史、 マスコミュニケーション	8	英語、独語、仏語、 中国語	6	英語、独語、仏語、 中国語、イタリア語
英文	8	英語	6	独語、仏語、中国語、 イタリア語
ヨーロッパ文化	16	独語、仏語	6	英語、独語、仏語、 中国語、イタリア語

2 履修上の注意事項

【国文学科・芸術学科・文化史学科・マスコミュニケーション学科】

- 主外国語、副外国語は、単位修得の結果として区別されるのであって、あらかじめ決定する必要はない。

【英文学科】

- 英語を主外国語（8単位以上）としなければならない。

【ヨーロッパ文化学科】

- 主外国語（16単位）は、独語または仏語であり、以下のとおり修得しなければならない。

初級	6単位
中級Ⅰ（中級総合）	2単位
中級Ⅱ（中級総合）	2単位
表現研究Ⅰa	2単位
表現研究Ⅰb	2単位
上級a、上級b、または表現研究Ⅱa	2単位

計 16単位

- 1年次に中級Ⅰ以上のグレードから開始する者は、自らの開始グレード以上の主外国語を16単位修得しなければならない。
- 外国語科目および学科科目の履修をなめらかに進行させるため、主外国語は1年次から履修しなければならない。

3 グレード制・セメスター制

主・副外国語は、一部を除き、グレード制・セメスター制をとる。

【グレード制】習熟度に合わせた多様なクラスで学んで、次のステップに進むことができる制度。

【セメスター制】前期または後期の半年で授業が完結する制度。

4 グレードの種類

各教科におけるグレードの種類、単位数、実施学期、週回数等は第7表に示す。

5 グレードの認定

- ① 開始段階におけるグレード（学習段階）の認定は、既修外国語については入学試験、あるいは高校の学業成績による。場合によっては、認定テストを実施することがある。
- ② 1年次後期以降におけるグレードの認定は各セメスター（学期）ごとの試験の結果をもとに行う。第7表に示される各グレードの履修条件を満たした者にはそのグレードの履修が認められる。
- ③ 1年次に一般的な開始段階より上のグレードから開始する者も、規定の卒業要件単位数を満たさなければならない。

第7表 グレードの種類・単位数・実施学期・履修の条件等

	グレードの種類	単位	授業科目名	週回数	学期	履修の条件 (いずれか一つの条件を満たすこと)	履修の制限等
英語 ※1	初級Ⅰ	2	初級Ⅰ (LS)	1回	前期	・基本的技能を更に伸ばす必要のある者	
			初級Ⅰ (RW)	1回			
	初級Ⅱ	2	初級Ⅱ (LS)	1回	後期	・「初級Ⅰ」の合格者 (LS・RW各1単位をそれぞれ修得した者)	
			初級Ⅱ (RW)	1回			
	中級Ⅰ	3	中級Ⅰ (O)	1回	前期 後期	・一般的な既修者 ・「初級Ⅱ」の合格者 (LS・RW各1単位をそれぞれ修得した者) ・「初級Ⅰ」からの飛び級者	・前期に不合格になった場合、後期に同じ科目の再履修可
			中級Ⅰ (L)	1回			
			中級Ⅰ (RW)	1回			
	中級Ⅱ	3	中級Ⅱ (O)	1回	前期 後期	・「中級Ⅰ」の合格者 (O・L・RW各1単位をそれぞれ修得した者) ・「初級Ⅱ」からの飛び級者	・前期に不合格になった場合、後期に同じ科目の再履修可
			中級Ⅱ (L)	1回			
			中級Ⅱ (RW)	1回			
上級Ⅰ	2	上級Ⅰ (LS)	1回	前期 後期	・「中級Ⅱ」の合格者 (O・L・RW各1単位をそれぞれ修得した者) ・「中級Ⅰ」からの飛び級者	・前期に不合格になった場合、後期に同じ科目の再履修可	
		上級Ⅰ (RW)	1回				
上級Ⅱ	1	上級Ⅱ	1回	前期 後期	・「上級Ⅰ」の合格者 (LS・RW各1単位をそれぞれ修得した者) ・「中級Ⅱ」からの飛び級者	・各学期2単位まで履修可 ・反復、重複履修可	
独語 ・ 仏語	初級	6	初級	3回	通年	・未修者の開始段階	
	中級Ⅰ	2	中級総合 ※2	1回×2	前期 後期	・「初級」の合格者 ・一定レベル以上の既修者と認められた場合の開始段階	・各学期2単位まで履修可
	中級Ⅱ	2		1回×2			
	中級Ⅰ	2	表現研究Ⅰ a	2回	前期	・「初級」の合格者 ・一定レベル以上の既修者と認められた場合の開始段階	
	中級Ⅱ	2	表現研究Ⅰ b	2回	後期	・「表現研究Ⅰ a」の合格者 ・「中級総合」2単位を修得した者	
	上級Ⅰ	2	上級 a	1回	通年	・「中級総合」4単位を修得した者 ・「表現研究Ⅰ b」の合格者	・反復、重複履修可
			上級 b (特別クラス)	1回	通年	・「中級総合」4単位を修得した者または「表現研究Ⅰ b」の合格者で担当教員が認めた者	・反復、重複履修可 ・上級 a との同時履修可
上級Ⅱ	2	表現研究Ⅱ a	2回	前期	・「表現研究Ⅰ b」の合格者	・反復、重複履修可	
上級Ⅱ	2	表現研究Ⅱ b	2回	後期	・「表現研究Ⅱ a」の合格者	・反復、重複履修可	
中国語	初級	6	初級	3回	通年	・未修者の開始段階	
	中級Ⅰ	2	中級Ⅰ	2回	前期 後期	・「初級」の合格者 ・一定レベル以上の既修者と認められた場合の開始段階	・各学期2単位まで履修可 ・前期に不合格になった場合、後期に同じ科目の再履修可
	中級Ⅱ	2	中級Ⅱ	1回×2	後期	・「中級Ⅰ」の合格者	・2単位まで履修可
	上級	2	上級	1回	通年	・「中級Ⅱ」の合格者	・反復、重複履修可
イタリア語	初級	4	初級	2回	通年	・未修者の開始段階	
	中級Ⅰ	2	中級総合 ※2	1回×2	前期 後期	・「初級」の合格者	・各学期2単位まで履修可 ・反復、重複履修可
	中級Ⅱ	2		1回×2			

※1 英語の飛び級について

飛び級は、あるグレードに配当されている全ての科目で【秀】(2013年度以前入学者は【AA】)の評価を受けた者に認められ、グレードを一つ飛ばすことができる。例えば、「中級Ⅰ」から「上級Ⅰ」のグレードに飛び級するためには、「英語(中級Ⅰ)O・L・RW」3科目全てで【秀】の評価を受ける必要がある。ただし、飛び級をした場合も卒業・進級に必要な単位数が変わることはないので注意すること。なお、飛び級を希望する者は、成績評価が出た後、教務部に申し出ること(教務部に届け出がないと、一つ飛ばしたグレードの科目を履修することができない)。

※2 「中級総合」として開講されている授業科目から任意に2科目まで選択履修し、2単位修得を「中級Ⅰ」、さらに2単位修得した場合を「中級Ⅱ」とする。

6 クラス名称と開講曜限

英語の初級・中級・上級（上級Ⅱを除く）、独語・仏語・中国語・イタリア語の初級クラスは、週3回もしくは2回の授業が行われ、開講曜限によりX・Y・Zの3つのグループに分けられ、さらに英語の再履修用クラスとしてNグループを開講している。

また、クラス名は以下のように表される。

例1 英(X-1) … 英語で、Xグループの第1組（月3・金2の週2回授業がある）

例2 仏(Y-2) … 仏語で、Yグループの第2組（月5・木3・金1の週3回授業がある）

第8表 外国語の開講曜限

	月	火	水	木	金
1			Z		Y
2			X		X
3	X グループ			Y	
4	Z グループ			Z	
5	Y グループ				

7 グレードごとの履修パターン

◎英 語

① '初級 I' のグレードからスタートする場合

年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
1年次	前期	初級 I (LS)	1	各自がWeb予備申請を行う。
		初級 I (RW)	1	
	後期	初級 II (LS)	1	
		初級 II (RW)	1	



年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
2年次	前期	中級 I (O)	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級 I (L)	1	
		中級 I (RW)	1	
	後期	中級 II (O)	1	
		中級 II (L)	1	
		中級 II (RW)	1	



以降のグレードの手続きについては、'中級 I' のグレードからスタートする場合を参照。

② '中級 I' のグレードからスタートする場合

年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
1年次	前期	中級 I (O)	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級 I (L)	1	
		中級 I (RW)	1	
	後期	中級 II (O)	1	
		中級 II (L)	1	
		中級 II (RW)	1	



年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
2年次	前期	上級 I (LS)	1	各自がWeb予備申請を行う。
		上級 I (RW)	1	
	後期	上級 II	1	
		上級 II	1	

※英語を主外国語とする場合は8単位（ヨーロッパ文化学科を除く）、副外国語とする場合は6単位を修得すればよいので、途中のグレードで中断することも可能である。

※上級 II は1コマのみの履修も可能である。

◎独語・仏語

年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
1年次	通年	初級	6	各自がWeb予備申請を行う。



年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
2年次	前期	中級総合	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級総合	1	
		表現研究 I a	2	
	後期	中級総合	1	
		中級総合	1	
		表現研究 I b	2	



年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
3年次	通年	上級 a	2	各自がWeb予備申請を行う。
		上級 b	2	
	前期	表現研究 II a	2	
	後期	表現研究 II b	2	

※独語または仏語を主外国語とする場合は8単位（英文学科・ヨーロッパ文化学科を除く）、副外国語とする場合は6単位を修得すればよいので、途中のグレードで中断することも可能である。

※ヨーロッパ文化学科の学生は、「上級 a」「上級 b」「表現研究 II a」「表現研究 II b」の中から選択履修して、主外国語の必修単位16単位を満たすものとする。

※中級総合は1コマずつ履修することもできる（前期1コマ、後期1コマという履修も可能）。

【1年次に「中級Ⅰ」のグレードからスタートする場合】

入学試験を独語・仏語で受験した者、または、ある一定以上の学力（例えば独検・仏検3級程度を有する者は、1年次に「中級Ⅰ」のグレードからの履修が認められる場合がある。

年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
1年次	前期	中級総合	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級総合	1	
		表現研究Ⅰa	2	
	後期	中級総合	1	
		中級総合	1	
		表現研究Ⅰb	2	



年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
2年次	通年	上級a	2	各自がWeb予備申請を行う。
		上級b	2	
	前期	表現研究Ⅱa	2	
	後期	表現研究Ⅱb	2	

※独語または仏語を主外国語とする場合は8単位（英文学科・ヨーロッパ文化学科を除く）、副外国語とする場合は6単位を修得すればよいので、途中のグレードで中断することも可能である。

※ヨーロッパ文化学科の学生は、「上級a」「上級b」「表現研究Ⅱa」「表現研究Ⅱb」の中から選択履修して、主外国語の必修単位16単位を満たすものとする。

※中級総合は1コマずつ履修することもできる（前期1コマ、後期1コマという履修も可能）。

◎中国語

年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
1年次	通年	初級	6	各自がWeb予備申請を行う。



年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
2年次	前期	中級Ⅰ	2	各自がWeb予備申請を行う。
	後期	中級Ⅱ	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級Ⅱ	1	



年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
3年次	通年	上級	2	各自がWeb予備申請を行う。

※中国語を主外国語とする場合は8単位（英文学科・ヨーロッパ文化学科を除く）、副外国語とする場合は6単位を修得すればよいので、途中のグレードで中断することも可能である。

◎イタリア語

年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
1年次	通年	初級	4	各自がWeb予備申請を行う。



年次	学期	科目名	単位	履修手続き等
2年次	前期	中級総合	1	各自がWeb予備申請を行う。
		中級総合	1	
	後期	中級総合	1	
		中級総合	1	

※中級総合は1コマずつ履修することもできる（前期1コマ、後期1コマという履修も可能）。

b その他の外国語

その他の外国語として、古典語、全学共通外国語、ディプロム・コース、エクステンシヴ・リーディングが開講される。これらの科目は一部の科目を除きグレード制をとらないので、自由に履修することができる。

なお、これらの科目はその修得単位のうち、計22単位までを自由選択の単位として卒業要件単位に算入することができる。

1 古典語

- ①「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② 反復履修可とし、卒業要件単位に算入することができる。

第9表 古典語配当表（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
ギリシャ語（初級）	4	ラテン語（初級）	4
ギリシャ語（中級）	4	ラテン語（中級）	4

注）※印の科目は本年度休講である。

2 全学共通外国語

第10表 全学共通外国語配当表（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英語リスニング&スピーキング（初級）a	1	独語選択（初級）Ⅱb	1
英語リスニング&スピーキング（初級）b	1	独語選択（中級）a	1
英語リスニング&スピーキング（中級）a	1	独語選択（中級）b	1
英語リスニング&スピーキング（中級）b	1	仏会話選択a	1
英語リスニング&スピーキング（上級）a	1	仏会話選択b	1
英語リスニング&スピーキング（上級）b	1	仏語選択（初級）Ⅰa	1
英語リーディング&ライティング（初級）a	1	仏語選択（初級）Ⅰb	1
英語リーディング&ライティング（初級）b	1	仏語選択（初級）Ⅱa	1
英語リーディング&ライティング（中級）a	1	仏語選択（初級）Ⅱb	1
英語リーディング&ライティング（中級）b	1	仏語選択（中級）a	1
英語リーディング&ライティング（上級）a	1	仏語選択（中級）b	1
英語リーディング&ライティング（上級）b	1	スペイン語選択（初級）a	1
英会話選択a	1	スペイン語選択（初級）b	1
英会話選択b	1	スペイン語選択（中級・ディプロム）a	1
ビジネス英語a	1	スペイン語選択（中級・ディプロム）b	1
ビジネス英語b	1	中国語選択（初級）Ⅰa	1
英文多読a	1	中国語選択（初級）Ⅰb	1
英文多読b	1	中国語選択（初級）Ⅱa	1
Academic Communication a	1	中国語選択（初級）Ⅱb	1
Academic Communication b	1	中国語選択（中級）a	1
独会話選択a	1	中国語選択（中級）b	1
独会話選択b	1	韓国語選択（初級）a	1
独語選択（初級）Ⅰa	1	韓国語選択（初級）b	1
独語選択（初級）Ⅰb	1	韓国語選択（中級・ディプロム）a	1
独語選択（初級）Ⅱa	1	韓国語選択（中級・ディプロム）b	1

注）※印の科目は本年度休講である。

〔第10表の注意事項〕

- ①「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② 同一科目の重複・反復履修はできない。なお、4単位までを卒業要件単位に算入することができる。
- ③ 登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。

- ④ 2018年度から、通年（2単位）で開講していた科目は、前期a（1単位）、後期b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目は履修できない。
 （例：2017年度までに「英語リスニング&スピーキング（初級）」の単位を修得している場合、「英語リスニング&スピーキング（初級）a」および「英語リスニング&スピーキング（初級）b」を履修できない。）
- ⑤ 2018年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することができない。

旧 科 目	新 科 目
独語選択（初級）A	独語選択（初級）I a
	独語選択（初級）I b
独語選択（初級）B	独語選択（初級）II a
	独語選択（初級）II b
仏語選択（初級）A	仏語選択（初級）I a
	仏語選択（初級）I b
仏語選択（初級）B	仏語選択（初級）II a
	仏語選択（初級）II b
中国語選択（初級）A	中国語選択（初級）I a
	中国語選択（初級）I b
中国語選択（初級）B	中国語選択（初級）II a
	中国語選択（初級）II b

- ⑥ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目（グレード）	履修の条件 （同一言語において1つ以上の条件を 満たすこと）	備 考
独語選択（初級）I a・I b・II a・II b 仏語選択（初級）I a・I b・II a・II b 中国語選択（初級）I a・I b・II a・II b	・全学生履修可	教育上の効果を高めるために、I a・I b・II a・II bの同学年での履修を強く勧める。
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	・上記「選択（初級）I a」、「選択（初級）I b」、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」の計4単位を修得した者 ・文芸学部主・副外国語の初級グレード（6単位）を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかだけの履修も可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択（初級）A」を修得していた場合は、「選択（初級）I a」と「選択（初級）I b」を、「選択（初級）B」を修得していた場合は、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」を修得しているものとみなす。

- ⑦ 2017年度をもって以下の科目は廃講となった。なお、修得した単位はその他の外国語の単位として認められる。

授 業 科 目		
独語選択（上級）a	仏語選択（上級）a	中国語選択（上級）a
独語選択（上級）b	仏語選択（上級）b	中国語選択（上級）b

3 ディプロム・コース

第11表 ディプロム・コース配当表（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
ディプロム・コース中級（英語）a	1	ディプロム・コース上級（英語）b	1
ディプロム・コース中級（独語）a	1	ディプロム・コース中級（独語）b	1
ディプロム・コース上級（独語）a	1	ディプロム・コース上級（独語）b	1
ディプロム・コース中級（仏語）a	1	ディプロム・コース中級（仏語）b	1
ディプロム・コース上級（仏語）a	1	ディプロム・コース上級（仏語）b	1

注）※印の科目は本年度休講である。

【到達目標】

- ア) 中級（英語）：英検準1級の合格、TOEICで6割以上得点できること。
 イ) 上級（英語）：英検1級の合格、TOEICで8割以上得点できること。
 ウ) 中級（独語・仏語）：独検・仏検の4～3級の合格。
 エ) 上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）2級～準1級の合格。

【第11表の注意事項】

- ① 「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② 同一言語の同グレード内での重複・反復履修は各科目のA・B合わせて3単位を限度とし、そのうち2単位までを卒業要件単位に算入することができる。
 ※単位修得の例
 ・「ディプロム・コース中級（独語）A」を2単位、「ディプロム・コース中級（独語）B」を1単位修得した場合、3単位中2単位が卒業要件単位に算入され、1単位は余剰単位となる。
 ・「ディプロム・コース中級（仏語）A」を2単位、「ディプロム・コース上級（仏語）A」を2単位修得した場合、4単位とも卒業要件単位に算入される。
 ・「ディプロム・コース中級（独語）A」を3単位、「ディプロム・コース中級（仏語）A」を3単位修得した場合、6単位中4単位が卒業要件単位に算入され、2単位は余剰単位となる。
- ③ 本コースはグレードを問わず履修することができるので、履修に際しては、上記の到達目標を参考にすること。
- ④ 登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ⑤ 2018年度に以下のように科目の名称が変更された。上記の注意事項②については、旧科目の単位を修得している場合、新科目の単位を修得済みであるとみなされる。

旧 科 目	新 科 目
ディプロム・コース中級（英語）A	ディプロム・コース中級（英語）a
ディプロム・コース上級（英語）B	ディプロム・コース上級（英語）b
ディプロム・コース中級（独語）A	ディプロム・コース中級（独語）a
ディプロム・コース中級（独語）B	ディプロム・コース中級（独語）b
ディプロム・コース上級（独語）A	ディプロム・コース上級（独語）a
ディプロム・コース上級（独語）B	ディプロム・コース上級（独語）b
ディプロム・コース中級（仏語）A	ディプロム・コース中級（仏語）a
ディプロム・コース中級（仏語）B	ディプロム・コース中級（仏語）b
ディプロム・コース上級（仏語）A	ディプロム・コース上級（仏語）a
ディプロム・コース上級（仏語）B	ディプロム・コース上級（仏語）b

4 エクステンシヴ・リーディング

第12表 エクステンシヴ・リーディング配当表（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英語エクステンシヴ・リーディングA	1	英語エクステンシヴ・リーディングB	1

注）※印の科目は本年度休講である。

【第12表の注意事項】

- ① 「自由選択」の単位として取り扱われる。
- ② A/B それぞれ3単位を限度に重複・反復履修でき、そのうちそれぞれ2単位までを卒業要件単位に算入することができる。
- ③ 登録方法については【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

4 自由科目

- ① 自由科目は、実技・実習科目、講義科目および社会調査士資格科目に分かれる。
- ② これらの科目はその修得単位のうち、**計4単位までを自由選択の単位として卒業要件単位に算入することができる。**

a 実技・実習科目

1 スポーツ・ウエルネス実技

半期開講あるいは集中で行われる1種目1単位の科目であり、その種目およびコースは第13表のとおりである。

第13表 スポーツ・ウエルネス実技種目表（学年配当：1～4年次）

コース	種目	系列
定時コース (半期1単位)	※オルタナティブスポーツ 卓球 バレーボール ゴルフ テニス フットサル サッカー&フットサル バasketボール ソフトボール バドミントン	スポーツ文化
集中コース(1単位)	※サイクル・スポーツ スキー	
定時コース (半期1単位)	アクアエクササイズ ※トレーニング エアロビクス&コンディショニング フィットネス エアロビクス&ピラティス ヨガ&ピラティス コンディショニング レクリエーション・スポーツ 水泳	ウエルネス文化
	剣道(古武道) ダンスパフォーマンス	身体表現文化

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第13表の注意事項】

- ① 一度単位を修得した種目を反復履修することや重複履修することもできる。
- ② スポーツ・ウエルネス実技の登録方法については、【[授業に関すること](#)】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】の項を参照すること。
- ③ 2012年度までに修得した体育実技の単位は、スポーツ・ウエルネス実技の単位として認められる。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ⑤ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。**後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。**
- ⑥ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑦ 教員免許の取得を希望する者は、スポーツ・ウエルネス実技科目2単位を修得しなければならない。

2 海外短期語学研修・海外短期研修

第14表のとおり「海外短期語学研修」・「海外短期研修」を開設する。

一度単位の認定を受けた科目を反復履修することや、重複履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのは2単位までである。

第14表 海外短期語学研修・海外短期研修科目配当表（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	学年配当	単 位	備 考
海外短期語学研修（英語・春季）	*	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、 【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（独語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（仏語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	1～4	1	
海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2	

注1) ※印の科目は本年度休講である。

注2) 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

【第14表の注意事項】

- ① 海外短期語学研修、海外短期研修の登録方法については【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ② 「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【1単位】」と「海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2単位】」は、セットで履修することになっている。
- ③ 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。
研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
- ④ やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
- ⑤ 海外短期語学研修および海外短期研修の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば、「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

3 日 本 語

「日本語A」「日本語B」は交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。

b 講義科目

1 講義科目 第15表のとおり、講義科目を開設する。

第15表 講義科目担当表

	単位	学年配当	備 考
統計学	4	2~4	
コンピュータ・リテラシー A 1	2	1~4	全学共通教育科目
コンピュータ・リテラシー A 2	2	1~4	
コンピュータ・リテラシー B	2	1~4	
※コンピュータ・リテラシー C	2	1~4	
コンピュータ・リテラシー D	2	1~4	
コンピュータ・リテラシー E	2	1~4	
※図書館活用法	2	1~4	
【キャリアデザイン科目】(第16表参照)	2	—	
【スポーツ・ウエルネス講義・演習科目】 (第17表参照)	2	1~4	
外国文化 I	4	1~4	オープン科目 (経済学部開設科目)
外国文化 II A	4	1~4	
外国文化 III A	4	1~4	
外国文化 IV A	4	1~4	
※現代社会とスポーツ	2	1~4	
※スポーツ産業論	2	1~4	

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第15表の注意事項】

- ① 全学共通教育科目の詳しい説明は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。なお、全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ② オープン科目とは、本学の各学部が開設している授業科目のうち、所属する学部の枠にとらわれず履修することができる授業科目である。
- ③ 「コンピュータ・リテラシー」のA1とA2はセットで履修することになっている。
- ④ 2017年度をもって、「経営統計学」は廃講となった。なお、すでに単位を修得している場合は共通科目自由科目の単位として認められる。

2 キャリアデザイン科目

第16表のとおり、キャリアデザイン科目を開設する。

第16表 キャリアデザイン科目担当表

授 業 科 目	単位	学年配当	授 業 科 目	単位	学年配当
☆キャリア形成概論 I	2	1・2	職業選択論	2	2~4
☆キャリア形成概論 II	2	1・2	※グローバルビジネス論	2	3・4
スタート・プログラム I (ホスピタリティとサービス)	2	1・2	チャレンジ・プログラム	2	3・4
スタート・プログラム II (企業提案)	2	1・2	時事英語 I	2	1~4
スタート・プログラム III (企業との協働)	2	1・2	時事英語 II	2	1~4
ワークライフバランス論	2	2~4	時事問題研究	2	2~4
※キャリアモデル・ケーススタディ	2	2~4	※就業力実践 I	2	2~4
アドバンス・プログラム	2	2・3	※就業力実践 II	2	2~4
業界企業分析論	2	2~4	※就業力実践 III	2	2~4

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第16表の注意事項】

- ① キャリアデザイン科目の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、4単位を限度として自由科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「スタート・プログラム I~III」は、「キャリア形成概論 I・II」(2科目4単位)の単位の修得が履修の条件となる。
- ③ 「スタート・プログラム I~III」のうち、修得できる単位数は1科目2単位までとする。

- ④「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は、3年次以降は履修することができない。
- ⑤「チャレンジ・プログラム」の受講を希望する学生は、履修登録前にキャリアセンターへ申し出ること。
- ⑥ キャリアデザイン科目は、特別な履修登録手続きが必要な科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ⑦ キャリアデザイン科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
- 「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【全学共通教育科目】Eキャリアデザイン科目群】の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ただし、他の（【履修規定】Ⅲ-2学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数】を参照）特例措置も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。

3 スポーツ・ウエルネス 講義・演習科目

第17表のとおり、スポーツ・ウエルネス講義・演習科目を開設する。

第17表 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目配当表（学年配当：1～4年次）

系列	授業科目	単位
スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉	2
	※スポーツ・スタディーズⅡ	2
	スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉	2
	※スポーツ・スタディーズⅣ	2
ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	2
身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉	2
	身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉	2
	身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉	2
	身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。
注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第17表の注意事項】

- ① スポーツ・ウエルネス講義・演習科目は、特別な履修登録手続きが必要となるので、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ② スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または、指定された教室でガイダンスを行う。

c 社会調査士資格科目

【社会調査士資格科目の注意事項】

- ① 「社会調査の設計と実施方法」、「社会調査における資料・データ分析の基本」、「量的社会調査実習」、「質的社会調査実習」は2017年度をもって廃講となった。なお、2017年度までに修得した単位は自由科目の単位として認められる。
- ② 社会調査士資格を取得するために必要な科目の詳細については、【社会調査士資格】(p.211)の項に記載されている。

Ⅲ-2 学科科目履修方法

A 国文学科

第18表 国文学科授業科目担当表

授業科目		学 年	I	II	III	IV	計
		(単位)					
必 修	国文学基礎演習Ⅰ	(2)	2				2
	国文学基礎演習Ⅱ	(2)	2				2
	国文学基礎演習Ⅲ	(2)	2				2
	国文学基礎演習Ⅳ	(2)	2				2
	ゼミナール(3)	(4)			4		4
	ゼミナール(4)	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
必修合計			8		4	12	24
選 択	概論科目	国文学史概論	(4)				12
		漢文学概論	(4)				
		国語学概論	(4)				
		国語史概論	(4)				
	演習科目	古代国文学演習	(4)		8	4	12
		中古国文学演習	(4)				
		中世国文学演習	(4)				
		近世国文学演習	(4)				
		近代国文学演習Ⅰ	(4)				
		近代国文学演習Ⅱ	(4)				
		漢文学演習	(4)				
	国語学演習	(4)					
	講義科目	古代国文学講義	(4)				12
		中古国文学講義	(4)				
中世国文学講義		(4)					
※近世国文学講義		(4)					
近代国文学講義		(4)					
漢文学講義		(4)					
国語学講義		(4)					
国語国文学特殊講義Ⅰ		(4)					
国語国文学特殊講義Ⅱ	(4)						
国語国文学特殊講義Ⅲ	(4)						
国語国文学特殊講義Ⅳ	(4)						
選択合計							36
総計							60

注) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

2014年度以前入学者用

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅲ-1共通科目履修方法】）を参照すること。
 - ・教職関連随意科目
 - ・教職課程における教職に関する科目
 - ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ③ 2013年度以前の入学者は教授会の承認により、52単位までの履修科目登録上限の緩和を認めることがある。希望者はWeb履修登録期限までに教務部で申請すること。

2 選択科目

- ① 選択に当たっては、一つの分野にかたよらず、幅広く学修することが望ましい。
- ② 近代国文学演習のⅠとⅡを同時に履修することはできない。
- ③ 【2013年度以降入学者】
演習科目は年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
【2012年度以前入学者】
演習科目は年度をかえて同一名称の科目を反復履修した場合にも、その修得単位を卒業要件単位に算入することができる。
- ④ 演習科目の選択に当たっては、可能な限り志望するゼミナールを視野に入れて選択すること。
- ⑤ 演習科目は、2年次で8単位以上、3年次で4単位以上履修すること。
- ⑥ 【2013年度以降入学者】
講義科目のうち特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
【2012年度以前入学者】
講義科目のうち特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修した場合にも、その修得単位数を卒業要件単位に算入することができる。
- ⑦ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（概論科目12単位、演習科目12単位、講義科目12単位、計36単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

3 進級基準

- ① 2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は、3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRD	4単位	}	計12単位
2. 学科科目	国文学基礎演習Ⅰ	2単位		
	国文学基礎演習Ⅱ	2単位		
	国文学基礎演習Ⅲ	2単位		
	国文学基礎演習Ⅳ	2単位		

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

- ② 3年次から4年次へ進級するためには、3年次終了までに、次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は3年次原級とし、原級者は4年次に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 必修	ゼミナール (3)	4単位	}	計36単位
2. 選択	演習 (8科目) のうち2科目	8単位		
3. 卒業に必要な単位		24単位		

(前項①の単位 [12単位] は含まない)

4 ゼミナール

ゼミナールは、おおむね時代別、主題別に編成され、古代、中古、中世、近世、近代、国語学、漢文学の7つの分野からなる。ゼミナールの主な目的は、卒業論文制作に備え、研究法の修得、文学史的基礎知識の学習、解釈・考証・調査等の手続きを学ぶことにあるので、学生は卒業論文のテーマにふさわしい指導を受けられるゼミナールを選ぶこと。テーマによっては、必ずしも各々の時代や分野にとらわれない選択も可能である。ただし、**2年次までに志望するゼミナールの分野の講義もしくは演習を1科目以上履修しておくことが望ましい。**

B 英文学科

第19表 英文学科授業科目配当表

授業科目		学 年	I	II	III	IV	計
		(単位)					
必 修	英語学基礎演習	(4)	4				4
	英語文学基礎演習	(4)	4				4
	英語文化基礎演習	(4)	4				4
	ゼミナール(3)	(4)			4		4
	ゼミナール(4)	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
	必修合計			12		4	12
選 目	演 習 科 目	英語文学演習Ⅰ	(4)		12		20
		英語文学演習Ⅱ	(4)				
		英語文学演習Ⅲ	(4)				
		英語学演習Ⅰ	(4)				
		英語学演習Ⅱ	(4)				
		英語文化演習Ⅰ	(4)				
		英語文化演習Ⅱ	(4)				
	講 義 科 目	英語文学演習Ⅳ	(4)		8		
		英語文学演習Ⅴ	(4)				
		英語文学演習Ⅵ	(4)				
		英語文学演習Ⅶ	(4)				
		英語学演習Ⅲ	(4)				
		英語文化演習Ⅲ	(4)				
		英語文化演習Ⅳ	(4)				
択	講 義 科 目	英語文学講義Ⅰ	(4)		12	12	
		英語文学講義Ⅱ	(4)				
		英語文学講義Ⅲ	(4)				
		英語文化講義Ⅰ	(4)				
		英語文化講義Ⅱ	(4)				
		英語学講義	(4)				
		英語学概論	(4)				
	英語文学史	(4)					
※英語文学特殊講義Ⅰ	(4)		4	4			
英語文学特殊講義Ⅱ	(4)						
英語文化特殊講義	(4)						
英語学特殊講義	(4)						
自 由	英語コミュニケーションⅠ	(2)		(6)			
	英語コミュニケーションⅡ	(2)					
	英語コミュニケーションⅢa	(1)					
	英語コミュニケーションⅢb	(1)					
選択・自由合計						36	
総 計						64	

注) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

2014年度以前入学者用

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定】Ⅳ-1共通科目履修方法）を参照すること。
- ・教職関連随意科目
 - ・教職課程における教職に関する科目
 - ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ③ 2013年度以前の入学者は教授会の承認により、52単位までの履修科目登録上限の緩和を認めることがある。希望者はWeb履修登録期限までに教務部で申請すること。

2 必修科目

- ① 1年次では次の3科目が必修である。
- ・英語学基礎演習
 - ・英語文学基礎演習
 - ・英語文化基礎演習
- ② ゼミナール (3)・(4)
3・4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

- ① 演習科目の履修について
2年次では指定された科目の中から12単位を上限として履修すること。
また3・4年次では計8単位以上を履修すること。
- ② 【2013年度以降入学者】
選択科目は年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
- 【2012年度以前入学者】
選択科目は年度をかえて同一名称の科目を反復履修した場合にも、その修得単位を卒業要件単位に算入することができる。
- ③ 演習科目および一部の講義科目については、授業の特性上、人数制限が行われる。対象科目および登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ④ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（演習科目20単位、講義科目16単位、計36単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

4 自由科目

- ① 自由科目の修得単位は自由選択の単位として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 教員免許の取得を希望する者は、この6単位を必修とする。この6単位は卒業要件単位にも算入することができる。教員免許の取得に係る教職課程の履修については【教職課程】をよく読むこと。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRD	4単位
	主外国語	7単位以上〔注〕
2. 学科科目	必修 英語学基礎演習	4単位
	英語文学基礎演習	4単位
	英語文化基礎演習	4単位
	計	23単位以上

〔注〕「英語（上級Ⅰ）LS」または「英語（上級Ⅰ）RW」を含む7単位以上を修得することが条件であるが、開始段階、飛び級等により、実際の修得単位に1～9単位の幅で差異が生じる場合がある。

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**30単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

6 ゼミナール

ゼミナールは、おおまかに言って英語文学、英語学、英語文化の三本柱で構成されている。それぞれの分野は、時代・主題別にさらに細かく多岐に分かれている。ゼミナールにおいては、卒業論文の完成にむけての指導が行われるが、その指導法はゼミナール担当者によって異なる。各ゼミナールの定員は年度により多少の増減はあるが、原則として12名。希望者数が定員を超えた場合、選考が行われる。

7 TOEIC試験

〈対象学生〉

本学科では下記の学生にTOEIC受験を義務づけている。

- ① 1年次・2年次・3年次全員（3年次終了時まで6回以上受験すること）
- ② 「英語科教育法」、「英語科教育実習」受講者全員
- ③ 英文学科を副専攻とする者（3年次終了時まで4回以上受験すること）

〈実施日〉

第1回 7月7日（土）9：30～12：00

第2回 12月1日（土）9：30～12：00

※ やむを得ない理由により、学内試験を受験できなかった者は、学外試験（TOEIC公開テスト）を受験することも可能である。その際、2つの試験の間に3ヶ月以上の期間をおくこと。なお、TOEICテスト結果の公式認定証を3号館3階文芸学部共用研究室で提示し、そのコピーを提出すること。

8 外国語科目 （英語）の履修に ついて

- ① 卒業までに、「上級Ⅱ」（Advanced English Composition）を履修することが望ましい。
- ② 教職に関する科目「英語科教育法」受講者は、3年次終了までに外国人教員が担当する「上級Ⅱ」（Advanced English Composition）を最低1科目履修し、単位を修得することが望ましい。

9 早期卒業制度

英文学科3年次生で、下記の応募資格および卒業資格の認定基準を満たした者には、3年次終了時に大学の卒業資格が与えられる。

〈応募資格〉

- ① 2018年4月1日時点で大学に2年間以上在籍し、現在3年次に在学し、修得した卒業要件となる全科目の中で「優」以上の成績が2年次終了時に全体の80%以上であること。また、卒業要件単位128単位中86単位以上修得していること。なお、休学期間は在籍年数に含めない。
- ② 3年次終了時まで卒業に必要な単位を修得する予定であること。なお、「ゼミナール（4）」および「卒業論文」は以下のように取扱う。
 - ・ 「ゼミナール（4）」（4単位）
「ゼミナール（4）」は、早期卒業制度申請者用のものを履修すること。
 - ・ 「卒業論文」（8単位）
3年次の12月に「卒業論文」を提出すること（「卒業論文」の提出要領は、4年次の提出要領にしたがう）。

〈出願手続〉

希望者は、3年次の開講日から4月18日（水）16：30までに「早期卒業制度申請書」を教務部に提出すること。

なお、「早期卒業制度申請書」は、教授会で審議の上、正式に受理される。

〈卒業資格の認定基準〉

- ① 3年次終了時まで卒業に必要な単位を修得し、その修得した全科目の中で「優」以上の成績が全体の80%以上であること。
- ② 3年次の12月20日（木）16：30までに「卒業論文」を提出していること。

〈合格発表〉

「早期卒業制度」合格者は、教授会の審議の上決定し、3月中旬に、1号館文芸学部掲示板にて発表する。

※ 本制度を申請した者が、本制度に基づく履修の継続を希望しない場合は、後期開講日までに取り消しを願い出ることができる。その場合は、取り消しの理由を明確にし、「早期卒業制度辞退願」（A4判、書式自由）を教務部に速やかに提出すること。

第20表 芸術学科授業科目配当表

授業科目		学 年 (単位)	I	II	III	IV	計
			必修	美学・芸術学入門	(4)	4	
美術史入門	(4)	4					4
芸術学・美術史基礎演習	(4)	4					4
芸術学・美術史実習	(2)			2			2
ゼミナール	(4)					4	4
卒業論文	(8)					8	8
必修合計		12		2		12	26
選択	演習科目	美学演習	(4)			12	12
		音楽学演習	(4)				
		演劇学演習	(4)				
		映画学演習	(4)				
		日本美術史演習	(4)				
		東洋美術史演習	(4)				
		西洋美術史演習Ⅰ	(4)				
		西洋美術史演習Ⅱ	(4)				
	講義科目	美学一般講義	(4)		16	16	
		芸術学一般講義Ⅰ	(4)				
		芸術学一般講義Ⅱ	(4)				
		芸術学一般講義Ⅲ	(4)				
		美術史一般講義Ⅰ	(4)				
		美術史一般講義Ⅱ	(4)				
美術史一般講義Ⅲ		(4)					
美術史一般講義Ⅳ		(4)					
講義科目	美学特殊講義Ⅰ	(2)		4	4		
	美学特殊講義Ⅱ	(2)					
	芸術学特殊講義Ⅰ	(2)					
	芸術学特殊講義Ⅱ	(2)					
	芸術学特殊講義Ⅲ	(2)					
	美術史特殊講義Ⅰ	(2)					
	美術史特殊講義Ⅱ	(2)					
	美術史特殊講義Ⅲ	(2)					
	美術史特殊講義Ⅳ	(2)					
	美術史特殊講義Ⅴ	(2)					
選択合計					32		
総計						58	

注) ※印の科目は本年度休講である。

芸術学科は、美学・芸術学および美術史を総合的に学び、さらに各専門分野に分かれて研究するカリキュラムを立てているので、受講科目の選択に当たっては一つの分野にかたよらず、幅広く学修することが望ましい。

1 履修科目登録 上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定】Ⅳ-1共通科目履修方法）を参照すること。
 - ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ③ 2013年度以前の入学者は教授会の承認により、52単位までの履修科目登録上限の緩和を認めることがある。希望者はWeb履修登録期限までに教務部で申請すること。

2 選択科目

- ① **【2013年度以降入学者】**
演習科目および講義科目のうち特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位を卒業要件単位に算入することはできない。
【2012年度以前入学者】
演習科目および講義科目のうち特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修した場合にも、その修得単位を卒業要件単位に算入することができる。
- ② 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（演習科目12単位、講義科目16単位、特殊講義科目4単位、計32単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

3 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	
WRD	4単位
2. 学科科目	
必修	
美学・芸術学入門	4単位
美術史入門	4単位
芸術学・美術史基礎演習	4単位
計	16単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**26単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

4 ゼミナール

ゼミナールは、美学、音楽学、演劇学、映画学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史Ⅰ、西洋美術史Ⅱの8つに分かれ、主として卒業論文の個別的な指導が行われる。

第21表 文化史学科授業科目配当表【2014年度入学者用】

授業科目		学 年 (単位)	I	II	III	IV	計
必修	ゼミナール(3)	(4)			4		4
	ゼミナール(4)	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
	必修合計				4	12	16
選	概論科目	文化史概論Ⅰ	(4)	4			4
		文化史概論Ⅱ	(4)				
		文化史概論Ⅲ	(4)				
	演習科目	文化史基礎演習Ⅰ	(4)	8			8
		文化史基礎演習Ⅱ	(4)				
		文化史基礎演習Ⅲ	(4)				
		文化史演習Ⅰ-A	(4)		4	4	8
		文化史演習Ⅰ-B	(4)				
		文化史演習Ⅱ-A	(4)				
		文化史演習Ⅱ-B	(4)				
	文化史演習Ⅲ-A	(4)					
	文化史演習Ⅲ-B	(4)					
	実習科目	文化史実習Ⅰ	(2)		2		2
文化史実習Ⅱ		(2)					
文化史実習Ⅲ		(2)					
択	講義科目	文化史特殊講義Ⅰ	(4)				24
		文化史特殊講義Ⅱ	(4)				
		文化史特殊講義Ⅲ	(4)				
		文化史特殊講義Ⅳ	(4)				
		歴史学特殊講義Ⅰ	(4)				
		歴史学特殊講義Ⅱ	(4)				
		歴史学特殊講義Ⅲ	(4)				
		民俗学特殊講義Ⅰ	(4)				
		民俗学特殊講義Ⅱ	(4)				
		民俗学特殊講義Ⅲ	(4)				
		文化人類学特殊講義Ⅰ	(4)				
		文化人類学特殊講義Ⅱ	(4)				
文化人類学特殊講義Ⅲ	(4)						
自由	日本文化史	(4)		{8}			
	東洋文化史	(4)					
	西洋文化史	(4)					
	日本史概説	(4)					
	人文地理学	(4)					
	地理学講義	(4)					
	地誌学	(4)					
	考古学	(4)					
教職関連随意科目	政治学原論(2年)	(4)	卒業要件単位としては認められず、 余剰単位の取扱いとなる。				-
	国際関係論(2年)	(4)					
	経済原論(3年)	(4)					
	憲法(2年)	(4)					
	外国史概説(2年)	(4)					
	国際法(3・4年)	(4)					
	公共経済学Ⅰ(3・4年)	(2)					
	公共経済学Ⅱ(3・4年)	(2)					
	国際貿易論Ⅰ(3・4年)	(2)					
	国際貿易論Ⅱ(3・4年)	(2)					
選択・自由・随意合計						46	
総計						62	

注) ※印の科目は本年度休講である。

第21表 文化史学科授業科目配当表【2013年度以前入学者用】

授業科目		学 年	I	II	III	IV	計
		(単位)					
必 修	文化史基礎演習Ⅰ	(4)	4				4
	文化史基礎演習Ⅱ	(4)	4				4
	ゼミナール(3)	(4)			4		4
	ゼミナール(4)	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
必修合計			8		4	12	24
選 択	概論科目	文化史概論Ⅰ	(4)	4			4
		文化史概論Ⅱ	(4)				
		文化史概論Ⅲ	(4)				
	演習科目	文化史演習Ⅰ-A	(4)		4	4	8
		文化史演習Ⅰ-B	(4)				
		文化史演習Ⅱ-A	(4)				
		文化史演習Ⅱ-B	(4)				
		文化史演習Ⅲ-A	(4)				
		文化史演習Ⅲ-B	(4)				
	実習科目	文化史実習Ⅰ	(2)		2		2
		文化史実習Ⅱ	(2)				
		文化史実習Ⅲ	(2)				
	講 義 科 目	文化史特殊講義Ⅰ	(4)		12	12	24
文化史特殊講義Ⅱ		(4)					
文化史特殊講義Ⅲ		(4)					
文化史特殊講義Ⅳ		(4)					
歴史学特殊講義Ⅰ		(4)					
歴史学特殊講義Ⅱ		(4)					
歴史学特殊講義Ⅲ		(4)					
民俗学特殊講義Ⅰ		(4)					
民俗学特殊講義Ⅱ		(4)					
民俗学特殊講義Ⅲ		(4)					
文化人類学特殊講義Ⅰ		(4)					
文化人類学特殊講義Ⅱ	(4)						
文化人類学特殊講義Ⅲ	(4)						
自 由	日本文化史	(4)		[8]			
	東洋文化史	(4)					
	西洋文化史	(4)					
	日本史概説	(4)					
	人文地理学	(4)					
	地理学	(4)					
	地誌学	(4)					
	考古学	(4)					
教 職 関 連 随 意 科 目	政治学原論(2年)(注1)	(4)	卒業要件単位としては認められず、 余剰単位の取扱いとなる。				
	国際関係論(2年)(注2)	(4)					
	経済学原論(3年)(注2)	(4)					
	憲法(2年)	(4)					
	外国史概説(2年)	(4)					
	国際法(3・4年)	(4)					
	公共経済学Ⅰ(3・4年)	(2)					
	公共経済学Ⅱ(3・4年)	(2)					
	国際貿易論Ⅰ(3・4年)	(2)					
	国際貿易論Ⅱ(3・4年)	(2)					
選択・自由・随意合計						38	
総 計						62	

注1) 2011年度以前入学者の学年配当は(1年)
 注2) 2011年度以前入学者は履修できない。
 注3) ※印の科目は本年度休講である。

1 履修科目登録 上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定】Ⅳ-1共通科目履修方法】）を参照すること。
 - ・教職関連随意科目
 - ・教職課程における教職に関する科目
 - ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ③ 2013年度以前の入学者は教授会の承認により、52単位までの履修科目登録上限の緩和を認めることがある。希望者はWeb履修登録期限までに教務部で申請すること。

2 選択科目

- ① 2年次および3年次で、演習科目はそれぞれ4単位、講義科目はそれぞれ12単位以上履修すること。
- ② 【2013年度以降入学者】
基礎演習科目を除く演習科目および講義科目は年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
【2012年度以前入学者】
演習科目および講義科目は年度をかえて同一名称の科目を反復履修した場合にも、その修得単位を卒業要件単位に算入することができる。
- ③ 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。また、選択科目の規定単位数を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。

3 自由科目

- ① 自由科目の修得単位のうち、8単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 下記教科の教員免許の取得を希望する者は、次に示す授業科目が必修となる。この場合も8単位まで卒業要件単位数に算入することができる。
社 会 科…日本史概説、地理学講義、地誌学
地理歴史科…日本史概説、地理学講義、地誌学、人文地理学

4 教職関連 随意科目

教職関連随意科目は、教職課程を登録した者が「教科に関する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者、また他学科の学生もそれぞれ随意科目としてこれらの科目を履修することができる。

ただし、教職課程登録の如何を問わず、また学科を問わず、修得した単位は卒業要件単位としては認められない（余剰単位の取扱いとなる）。

なお、教員免許の取得に係る教職課程の履修については【教職課程】を参照すること。

また、教職関連随意科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【教職課程】Ⅰ教職課程 4 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRD	4単位
2. 学科科目	文化史基礎演習Ⅰ～Ⅲのうち	8単位
	文化史概論Ⅰ～Ⅲのうち	4単位
	計	16単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位を**30単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

6 ゼミナール

どのゼミナールを選択するかは、ひとえに学生諸君の学問的関心にある。本学科のゼミナールの構成は日本史、民俗学、文化人類学とバラエティに富んでいる。2年次に、ゼミナールを選択するためのガイダンスが開催されるので、ゼミナールの選択に際しては、それぞれの担当者の専門領域等を確認して決めること。

また日本史では、古文書や漢文が読めることが望ましい。民俗学では、実地調査を行うことが多い。文化人類学では、英語の論文を読めることが望ましい。

E マスコミュニケーション学科

第22表 マスコミュニケーション学科授業科目配当表

授業科目		学 年	I	II	III	IV	計	
		(単位)						
必 修	マスコミ基礎演習Ⅰ	(2)		2			2	
	マスコミ基礎演習Ⅱ	(2)		2			2	
	マスコミ演習	(4)			4		4	
	ゼミナール	(4)				4	4	
	卒業論文	(8)				8	8	
	必修合計				4	4	12	20
選 択 目	実習科目	マスコミ実習Ⅰ	(1)					
		マスコミ実習Ⅱ	(1)			2		
		マスコミ実習Ⅲ	(1)					
	I 群	マスコミ原論	(2)	10				10
		マスコミ史	(2)					
		ジャーナリズム論	(2)					
		リスクコミュニケーション論	(2)					
		社会心理学	(2)					
		広告心理学	(2)					
		マスコミ研究法	(2)					
	II 群	※マスコミ講義Ⅰ	(2)	26			26	
		※マスコミ講義Ⅱ	(2)					
		※マスコミ講義Ⅲ	(2)					
		マスコミ講義Ⅳ	(2)					
		マスコミ講義Ⅴ	(2)					
		※マスコミ講義Ⅵ	(2)					
		マスコミ講義Ⅶ	(2)					
		マスコミ講義Ⅷ	(2)					
		※コミュニケーション講義Ⅰ	(2)					
		コミュニケーション講義Ⅱ	(2)					
※コミュニケーション講義Ⅲ		(2)						
コミュニケーション講義Ⅳ		(2)						
※コミュニケーション講義Ⅴ		(2)						
コミュニケーション講義Ⅵ		(2)						
※コミュニケーション講義Ⅶ		(2)						
コミュニケーション講義Ⅷ	(2)							
マスコミ特殊講義Ⅰ	(2)							
マスコミ特殊講義Ⅱ	(2)							
マスコミ特殊講義Ⅲ	(2)							
マスコミ特殊講義Ⅳ	(2)							
マスコミ特殊講義Ⅴ	(2)							
マスコミ特殊講義Ⅵ	(2)							
マスコミ特殊講義Ⅶ	(2)							
マスコミ特殊講義Ⅷ	(2)							
選択合計						38		
総計						58		

注) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

2014年度以前入学者用

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【履修規定Ⅳ】-1共通科目履修方法）を参照すること。
- ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ③ 2013年度以前の入学者は教授会の承認により、52単位までの履修科目登録上限の緩和を認めることがある。希望者はWeb履修登録期限までに教務部で申請すること。

2 授業科目の登録

前期開講、後期開講とも原則として4月の履修登録期間に登録しなくてはならない。

3 必修科目

「マスコミ基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「マスコミ演習」および「ゼミナール」はそれぞれ履修前年度の後期に小論文を提出し、それをもとに学科で所属を決定する。小論文の枚数・締切期日等は別途掲示する。

4 選択科目

- ① 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（実習科目2単位、講義科目36単位、計38単位）を超えて修得した場合、さらに計16単位までを自由選択として卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「マスコミ実習」については、「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のうち最低2単位を修得しなければならない。なお、使用機材の関係上、人数制限が行われる。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ③ 講義科目のうち、講義科目Ⅰ群の規定単位数（10単位）を超えて修得した場合、講義科目Ⅱ群の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。
- ④ 【2013年度以降入学者】
講義科目のうち特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
- 【2012年度以前入学者】
講義科目のうち特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修した場合にも、その修得単位を卒業要件単位に算入することができる。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す最低基準の単位を修得しなければならない。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	WRD	4単位
2. WRDのほか、卒業要件単位に算入される単位		36単位
	計	40単位

第23表 ヨーロッパ文化学科授業科目配当表【2012年度以降入学者用】

授業科目		学年	I	II	III	IV	計
		(単位)					
必修	ヨーロッパの文化	(4)	4				4
	ヨーロッパ文化実習Ⅰ	(2)	2				2
	ヨーロッパ文化実習Ⅱ	(2)		2			2
	独(仏)文法実習	(2)		2			2
	ゼミナール(3)	(4)			4		4
	ゼミナール(4)	(4)				4	4
	卒業論文	(8)				8	8
必修合計			6	4	4	12	26
選	演習科目	言語学演習	(4)				
		ヨーロッパの思想演習Ⅰ(独)	(4)				
		ヨーロッパの思想演習Ⅱ(仏)	(4)				
		ヨーロッパの歴史演習Ⅰ(独)	(4)				
		ヨーロッパの歴史演習Ⅱ(仏)	(4)				
		独語独文学演習	(4)			16	
		比較文化演習	(4)				
		現代ドイツ事情演習	(4)				
		仏語仏文学演習	(4)				
		現代フランス事情演習	(4)				
広域芸術論演習Ⅰ	(4)						
※広域芸術論演習Ⅱ	(4)						
択	講義科目	ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)	(2)				
		ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)	(2)				
		ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)	(2)	4			4
		ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)	(2)				
		ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)	(2)				
	ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)	(2)					
	西洋古典特殊講義	(4)					
	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰ(独)	(4)					
	※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱ(仏)	(4)					
	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)	(2)			8		
ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)	(2)						
ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ(独)	(4)						
ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ(仏)	(4)						
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)	(2)						
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)	(2)						
自由	※独語コミュニケーションⅠa	(1)					
	※独語コミュニケーションⅠb	(1)					
	※独語コミュニケーションⅡa	(1)					
	※独語コミュニケーションⅡb	(1)					
	※独語コミュニケーションⅢa	(1)					
	※独語コミュニケーションⅢb	(1)					
	※仏語コミュニケーションⅠa	(1)					
	※仏語コミュニケーションⅠb	(1)					
	※仏語コミュニケーションⅡa	(1)					
	※仏語コミュニケーションⅡb	(1)					
	※仏語コミュニケーションⅢa	(1)					
	※仏語コミュニケーションⅢb	(1)					
	哲学講義	(4)					
宗教学講義	(4)						
倫理学講義	(4)						
哲学史特殊講義	(4)						
選択・自由合計						8	
総計							54

注) ※印の科目は本年度休講である。

1 履修科目登録
上限単位数

- ① 各学年において履修することのできる単位数の上限を**49単位**とする。
- ② 以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項（キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は【[履修規定](#)】Ⅳ-1共通科目履修方法）を参照すること。
- ・教職関連随意科目
 - ・教職課程における教職に関する科目
 - ・学芸員課程における必修科目
 - ・キャリアデザイン科目のうち卒業要件単位として認められない科目
 - ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない以下の区分の科目
 - ・「留学対策科目」
 - ・「英語等による地域研究科目」
 - ・「留学準備演習」
 - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ③ 2013年度以前の入学者は教授会の承認により、52単位までの履修科目登録上限の緩和を認めることがある。希望者はWeb履修登録期限までに教務部で申請すること。

2 必修科目

- ① 「独（仏）文法実習」は学科科目としての単位であり、外国語科目の単位ではないが、主外国語と同一の外国語の文法実習を履修することになっており、ヨーロッパ文化学科生はクラス分けを行う。指定クラスは、Campus Square for Webの履修状況メニューで各自確認すること。
- ② ゼミナールは3・4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならない。

3 選択科目

- ① **選択科目の反復履修について**
【2013年度以降入学者】
 演習科目および特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できるが、反復履修して修得した単位は卒業要件単位数に算入することはできない。
【2012年度以前入学者】
 演習科目および特殊講義科目は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修した場合にも、その修得単位を卒業要件単位数に算入することができる。
- ② 選択科目は配当表に従い、それぞれの分野に示す単位を修得しなければならない。なお、選択科目の規定単位数（演習科目16単位、講義科目12単位、計28単位）を超えて修得した場合、計16単位までを自由選択として卒業要件単位数に算入することができる。
- ③ 演習科目のうち広域芸術論演習ⅠとⅡは、原則として隔年開講とする。

4 自由科目

- ① **自由科目の修得単位のうち、8単位までを自由選択として卒業要件単位数に算入することができる。**
- ② 下記教科の教員免許の修得を希望する者は、以下に示す授業科目が必修となる。この場合も8単位まで卒業要件単位数に算入することができる。
- ドイツ語科…… 独語コミュニケーションⅠa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb
 フランス語科… 仏語コミュニケーションⅠa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb
 （注）上記科目の他、教員免許の取得に際して必要とする科目がある。教員免許の取得に係る教職課程の履修については【[教職課程](#)】を参照すること。

5 進級基準

2年次から3年次へ進級するためには、2年次終了までに次に示す**最低基準の単位を修得しなければならない**。この基準に満たない者は2年次原級とし、原級者は3年次以上に配当された全ての授業科目を履修することができない。

1. 共通科目	
WRD	4単位
2. 学科科目	
必修	
ヨーロッパの文化	4単位
ヨーロッパ文化実習Ⅰ	2単位
計	10単位

※ 3年次に進級できた場合でも卒業要件単位数を**26単位以上**修得していなければ、各学年の履修科目登録上限単位数により4年間で卒業要件単位数を充足することはできないので注意すること。

6 演習科目
履修基準

演習科目を履修するには、**進級基準を満たすことのほかに、さらに次の単位を修得していなければならない**。この基準に満たない者は、3年次にはいかなる演習科目も履修することはできないが、4年次には演習科目4科目16単位を履修してもよい（ただし、この基準は、ヨー

ヨーロッパ文化学科の学生および副専攻としてヨーロッパ文化学科を選択する学生にのみ適用される)。

なお、他学科の学生で演習科目の履修を希望する者は、履修登録締切日までに、必ず教務部に申し出ること。

主外国語〔初級(6単位)、中級総合(中級Ⅰ=2単位)または表現研究Ⅰa(2単位)〕	8単位
1、2年次配当の「講義科目」	4単位
計	12単位

※ 主外国語を中級Ⅰ以上のグレードから開始した者は、自らの開始グレード以上の主外国語を8単位修得していなければならない。

7 2年次における演習科目の特別履修

主外国語(独語または仏語)を中級または上級から履修し始めた者は、1年次に下記の科目の全てを修得した場合、2年次からヨーロッパ文化学科の演習科目を履修することができる。(履修を希望する者は、履修登録締切日までに、必ず教務部に申し出ること。)

WRD	4単位
主外国語	8単位
ヨーロッパの文化	4単位
ヨーロッパ文化実習Ⅰ	2単位
1、2年次配当の「講義科目」	4単位
計	22単位

8 ゼミナール履修条件

ゼミナール(4)を履修するには、下記の単位を全て修得していなければならない。

【2013年度以降入学者】

主外国語 初級	6単位
中級Ⅰ(中級総合)	2単位
中級Ⅱ(中級総合)	2単位
表現研究ⅠaまたはⅠb	2単位
独または仏文法実習	2単位
ヨーロッパ文化実習Ⅱ	2単位
ゼミナール(3)	4単位
計	20単位

※ 主外国語を中級Ⅰ以上のグレードから開始した者は、上記に準じて、主外国語を12単位修得していなければならない。

【2012年度以前入学者】

主外国語 初級	6単位
中級Ⅰ(中級総合)	2単位
中級Ⅱ(中級総合)	2単位
表現研究Ⅰa	2単位
表現研究Ⅰb	2単位
独または仏文法実習	2単位
ヨーロッパ文化実習Ⅱ	2単位
ゼミナール(3)	4単位
計	22単位

※ 主外国語を中級Ⅰ以上のグレードから開始した者は、主外国語を14単位修得していなければならない。

9 ゼミナール

本学科ではドイツ・フランス語圏の文学、思想・哲学、歴史、芸術、言語学、文化事情、現代社会事情、またそれらの源泉となっているギリシャ・ローマの古典文化にいたるまで、広汎な研究領域に関わるゼミナールを開講している。ゼミナールへの配属は、2年次後期提出の登録申込書に記入してもらう各自の研究関心・研究主題に基づいて、学科で決定する。

これに関しては、毎年度後期にゼミナール登録のためのガイダンス(通例はヨーロッパ文化実習Ⅱの授業を利用して行う)を開講するので、翌年度に3年次ゼミナールを履修する学生は、掲示に注意し、必ず出席すること。

Ⅲ-3

文芸学部共通ゼミナール

文芸学部では、文芸学部共通ゼミナール（以下、共通ゼミナール）を開設する。

卒業論文を執筆する学生は、所属学科のゼミナールに属し、学科担当の教員の指導を受けることが原則であるが、卒業論文のテーマが学科のゼミナールより共通ゼミナールが相応しいと判断した場合、共通ゼミナールで指導を受けることができる。なお、共通ゼミナールに所属を変更する場合の手順は以下のとおりであるが、詳細については、Campus Square for Web等で周知するので、その指示に従うこと。

- ① 3年次10月に開催される共通ゼミナールのガイダンスを受ける。日程等の詳細は掲示で周知する。
- ② 共通ゼミナールで卒業論文指導を受けたい場合は、学生自身が所属する学科のゼミナール指導教員（芸術学科とマスコミュニケーション学科は、学科主任）に申し出る。
- ③ 登録許可者については学部教務主任から連絡がある。当該学生は、学科のゼミナール指導教員に報告し、仮登録を行う。仮登録手続きの詳細は掲示で周知する。
- ④ 仮登録をした学生は、翌年度の4月に当該共通ゼミナールに本登録され、卒業論文指導を受ける。
 - （注1）共通ゼミナールは、学科のゼミナールに替わるものとする。
 - （注2）当該学生が提出した卒業論文の面接試験に関しては、当該共通ゼミナール担当教員が主査を、所属学科の当該分野の教員が副査をつとめる。
 - （注3）当該学生は、入学時の学科の卒業とする。

Ⅲ-4 自由選択

1 自由選択とは

卒業に必要な単位（卒業要件単位）として、下表のとおり共通科目、学科科目、自由選択の各分野・区分において、それぞれ決められた単位数（規定単位数）を修得しなければならない（詳細はp.126【履修規定】I卒業要件単位数】を参照）。

学 科	卒業要件 単位数	共通科目の 規定単位数	学科科目の 規定単位数	自由選択の 規定単位数
国 文 学 科	124	34	60	30
英 文 学 科	128	34	64	30
芸 術 学 科	124	34	58	32
文 化 史 学 科	128	34	62	32
マスコミュニケーション学科	124	34	58	32
ヨーロッパ文化学科	124	42	54	28

自由選択とは、卒業要件単位数のうち、必修科目（「WRD」、「ゼミナール」および「自学科必修科目」）を除く文芸学部全授業科目（他学科科目を含む）の中から、**自由な選択によって単位を修得すること**をいう。自由選択として卒業要件単位数に算入できる単位は次のものが適用される。

- 共通科目および自学科科目の選択科目のうち規定単位数を超えて修得した単位（規定単位数が0である「その他の外国語」についてはその修得した単位）
- 共通科目および自学科科目のうち「自由科目」の修得単位
- 他学科科目の修得単位

なお、各分野・区分において自由選択として卒業要件単位数に算入できる単位数には、それぞれ上限が定められており（第1表の〔 〕内の数字）、上限を超えて修得した単位は余剰単位の扱いとなる。

2 履 修 上 の 注 意 事 項

学科の選択科目・自由科目の履修にも、あらかじめ修得しておかなければならない科目や単位数の条件が付されているものがある。この条件は、他学科の学生にも適用されるから注意すること。

【自由選択への算入例】（該当部分は右ページのA表を参照）

単位修得の例	適用	自由選択への算入単位数	解 説
例1 全学共通教養・データサイエンス科目を24単位修得	a	8単位	全学共通教養・データサイエンス科目の規定単位数は16単位であり、この場合、それを超えた8単位が自由選択に算入される。 (自由選択への算入上限は16単位なので、規定単位数+算入上限=32単位を超えて修得した単位がある場合は余剰単位の扱いとなる。)
例2 その他の外国語 英語リスニング&スピーキング 4単位 英語リーディング&ライティング 4単位 ディプロム・コース独語 2単位 を修得	a	6単位	その他の外国語で修得した単位は上限22単位まで自由選択の単位数に算入される。ただし、その他の外国語のうち「全学共通外国語」は4単位までしか算入されないため、この場合、全学共通外国語8単位のうち4単位と、ディプロム・コース2単位の計6単位が算入され、4単位は余剰単位となる。
例3 共通科目・自由科目 コンピュータ・リテラシー 4単位 スポーツ・ウェルネス実技科目 2単位 キャリア形成概論 4単位 を修得	b	4単位	共通科目・自由科目で修得した単位は上限4単位まで自由選択の単位数に算入されるので、この場合、10単位のうち4単位が算入され、6単位は余剰単位となる。
例4 国文学科生が 国文学科の講義科目を20単位修得	a	8単位	国文学科の選択科目・講義科目の規定単位数は12単位なので、それを超えた8単位が自由選択に算入される。 (各学科の選択科目は演習科目、講義科目など、それぞれの規定単位数を超えた計16単位まで算入が可能となる。)
例5 文化史学科生が 文化史学科の自由科目を4単位修得	b	4単位	学科科目・自由科目で修得した単位は学科で定められた単位数まで自由選択の単位数に算入される。文化史学科の自由科目は算入上限が8単位なので、この場合、4単位がそのまま算入される。 なお算入上限は他学科生にも適用される。
例6 英文学科生が 芸術学科の講義科目を8単位修得	c	8単位	他学科科目の修得単位は全て自由選択に算入される。
例7 芸術学科生がヨーロッパ文化学科の 自由科目を10単位修得	c	8単位	自由科目は各学科が定める上限単位数まで自由選択に算入される。ヨーロッパ文化学科の自由科目は算入上限が8単位なので、この場合、8単位が自由選択に算入され、2単位は余剰単位となる。

A表 自由選択として卒業要件単位に算入できる科目と単位数の例 (p.126 第1表から)

分野・区分		規 定 単 位 数																	
		国文学科		英文学科		芸術学科		文化史学科				マスコミュニケーション学科		ヨーロッパ文化学科					
		卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	2014年度入学者 卒業要件 単位数	2014年度入学者 自由選択 算入上限	2013年度以前入学者 卒業要件 単位数	2013年度以前入学者 自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限	卒業要件 単位数	自由選択 算入上限				
共通科目	必修科目	WRD		4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-		
	選択科目	外国語科目	全学共通教養・データサイエンス科目	16	(16)	16	(16)	16	(16)	16	(16)	16	(16)	16	(16)	16	(16)	例1	
			主外国語	8	(12)	8	(12)	8	(12)	8	(12)	8	(12)	8	(12)	16	(12)	例2	
			副外国語	6		6		6		6		6		6		6			
	その他の外国語 ※うち全学共通外国語は4単位まで	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)	0	(22)		
	自由科目	実技・実習、講義、社会調査士		0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)	0	(4)
共通科目の計 (A)				34		34		34		34		34		34		42			
学科科目	必修科目				24	-	28	-	26	-	16	-	24	-	20	-	26	-	
	選択科目	概論科目			12	-	-	-	-	-	4	-	4	-	-	-	-	-	
		演習科目			12	-	20	-	12	-	16	-	8	-	-	-	16	-	
		実習科目			-	(16)	-	(16)	-	(16)	2	(16)	2	(16)	2	(16)	-	(16)	
		講義科目			12	-	12	-	16	-	-	-	-	-	-	-	4	-	
		特殊講義科目			12	-	4	-	4	-	24	-	24	-	36	-	8	-	
自由科目			-	-	0	(6)	-	-	0	(8)	0	(8)	-	-	0	(8)			
学科科目の計 (B)				60		64		58		62		62		58		54			
自由選択	他学科科目修得単位および他の区分からの算入単位 (C)				30		30		32		32		32		28				
総計 (A) + (B) + (C)				124		128		124		128		128		124		124			

例4

例6

例5

例7

履修規定

2014年度以前入学者用

2017年度以前 授業科目の新設・名称変更・廃講 一覧表

授業科目の新設

新設年度	授 業 科 目 名	備 考		
2017年度	特別講座Ⅰ・Ⅱ メディア論入門a・b 現代社会論演習a・b 経済学入門a・b 情報社会論入門a・b 社会構造論Ⅰ～Ⅵ a・b 哲学入門a・b 倫理学入門a・b 東洋思想入門a・b 思想・人間論Ⅰ～Ⅲ a・b 文学入門a・b 音楽入門a・b 表現文化論Ⅰ～Ⅵ a・b 歴史学入門a・b ヨーロッパ近現代史a・b アメリカ近現代史a・b 歴史文化論演習a・b 空間システム論入門a・b 地域空間論演習a・b 数理科学Ⅰ～Ⅱ a・b 化学の世界a・b 科学史a・b 数理・自然科学演習a・b 身体と運動・スポーツa・b 心身論演習a・b	社会学入門a・b 現代社会論Ⅰ～Ⅷ a・b 国際関係論入門a・b 政治学入門a・b 法学(含む日本国憲法) a・b 社会構造論演習a・b 宗教学入門a・b 西洋思想入門a・b 日本思想入門a・b 思想・人間論演習a・b 言語学入門a・b 表象文化論入門a・b 表現文化論演習a・b 日本近現代史a・b アジア近現代史a・b 歴史文化論Ⅰ～Ⅴ a・b 文化人類学入門a・b 地域空間論Ⅰ～Ⅷ a・b 数理の世界a・b 物理の世界a・b 生命科学の世界a・b 自然科学Ⅰ～Ⅴ a・b こころと身体a・b 心身論Ⅰ～Ⅴ a・b 留学準備演習	2017年度以降入学者：共通科目 選択科目 教養科目 2016年度以前入学者： 共通科目 選択科目 全学共通教養・データサイエンス科目	
	身体表現・スタディーズⅣ		2017年度以降入学者：共通科目 選択科目 教養科目 2016年度以前入学者：共通科目 自由科目	
	心理学a 数学Ⅰa 数学Ⅱa	心理学b 数学Ⅰb 数学Ⅱb	2017年度以降入学者のみ履修可： 共通科目 選択科目 教養科目	
	政治経済論入門Ⅰ ヨーロッパ文化史 日本文学 エコロジー論 家族と社会の変動	政治経済論入門Ⅱ アメリカ文化史 外国文学 文明と社会 短期学外演習	2016年度以降入学者のみ履修可 2017年度以降入学者：共通科目 選択科目 教養科目 2016年度入学者：共通科目 自由科目	
	心理学 数学Ⅰ	数学Ⅱ	2016年度入学者のみ履修可：共通科目 自由科目	
	英語SEE - A (Input) 英語SEE - B (Input)	英語SEE - A (Output) 英語SEE - B (Output)	2015年度以降入学者のみ履修可： 共通科目 選択科目 外国語科目 学部共通外国語	
	2016年度	独語選択(上級) a・b 中国語選択(上級) a・b	仏語選択(上級) a・b	共通科目 外国語科目 その他の外国語
		スポーツ・スタディーズⅣ ウエルネス・スタディーズⅢ・Ⅳ 身体表現・スタディーズⅢ		共通科目 自由科目
	2015年度	総合講座Ⅴ・Ⅵ Special TopicsⅢA・B データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ データサイエンス概論 データサイエンス応用 データサイエンス・スキルアップ・プログラム データサイエンス・アドバンスド・プログラム		共通科目 全学共通教養・データサイエンス科目
		英語エクステンシヴ・リーディングA・B		共通科目 外国語科目 その他の外国語
海外短期研修(マレーシア・就業体験研修) スポーツ・スタディーズⅢ 身体表現・スタディーズⅠ・Ⅱ			共通科目 自由科目	

履修規定

新設年度	授 業 科 目 名	備 考
2014年度	文化史基礎演習Ⅲ 文化史演習Ⅲ－B	2014年度以降入学者履修可： 文化史学科 学科科目 選択科目 演習科目
	広域芸術論演習Ⅱ	ヨーロッパ文化学科 学科科目 選択科目 演習科目
	独語選択（初級）A・B 仏語選択（初級）A・B	共通科目 外国語科目 その他の外国語
	アドバンス・プログラム	共通科目 自由科目
2013年度	Academic Skills I～Ⅵ A・B European Studies A・B North American Studies A・B Oceanian Studies A・B Asian Studies A・B Japan StudiesⅡ A・B Japan StudiesⅤ～Ⅷ A・B	共通科目 全学共通教養科目
	中国語選択（初級）A・B 中国語選択（中級） 中国語選択（上級）	共通科目 外国語科目 その他の外国語
	図書館活用法 スポーツ・スタディーズⅠ・Ⅱ ウエルネス・スタディーズⅠ・Ⅱ	共通科目 自由科目
2012年度	特別講座	共通科目 全学共通教養科目
	時事英語Ⅰ	共通科目 自由科目

授業科目の名称変更

変更年度	旧 授 業 科 目 名	新 授 業 科 目 名	備 考
2015年度	マスメディア論	リスクコミュニケーション論	マスコミュニケーション学科 学科科目 講義科目 I群
2014年度	文化史演習Ⅲ	文化史演習Ⅲ－A	文化史学科 学科科目 演習科目
	広域芸術論演習	広域芸術論演習Ⅰ	ヨーロッパ文化学科 学科科目 演習科目
	独会話選択（中級）	独会話選択	共通科目 外国語科目 その他の外国語
	仏会話選択（中級）	仏会話選択	
2013年度	現代社会論特別講義Ⅰ	Special TopicsⅠ A	共通科目 全学共通教養科目
	現代社会論特別講義Ⅱ	Special TopicsⅠ B	
	社会構造論特別講義Ⅰ	Japan StudiesⅠ A	
	社会構造論特別講義Ⅱ	Japan StudiesⅠ B	
	思想・人間論特別講義Ⅰ	Special TopicsⅡ A	
	思想・人間論特別講義Ⅱ	Special TopicsⅡ B	
	表現文化論特別講義Ⅰ	Japan StudiesⅣ A	
	表現文化論特別講義Ⅱ	Japan StudiesⅣ B	
	地域空間論特別講義Ⅰ	Japan StudiesⅢ A	
	地域空間論特別講義Ⅱ	Japan StudiesⅢ B	
	生涯スポーツ論Ⅰ	現代社会とスポーツ	共通科目 自由科目
	生涯スポーツ論Ⅱ	スポーツ産業論	
2012年度	時事英語	時事英語Ⅱ	共通科目 自由科目

※旧名称の科目の単位を修得している場合は、新名称の科目を履修することができない。

授業科目の廃講

廃講年度	授業科目名	備考	
2016年度	特別講座 メディア論入門 国際関係論入門 政治学入門 法学（含む日本国憲法） 哲学入門 倫理学入門 東洋思想入門 思想・人間論Ⅰ～Ⅲ 言語学入門 表象文化論入門 歴史学入門 ヨーロッパ近現代史 アメリカ近現代史 歴史文化論特別講義Ⅰ・Ⅱ 空間システム論入門 数理の世界 物理の世界 生命科学の世界 自然科学Ⅰ～Ⅴ こころと身体 心身論Ⅰ～Ⅴ	社会学入門 現代社会論Ⅰ～Ⅷ 経済学入門 情報社会論入門 社会構造論Ⅰ～Ⅵ 宗教学入門 西洋思想入門 日本思想入門 文学入門 音楽入門 表現文化論Ⅰ～Ⅵ 日本近現代史 アジア近現代史 歴史文化論Ⅰ～Ⅴ 文化人類学入門 地域空間論Ⅰ～Ⅷ 数理学Ⅰ・Ⅱ 化学の世界 科学史 数理・自然科学特別講義Ⅰ・Ⅱ 身体と運動・スポーツ 心身論特別講義Ⅰ・Ⅱ	共通科目 選択科目 全学共通教養・データサイエンス科目
	外国文化ⅡB 外国文化ⅢB 外国文化ⅣB	共通科目 自由科目	
	英語SEE-A 英語SEE-B	共通科目 選択科目 外国語科目 学部共通外国語	
2015年度	独語選択（上級） 仏語選択（上級） 中国語選択（上級）	共通科目 外国語科目 その他の外国語	
2014年度	独会話選択（初級） 仏会話選択（初級） 独語選択（初級） 仏語選択（初級）	共通科目 外国語科目 その他の外国語	
	キャリア形成論Ⅰ～Ⅳ	共通科目 自由科目	
2013年度	中国語選択（初級）、 中国語選択（中級・ディプロム）、 中国語選択（中級・講読）	共通科目 外国語科目 その他の外国語	
2011年度	特殊講義（東アジアの国際関係）、 生物進化と多様性、 比較行動学、こころの健康、 身体・運動と健康、食と健康	共通科目 自由科目	

※修得した単位は各分野・区分の単位として認められる。
※廃講年度は、その科目が最後に開講された年度を示す。

全学共通教育科目

A	全学共通教育の理念	170
B	全学共通教育開設科目群	170
C	リテラシー科目群	170
	1) WRD	
	2) 外国語科目	
	3) IT 科目	
D	教養科目群	172
	1) 総合科目	
	2) 成城学	
	3) 系列科目	
E	キャリアデザイン科目群	176
F	国際交流科目群	180
G	データサイエンス科目群	182
H	スポーツ・ウェルネス教育科目	183

A 全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造力に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。

全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

- (1) 多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
- (2) 批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
- (3) 主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う

B 全学共通教育開設科目群

全学共通教育科目の開設科目群は、第1表に示されている。

なお、第1表に示される科目群・分野は、学部や入学年度によってカリキュラム上の位置づけ等が異なるので、自分の該当する学部・入学年度の履修規定を必ず確認すること。

第1表 全学共通教育科目

科目群	分野
リテラシー科目群	WRD
	外国語科目
	IT科目
教養科目群	総合科目
	成城学
	系列科目
キャリアデザイン科目群	
国際交流科目群	
データサイエンス科目群	
スポーツ・ウエルネス教育科目	スポーツ・ウエルネス講義・演習科目
	スポーツ・ウエルネス実技科目

《各学部カリキュラム上の位置づけ》

学部	分野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

C リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。

なお、リテラシー科目群は、以下のとおり3つの分野に分かれる。

1 WRD

高等学校までの勉学は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉学は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」（ワードと読む）とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近では、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

第2表-1 WRD【2015年度以降入学者】

授 業 科 目	学年配当	単 位
WRD I	1~4	2
WRD II	1~4	2

第2表-2 WRD【2014年度以前入学者】

授 業 科 目	学年配当	単 位
W R D	1~4	4

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。

大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。

その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。

外国語科目の開設科目は、第3表に示されている。

第3表-1 外国語科目（学年配当：1~4年次）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英語リスニング&スピーキング（初級）a	1	独語選択（上級）a	1
英語リスニング&スピーキング（初級）b	1	独語選択（上級）b	1
英語リスニング&スピーキング（中級）a	1	仏会話選択a	1
英語リスニング&スピーキング（中級）b	1	仏会話選択b	1
英語リスニング&スピーキング（上級）a	1	仏語選択（初級）I a	1
英語リスニング&スピーキング（上級）b	1	仏語選択（初級）I b	1
英語リーディング&ライティング（初級）a	1	仏語選択（初級）II a	1
英語リーディング&ライティング（初級）b	1	仏語選択（初級）II b	1
英語リーディング&ライティング（中級）a	1	仏語選択（中級）a	1
英語リーディング&ライティング（中級）b	1	仏語選択（中級）b	1
英語リーディング&ライティング（上級）a	1	仏語選択（上級）a	1
英語リーディング&ライティング（上級）b	1	仏語選択（上級）b	1
英会話選択a	1	スペイン語選択（初級）a	1
英会話選択b	1	スペイン語選択（初級）b	1
ビジネス英語a	1	スペイン語選択（中級・ディプロム）a	1
ビジネス英語b	1	スペイン語選択（中級・ディプロム）b	1
英文多読a	1	中国語選択（初級）I a	1
英文多読b	1	中国語選択（初級）I b	1
Academic Communication a	1	中国語選択（初級）II a	1
Academic Communication b	1	中国語選択（初級）II b	1
独会話選択a	1	中国語選択（中級）a	1
独会話選択b	1	中国語選択（中級）b	1
独語選択（初級）I a	1	中国語選択（上級）a	1
独語選択（初級）I b	1	中国語選択（上級）b	1
独語選択（初級）II a	1	韓国語選択（初級）a	1
独語選択（初級）II b	1	韓国語選択（初級）b	1
独語選択（中級）a	1	韓国語選択（中級・ディプロム）a	1
独語選択（中級）b	1	韓国語選択（中級・ディプロム）b	1

注）本年度の休講科目については【履修規定Ⅲ-1共通科目履修方法】を参照すること。

第3表-2 外国語科目（ディプロム・コース）（学年配当：1~4年次）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
ディプロム・コース中級（独語）a	1	ディプロム・コース中級（独語）b	1
ディプロム・コース上級（独語）a	1	ディプロム・コース上級（独語）b	1
ディプロム・コース中級（仏語）a	1	ディプロム・コース中級（仏語）b	1
ディプロム・コース上級（仏語）a	1	ディプロム・コース上級（仏語）b	1

《英語到達目標》

①「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」

初級：TOEIC 600—700点、英検2級程度

中級：TOEIC 700—800点、英検準1級程度

上級：TOEIC 800—990点、英検1級程度

- ②「英会話選択」—受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
- ③「ビジネス英語」—受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
- ④「英文多読」—受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
- ⑤「Academic Communication」—上級、それもかなり上位のレベルを目指す。

《ディプロム・コース到達目標》

- ① 中級（独語・仏語）：独検・仏検の4～3級の合格。
- ② 上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）2級～準1級の合格。

3 IT 科目

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力（情報受信発信能力）やプレゼンテーション能力（表現能力）を身につけることを目的とする。

具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。

また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。

IT科目の開設科目は、**第4表**に示されている。

第4表 IT科目（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位
コンピュータ・リテラシーA 1	2
コンピュータ・リテラシーA 2	2
コンピュータ・リテラシーB	2
コンピュータ・リテラシーC	2
コンピュータ・リテラシーD	2
コンピュータ・リテラシーE	2
図書館活用法	2

注）本年度の休講科目については【履修規定Ⅲ】-1共通科目履修方法を参照すること。

D 教養科目群

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名の下に細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

1 総合科目

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。

総合科目の開設科目は、**第5表**に示されている。

第5表 総合科目（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位
総合講座Ⅰ	2
総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース／感動と価値の創造〉	2
総合講座Ⅲ〈環境〉	2
総合講座Ⅳ	2
総合講座Ⅴ〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2
総合講座Ⅵ〈中国文学入門（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2
特別講座Ⅰ	2
特別講座Ⅱ	2

注1）各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2）本年度の休講科目については【履修規定Ⅲ】-1共通科目履修方法を参照すること。

2 成 城 学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。
成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。
成城学の開設科目は、第6表に示されている。

第6表 成城学（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位
成城学園を知る	2
成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	2
成城学Ⅱ	2
成城学Ⅲ	2
成城学Ⅳ	2
成城学Ⅴ〈成城と自然〉	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。
注2) 本年度の休講科目については【履修規定】Ⅳ-1共通科目履修方法を参照すること。

3 系 列 科 目

系列科目は、9つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部の専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。系列科目の開設科目は、第7表に示されている。

《系列の概要》

系 列 名	概 要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理科学系列	自然科学は数学の言葉で書かれている。科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目で構成される。
自然科学系列	現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

第7表 系列科目（学年配当：1～4年次）

系列	授 業 科 目 名	単 位	系列	授 業 科 目 名	単 位	
現代社会論系列	基 幹	社会学入門 a	2	思想・人間論系列	哲学入門 a	2
		社会学入門 b	2		哲学入門 b	2
		メディア論入門 a	2		宗教学入門 a	2
		メディア論入門 b	2		宗教学入門 b	2
	展 開	現代社会論 I a 〈現代の宗教と国家〉	2		倫理学入門 a	2
		現代社会論 I b 〈現代の宗教と社会〉	2		倫理学入門 b	2
		現代社会論 II a 〈サブカルチャー史〉	2		西洋思想入門 a	2
		現代社会論 II b 〈サブカルチャー論〉	2		西洋思想入門 b	2
		現代社会論 III a	2		東洋思想入門 a	2
		現代社会論 III b	2		東洋思想入門 b	2
		現代社会論 IV a 〈戦後日本文化論〉	2		日本思想入門 a	2
		現代社会論 IV b 〈戦後日本文化論〉	2		日本思想入門 b	2
		現代社会論 V a	2		思想・人間論 I a	2
		現代社会論 V b	2		思想・人間論 I b	2
		現代社会論 VI a 〈平和論〉	2		思想・人間論 II a 〈イメージを“よむ”〉	2
		現代社会論 VI b 〈平和論〉	2		思想・人間論 II b 〈イメージを“よむ”〉	2
		現代社会論 VII a 〈カルチュラル・スタディーズ〉	2		思想・人間論 III a	2
		現代社会論 VII b 〈カルチュラル・スタディーズ〉	2		思想・人間論 III b	2
		現代社会論 VIII a	2		思想・人間論演習 a	2
		現代社会論 VIII b	2		思想・人間論演習 b	2
現代社会論演習 a	2	文学入門 a	2			
現代社会論演習 b	2	文学入門 b	2			
社会構造論系列	基 幹	国際関係論入門 a	2	表現文化論系列	言語学入門 a	2
		国際関係論入門 b	2		言語学入門 b	2
		経済学入門 a	2		音楽入門 a	2
		経済学入門 b	2		音楽入門 b	2
	展 開	政治学入門 a	2		表象文化論入門 a	2
		政治学入門 b	2		表象文化論入門 b	2
		情報社会論入門 a	2		表現文化論 I a	2
		情報社会論入門 b	2		表現文化論 I b	2
		法学（含む日本国憲法） a	2		表現文化論 II a	2
		法学（含む日本国憲法） b	2		表現文化論 II b	2
		社会構造論 I a 〈自由と平等〉	2		表現文化論 III a 〈映画の“いま”〉	2
		社会構造論 I b 〈自由と平等〉	2		表現文化論 III b 〈映画の“いま”〉	2
		社会構造論 II a 〈社会と組織〉	2		表現文化論 IV a 〈民俗と作法の表現文化論〉	2
		社会構造論 II b 〈ネットワークと組織〉	2		表現文化論 IV b 〈伝統芸術文化論〉	2
		社会構造論 III a	2		表現文化論 V a	2
		社会構造論 III b	2		表現文化論 V b	2
		社会構造論 IV a 〈日常生活と社会経済〉	2		表現文化論 VI a 〈文学と地域文化〉	2
		社会構造論 IV b 〈日常生活と社会経済〉	2		表現文化論 VI b 〈文学と地域文化〉	2
		社会構造論 V a	2		表現文化論演習 a	2
		社会構造論 V b	2		表現文化論演習 b	2
社会構造論 VI a 〈現代日本と政治〉	2					
社会構造論 VI b	2					
社会構造論演習 a	2					
社会構造論演習 b	2					

全学共通教育科目

第7表 系列科目（学年配当：1～4年次）（つづき）

系列	授業科目名	単位	系列	授業科目名	単位			
歴史文化論系列	基幹	歴史学入門 a	2	数理学系列	数理の世界 a	2		
		歴史学入門 b	2		数理の世界 b	2		
		日本近現代史 a	2		展開	数理科学 I a 〈情報と論理〉	2	
		日本近現代史 b	2			数理科学 I b 〈情報と論理〉	2	
		ヨーロッパ近現代史 a	2			数理科学 II a	2	
		ヨーロッパ近現代史 b	2			数理科学 II b	2	
		アジア近現代史 a	2		基幹	物理の世界 a	2	
		アジア近現代史 b	2			物理の世界 b	2	
		アメリカ近現代史 a	2			化学の世界 a	2	
		アメリカ近現代史 b	2			化学の世界 b	2	
	歴史文化論 I a	2	生命科学の世界 a	2				
	歴史文化論 I b	2	生命科学の世界 b	2				
	歴史文化論 II a 〈江戸の文化〉	2	科学史 a	2				
	歴史文化論 II b 〈江戸の文化〉	2	科学史 b	2				
	展開	歴史文化論 III a 〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	2	自然科学系列		自然科学 I a	2	
		歴史文化論 III b 〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	2			自然科学 I b 〈自然と漁業・林業〉	2	
		歴史文化論 IV a	2		展開	自然科学 II a 〈地球と環境〉	2	
		歴史文化論 IV b	2			自然科学 II b 〈地域と環境〉	2	
		歴史文化論 V a	2			自然科学 III a 〈地球科学〉	2	
		歴史文化論 V b	2			自然科学 III b 〈地球科学〉	2	
歴史文化論演習 a		2	展開		自然科学 IV a	2		
歴史文化論演習 b		2			自然科学 IV b	2		
地域空間論系列		基幹			文化人類学入門 a	2	自然科学 V a 〈比較行動学〉	2
					文化人類学入門 b	2	自然科学 V b 〈比較行動学〉	2
	空間システム論入門 a			2	数理・自然科学演習 a	2		
	空間システム論入門 b			2	数理・自然科学演習 b	2		
	展開	地域空間論 I a 〈EU論〉	2	心身論系列	基幹	こころと身体 a	2	
		地域空間論 I b 〈EU論〉	2			こころと身体 b	2	
		地域空間論 II a 〈朝鮮半島の社会と文化〉	2			身体と運動・スポーツ a	2	
		地域空間論 II b 〈朝鮮半島の社会と文化〉	2			身体と運動・スポーツ b	2	
		地域空間論 III a 〈東南アジアの社会と文化〉	2		展開	心身論 I a 〈脳の機能と心の機能〉	2	
		地域空間論 III b 〈東南アジアの社会と文化〉	2			心身論 I b 〈精神疾患と脳〉	2	
地域空間論 IV a		2	心身論 II a 〈こころと発達〉			2		
地域空間論 IV b		2	心身論 II b 〈こころと社会〉			2		
地域空間論 V a		2	心身論 III a 〈運動・スポーツと心のしくみ〉			2		
地域空間論 V b		2	心身論 III b 〈運動・スポーツと身体のしくみ〉			2		
地域空間論 VI a 〈アフリカの社会と文化〉		2	心身論 IV a 〈食と健康〉			2		
地域空間論 VI b 〈アフリカの社会と文化〉		2	心身論 IV b 〈食と環境〉			2		
地域空間論 VII a 〈日本と東アジアの社会と文化〉		2	心身論 V a			2		
地域空間論 VII b 〈日本と東アジアの社会と文化〉		2	心身論 V b			2		
地域空間論 VIII a 〈中東の社会と文化〉		2	心身論演習 a			2		
地域空間論 VIII b 〈中東の社会と文化〉		2	心身論演習 b			2		
地域空間論演習 a	2							
地域空間論演習 b	2							

注1) 系列の欄に示されている基幹は基幹科目、展開は展開科目を指す。
 注2) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。
 注3) 本年度の休講科目については【履修規定】Ⅲ-1共通科目履修方法を参照すること。

全学共通教育科目

キャリアデザイン科目群は、大学卒業後、ひいては将来の人生設計に欠かせない職業観に関する知識を学習する科目群である。働くことの意義や、適職を見つけるための方法などを学びながら、自分のキャリア（＝人生）を発見し構築していくことを主たる目的とする科目群である。

キャリアデザイン科目群の開設科目は、第8表に示されている。

第8表 キャリアデザイン科目【2017年度以降入学者用】

テーマ等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科目概要
<p>「キャリア形成概念の理解」～自らのキャリアを様々なテーマを基にして考える～</p> <p>キャリア形成において重要なことは、自身の現状に応じて必要なことを必要なタイミングで学び、経験を積むというプロセスを経ていくことである。本授業科目は、成城大学におけるキャリア教育のスタート科目として位置付け、履修者はキャリア形成の過程の中で「自分と他者と社会」について考え、大学で学ぶ意味、働く意味と目的、自分の強みやキャリアの在りかたを段階的に追究し意味づけができるようになることを目指す。</p> <p>キャリア形成において、「自己理解」「他者理解」「社会理解」は重要な段階・流れであり、(1) 自分とこれまで、(2) 自分を取りまく社会について、(3) これからの自分の在り方について、を総合的に考察し、自らのキャリアを形成していく上で必要な考え方を複数のテーマと関連付けながら学ぶ。</p>	キャリア形成Ⅰ (コミュニケーション)	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：コミュニケーションとキャリア形成</p> <p>現代社会において欠かすことのできない「コミュニケーション能力」について、キャリア形成の観点から考察・理解する。キャリアを形成していく上で必要なコミュニケーション・スタイルを学ぶとともに、他者との関係性について理解を深め、自身のキャリア形成の気付きに繋げる。また、自分の歩んできた道をふり返し、これからのあり方を考える。その際には、自分の強みを整理・理解すること、将来を想像し、目標を設定して行動を起こすことの重要性を学ぶ。授業では、ペア・グループワークを用いて理解促進に繋げていく。</p>
	キャリア形成Ⅱ (リーダーシップ)	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：リーダーシップとキャリア形成</p> <p>組織・集団においてそこに属するメンバーは、それぞれの場面や状況に応じて「リーダーシップ」を求められるが、そこで求められるリーダーシップは様々であり、あらゆるパターンが存在する。キャリア形成の過程において、他者との関わり、他者への影響力を理解することは重要であり、それらの類型等を講義を通じて受講生が理解し、結果として求められるリーダーシップを学ぶことで自身のキャリア形成の一助となることを狙いとす。</p> <p>本授業科目では、様々なリーダーシップのパターンを学ぶとともに、状況に応じてリーダーシップを体感しながら学びを深めていく。</p>
	キャリア形成Ⅲ (ワークライフバランス)	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：ワークライフバランスとキャリア形成</p> <p>人口減少やデュアル・キャリア世帯（夫と妻がともに生涯を通じたキャリアを築こうとする世帯）の増加など社会やライフスタイルの変化を背景に、子育て世代をはじめ様々な状況にある誰もが安心して働き、能力を発揮できるワーク・ライフ・バランス（WLB）やダイバシティマネジメントへの取組みが必要とされている。本授業ではWLBなどが必要とされる背景を理解し、関連の法律や実際に行われている国・企業・働く人一人ひとりの具体的取組について学び、WLBに関する基本的知識を習得することを目的とする。また、授業への参加を通じて将来就業を継続する中で自らが直面するであろうWLBに関する課題を認識しそれを解決するための自らの基本的な考え方を獲得することでキャリア形成の一助とする。</p>
	キャリア形成Ⅳ (チームワーク・協働)	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：チームワーク・協働とキャリア形成</p> <p>昨今の「仕事の現場」において、チームワーク、協働を必要としない場面は皆無に等しい。チームにおける自身の役割を認識し、果たすべき役割を責任を持って担っていくことが重要である。本授業科目では、キャリア形成の観点からチームにおける協働とは何かを理解するとともに、それを担うことで自身のキャリア形成にどのような影響をもたらすのかをケースをもとに学ぶ。また、職場におけるチームワークを実践している方をゲストに招いて、その実状を理解する。</p>

第8表 キャリアデザイン科目【2017年度以降入学者用】(つづき)

テーマ等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科目概要
グループワーク、グループディスカッション形式	プロジェクト演習 (ホスピタリティとサービス) (企業提案) (企業との協働)	1・2	2	演習	PBL (Project Based Learning) 基礎科目として開講。前期に学んだ「キャリア形成概念の理解」を基礎として、演習形式で複数のテーマに取り組む。学生はそれぞれ設定されたテーマに基づいてグループ毎に課題に取り組み、課題発見、調査・研究、企画構想・構築から提案に繋げていくといった一連のプロセスを経て、キャリア形成において重要な「チームワーク(協働)」を学ぶ。
キャリア形成・選択のための多様な視点の獲得と 業界・企業理解	業界企業分析	2~4	2	講義 演習	業界や企業とは何かを総合的に学ぶとともに、業界間の結びつきや属する企業等について多角的に考察することで、わが国における各種業界の競争、企業行動について現実をよりよく理解し、将来の進路や方向性を判断する材料を得ることを目標とする。また、業界・企業の調査・研究方法についても具体的に学ぶ。 授業では多様な業界からゲスト・スピーカーを迎えるとともに、履修者自らも調査・研究に取り組む。
キャリア形成・選択のための職業選択の理解	職業選択	2~4	2	演習	世の中には数え切れないほどの種類の仕事(職業)があるが、働き方も人それぞれで、また、社会も日々変化しているため、新たな仕事の登場や既存の仕事が変化することが常に起こっている。この授業科目では、働きざま・働きがいについて考えとともに、「職業選択」を興味・価値観・能力といった要素と、社会状況・環境の視点から追究し、また、社会人が実際にどのように職業を選択しキャリアを構築したか、ゲストを招き経験談を聞きながら「キャリア」を総合的に考察する。
	時事英語Ⅰ	1~4	2	講義	時事英語の入門編として開講する。初級段階の学生を対象として、英語学習の教材として時事問題をトピックとした新聞記事、インターネットニュースを扱う。最終的には自分の意見を英語で表現し、受講生の間で意見交換をすることができるよう、実践的な英語力を強化する。
	時事英語Ⅱ	1~4	2	講義	時事英語の中級編として開講する。中級段階の学生を対象として、最近の海外のメディアで報道された重要なニュースを扱ったテキストを用いて、教育、経済、政治、宗教、社会、女性など様々なトピックについて学習する。 ※英字新聞を一度も読んだことのない学生、初級レベルの英語力の学生は、「時事英語Ⅰ」の授業を受講した後に本授業を受講することが望ましい。
	時事問題研究	2~4	2	講義	社会人として必要不可欠な時事問題を多角的に学ぶとともに、理解の仕方や解釈の仕方を総合的に学ぶ。具体的には新聞記者を毎回ゲストスピーカーとして招き、リアルタイムのニュースについて考察する。
グループワーク、グループディスカッション形式	キャリア・プランニング・プログラムⅠ	3・4	2	演習	「プロジェクト演習」の発展科目として開講。「社会を生き抜く基礎力」を理解し、その向上を目指す。これまで学んできた「キャリアデザイン科目」をベースに、現実的な課題に対してチームで解決に向けて取り組むことで、結果として求められる力を理解・修得する。
グループワーク、グループディスカッション形式	キャリア・プランニング・プログラムⅡ	3・4	2	演習	「プロジェクト演習」の最終段階の授業科目として開講。受講生は、これまで学んできた「キャリア形成」について整理・統合し、外部評価委員会委員や外部ゲストの協力も得ながら、実践的な課題に取り組み、「成城の就業力。」を理解・修得する。

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については【履修規定】Ⅳ-1共通科目履修方法】を参照すること。

第8表の2 キャリアデザイン科目【2016年度以前入学者用】

	テーマ等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科 目 概 要
就業 力 基 礎 科 目	キャリア形成 概念の理解	キャリア形成概論Ⅰ	1・2	2	講義 演習	自らのキャリアを考え始めるスタート科目と位置付け、(1)自分の今とこれまで(自己分析・自己理解)、(2)自分をとりまく社会について、(3)これからの自分の在り方を総合的に考察し、自らのキャリアを形成していく上で必要な考え方を学ぶ。
		キャリア形成概論Ⅱ	1・2	2	講義 演習	自分をとりまく社会の現状や変化を理解するとともに、社会における自分のあり様を探り、自己のキャリア形成を考え、自身の方向付けをしていく。キーワードは「グローバルな視点」、「企業」、「働くということ」。授業は、「講義」と「実習(ディスカッション)」を繰り返しながら理解を深めていく。
	グループワーク、 グループディス カッション形式 展開	スタート・プログラムⅠ 〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2	演習	サービスとホスピタリティの違いを理解し、真の「おもてなし」にはどのような資質・態度・姿勢が求められるか自分なりに解釈し普段の生活のなかで自然に発揮できるようになると共に真の「おもてなし」がキャリア形成にどのように関係するか自分なりに意味づけることを目指す。
		スタート・プログラムⅡ 〈企業提案〉	1・2	2	演習	企業に対して新たな提案をしていくことをとおして、企業における仕事の捉え方や考え方、また、企画がどのように提案され、実行に移されていくかを実践的に学ぶ。
		スタート・プログラムⅢ 〈企業との協働〉	1・2	2	演習	インターネットを活用した新しい「ビジネスサービス」を商品と捉えて、その開発を考える。また、「企業のリアルを知る」と題して「大手」、「ベンチャー(中小)」、「起業」の3つの視点から企業の現状を学ぶ。
	就業 力 発 展 科 目	勤労観醸成	ワークライフ バランス論	2~4	2	講義
キャリアモデル・ ケーススタディ			2~4	2	演習	社会で活躍する方々をキャリアモデル(事例)として取り上げることで、具体的なキャリア形成の在り方を学ぶ。また、過去の企業家(起業家)も事例として取り上げる。
アドバンス・ プログラム			2・3	2	演習	「スタート・プログラム」、「チャレンジ・プログラム」の中間に位置するグループワーク中心の演習科目である。企業をはじめとして、学外の3団体に協力を得ながら社会を生き抜く基礎力の向上を3段階で支援する。時には現場に出向き社会人の振る舞いを体感し、社会に出ることに興味関心を持つことも趣旨のひとつである。 3段階のプロジェクトには、テーマとミッション・ゴールを設定するが、3つのテーマには一貫性があり、段階的に到達目標を設定していく。履修者は社内のプロジェクトと同形式の経験をする中で、チームでも個人でも、成功体験と失敗体験を繰り返しながらビジネスの在り方を体感することで勤労観を醸成する。
職業観醸成		業界企業分析論	2~4	2	講義	業界や企業とは何かを総合的に学ぶとともに、業界間の結びつきや属する企業等について多角的に考察する。
		職業選択論	2~4	2	演習	職業を選択する上で考えなければならないことを具体的に学ぶとともに、社会人がどのように職業選択をし、達成したのかを総合的に考察する。
		グローバル ビジネス論	3・4	2	講義	国によって異なるビジネスカルチャーや各国のビジネスの在り方、グローバルビジネスが今日直面している課題を学ぶことで、グローバルに仕事をしていくということの意味や国際社会に通用する実践的ビジネススキルを習得する。
	チャレンジ・ プログラム	3・4	2	演習	キャリアデザイン科目で学んできたことをベースにして、学生提案型のプロジェクト演習とする。グループを構成し、自らテーマを設定の上、企画立案することで、就業力の総合的なレベルを外部の有識者等に確認していただく。	

第8表の2 キャリアデザイン科目【2016年度以前入学者用】(つづき)

テーマ等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科 目 概 要
就 業 力 強 化 科 目	時事英語 I	1~4	2	講義	時事英語の入門編として開講する。初級段階の学生を対象として、英語学習の教材として時事問題をトピックとした新聞記事、インターネットニュースを扱う。最終的には自分の意見を英語で表現し、受講生の間で意見交換をすることができるよう、実践的な英語力を強化する。
	時事英語 II	1~4	2	講義	時事英語の中級編として開講する。中級段階の学生を対象として、最近の海外のメディアで報道された重要なニュースを扱ったテキストを用いて、教育、経済、政治、宗教、社会、女性など様々なトピックについて学習する。 ※英字新聞を一度も読んだことのない学生、初級レベルの英語力の学生は、「時事英語 I」の授業を受講した後に本授業を受講することが望ましい。
	時事問題研究	2~4	2	講義	社会人として必要不可欠な時事問題を多角的に学ぶとともに、理解の仕方や解釈の仕方を総合的に学ぶ。
	就業力実践 I	2~4	2	講義	現代経済の問題点や考え方を学び、就業するに当たって最低限知っておくべき経済知識を学ぶ。
	就業力実践 II	2~4	2	講義	全ての仕事の基本となる「会計」について、どのような観点が必要なのかを入門的な観点から学ぶ。
	就業力実践 III	2~4	2	講義	「法律とは何か」を示し、社会において最低限知っておくべき法的知識を学ぶ。

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については【履修規定Ⅲ-1 共通科目履修方法】を参照すること。

〈成城大学就業力育成・認定プログラム〉

- ① 「成城大学就業力育成・認定プログラム」は、正課（授業科目）と正課外（授業科目以外のプログラム）の連携による総合的なプログラムとなっており、所定の条件を満たすことで「就業力ディプロマ」、「EMS認定」を授与するが、本件については、別途1年次は「キャリアガイダンス」、2年次は「就業力ガイダンス」で説明する。
- ② 2~4年次の「成城大学就業力育成・認定プログラム」受講者を対象に4月に「就業力ガイダンス」を実施するので、プログラム受講者（就業力ディプロマ・EMS認定希望者）は必ず出席すること。詳細については別途通知する。

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能（TOEFL、IELTS試験対策を含む）を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就学体験を希望する者は、***「成城国際教育プログラム（SIEP）」に参加し準備することが推奨される。

***詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。

第9表 国際交流科目

区分	授業科目	学年配当	単位
留学対策科目	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills VI A	2～4	1
	Academic Skills VI B 〈English Research〉	2～4	1
	英語等による地域研究科目	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1～4
European Studies B		1～4	2
North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉		1～4	2
North American Studies B		1～4	2
Oceanian Studies A		1～4	2
Oceanian Studies B		1～4	2
Asian Studies A		1～4	2
英語等による日本事情関係科目	Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1～4	2
	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies II A	1～4	2
	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VII A	1～4	2
	Japan Studies VII B	1～4	2
Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	

第9表 国際交流科目（つづき）

区分	授業科目	学年配当	単位
英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics III A	1～4	2
	Special Topics III B	1～4	2
	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
海外短期語学研修	海外短期語学研修（英語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（独語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（仏語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2
受け入れ留学生科目	日本語 A 〈上級・会話〉	1～4	2
	日本語 A 〈上級・読解〉	1～4	2
	日本語 A 〈上級・表現文型と語彙〉	1～4	2
	日本語 A 〈上級・特別講座〉	1～4	2
	日本語 A 〈中級・総合日本語〉	1～4	6
	日本語 A 〈中級・特別講座〉	1～4	2
	日本語 A 〈初級〉	1～4	8
	日本語 B 〈上級・日本語聴読解〉	1～4	1
	日本語 B 〈上級・日本語文章表現〉	1～4	1
	日本語 B 〈上級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語 B 〈上級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語 B 〈上級・総合日本語〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・日本語聴読解作文〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・総合日本語〉	1～4	2
日本語 B 〈初級〉	1～4	8	
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については【履修規定】Ⅳ-1 共通科目履修方法を参照すること。

注3) 海外短期語学研修のうち、学年配当が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

G データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、IBM東京基礎研究所の協力を得て、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、学生諸君はこの科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。

データサイエンス科目群の開設科目は、第10表に示されている。

第10表 データサイエンス科目

	授業科目	学年配当	単位	講義形式	内容等	履修条件	DS基礎力 ディプロマ 取得要件	EMS ディプロマ 取得要件
基礎科目	データサイエンス入門Ⅰ	1~4	2	講義	データサイエンスの入門講義。データサイエンスに関わる基礎的な知識を得るもので、本プログラム全体の基礎をなす講義である。データに関する基礎知識と共に、データの所在・発生源、データ取得、データの活用領域などを学ぶ。		○	○
	データサイエンス概論	1~4	2	講義	データサイエンスの実践例について学ぶための概論的講義。企業や行政におけるデータサイエンスのさまざまな実践例について幅広く学び、理解を深める。		○	○
	データサイエンス入門Ⅱ	2~4	2	講義 演習	データサイエンスの入門講義・演習。データサイエンスを支える統計についての知識を得る。代表的な統計学の解析手法や、テキストデータのように数値化されていないデータを加工する手法など、実践的な知識を習得するとともに、実際にデータに対して適応できる能力を演習により身につける。		○	○
	データサイエンス応用	2~4	2	講義 演習	問題発見・解決の技術を学ぶ応用的講義・演習。講義に加えて、演習を行う。問題を発見し、データサイエンスを通じて解決方法を提示するコンサルティングの能力を実践的に学ぶ。			○
発展科目	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2~4	2	演習	グループワークによる演習プログラム。指定課題に沿って、データを分析し、ディスカッションの上、プレゼンテーション資料を作成する。実務者等を招待し、プレゼンテーションを行い、講評を受ける。	「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修している者	○	○
	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2~4	2	演習	グループワークによる演習プログラム。データから問題を創造的に発見し、解決方法を見つけ出す。データを分析し、ディスカッションの上、プレゼンテーション資料を作成する。実務者等を招待し、プレゼンテーションを行い、講評を受ける。	「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修している者		○

注) 本年度の休講科目については【履修規定 Ⅲ-1 共通科目履修方法】を参照すること。

〈データサイエンス基礎力育成・認定プログラム〉

- ① 「データサイエンス基礎力育成・認定プログラム」は、理論科目と実践科目とを総合したプログラムとなっており、第10表に示される所定の授業科目を履修して単位を修得し、要件を満たすことにより「データサイエンス (DS) 基礎力ディプロマ」、「EMSディプロマ」が授与される。本件については、1年次の4月に開催される「データサイエンス科目ガイダンス」で説明する。
- ② 「データサイエンス基礎力育成・認定プログラム」の対象者は2015年度以降入学者となる。ただし、2014年度以前入学者についても、授業科目の履修については認められる。

H スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。

- (1) 「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者と向き合い、また自然と共に生きていくための能力を養う。
- (2) グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
- (3) 運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

※ スポーツ・ウエルネス教育科目は、従来の体育実技科目を発展させた科目である。

1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武術、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。

第11表 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目（学年配当：1～4年次）

系列	授業科目	単位
スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉	2
	スポーツ・スタディーズⅡ	2
	スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉	2
	スポーツ・スタディーズⅣ	2
ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	2
身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉	2
	身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉	2
	身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉	2
	身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については【履修規定】Ⅲ-1共通科目履修方法を参照すること。

2 スポーツ・ウェルネス実技科目

スポーツ・ウェルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、学年、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。

第12表 スポーツ・ウェルネス実技種目表（学年配当：1～4年次）

	種 目		系 列
定時コース (半期1単位)	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球	テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	スポーツ文化
集中コース (1単位)	サイクル・スポーツ	スキー	
定時コース (半期1単位)	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳	トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	ウェルネス文化
	剣道（古武道）	ダンスパフォーマンス	身体表現文化

※ 定時コースは、学園内の施設および近隣の外部施設を利用して、毎週1回、半期開講科目として行う。

※ 集中コースは、キャンパス以外の施設を利用し、シーズンの特徴を活かして、集中的に技能を習得しようとするもの。主に長期休暇を利用して行う。

授業実施にあたっての注意事項

- ① 気象条件等により、実施場所等が変更になる場合があるので、第1体育館玄関中の掲示板の指示を確認すること。
- ② 実技の服装は運動専用で作られたものを使用すること。
- ③ 体育館・トレーニングセンターでは室内専用のシューズを使用すること。
- ④ 更衣は第1体育館更衣室を使用する。ロッカーは、ダイヤル式暗証番号（4桁）を入力する。
- ⑤ トレーニングセンターではロッカー室を使用する。
- ⑥ 盗難防止のため、多額の現金、宝飾品などは持参しない。
- ⑦ 体育館内での飲食、喫煙、土足は厳禁とする。

教職課程

I	教職課程	186
	1) 本学教職課程の理念	
	2) 本学で取得できる免許の種類と教科	
	3) 免許取得の条件	
	4) 履修科目登録上限単位数の特例措置	
II	教職課程科目の履修	188
	A. 「教職に関する科目」の履修	188
	1) 「教職に関する科目」の単位修得方法	
	2) 免許法に規定する科目と本学開設の授業科目	
	3) 「教職に関する科目」と学年配当	
	4) 履修上の注意	
	5) 教育実習および教職実践演習を履修するための条件	
	B. 「教科に関する科目」の履修	191
	1) 「教科に関する科目」の単位修得方法	
III	教職課程の説明会・ガイダンス	202
	1) 教職課程ガイダンス（1年次）	
	2) 教職課程登録説明会（1年次）	
	3) 教育実習校開拓ガイダンス（2年次）	
	4) 教育実習事前ガイダンス（3年次）	
	5) 教育実習直前ガイダンス（4年次）	
	6) 介護等体験	
IV	教育職員免許状の申請等	203
	A. 教育職員免許状取得見込証明書の発行	203
	B. 教育職員免許状の申請手続・免許状の交付（4年次）	203
	C. 教育職員免許状の有効期間について	203

1 本学教職課程の理念

本学では、成城学園創立の精神に則り個性の暢達を主眼として広く専門の学芸を研究教授し、広角の視野と高度の教養を具え、かつ、豊かな個性を持つ社会の先導者を育成すると共に、文化の発展に貢献することを目的としている。

個性尊重の基本理念に基づき、各学科では少人数制教育により学生の学びをサポートしているが、教職課程においては教科に関する専門知識に加え、教育に対する理論的・実践的・歴史的理解を深めることで、教育者としての視点を獲得し、さらには使命感を持って教育の現場で実践的に指導し得る教員の育成を目指している。

成城学園は、幼稚園から大学院までをワンキャンパスに擁する総合学園であり、学園（成城小学校）創立時（1917年）の4つの希望理想「個性尊重の教育」、「自然と親しむ教育」、「心情の教育」、「科学的研究を基とする教育」と、旧制七年制高等学校開設時（1926年）に掲げられた「真善美」の教育理念は、全学園に一貫して受け継がれ、実践されている。

本学の教職課程においては、学園各学校間のネットワークを活かし、同じ理念の下、それをまさに日々実践している成城学園中学校高等学校の現役教員による指導を取り入れることで、教員を目指す学生が、教育の現場の感覚を吸収し、実践力を養うだけでなく、学園創立者澤柳政太郎が理想として掲げた「成城教育」を自らの理想としても受容し、継承していくことを期待している。

2 本学で取得できる免許の種類と教科

本学では教育職員免許取得希望者のために、教職課程を開設している。この課程において取得できる免許の種類と教科は第1表のとおりである。

第1表 本学で取得できる免許の種類と教科

学 部	学 科	中学校教諭一種免許	高等学校教諭一種免許
文 芸 学 部	国 文 学 科	国 語	国 語
	※ 英 文 学 科	英 語	英 語
	文化史学科	社 会	地 理 歴 史 公 民
	ヨーロッパ文化学科	ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語	ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語
経 済 学 部	経 済 学 科	社 会	地 理 歴 史 公 民
	経 営 学 科	社 会	地 理 歴 史 公 民 商 業
法 学 部	法 律 学 科	社 会	地 理 歴 史 公 民

※早期卒業を希望する場合は、3年間で教員免許取得に必要な単位を修得することはできない。教員免許を取得するには、卒業後、科目等履修制度などを利用し、必要単位を充足しなければならない。詳細については、教務部に相談すること。

第2表 入学から免許状取得まで（モデルケース）

学 年	時 期	関連説明会等	教職に関する科目
1 年 次	4 月	教職課程ガイダンス	教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）（必修）（2単位） 教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）（必修）（2単位） 教師論（必修）（2単位）
	6 月	介護等体験登録説明会	
	3 月	教職課程登録説明会	
2 年 次	4～7 月	介護等体験事前ガイダンス 介護等体験直前ガイダンス	教育史（必修）（2単位） 教育方法学（必修）（2単位） 特別活動の指導法（必修）（2単位） 教育心理学（2単位） } いずれか1科目 青年心理学（2単位） } 選択必修
	9 月～	介護等体験	
	12 月	教育実習校開拓ガイダンス	
3 年 次	4 月	教育実習準備	各教科教育法（必修）（4単位） 道徳教育の指導法（必修）（2単位） 生徒指導論（必修）（4単位）
	11 月	教育実習事前ガイダンス	
4 年 次	4 月	教育実習直前ガイダンス	教育実習（高）（3単位） } いずれか1科目 教育実習（中・高）（5単位） } 選択必修 教職実践演習（中・高）（必修）（2単位）
	5 月～	教育実習	
	11 月	教員免許状授与申請手続き	
	3 月 23 日	免許状授与	

注）上記科目の他に、「教科に関する科目」および「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」、「情報機器の操作」に当たる本学開設科目を修得しなければならない。

3 免許取得の条件

中学校・高等学校教諭の免許を取得するためには、以下の事柄が必要である。

- ① 基礎資格として学士の学位を有すること（学部を卒業すること）。
- ② 第3表に従い各学校種ごとに規定された単位を修得しなければならない。

第3表 学校種ごとの教職および教科に関する科目の最低必要単位数

	教職に関する科目	教科に関する科目	計
中学校教諭一種	31	28	59
高等学校教諭一種	29	36	65

- ③ 次の第4表の最低修得単位数を充足しなければならない。

なお、いずれの科目も早期履修が望ましい。

第4表 教職および教科に関する科目以外に必要な科目と単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目・最低修得単位数		本学開設の授業科目	本学での最低必要単位数
科目	単位数		
日本国憲法	2	法学（含む日本国憲法）a } (注1) 法学（含む日本国憲法）b }	4
体育	2	スポーツ・ウエルネス実技科目	2
外国語コミュニケーション	2	英語リスニング&スピーキング（初級）a・b 英語リスニング&スピーキング（中級）a・b 英語リスニング&スピーキング（上級）a・b 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ a 英語コミュニケーションⅢ b 独語コミュニケーションⅠ a 独語コミュニケーションⅠ b 独語コミュニケーションⅡ a 独語コミュニケーションⅡ b 独語コミュニケーションⅢ a 独語コミュニケーションⅢ b 独語コミュニケーションⅠ 独語コミュニケーションⅡ 独語コミュニケーションⅢ 独語コミュニケーションⅣ 仏語コミュニケーションⅠ a 仏語コミュニケーションⅠ b 仏語コミュニケーションⅡ a 仏語コミュニケーションⅡ b 仏語コミュニケーションⅢ a 仏語コミュニケーションⅢ b 仏語コミュニケーションⅠ 仏語コミュニケーションⅡ 仏語コミュニケーションⅢ 仏語コミュニケーションⅣ	2
情報機器の操作	2	コンピュータ・リテラシーA 1 コンピュータ・リテラシーA 2 コンピュータ・リテラシーB コンピュータ・リテラシーC コンピュータ・リテラシーD コンピュータ・リテラシーE	2

(注1) 2017年度より「法学（含む日本国憲法）」は、「法学（含む日本国憲法）a・b」となり、a・b両方が必修である。但し、2016年度までに「法学（含む日本国憲法）」を修得している場合は、「法学（含む日本国憲法）a・b」双方を修得したものとみなす。

(注2) 「独（仏）語コミュニケーションⅠ a～Ⅲ b」は2014年度以前入学者対象科目

(注3) 「独（仏）語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」は2015年度以降入学者対象科目

- ④ 中学校免許取得希望者は特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、合計7日間の介護等体験を行わなければならない（高等学校免許には不要。ただし、教職に就くためには、中学校・高等学校両方の免許を取得することが望ましい）。

4 履修科目登録上限単位数の特例措置

教職に関する科目および教職関連随意科目（p.73、115、156）は、学年・学科ごとに定められている履修科目登録超過可能単位数まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅲ-2 学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。

- 1年次に、4月の教職課程ガイダンスに出席してその内容を修得したのち、所定の申請手

続を行った学生は、「教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）」、「教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）」、「教師論」の6単位について、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。

- ・2年次に、教職課程に登録している学生は、14単位（文化史学科は18単位）を上限として、履修科目登録上限単位数を超えて当該年次に履修可能な教職に関する科目および教職関連随意科目を履修登録することができる。
- ・3・4年次に、教職課程に登録している学生は、他の授業科目と合わせて70単位を上限として、履修科目登録上限単位数を超えて教職に関する科目および教職関連随意科目を履修登録することができる。

なお、超過する単位数が不適正であり、是正の指示があった場合はそれに従うこと。

Ⅱ 教職課程科目の履修

A 「教職に関する科目」の履修

1 「教職に関する科目」の単位修得方法

免許法に規定する中学校、高等学校教諭の免許の授与を受ける場合の教職に関する科目の単位の修得方法は、第5表左欄の教育職員免許法施行規則第6条第1項により定められている。本学ではこれに対応する授業科目として、第5表右欄の科目を開設している。

2 免許法に規定する科目と本学開設の授業科目

第5表 免許法に規定する科目と本学開設の授業科目

	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			本学開設の授業科目
	教職に関する科目	左項の各科目に含めることが必要な科目	修得単位数	授業科目名
第二欄	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教師論
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育史
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学（障害児教育を含む）
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		青年心理学（障害児教育を含む）
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中12 高6	教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）
		・各教科の指導法		教科教育法
		・道徳の指導法		道徳教育の指導法
		・特別活動の指導法		特別活動の指導法
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法学		
生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	生徒指導論（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
第五欄	教育実習		中5 高3	教育実習（中・高） 教育実習（高）
第六欄	教職実践演習		2	教職実践演習（中・高）

3 「教職に関する科目」と学年配当

第6表 教職に関する科目と学年配当

	授 業 科 目	単 位	学年配当	備 考
必 修	教 育 原 論 I (教育の制度と社会)	2	1	
	教 育 原 論 II (教育課程の意義と編成)	2	1	
	教 師 論	2	1	
	教 育 史	2	2	
	特別活動の指導法	2	2	
	教 育 方 法 学	2	2	
	教 科 教 育 法	4	3	
	道徳教育の指導法	2	3	
	生 徒 指 導 論 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)	4	3	
	教職実践演習 (中・高)	2	4	
選 択 必 修	教 育 心 理 学 (障害児教育を含む)	2	2	いずれか1科目必修
	青 年 心 理 学 (障害児教育を含む)	2	2	
	教 育 実 習 (高)	3	4	いずれか1科目必修
	教 育 実 習 (中・高)	5	4	

4 履修上の注意

- ① 「教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）」および「教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）」は、半期で同時に履修しても、どちらから先に履修しても、また、異なる担当者の科目を履修しても構わない。第6表に掲げる科目（「教育原論Ⅰ」・「教育原論Ⅱ」・「教師論」を除く）を履修するには、教職課程登録が必要となる。登録者は、学年配当に従い履修すること。これにより、第7表の「教育実習および教職実践演習を履修するための条件」も充足される。なお、教職に関する科目の修得単位は、卒業および進級に必要な単位数に算入することはできない。
- ② 「教科教育法」は、取得を希望する免許ごとに履修しなければならない。
- ③ 「社会科・地理歴史科教育法」、「社会科・公民科教育法」、「道徳教育の指導法」、「生徒指導論」、「教職実践演習」は2コマずつ開講するが、履修登録の際は学科指定があるので注意すること。
- ④ 「教育実習」は、3年次で修得した教科教育法と同一教科の実習を履修すること。なお、本学部で履修できる各教科教育法と教育実習の種類は下記のとおりである。

国 語	国語科教育法A・B、	国語科教育実習 (国文学科のみ)
英 語	英語科教育法A・B、	英語科教育実習 (英文学科のみ)
ド イ ツ 語	独語科教育法A・B、	独語科教育実習 (ヨーロッパ文化学科のみ)
フ ラ ン ス 語	仏語科教育法A・B、	仏語科教育実習 (ヨーロッパ文化学科のみ)
社 会	社会科・地理歴史科教育法A、 社会科・公民科教育法A	社会系教育実習 (文化史学科のみ)
地 理 歴 史	社会科・地理歴史科教育法B	
公 民	社会科・公民科教育法B	

2018年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することはできない。

旧 科 目	新 科 目
教育原論Ⅰ	教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）
教育原論Ⅱ	教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）
特別活動の研究	特別活動の指導法
道徳教育の研究	道徳教育の指導法
生徒指導の研究	生徒指導論
社会科教育法	社会科・地理歴史科教育法A
	社会科・公民科教育法A
公民科教育法	社会科・公民科教育法B
地理歴史科教育法	社会科・地理歴史科教育法B
教育実習	教育実習（高）
	教育実習（中・高）

5 教育実習および
教職実践演習を
履修するための
条件

4年次で「教育実習」および「教職実践演習」を履修するためには、3年次終了までに第7表の「教育実習および教職実践演習を履修するための条件」に定める科目を修得していなければならない。

なお、この条件を満たさないと、4年次に教育実習を行うことができず、4年間で教育職員免許状を取得することができなくなるので注意すること。

また、「教職実践演習」は、「教育実習」を履修する年度よりも前に履修することはできない。

第7表 「教育実習および教職実践演習」を履修するための条件

①教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）（2単位）	②教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）（2単位）
③教師論（2単位）	④教育史（2単位）
⑤特別活動の指導法（2単位）	⑥教育方法学（2単位）
⑦教育心理学または青年心理学（2単位）	⑧教科教育法（4単位）
計18単位。	

B 「教科に関する科目」の履修

1 「教科に関する科目」 免許法に定められた教科に関する科目の単位の修得方法については、第8表以降を参照のこと。
の単位修得方法

第8表 教科に関する科目と最低必要単位数（国語）

2017年度以降入学者に適用

国 文 学 科

系 列	免許法による規定		学 年 配 当				本学での 最低必要 単位数	免許取得 に必要な 単位数
	教科に関する 科目	最低修得 単位数	1 年	2 年	3 年	4 年		
1	国 語 学 (音声言語及び 文章表現に関す るものを含む。)	1以上	○国語史概説Ⅰ ○国語史概説Ⅱ	○国語国文学講義Ⅰ ○国語国文学講義Ⅱ 国語学会誌Ⅰ 国語学会誌Ⅱ 国語学講義Ⅰ 国語学講義Ⅱ			8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、 全体で「中学校・高等学校双方の免許を希望する場合は36単元以上」 （中学校・高等学校）28単元以上、「高等学校」36単元以上
2	国 文 学 (国文学史を 含む。)	1以上	○素読Ⅰ ○素読Ⅱ ○素読Ⅲ ○素読Ⅳ ○国文学史総合講座	古代国文学会誌Ⅰ 古代国文学会誌Ⅱ 中古国文学会誌Ⅰ 中古国文学会誌Ⅱ 中世国文学会誌Ⅰ 中世国文学会誌Ⅱ 古代国文学講義Ⅰ 古代国文学講義Ⅱ 中古国文学講義Ⅰ 中古国文学講義Ⅱ 中世国文学講義Ⅰ	近世国文学会誌Ⅰ 近世国文学会誌Ⅱ 近代国文学会誌Ⅰ 近代国文学会誌Ⅱ 近代国文学会誌Ⅲ 近代国文学会誌Ⅳ 中世国文学講義Ⅱ 近世国文学講義Ⅰ 近世国文学講義Ⅱ 近代国文学講義Ⅰ 近代国文学講義Ⅱ	古文	10	
3	漢 文 学	1以上	○漢文学概説Ⅰ ○漢文学概説Ⅱ	漢文学会誌Ⅰ 漢文学会誌Ⅱ 漢文学講義Ⅰ 漢文学講義Ⅱ	漢文		4	
4	書 道 (書写を中心 とする。)	1以上				○※書道	4	

注1) ○印の科目は必修である。

注2) ※「書道」は中学校の免許取得においてのみ必修であり、卒業要件単位には算入されない。

第9表 教科に関する科目と最低必要単位数（国語）

2015・2016年度入学者に適用

国 文 学 科

系 列	免許法による規定		学 年 配 当				本学での 最低必要 単位数	免許取得 に必要な 単位数
	教科に関する 科目	最低修得 単位数	1 年	2 年	3 年	4 年		
1	国 語 学 (音声言語及び 文章表現に関す るものを含む。)	1以上	○国語史概説Ⅰ ○国語史概説Ⅱ	○国語国文学講義Ⅰ ○国語国文学講義Ⅱ 国語学会誌Ⅰ 国語学会誌Ⅱ 国語学講義Ⅰ 国語学講義Ⅱ			8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で （中学校・高等学校）28単元以上、「高校」36単元以上 （中学校・高等学校双方の免許を希望する場合は36単元以上）
2	国 文 学 (国文学史を 含む。)	1以上	○素読Ⅰ ○素読Ⅱ ○素読Ⅲ ○素読Ⅳ ○国文学史総合講座	古代国文学会誌Ⅰ 古代国文学会誌Ⅱ 中古国文学会誌Ⅰ 中古国文学会誌Ⅱ 中世国文学会誌Ⅰ 中世国文学会誌Ⅱ 古代国文学講義Ⅰ 古代国文学講義Ⅱ 中古国文学講義Ⅰ 中古国文学講義Ⅱ 中世国文学講義Ⅰ	近世国文学会誌Ⅰ 近世国文学会誌Ⅱ 近代国文学会誌Ⅰ 近代国文学会誌Ⅱ 近代国文学会誌Ⅲ 近代国文学会誌Ⅳ 中世国文学講義Ⅱ 近世国文学講義Ⅰ 近世国文学講義Ⅱ 近代国文学講義Ⅰ 近代国文学講義Ⅱ		10	
3	漢 文 学	1以上	○漢文学概説Ⅰ ○漢文学概説Ⅱ	漢文学会誌Ⅰ 漢文学会誌Ⅱ 漢文学講義Ⅰ 漢文学講義Ⅱ			4	
4	書 道 (書写を中心 とする。)	1以上				○※書道	4	

注1) ○印の科目は必修である。

注2) ※「書道」は中学校の免許取得においてのみ必修であり、卒業要件単位には算入されない。

第10表 教科に関する科目と最低必要単位数（国語）

2014年度以前入学者に適用

国 文 学 科

系 列	免許法による規定		学 年 配 当				本学での 最低必要 単位数	免許取得 に必要な 単位数
	教科に関する 科目	最低修得 単位数	1 年	2 年	3 年	4 年		
1	国 語 学 (音声言語及び 文章表現に関す るものを含む。)	1以上	○国語学概論 ○国語史概論	国語学演習 国語学講義			8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、 校・高「中学校」双方の免許を希望する場合は36単位以上（中 体で「中学校」28単位以上） 学で「中学校」36単位以上（中 学全
2	国 文 学 (国文学史を 含む。)	1以上	○国文学基礎演習Ⅰ ○国文学基礎演習Ⅱ ○国文学基礎演習Ⅲ ○国文学基礎演習Ⅳ ○国文学史概論	近世国文学演習 近代国文学演習Ⅰ 近代国文学演習Ⅱ 古代国文学演習 中古国文学演習 中世国文学演習			12	
				近世国文学講義 近代国文学講義 古代国文学講義 中古国文学講義 中世国文学講義				
3	漢 文 学	1以上	○漢文学概論	漢文学講義 漢文学演習			4	
4	書 道 (書写を中心 とする。)	1以上				○※書道	4	

注1) ○印の科目は必修である。

注2) ※「書道」は中学校の免許取得においてのみ必修であり、卒業要件単位には算入されない。

第11表 教科に関する科目と最低必要単位数（英語）

2015年度以降入学者に適用			英 文 学 科				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
系列	免許法による規定		学 年 配 当					
	教科に関する科目	最低修得単位数	1 年	2 年	3 年	4 年		
1	英 語 学	1 以上	○英語学基礎ゼミナール	○英語学概論 英語学アカデミック・ベイシックスⅠa 英語学アカデミック・ベイシックスⅠb 英語学アカデミック・ベイシックスⅡa 英語学アカデミック・ベイシックスⅡb 英語学クリエイティブ・プラクティスA 英語学クリエイティブ・プラクティスB	英語学アカデミック・プラクティスⅠa 英語学アカデミック・プラクティスⅠb 英語学特殊講義A 英語学特殊講義B		8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で28単位以上（中学校・高等学校双方の免許を希望する場合は36単位以上）
2	英 米 文 学	1 以上	○英語文学基礎ゼミナール	○英語文学史 英語文学アカデミック・ベイシックスⅠa 英語文学アカデミック・ベイシックスⅠb 英語文学アカデミック・ベイシックスⅡa 英語文学アカデミック・ベイシックスⅡb 英語文学アカデミック・ベイシックスⅢa 英語文学アカデミック・ベイシックスⅢb 英語文学アカデミック・ベイシックスⅣa 英語文学アカデミック・ベイシックスⅣb 英語文学アカデミック・ベイシックスⅤa 英語文学アカデミック・ベイシックスⅤb 英語文学クリエイティブ・プラクティスA 英語学クリエイティブ・プラクティスB	英語文学アカデミック・プラクティスⅠa 英語文学アカデミック・プラクティスⅠb 英語文学アカデミック・プラクティスⅡa 英語文学アカデミック・プラクティスⅡb 英語文学アカデミック・プラクティスⅢa 英語文学アカデミック・プラクティスⅢb 英語文学アカデミック・プラクティスⅣa 英語文学アカデミック・プラクティスⅣb 英語文学特殊講義A 英語文学特殊講義B		8	
3	英語コミュニケーション	1 以上		○英語コミュニケーションⅠ ○英語コミュニケーションⅡ ○英語コミュニケーションⅢa ○英語コミュニケーションⅢb			6	
4	異文化理解	1 以上	○英語文化基礎ゼミナール	英語文化アカデミック・ベイシックスⅠa 英語文化アカデミック・ベイシックスⅠb 英語文化アカデミック・ベイシックスⅡa 英語文化アカデミック・ベイシックスⅡb 英語文化アカデミック・ベイシックスⅢa 英語文化アカデミック・ベイシックスⅢb 英語文化クリエイティブ・プラクティスA 英語文化クリエイティブ・プラクティスB	英語文化アカデミック・プラクティスⅠa 英語文化アカデミック・プラクティスⅠb 英語文化アカデミック・プラクティスⅡa 英語文化アカデミック・プラクティスⅡb 英語文化アカデミック・プラクティスⅢa 英語文化アカデミック・プラクティスⅢb 英語文化特殊講義A 英語文化特殊講義B		4	

注) ○印の科目は必修である。

第12表 教科に関する科目と最低必要単位数（英語）

2014年度以前入学者に適用			英 文 学 科				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
系列	免許法による規定		学 年 配 当					
	教科に関する科目	最低修得単位数	1 年	2 年	3 年	4 年		
1	英 語 学	1 以上	○英語学基礎演習	○英語学概論 英語学演習Ⅰ 英語学演習Ⅱ 英語学講義	英語学演習Ⅲ 英語学特殊講義		8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で28単位以上（中学校・高等学校双方の免許を希望する場合は36単位以上）
2	英 米 文 学	1 以上	○英語文学基礎演習	○英語文学史 英語文学演習Ⅰ 英語文学演習Ⅱ 英語文学演習Ⅲ 英語文学講義Ⅰ 英語文学講義Ⅱ 英語文学講義Ⅲ	英語文学演習Ⅳ 英語文学演習Ⅴ 英語文学演習Ⅵ 英語文学演習Ⅶ 英語文学特殊講義Ⅰ 英語文学特殊講義Ⅱ		8	
3	英語コミュニケーション	1 以上		○英語コミュニケーションⅠ ○英語コミュニケーションⅡ ○英語コミュニケーションⅢa ○英語コミュニケーションⅢb			6	
4	異文化理解	1 以上	○英語文化基礎演習	英語文化演習Ⅰ 英語文化演習Ⅱ 英語文化講義Ⅰ 英語文化講義Ⅱ	英語文化演習Ⅲ 英語文化演習Ⅳ 英語文化特殊講義		4	

注) ○印の科目は必修である。

教職課程

第13表 教科に関する科目と最低必要単位数（社会）

2017年度以降入学者に適用

文化史学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史及び外国史	1以上	文化史概論Ⅰ a 文化史概論Ⅰ b 文化史基礎演習Ⅰ	○日本史概説 a ○日本史概説 b ○※外国史概説A ○※外国史概説B 文化史特殊講義Ⅰ a 文化史特殊講義Ⅰ b 歴史学特殊講義Ⅰ a 歴史学特殊講義Ⅰ b 歴史学特殊講義Ⅱ a 歴史学特殊講義Ⅱ b 歴史学特殊講義Ⅲ a 歴史学特殊講義Ⅲ b 日本文化史 a 日本文化史 b 東洋文化史 a 東洋文化史 b 西洋文化史 a 西洋文化史 b			8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で28単位以上
2	地理学（地誌を含む。）	1以上	文化史概論Ⅱ a 文化史概論Ⅱ b 文化史基礎演習Ⅱ	○地理学講義 a ○地理学講義 b ○地誌学 a ○地誌学 b 文化史特殊講義Ⅱ a 文化史特殊講義Ⅱ b 民俗学特殊講義Ⅰ a 民俗学特殊講義Ⅰ b 民俗学特殊講義Ⅱ a 民俗学特殊講義Ⅱ b 民俗学特殊講義Ⅲ a 民俗学特殊講義Ⅲ b 人文地理学 a 人文地理学 b			8	
3	「法学、政治学」	1以上		○※憲法 ※政治学原論 ※国際関係論	※国際法		4	
4	「社会学、経済学」	1以上	文化史概論Ⅲ a 文化史概論Ⅲ b 文化史基礎演習Ⅲ	文化史特殊講義Ⅲ a 文化史特殊講義Ⅲ b 文化史特殊講義Ⅳ a 文化史特殊講義Ⅳ b 文化人類学特殊講義Ⅰ a 文化人類学特殊講義Ⅰ b 文化人類学特殊講義Ⅱ a 文化人類学特殊講義Ⅱ b 文化人類学特殊講義Ⅲ a 文化人類学特殊講義Ⅲ b	○※経済原論 ※公共経済学Ⅰ ※公共経済学Ⅱ ※国際貿易論Ⅰ ※国際貿易論Ⅱ		4	
5	「哲学、倫理学、宗教学」	1以上		★ { 哲学講義 a 哲学講義 b ★ { 宗教学講義 a 宗教学講義 b ★ { 倫理学講義 a 倫理学講義 b 哲学史特殊講義 a 哲学史特殊講義 b	★印は同一科目「a・b」 一組が選択必修		4	

注1) ○印の科目は必修である。また、★印の科目は、同一科目「a・b」一組が選択必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

第14表 教科に関する科目と最低必要単位数（社会）

2015～2016年度入学者に適用

文化史学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史及び外国史	1以上	文化史概論Ⅰa 文化史概論Ⅰb 文化史基礎演習Ⅰ	○日本史概説a ○日本史概説b ○※外国史概説 文化史特殊講義Ⅰa 文化史特殊講義Ⅰb 歴史学特殊講義Ⅰa 歴史学特殊講義Ⅰb 歴史学特殊講義Ⅱa 歴史学特殊講義Ⅱb 歴史学特殊講義Ⅲa 歴史学特殊講義Ⅲb 日本文化史a 日本文化史b 東洋文化史a 東洋文化史b 西洋文化史a 西洋文化史b			8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で28単位以上
2	地理学（地誌を含む。）	1以上	文化史概論Ⅱa 文化史概論Ⅱb 文化史基礎演習Ⅱ	○地理学講義a ○地理学講義b ○地誌学a ○地誌学b 文化史特殊講義Ⅱa 文化史特殊講義Ⅱb 民俗学特殊講義Ⅰa 民俗学特殊講義Ⅰb 民俗学特殊講義Ⅱa 民俗学特殊講義Ⅱb 民俗学特殊講義Ⅲa 民俗学特殊講義Ⅲb 人文地理学a 人文地理学b			8	
3	「法学、政治学」	1以上		○※憲法 ※政治学原論 ※国際関係論	※国際法	4		
4	「社会学、経済学」	1以上	文化史概論Ⅲa 文化史概論Ⅲb 文化史基礎演習Ⅲ	文化史特殊講義Ⅲa 文化史特殊講義Ⅲb 文化史特殊講義Ⅳa 文化史特殊講義Ⅳb 文化人類学特殊講義Ⅰa 文化人類学特殊講義Ⅰb 文化人類学特殊講義Ⅱa 文化人類学特殊講義Ⅱb 文化人類学特殊講義Ⅲa 文化人類学特殊講義Ⅲb	○※経済原論 ※公共経済学Ⅰ ※公共経済学Ⅱ ※国際貿易論Ⅰ ※国際貿易論Ⅱ	4		
5	「哲学、倫理学、宗教学」	1以上		★ { 哲学講義a 哲学講義b ★ { 宗教学講義a 宗教学講義b ★ { 倫理学講義a 倫理学講義b 哲学史特殊講義a 哲学史特殊講義b	★印は同一科目「a・b」一組が選択必修	4		

注1) ○印の科目は必修である。また、★印の科目は、同一科目「a・b」一組が選択必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

教職課程

第15表 教科に関する科目と最低必要単位数（社会）

2014年度以前入学者に適用

文化史学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史および外国史	1以上	文化史概論Ⅰ 文化史概論Ⅱ 文化史概論Ⅲ	○日本史概説 ○※外国史概説 文化史特殊講義Ⅰ 文化史特殊講義Ⅱ 文化史特殊講義Ⅲ 歴史学特殊講義Ⅰ 歴史学特殊講義Ⅱ 歴史学特殊講義Ⅲ 日本文化史 東洋文化史 西洋文化史			8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で28単位以上
2	地理学（地誌を含む。）	1以上		○地誌学 ○地理学講義 人文地理学			8	
3	「法学、政治学」	1以上		○※憲法 ※政治学原論 ※国際関係論	※国際法		4	
4	「社会学、経済学」	1以上	文化史基礎演習Ⅰ 文化史基礎演習Ⅱ 文化史基礎演習Ⅲ(注)	文化史特殊講義Ⅳ 文化人類学特殊講義Ⅰ 文化人類学特殊講義Ⅱ 文化人類学特殊講義Ⅲ 民俗学特殊講義Ⅰ 民俗学特殊講義Ⅱ 民俗学特殊講義Ⅲ	○※経済原論 ※公共経済学Ⅰ ※公共経済学Ⅱ ※国際貿易論Ⅰ ※国際貿易論Ⅱ		4	
5	「哲学、倫理学、宗教学」	1以上		△宗教学講義 △哲学講義 △倫理学講義 哲学史特殊講義			4	

注1) ○印の科目は必修、△印の科目は1科目選択必修である。
 注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。
 注3) 「文化史基礎演習Ⅲ」は2014年度修得単位から充当される。

教職課程

第16表 教科に関する科目と最低必要単位数（地理歴史）

2017年度以降入学者に適用

文化史学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史	1以上	文化史概論Ⅰa 文化史概論Ⅰb 文化史基礎演習Ⅰ	○日本史概説a ○日本史概説b 文化史特殊講義Ⅰa 文化史特殊講義Ⅰb 歴史学特殊講義Ⅰa 歴史学特殊講義Ⅰb 歴史学特殊講義Ⅱa 歴史学特殊講義Ⅱb 歴史学特殊講義Ⅲa 歴史学特殊講義Ⅲb 日本文化史a 日本文化史b			4	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で36単位以上
2	外国史	1以上		○※外国史概説A ○※外国史概説B 東洋文化史a 東洋文化史b 西洋文化史a 西洋文化史b			4	
3	人文地理学及び自然地理学	1以上	文化史概論Ⅱa 文化史概論Ⅱb 文化史基礎演習Ⅱ	○人文地理学a ○人文地理学b ○地理学講義a ○地理学講義b 文化史特殊講義Ⅱa 文化史特殊講義Ⅱb 民俗学特殊講義Ⅰa 民俗学特殊講義Ⅰb 民俗学特殊講義Ⅱa 民俗学特殊講義Ⅱb 民俗学特殊講義Ⅲa 民俗学特殊講義Ⅲb			8	
4	地誌	1以上		○地誌学a ○地誌学b			4	

注1) ○印の科目は必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

教職課程

第17表 教科に関する科目と最低必要単位数（地理歴史）

2015～2016年度入学者に適用

文化史学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史	1以上	文化史概論Ⅰa 文化史概論Ⅰb 文化史基礎演習Ⅰ	○日本史概説a ○日本史概説b 文化史特殊講義Ⅰa 文化史特殊講義Ⅰb 歴史学特殊講義Ⅰa 歴史学特殊講義Ⅰb 歴史学特殊講義Ⅱa 歴史学特殊講義Ⅱb 歴史学特殊講義Ⅲa 歴史学特殊講義Ⅲb 日本文化史a 日本文化史b			4	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で36単位数以上
2	外国史	1以上		○※外国史概説 東洋文化史a 東洋文化史b 西洋文化史a 西洋文化史b			4	
3	人文地理学及び自然地理学	1以上	文化史概論Ⅱa 文化史概論Ⅱb 文化史基礎演習Ⅱ	○人文地理学a ○人文地理学b ○地理学講義a ○地理学講義b 文化史特殊講義Ⅱa 文化史特殊講義Ⅱb 民俗学特殊講義Ⅰa 民俗学特殊講義Ⅰb 民俗学特殊講義Ⅱa 民俗学特殊講義Ⅱb 民俗学特殊講義Ⅲa 民俗学特殊講義Ⅲb			8	
4	地誌	1以上		○地誌学a ○地誌学b			4	

注1) ○印の科目は必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

第18表 教科に関する科目と最低必要単位数（地理歴史）

2014年度以前入学者に適用

文化史学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史	1以上	文化史概論Ⅰ 文化史概論Ⅱ 文化史概論Ⅲ	○日本史概説 文化史特殊講義Ⅰ 文化史特殊講義Ⅱ 文化史特殊講義Ⅲ 歴史学特殊講義Ⅰ 歴史学特殊講義Ⅱ 歴史学特殊講義Ⅲ 日本文化史			4	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で36単位数以上
2	外国史	1以上		○※外国史概説 東洋文化史 西洋文化史			4	
3	人文地理学及び自然地理学	1以上		○人文地理学 ○地理学講義			8	
4	地誌	1以上		○地誌学			4	

注1) ○印の科目は必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

教職課程

第19表 教科に関する科目と最低必要単位数（公民）

2015年度以降入学者に適用

文化史学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1以上		○※憲法 ※政治学原論 ※国際関係論	○※国際法		8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で36単位数以上
2	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	1以上	△文化史概論Ⅲ a △文化史概論Ⅲ b △文化史基礎演習Ⅲ	△文化史特殊講義Ⅲ a △文化史特殊講義Ⅲ b △文化史特殊講義Ⅳ a △文化史特殊講義Ⅳ b △文化人類学特殊講義Ⅰ a △文化人類学特殊講義Ⅰ b △文化人類学特殊講義Ⅱ a △文化人類学特殊講義Ⅱ b △文化人類学特殊講義Ⅲ a △文化人類学特殊講義Ⅲ b	○※経済原論 ※公共経済学Ⅰ ※公共経済学Ⅱ ※国際貿易論Ⅰ ※国際貿易論Ⅱ		8	
3	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	1以上		★ { 哲学講義 a 哲学講義 b ★ { 宗教学講義 a 宗教学講義 b ★ { 倫理学講義 a 倫理学講義 b 哲学史特殊講義 a 哲学史特殊講義 b	★印は同一科目「a・b」一組が選択必修		4	

注1) ○印の科目は必修であり、△の科目は4単位選択必修である。また、★印の科目は、同一科目「a・b」一組が選択必修である。
注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

教職課程

第20表 教科に関する科目と最低必要単位数（公民）

2014年度以前入学者に適用

文化史学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1以上		○※憲法 ※政治学原論 ※国際関係論	○※国際法		8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で36単位数以上
2	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	1以上	△文化史基礎演習Ⅰ △文化史基礎演習Ⅱ △文化史基礎演習Ⅲ(注)	文化史特殊講義Ⅳ 文化人類学特殊講義Ⅰ 文化人類学特殊講義Ⅱ 文化人類学特殊講義Ⅲ 民俗学特殊講義Ⅰ 民俗学特殊講義Ⅱ 民俗学特殊講義Ⅲ	○※経済原論 ※公共経済学Ⅰ ※公共経済学Ⅱ ※国際貿易論Ⅰ ※国際貿易論Ⅱ		8	
3	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	1以上		★宗教学講義 ★哲学講義 ★倫理学講義 哲学史特殊講義			4	

注1) ○印の科目は必修であり、△印の科目および、★印の科目はそれぞれ1科目選択必修である。
注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。
注3) 「文化史基礎演習Ⅲ」は2014年度修得単位から充当される。

第21表 教科に関する科目と最低必要単位数（ドイツ語）

2015年度以降入学者に適用

ヨーロッパ文化学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	独 語 学	1以上		○独文法実習 a ○独文法実習 b ヨーロッパの言語特殊講義 I a ヨーロッパの言語特殊講義 I b			2	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で「中学校・高等学校」36単位数以上（中学校・高等学校双方の免許を希望する場合）
2	独 文 学	1以上	ヨーロッパの文学講義 I	ヨーロッパの文学特殊講義 I	○独語独文学演習 a ○独語独文学演習 b		4	
3	独語コミュニケーション	1以上		△独語コミュニケーション I △独語コミュニケーション II △独語コミュニケーション III △独語コミュニケーション IV	△印4科目のうち、3科目選択必修		6	
4	異文化理解	1以上	ヨーロッパの思想講義 I ヨーロッパの歴史講義 I	ヨーロッパの思想特殊講義 I ヨーロッパの歴史特殊講義 I a ヨーロッパの歴史特殊講義 I b	○比較文化演習 a ○比較文化演習 b ○現代ドイツ事情演習 a ○現代ドイツ事情演習 b ヨーロッパの思想演習 I a ヨーロッパの思想演習 I b ヨーロッパの歴史演習 I a ヨーロッパの歴史演習 I b		8	

注1) ○印の科目は必修、△印は3科目選択必修である。

注2) 学部共通外国語（独語または仏語）を中級 I または上級のグレードから開始した者は、2年次から3年次配当の演習科目を履修できる場合がある。詳細は【履修規定】Ⅲ-2 学科科目履修方法 F. ヨーロッパ文化学科】の項を参照のこと。

教職課程

第22表 教科に関する科目と最低必要単位数（ドイツ語）

2014年度以前入学者に適用

ヨーロッパ文化学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	独 語 学	1以上		○独文法実習 ヨーロッパの言語特殊講義 I			2	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で「中学校・高等学校」36単位数以上（中学校・高等学校双方の免許を希望する場合）
2	独 文 学	1以上	ヨーロッパの文学講義 I	ヨーロッパの文学特殊講義 I	○独語独文学演習		4	
3	独語コミュニケーション	1以上		○独語コミュニケーション I a ○独語コミュニケーション I b ○独語コミュニケーション II a ○独語コミュニケーション II b ○独語コミュニケーション III a ○独語コミュニケーション III b			6	
4	異文化理解	1以上	ヨーロッパの思想講義 I ヨーロッパの歴史講義 I	ヨーロッパの思想特殊講義 I ヨーロッパの歴史特殊講義 I	○現代ドイツ事情演習 ○比較文化演習 ヨーロッパの思想演習 I ヨーロッパの歴史演習 I		8	

注) ○印の科目は必修である。

第23表 教科に関する科目と最低必要単位数（フランス語）

2015年度以降入学者に適用

ヨーロッパ文化学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	仏語学	1以上		○仏文法実習 a ○仏文法実習 b ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱ a ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱ b			2	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で「中学校・高等学校双方の免許を希望する場合は36単位以上（中学校・高等学校）36単位以上（中学校・高等学校）」
2	仏文学	1以上	ヨーロッパの文学講義Ⅱ	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ	○仏語仏文学演習 a ○仏語仏文学演習 b		4	
3	仏語コミュニケーション	1以上		△仏語コミュニケーションⅠ △仏語コミュニケーションⅡ △仏語コミュニケーションⅢ △仏語コミュニケーションⅣ	△印4科目のうち、 3科目選択必修		6	
4	異文化理解	1以上	ヨーロッパの思想講義Ⅱ ヨーロッパの歴史講義Ⅱ	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ a ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ b	○現代フランス事情演習 a ○現代フランス事情演習 b ★ { 広域芸術論演習Ⅰ a 広域芸術論演習Ⅰ b ★ { 広域芸術論演習Ⅱ a 広域芸術論演習Ⅱ b ヨーロッパの思想演習Ⅱ a ヨーロッパの思想演習Ⅱ b ヨーロッパの歴史演習Ⅱ a ヨーロッパの歴史演習Ⅱ b	★印は同一科目「a・b」一組が選択必修	8	

注1) ○印の科目は必修、△印は3科目選択必修、★印の科目は同一科目「a・b」一組が選択必修である。
 注2) 学部共通外国語（独語または仏語）を中級Ⅰまたは上級のグレードから開始した者は、2年次から3年次配当の演習科目を履修できる場合がある。
 詳細は【履修規定】Ⅳ-2 学科科目履修方法 F. ヨーロッパ文化学科】の項を参照のこと。

教職課程

第24表 教科に関する科目と最低必要単位数（フランス語）

2014年度以前入学者に適用

ヨーロッパ文化学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	仏語学	1以上		○仏文法実習 ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱ			2	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で「中学校・高等学校双方の免許を希望する場合は36単位以上（中学校・高等学校）」
2	仏文学	1以上	ヨーロッパの文学講義Ⅱ	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ	○仏語仏文学演習		4	
3	仏語コミュニケーション	1以上		○仏語コミュニケーションⅠ a ○仏語コミュニケーションⅠ b ○仏語コミュニケーションⅡ a ○仏語コミュニケーションⅡ b ○仏語コミュニケーションⅢ a ○仏語コミュニケーションⅢ b			6	
4	異文化理解	1以上	ヨーロッパの思想講義Ⅱ ヨーロッパの歴史講義Ⅱ	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ	○現代フランス事情演習 △広域芸術論演習Ⅰ（注） △広域芸術論演習Ⅱ（注） ヨーロッパの思想演習Ⅱ ヨーロッパの歴史演習Ⅱ		8	

注1) ○印の科目は必修、△印の科目は1科目選択必修である。
 注2) 「広域芸術論演習」は2014年度より「広域芸術論演習Ⅰ」に名称変更となった。
 注3) 「広域芸術論演習Ⅱ」は2015年度より追加となった。

III

教職課程の説明会・ガイダンス

教職課程に取り組むに当たっては、以下の説明会・ガイダンス等に必ず出席すること。なお、説明会・ガイダンス等に出席する際は、学生証を必ず持参すること（出席確認を行う）。

1 教職課程ガイダンス (1年次)

教職課程の登録は2年次に行われるが、登録を検討している1年次生を対象として、教職課程の概要、1年次に履修できる科目等に関する説明を行う。なお、このガイダンスに出席し、説明された内容を修得しないと、1年次配当の教職に関する科目を、履修登録上限単位数を超えて1年次に履修することはできない。教育職員免許取得を希望している学生は、以下の日程のいずれかに必ず出席すること。

日時 2018年4月9日(月) 12:20、4月10日(火) 12:20

場所 322教室

対象 1年次生

2 教職課程登録説明会 (1年次)

教育職員免許の取得を希望する学生は、2年次に進級する直前に開催される教職課程登録説明会に出席し、教職課程の登録手続きを行わなければならない。この登録手続きを怠ると、**教職課程科目の履修ができず、教育職員免許を取得することができない。**本年度は、下記の日程で説明会を開催する。

日時 2019年3月開催予定。別途、掲示等にて連絡する。

場所 未定

対象 1年次生

〈教職課程費〉

※ 課程登録に当たっては、教職課程費(33,000円)を所定の期間に納入しなくてはならない。一度納入した教職課程費は、いかなる事情があっても返還しない。また、課程登録後やむを得ず辞退する場合は、すみやかに教務部で辞退の手続きをすること。

3 教育実習校開拓ガイダンス (2年次)

4年次に教育実習をするためには、学生自ら実習校を開拓しなければならない。そのために2年次後期に出身校等に教育実習の依頼をし、受け入れの可否を確認することとなる。このとき内諾を得た場合は、その旨を大学(教務部)に報告すること。大学より実習校に依頼状を送付し、その返事として実習校から「受入承諾書」が大学宛に届いて、はじめて4年次の実習が可能となる。

また、3年次の4月初旬には、内諾を得た教育実習校と再度連絡をとり、あらためて挨拶をし、書類等必要事項の確認をする。その結果を教務部に報告し、今後の手続きを進めていくこととなる。

なお、本年度の実習校開拓ガイダンスは、下記の日程を予定している。2020年度に教育実習を希望する者は、必ず出席すること。

日時 2018年12月開催予定。別途掲示等にて連絡する。

場所 未定

対象 2年次生

4 教育実習事前ガイダンス (3年次)

一般的に教育実習は、4年次の4～6月に実施することになる(実習校によっては、秋になることもある)。3年次で学習した教科教育法が理論的なアプローチとすれば、教育実習は、文字どおり実践的なアプローチといえよう。教育実習は、通年授業の中で2～4週間、大学を離れて中学校または高等学校という教育現場で行われる授業であり、本学では事前および事後の指導が教科教育法および教育実習担当者により綿密に行われている。

本ガイダンスでは、講師から教育実習への心構えや諸注意について、また、本年度に実習を経験した学生からの体験談・アドバイス等を講演してもらうので、来年度の教育実習に向けての準備に役立てて欲しい。2019年度に教育実習を予定している者は必ず出席すること。

日時 2018年11月開催予定。別途、掲示等にて連絡する。

場所 未定

対象 3年次生

5 教育実習直前ガイダンス (4年次)

講師による教育実習全般の諸注意、教育実習日誌の記入方法等についての指導、および教務部から教育実習日程等の連絡、教育実習日誌配付等の事務連絡を行う。本年度の教育実習予定者は、必ず出席すること。

日時 2018年4月9日(月) 18:10

場所 322教室

対象 4年次生

6 介護等体験

「介護等体験特例法」(平成9年法律第90号)および「介護等体験特例法施行規則」(平成9年文部省令第40号)の施行により、中学校教育職員免許の取得を希望する学生は、入学から卒業までの間に社会福祉施設(老人ホームや生活訓練施設等)で5日間、特別支援学校で2日間、合計7日間介護・介助を行うことが義務付けられている。これに伴い本学では、下記のとおり説明会・ガイダンスを開催する。

① 介護等体験登録説明会

日時 2018年6月開催予定。別途、掲示等にて連絡する。

場所 未定

対象 2019年度介護等体験希望者

② 介護等体験事前ガイダンス

日時 2018年4月10日(火) 18:10

場所 322教室

対象 昨年度登録手続きを済ませて、本年度体験を予定している者

③ 介護等体験直前ガイダンス

日時 2018年7月開催予定。別途、掲示等にて連絡する。

場所 未定

対象 昨年度登録手続きを済ませて、本年度体験を予定している者

IV 教育職員免許状の申請等

A 教育職員免許状取得見込証明書の発行

教員採用試験等に必要な標記証明書は、教務部にて発行する。

B 教育職員免許状の申請手続・免許状の交付(4年次)

本年度3月卒業見込みの4年次生は、本学をとおして東京都教育委員会にて教員免許取得に必要な単位数の審査を受けることができる。この審査に合格した者については、学位記授与式(卒業式)当日に免許状が交付される。免許取得に必要な単位を修得し、3月に卒業確定した者については、卒業確定者発表と同時に免許取得者の名簿を掲示する。

本件に関する関連事項の手続きとおおよその日程は下記のとおりである。詳細は、Campus Square for Webや教職課程掲示板にて別途案内する。

なお、この手続きを怠ると個人申請することになるので注意すること。

免許状記載項目等の確認手続(4年次の11月)

また、秋(9月)卒業する学生については、卒業後に個人申請にて免許状を取得する必要がある。そのため、学位記授与日当日に免許状が交付されない。詳しくは教務部教職課程担当に確認すること。

免許取得後における教育職員免許状授与証明書の発行、免許状の書き換え、再交付等の申請は、免許状授与権者である東京都教育委員会に各人が行うこと。問い合わせ先は、下記のとおりである。

東京都教育庁人事部選考課 免許担当
〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1 第1本庁舎北側36階
TEL: 03-5320-6788 FAX: 03-5388-1729

C 教育職員免許状の有効期間について

2007年6月の改正教育職員免許法の成立により、2009年4月より教員免許更新制が導入され、2009年4月以降に授与された免許状には、10年間の有効期間が定められている。そのため、2010年3月の卒業生から、有効期間付の免許状となっている。

学芸員課程

I	学芸員資格	206
	1) 博物館と学芸員	
	2) 学芸員資格取得の条件	
	3) 学芸員資格証明書の交付	
II	学芸員課程の説明会・ガイダンス	207
	1) 学芸員課程の登録説明会（1年次）	
	2) 博物館実習先開拓ガイダンス（2年次）	
	3) 博物館実習直前ガイダンス（3年次）	
III	学芸員課程科目の履修	208
	A. 「必修科目」の履修	208
	1) 必修科目	
	2) 履修上の注意	
	3) 履修科目登録上限単位数の特例措置	
	4) 「博物館資料論」・「博物館資料保存論」の履修	
	5) 「博物館実習」の履修	
	B. 「選択科目」の履修	210
	1) 選択科目	
	2) 履修上の注意	

1 博物館と学芸員

「博物館」とは、博物館法第2条の定義によれば、「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」であり、美術館、資料館、郷土館、動物園、水族館等も含んでいる。

このような「博物館」は、博物館相当施設まで加えると国公立あわせて全国に1,000以上あり、図書館や公民館などとともに社会教育上欠かせない施設となっている。また、我が国の学術や文化の向上発展にも重要な役割を果たしている。

「学芸員」とは、これらの博物館・美術館等に勤務し、博物館資料の収集や保管・展示、および調査研究、さらにはそれらに関連する事業を担当する専門職員のことである。

博物館には、博物館法第4条第3項、および第4項に規定されている「学芸員」を置くことが義務付けられている。

博物館に学芸員として勤務するためには、学芸員の資格が必要である。

学芸員資格を取得するには、文部科学省の行う試験に合格するという方法もあるが、大学における学芸員の養成課程を履修して取得する方法が一般的である。

本学では、正規の授業を受講しながら、同時に学芸員課程として規定されている単位を修得すれば、学芸員の資格が取得できるように、学芸員課程を設置している。

2 学芸員資格取得の条件

本学では、博物館法第5条第1項の規定に従い、その養成を目的として**第1表**（必修科目）および**第3表**（選択科目）に示す授業科目を開設している。

学芸員となる資格を取得するにあたっては、必要な登録手続きを行い、学芸員課程として規定されている単位数を修得し、学士の学位を取得することが条件となっている。

3 学芸員資格証明書の交付

本課程に登録し、所定の単位を修得（修得見込みを含む）した卒業年次生は、単位認定の審査を受けることとなる。

審査の結果、単位認定がなされた者は、卒業確定者発表の際、その旨を掲示し、学位記授与式当日（秋（9月）卒業者は学位記授与日）に教務部で学芸員資格証明書を交付する。

学芸員課程に取り組むにあたっては、以下の説明会・ガイダンス等に必ず出席すること。なお、説明会・ガイダンス等に出席する際は、学生証を必ず持参すること（出席確認を行う）。

1 学芸員課程 登録説明会 (1年次)

学芸員資格取得のために学芸員課程必修科目の履修を希望する学生は、2年次に進級する直前に開催される「学芸員課程登録説明会」に出席し、指示に従って登録手続きを完了させなければならない。また、学芸員課程必修科目担当教員から博物館学芸員としての心構えや現状と将来などについての講演が行われるので、課程登録希望者は、必ず出席すること。

日時	2019年3月下旬開催予定。別途掲示等にて連絡する。
場所	未定
対象	文芸学部1年次生

〈学芸員課程費〉

登録費として5,000円を所定の期間に納付しなければならない（納付方法については説明会当日に説明を行う）。一度納付した登録費は、いかなる事情があっても返還しない。また、課程登録後、やむを得ず辞退する場合は、必ず教務部まで申し出ること。
なお、「博物館実習」履修年度には、別途実習費として10,000円が必要となる。詳細は後述する「博物館実習先開拓ガイダンス」にて説明する。

2 博物館実習先 開拓ガイダンス (2年次)

博物館実習をするためには、学生自ら実習館園を開拓しなければならない。そのため、実習をする前年度後期から希望する館園先を調査・決定し、応募要項に従って手続きを進める必要がある。

本ガイダンスでは、講師による博物館実習の意義、博物館実習開拓における心構え、博物館実習で学べべきこと等の講演と、教務部による実習館園への連絡方法、応募手順、選考方法等についての説明を行う予定である。対象者（来年度「博物館実習」科目履修予定者）は必ず出席すること。

日時	2018年11月頃開催予定。別途掲示等にて連絡する。
場所	未定
対象	2019年度「博物館実習」科目履修予定者

※2018年度までに、2年次配当の学芸員課程必修科目16単位のうち、「博物館概論」および「博物館教育論」を含む8単位を修得見込みであること。

〈博物館実習費〉

※実習館園が決定した学生は、実習費として10,000円を所定の期間に納付しなければならない（納付方法についてはガイダンス当日に説明を行う）。一度納付した実習費は、いかなる事情があっても返還しない。

3 博物館実習 直前ガイダンス (3年次)

本ガイダンスは授業の一環であり、博物館実習に関する事前指導のひとつである。講師からは博物館実習に臨む際に必要な心構えや全般の諸注意、教務部からは実習日誌の記入方法、実習に関する事務連絡を行う。本年度の博物館実習予定者は、必ず出席すること。

日時	2018年5月開催予定。別途掲示等にて連絡する。
場所	未定
対象	2018年度「博物館実習」科目履修者

Ⅲ

学芸員課程科目の履修

A

「必修科目」の履修

1 必修科目 第1表右欄の「本学開設の授業科目」に従い、19単位を修得すること。

第1表 必修科目

博物館法施行規則に基づく科目		本学開設の授業科目			
科目名	単位数	授業科目名	単位数	学年配当	備考
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2年	半期科目
博物館概論	2	博物館概論	2	2年	
博物館経営論	2	博物館経営論	2	2年	
博物館資料論	2	博物館資料論	2	2年	
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	2年	
博物館展示論	2	博物館展示論	2	2年	
博物館教育論	2	博物館教育論	2	2年	
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	2年	
博物館実習	3	博物館実習（美術史）	3	3年	通年科目 1科目を必修とする
		博物館実習（民俗学）			
		博物館実習（考古学）			

【第1表の注意事項】

- ① 2015年度をもって、「博物館各論Ⅰ」（4単位）は廃講となり、「博物館経営論」（2単位）、「博物館展示論」（2単位）が新設された。2015年度までに「博物館各論Ⅰ」の単位を修得している場合は、「博物館経営論」、「博物館展示論」を修得したものとみなす。
- ② 2015年度をもって、「博物館各論Ⅱ」（4単位）は廃講となり、「博物館資料論」（2単位）、「博物館資料保存論」（2単位）が新設された。2015年度までに「博物館各論Ⅱ」の単位を修得している場合は、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」を修得したものとみなす。

2 履修上の注意

第1表に示す必修科目は、進級および卒業に必要な単位には算入されない。
なお、学芸員課程登録の手続きをした者のみが履修できる。

3 履修科目登録上限単位数の特例措置

学芸員課程に登録した学生は、各年次16単位まで、履修科目登録上限単位数を超えて当該課程の科目を履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅲ-2 学科科目履修方法 各学科の1履修科目登録上限単位数）を参照も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。

4 「博物館資料論」・「博物館資料保存論」の履修

この科目はセットで履修することになっている。また、機材を使用する実習を含む授業であるため、履修者数に定員を設けWeb予備申請を必要とする。ついてはCampus Square for Web上にて予備申請期間中に履修登録手続きをする必要があるので十分注意すること。
なお、「博物館資料論」「博物館資料保存論」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、Web予備申請期間締切日までに教務部に申し出ること。

予備申請期間 4月2日（月）9：00～4月7日（土）13：00

定員 各科目とも原則として、30名
(応募者多数の場合は自動抽選となる。※卒業年次生を優先することになる。)

5 「博物館実習」
の履修

- ① 法定基準にある「博物館実習」について、本学では、美術史、民俗学、考古学の3分野にわたって開設する。その中から1科目を修得すること。
- ② この科目は、美術館や博物館等での実習を含む授業であり、担当教員等の引率による実地研修もあるため、履修者数に定員を設けWeb予備申請を必要とする。ついで、Campus Square for Web上にて予備申請期間中に履修登録手続きをする必要があるので十分注意すること。

予備申請期間 4月2日(月) 9:00~4月7日(土) 13:00

定員 各科目とも原則として、20名
(応募者多数の場合は自動抽選となる。※卒業年次生を優先することになる。)

対象 文芸学部3・4年次生

第2表 博物館実習科目

授業科目	担当者	開講曜限
博物館実習(美術史)	篠原 聡	金5
	野地 耕一郎	金4
博物館実習(民俗学)	小島 孝夫	水2
	丸尾 依子	火2
博物館実習(考古学)	井上 洋一	土2

- ③ この科目は、博物館等での館園実習が必修であり、学生自ら実習先を開拓しなければならない。実習先開拓については履修する前年度後期に行う「博物館実習先開拓ガイダンス」にて説明する。ガイダンスの詳細は掲示等によって周知する。
- ④ 「博物館実習」を履修するには、前年度までに2年次配当の学芸員課程必修科目16単位のうち、「博物館概論」および「博物館教育論」を含む8単位を修得しなければならない。

B 「選択科目」の履修

1 選択科目

第3表に示す系列(A~D)から2系列以上にわたって8単位(1つの系列について最低4単位)以上を修得すること。

第3表 選択科目

系 列	単位数	本学開設の授業科目				学年配当	
		2014年度以前入学者用		2015年度以降入学者用			
		授業科目名	単位数	授業科目名	単位数		
A	文化史	4	文化史概論Ⅰ	4	文化史概論Ⅰa	2	1年
					文化史概論Ⅰb	2	
			文化史概論Ⅱ	4	文化史概論Ⅱa	2	1年
					文化史概論Ⅱb	2	
			文化史概論Ⅲ	4	文化史概論Ⅲa	2	1年
					文化史概論Ⅲb	2	
			日本文化史	4	日本文化史a	2	2年
					日本文化史b	2	
			東洋文化史	4	東洋文化史a	2	2年
					東洋文化史b	2	
			西洋文化史	4	西洋文化史a	2	2年
					西洋文化史b	2	
文化史特殊講義Ⅰ	4	文化史特殊講義Ⅰa	2	2年			
		文化史特殊講義Ⅰb	2				
文化史特殊講義Ⅱ	4	文化史特殊講義Ⅱa	2	2年			
		文化史特殊講義Ⅱb	2				
文化史特殊講義Ⅲ	4	文化史特殊講義Ⅲa	2	2年			
		文化史特殊講義Ⅲb	2				
文化史特殊講義Ⅳ	4	文化史特殊講義Ⅳa	2	2年			
		文化史特殊講義Ⅳb	2				
B	美術史	4	美術史入門	4	美術史入門a	2	1年
					美術史入門b	2	
			美術史一般講義Ⅰ	4	日本美術史一般講義a	2	2年
					日本美術史一般講義b	2	
			美術史一般講義Ⅱ	4	東洋美術史一般講義a	2	2年
					東洋美術史一般講義b	2	
			美術史一般講義Ⅲ	4	西洋美術史一般講義Ⅰa	2	2年
					西洋美術史一般講義Ⅰb	2	
			美術史一般講義Ⅳ	4	西洋美術史一般講義Ⅱa	2	2年
					西洋美術史一般講義Ⅱb	2	
美術史特殊講義Ⅰ	2	美術史特殊講義Ⅰ	2	2年			
美術史特殊講義Ⅱ	2	美術史特殊講義Ⅱ	2	2年			
美術史特殊講義Ⅲ	2	美術史特殊講義Ⅲ	2	2年			
美術史特殊講義Ⅳ	2	美術史特殊講義Ⅳ	2	2年			
美術史特殊講義Ⅴ	2	美術史特殊講義Ⅴ	2	2年			
C	考古学	4	考古学	4	考古学a	2	2年
					考古学b	2	
D	民俗学	4	民俗学特殊講義Ⅰ	4	民俗学特殊講義Ⅰa	2	2年
					民俗学特殊講義Ⅰb	2	
			民俗学特殊講義Ⅱ	4	民俗学特殊講義Ⅱa	2	2年
					民俗学特殊講義Ⅱb	2	
			民俗学特殊講義Ⅲ	4	民俗学特殊講義Ⅲa	2	2年
					民俗学特殊講義Ⅲb	2	

2 履修上の注意

第3表の科目は、各自の所属する学科および科目を開設する学科の履修規定に従い、進級および卒業に必要な単位に算入される。

また、教職課程における教科に関する科目と重複している場合、学芸員と教職双方の課程における必要単位に算入される。

社会調査士資格

1 社会調査士とは

一般社団法人 社会調査協会（以下、「社会調査協会」という）が認定する資格である。社会調査に関する基礎的な知識・技能、相応の応用力を身につけた者に認められる。具体的には、標準カリキュラムとして認定された科目を履修していくことで取得が可能となる。

2 資格取得の条件

社会調査士の資格を取得するためには、下記の表のA～Gに対応する授業科目の単位を修得し、学士の学位を取得することが条件となっている。なお、対応する科目は、年度ごとに社会調査協会の認定を得る必要がある。

※ 2017年度以前開講の認定科目については、社会調査協会のホームページを参照すること。

【2018年度開講の認定科目一覧】（予定）

科目区分	本学部での開設科目				本学部での最低必要 単位・科目数
	1年	2年	3年	4年	
A 社会調査の基本的 事項に関する科目	マスコミ研究法②				2
B 調査設計と実施 方法に関する科目	【2015年度以降入学者】 マスコミデータ解析実習Ⅰ②				2
C 基本的な資料とデータ の分析に関する科目	【2015年度以降入学者】 マスコミデータ解析実習Ⅱ② (CとD) ※1				2
D 社会調査に必要な 統計学に関する科目	【2015年度以降入学者】 マスコミデータ解析実習Ⅱ② (CとD) ※1				2
	コンピュータ・リテラシー B② 統計学④				
E 多変量解析の 方法に関する科目	コンピュータ・リテラシー C②※2				E・F いずれか 2
F 質的な調査と分析の 方法に関する科目	マスコミ基礎演習Ⅰ②（森暢平） マスコミ基礎演習Ⅱ②（森暢平） } ※2・3 コミュニケーション講義Ⅱ② 【2015年度以降入学者】 マスコミ演習 a②（南保輔） マスコミ演習 b②（南保輔） } ※3 【2014年度以前入学者】 マスコミ演習④（南保輔） ※3				
G 社会調査を実際に 経験し学習する科目	【2015年度以降入学者】 マスコミ実習Ⅴ② マスコミ実習Ⅵ②				いずれか 1科目

(注) ○で囲まれた数字は、当該科目の単位数をあらわす。

※1 「マスコミデータ解析実習Ⅱ」の単位を修得した場合、2単位でCとDを満たすことができる。

※2 本年度休講である。

※3 ()内の担当者以外が担当する同一名称の科目は認定科目ではないので注意すること。

※4 「社会調査の設計と実施方法」、「社会調査における資料・データ分析の基本」、「経営統計学」、「量的社会調査実習」、「質的社会調査実習」は2017年度をもって、社会調査士資格科目から除外された。なお、2017年度までに修得した単位は有効である。

3 資格の認定

社会調査士資格は、社会調査協会により認定される。申請手続きの詳細については、社会調査協会のホームページを参照すること。

4 ガイダンス

1年次生向けにフレッシュマン・キャンプにてガイダンスを行う。「マスコミ実習Ⅴ」と「マスコミ実習Ⅵ」については、前年度の12月あるいは1月にガイダンスを行う。履修を考えている学生は掲示に注意してかならず出席すること。

5 登録上の注意

「マスコミ実習Ⅴ」および「マスコミ実習Ⅵ」は、特別な履修登録手続きを必要とする科目である。詳細については掲示を確認すること。また、当該科目を履修するためには、「マスコミデータ解析実習Ⅰ・Ⅱ」の修得が条件となる。詳細はシラバスを参照のこと。

6 問い合わせ

〔一般社団法人 社会調査協会事務局〕

〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-18 メゾン鈴博3F

TEL : 03-6273-9784

FAX : 03-5684-0374

ホームページ : <http://jasr.or.jp/>

(学内問い合わせ先) 文芸学部共用研究室